カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

教区年間テーマ
キリストとの真の出会いを求めて

教区長年頭メッセージ
「教えを学ぶ熱意もて」

ヨセフ松永久次郎司教は一九九七年元旦に当たり、全教区民に宛て年頭のメッセージをおくり、大聖年直前の準備期第一年目、イエス・キリストの年をふさわしく生きるための、カトリック者の基本的姿勢を示された。司教は教皇ヨハネ・パウロ2世の意向を汲み、キリストのみとこばとみ心をあるがままに受け入れるために、聖書や新カテキズムの勉強に励み、主の教えを忠実に伝える教会、教皇の教えを誠実に受け入れる心をもつよう、強く勧めている。

福岡教区長　松永久次郎司教

イエス・キリストの年

皆様、新年明けましておめでとうございます。

神がわたしたちの新しい一年の歩みを祝福してくださるよう、お祈りいたしましょう。

さてわたしたちはすでに、西暦二千年の大聖年の直前の準備の期間に入っており、この一九九七年はイエス・キリストの年と定められています。そこでこの一年、特別の意味で、イエス・キリストに心を向け、大聖年の準備を進めてまいりましょう。

一、キリストを捜し求める

イエス・キリストの年に当たり、わたしたちは先ずキリストを誠実に捜し求めて、キリストから多くを学ぶよう努めたいものです。

ところで、キリストを見出すために、教皇様は先ず、聖書をよく勉強するよう勧めておられます。聖書は神のみ言葉であり、聖書の中でキリストは語っておられるからです。わたしたちは聖書、特に新約聖書を繰り返して読み、深く味わうように努力すべきです。わたしたちの教区・小教区では聖書の勉強会が催され、善意の努力が続けられていますが、教区信者全体の熱意は決して十分ではないと思います。キリストの年に当たり、特に聖書の勉強に力を注ぐよう心掛けましょう。

キリストを深く学ぶために教皇様はまた、新しい「カトリック教会のカテキズム」の勉強を勧めておられます。この新カテキズムの日本語訳の出版前でも、神父様方のご指導のもとに、教会の教えの基本をよく学ぶよう、全信者が心掛けなければならないと思います。新カテキズムはキリストの教えをわたしたちの時代に適応して提示したものです。わたしたちは新カテキズムの考え方を正確に身につける必要があります。

聖書と教会の教えから、キリストの受肉と過ぎ越しの神秘について、またキリストの教えの中心とも言うべき神の国のメッセージについて、そしてまた正しく生きる道、すなわち現代キリスト者の倫理について十分勉強する必要があります。多様な価値観をもつ現代にあって、わたしたちは正しい知識と賢明さを身に付けなければならないのです。

二、キリストを迎え入れる

わたしたちはキリストを誠実に捜して見出すよう努めると共に、心を大きく開いてキリストを迎え入れること、すなわちキリストのみ心をそのまま受け入れる心構えを持たなければなりません。聖書を勉強してイエスのみ言葉を読むとき、自分の考えに従ってキリストのみ言葉を解釈するのではなく、自分の勝手な思いをキリストに語らせるのではなく、み言葉で伝えられるキリストのみ心をそのまま正確に読み取り、受け入れる誠実な心が必要です。これこそ本物のキリスト信者の心なのです。

また、キリストの教会の教え、特に地上におけるキリストの代理者である教皇様のご指導を、信仰と尊敬の心をもって受け入れる心が大切で、これこそカトリック者の基本的態度と言えます。「教会を母として持つことなしに、神を父とすることはできない」という教父の言葉がありますが、不確実性の時代と言われる今日、わたしたちは「真理の柱」（Iテモテ3・15）である教会の指導的役割を、正しく受け入れる心が必要なのです。

わたしたちの時代は多様な価値観の時代です。一つの教えがすんなりと受け入れられるとは限りません。あの人はこう言い、この学者はこう批判するという具合に、教会の公式の指導であっても無視されたり、反対されたりすることがよくあります。謙虚で建設的な批判は正当です。しかし権威ある指導者に対して、わたしたちは尊敬を守り、その立場を正しく認めることを学ばねばなりません。「あなたがたに耳を傾ける者は、わたしに耳を傾ける」（ルカ10・16）と言われたみ言葉から学ぶべきです。神からの教えをそのまま受け入れる心こそ、真の宗教心なのです。

三、聖母マリアに倣って

キリストを捜し求め、キリストを正しく受け入れる心は、聖母マリアの心です。わたしたちはマリアのご保護のもとに、マリアに倣って、このキリストの年をふさわしく生きるよう努め、大聖年のよき準備の年といたしましょう。大聖年が大きな祝福の年となるために、この一年イエス・キリストにより近く生きるよう努めたいものです。

一九九七年元旦

福岡教区長
ヨセフ　松永久次郎

今月のみことば

かれらのために、わたしは自分自身をささげます

（ヨハネ17・19）

イエズス会　J・L・モラレス　神父

記念の十字架の旅

1597 慶長元年
日本26聖人殉教400年祭
平成9年 1997

教区内のスケジュール決まる

本紙既報のとおり、日本二十六聖人殉教四百年を記念して、昨年十一月二十三日に殉教者出発の地・京都で祝別された記念の十字架（七㌢角、縦一㍍、横七〇㌢）は、二月五日殉教の地・長崎到着をめざして、大阪を皮切りに道行きを開始した。

この十字架は道中、二十六聖人が通過した大阪・広島・福岡三教区内の十一教会に一週間ずつ安置され、その間、十字架崇敬や主日のミサが行われる。十一の教会は大阪教区の高槻教会・泉南教会・住吉教会。広島教区の岡山教会・尾道教会・三原教会・幟町教会・細江教会。福岡教区では途中、古賀教会に立ち寄ってからカテドラル大名町教会と西新教会（聖パウロ三木）に安置され、長崎教区・時津教会へ向かう。

福岡教区滞在期間は一月十二日から二十六日まで。この期間に行われるミサその他の祈りや移動時の行列には多数の参加が望まれる。

福岡教区内タイムスケジュール

12日（日）	10時30分	下関・細江教会出発
	12時	古賀教会到着／祈り
	13時	古賀教会出発
	14時30分	大名町教会到着
13日（月）～17日（金）		
	10時	ミサ
	19時	ミサ［17日・18日のみ］
	21時まで十字架崇敬もできる	
19日（日）	13時	松永司教司式ミサ
	14時	行列して西新教会へ
	15時30分	西新教会到着
22日（水）～24日（金）	10時	ミサ
25日（土）	19時	ミサ
26日（日）	9時	ミサ
		ミサ後、長崎・時津教会へ

26聖人の横顔①

❶**聖フランシスコ吉**＝京都。大工。長崎への途中で捕らえられ、殉教者に加えられる。年齢不詳。

❷**聖コスメ竹屋**＝尾張。刀研師。受洗後、伝道士として大阪のマルティン神父を助ける。愛をもって病人の世話をし、神父を支えた。38歳？

❸**聖ペトロ助四郎**＝京都。殉教者の世話をするために、京都のオルガンティノ神父から派遣されたが、途中、自分も縄を受け、受刑者の一人に。年齢不詳。

❹**聖ミカエル小崎**＝伊勢。弓矢師。宣教師の説教を聞き、信仰の道へ。フランシスコ会第三会に入会。トマス小崎の父親。46歳。

❺**聖ディエゴ喜斎**＝備前。イエズス会修道士。体をやりで貫かれる時、小声でイエスとマリアの名を唱えた。64歳。

❻**聖パウロ三木**＝摂津。イエズス会修道士。「私は何の罪を犯したわけではござらぬ。キリシタンの教えを広めただけで処刑されまする」と群衆に。33歳。【西新教会の保護の聖人】

❼**聖パウロ茨木**＝尾張。弟レオン烏丸と共に貧者、病人の世話をし、布教に力を尽くす。死を前に「神よ、あなたに命をささげます」と祈る。54歳。

❽**聖ヨハネ五島**＝五島。イエズス会修道士。「父上も神の教えのまことを信じ、怠りなく神にお仕えくださるように」と自分のロザリオを父に渡す。19歳。

❾**聖ルドビコ茨木**＝尾張。京都のフランシスコ会修道院で奉仕。「自分の十字架はどこ」と刑場で尋ねた話は今も語り継がれる。最年少者。12歳。

❿**聖アントニオ**＝長崎。父は中国人、母は日本人。マルチノ神父に京都に連れてこられ、教育を受ける。刑場に来て嘆く両親に、慰めと励ましの言葉をかける。13歳。

⓫**聖ペトロ・バプチスタ**＝スペイン。フランシスコ会司祭。キリストにならって両手をくぎづけにされることを願った。イエスとマリアの名を呼び、息絶える。48歳。

⓬**聖マルチノ・デ・ラ・アセンシオン**＝スペイン。フランシスコ会司祭。やりで突かれた時、「主よ、わが魂をみ手にゆだねます」と大声で叫んだ。30歳。

⓭**聖フェリペ・デ・ヘスス**＝メキシコ。フランシスコ会修道士。喜びの涙を流し、賛歌を歌って息を引き取る。24歳。

（2面へつづく）

巡礼教会を指定
長崎教区

島本要長崎大司教は、日本二十六聖人殉教四百年を記念する一九九七年をより豊かな恵みの年とするため、同教区内の巡礼教会を指定した。指定教会は、日本二十六聖人か二十六聖人の一人にささげられた十教会で、次の通り。

長崎地区では西坂日本二十六聖人記念聖堂・大浦教会・本原教会・時津教会・諫早教会。佐世保地区では大野教会・川棚教会・間瀬教会。平戸北松地区では田平教会。上五島地区では仲知教会。

巡礼する信者は、聖体を拝領し、教皇の意向に従って「主の祈り」と「天使祝詞」を一回唱えれば分免償をうける。期限は一九九七年十二月三十一日まで。

免償とは――ゆるしの秘跡のほかに、すでにゆるされた罪の有限の罰のゆるしのことで、すべてをゆるす全免償と一部をゆるす分免償とがある（第二バチカン公会議以前はそれぞれ贖宥、全贖宥、分贖宥といった）。

免償をうけるには、大罪がないこと、免償を受けたいと望むこと、教会が定めた条件を果たすことが必要。なお、煉獄の霊魂にこれをゆずることができる。

司祭叙階式

日　時・2月2日（日）14時
場所・カテドラル大名町教会
受階者・パウロ田中重治助祭

みちくさ

年々時の経つのが早く感じられる。元旦から翌年の元旦までがあっという間に過ぎ去ってしまうようだ。「みちくさ」を食う暇もない▼岩波国語辞典の説明に、「みちくさ【道草】(1)道ばたに生えている草。(2)目的（地）に向かって進む途中で、他の事に時間を費やすこと。『―を食う』」とある。小さいときはよく道草を食ったものだ。時にはチョビット。時にはタラフク。それもこれも余裕があったからだ。そして、この「みちくさ」こそ何かしら自分を豊にしてくれたような気がする▼スケジュールがしっかりと決められていて、無駄のない流れの中に身をおき、あくせくと働く毎日。忙しさの中で自分と心を失っていくような日々。温かな人間関係が次第に殺伐（さつばつ）としたものになっていく。一見、ビシッとしたスケジュールは無駄がないようにみえるが、無駄がないようでいて、無駄な時を過ごしていることが多い。時が無駄か、そうでないかは、その時の過ごし方による。表面的には何もしていないようにみえても、実際は充実した時がある。動き回っていることがよい仕事をしていると勘違いしていることもある▼「ヒマ」という言葉の響きが心地よく感じる生き方をしてみたい。人は本来はやさしくて温かい存在なのに、時間怪獣に追われて本来の姿を失っている。今年はおいしい道草を腹いっぱい食べてみたい。（Y）

主のご降誕と新年のお慶びを申し上げます

一九九七年・キリストの年　元旦（神の母聖マリアの祭日）

教区長　松永　久次郎司教

〈福岡地区〉

司教館　青木　悟
松井　忠之
山下　正
伊東　誠二
黒川　博
平田　三郎司教
中浜　一男
中村　彰
森山　信三
牧山　勝美
山田　成章
三村　邦明
F・ハーン　盛夫
乾　B・J・ロザイロ
T・ドワイヤー
P・マックストラビク
青木　保
山川　辰幸
伊東　成晃
T・シーベル
堤　要吉
平田　敬
T・リシャール

糸島
今村
大楠
大牟田
小郡
久留米
古賀
笹丘
浄水通
大名町
高宮
茶山
西新
箱崎

光丘
J・バイヨ
H・キニュウ
堤　敏雄
岩永　義人

二日市
本郷
吉塚
老司
大神学院
G・カッザニーガ
高見　三明
高木　善行
大山　悟
J・ツルデル
Z・イエール
櫻井　尚明
牧山　強美
白浜　満
山元　眞
百村　等
戸村　修
塩谷　恵策
梶山　義夫
三宅　秀和
S・オチョア
A・セトアイン
J・L・モラレス

神学院
パウロ会
イエズス会
ファミリーセンター
S・M・ライル
御受難会　来住　英俊

畠　基幸
M・ヴェッター
C・ブレシュット

司牧センター（美野島）
M・コース
カルメル会　友永　徳一
聖マリア病院　尹　汝沃
聖マリア学院　W・キッペス

〈北九州地区〉

飯塚・田川　深堀　勝人
黒崎　L・ベリオン
C・バスチ
小倉　平田　寛
平田　三好
新田原　竹森　勇
天神町　M・ラバルタ
戸畑・直方　浦口　均
中村　信哉
水巻　J・ガイヤール
門司　下町　豊重
（門司港）牧山　重光
湯川　浦　俊雄
行橋　川上　惣一
若松（小教区管理者）平田寛
八王寺（パリ外国宣教会）
L・デシャンブ

E・モーゼ

〈佐賀地区〉

伊万里　C・ガッザルディ
鹿島　L・マネルバ
唐津　V・チェリッツァ
佐賀　M・タルディフ
多久　A・テムペリーニ
武雄　A・ベッラ
鳥栖　R・マグリン
馬渡島　畠山　七郎
呼子　田川　清美
シトー会　C・ミケレーナ
ロザリオの園　A・アレグリーニ

〈熊本地区〉

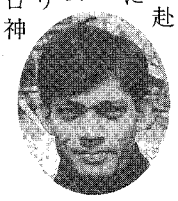
荒尾　K・オマホニ
大江・崎津　V・ヤングキャンプ
帯山　山頭　原太郎
菊池　R・オーエンス
健軍　鵜野　泰年
島崎　M・コーフィールド
玉名　L・メネガッツオ
手取　W・カリー
人吉　M・マッコネル
本渡　H・オッカロール
水俣　M・モロイ
武蔵ケ丘　P・ダイヤモンド
八代　J・モラハン
生命山　F・マッケイ
在米国　J・ノーリス
F・ソットコルノラ
C・コデノッティ
渡辺　隆義

去年の新人

昨年の司祭異動で、新しく四人の司祭が教区に派遣された。

ミラノ外国宣教会のアルベルト・ベッラ神父は一月から武雄教会主任。

四月には高宮教会の春山勝美神父に代わってフランシスコ会のテオドール・シーベル神父が赴任。長年、人吉教会で司牧をされたフィッシャー神父が帰国した後には聖コロンバン会のマイケル・モロイ神父（＝写真上）が赴任した。七月には、名古屋に転勤した赤倉稔神父に代わって、聖アウグスチノ会のパトリック・マックストラビク神父（＝写真中）が助任司祭として笹丘教会に赴任。この秋には古賀教会にオブレート会のブラッドリー・ロザイロ神父（＝写真下）が赴任した。



なお、若松教会には平田寛神父が、浄水通教会には山元眞神父が小教区管理者として任命されている。

典礼　ミサのこころ⑨『立って聴く』

ことばによる神と人間のコミュニケーションの場である『ことばの典礼』の中で、第一朗読・答唱詩編・第二朗読まで、私たちは座っています。そしてアレルヤ唱（四旬節は詠唱）の時に立ちあがり、立ったままで福音の朗読に耳を傾けます。この立つ動作には、何か象徴的な意味があるのでしょうか。

まず私たちが立って唱える「アレルヤ」というヘブライ語は、〈アレル〉（＝ほめたたえよ）と〈ヤ〉（＝ヤーウェを）の二語の合成語であり、福音朗読の導入の役割を果たしています。すなわち「復活されたキリスト」を通して、今もなお私たちに語りかけられる神をたたえながら、その福音を聴く心構えを整えさせてくれます。その時に立ちあがり、そして立ったままで福音朗読を聴くという姿勢には、いくつかの意味が込められています。

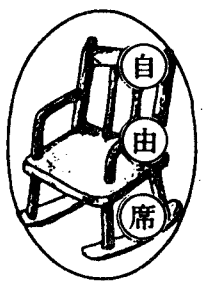
それは第一に、福音朗読を通して私たちに語られる「復活されたキリスト」への尊敬を表す行為であるということです。司祭が福音書に献香をしたり、侍者がローソクを奉持してその両側に立つのは、この尊敬の念を荘厳に表現するためのものです。そして第二に、福音朗読を通して告げられるキリストのことばと救いのわざによって私たちが罪の状態から救われ、やがてはキリストのように復活させられる者であることを表しています。さらに第三に、「立っている」という動作は、「信じる者すべてに救いをもたらす神の力である福音」（ローマ1・18）を人々に告げ知らせる準備ができていることを示す姿勢でもあると言われています。説教を聴くために座り直すものの、再び立ち上がって信仰宣言を唱え、共同祈願を行うのは、神のことばに対する信仰を宣言し、また神のことばが多くの人々に伝えられ、世界が平和で満たされるように祈るためです。

このように座る・立つという動作を見ても、『ことばの典礼』の頂点が福音の朗読であり、これに最大の尊敬がはらわれるべきことを、典礼自体が教えてくれていることが分かります（『ミサ典礼書総則』35参照）。

福岡サン・スルピス大神学院
白浜　満　神父

信仰を伝える

深堀　邦枝



「家庭セミナー全国大会」に出席する機会がありました。基調講演をされた26聖人記念館館長の結城了悟神父様の「キリシタン時代の家庭の信仰」では「教会も司牧者もいない殉教の時代に、家庭の中で信仰を守り、伝達していくのは家族が一つになって熱心に祈ることでした」と話されました。

また、難民として日本に来て横浜教区の司祭となったベトナム出身のソン・ファム・ディン神父様は「家族全部で祈ることは絶対でした」と体験を語り「信仰の伝達は家庭の中で祈ること」と力説されました。

また、ソン神父様は「信仰と生活が遊離していると、信仰が虚しくなったり、疑問に思えたりして自分の生活を値踏みするようになります。塾も部活動も今の子供たちに欠かせないものならば、なおのこと家庭での祈りや親の姿勢が大切でしょう。信仰の伝達は教会や日曜学校でしか出来ないというものではないはずです」とご自分が関ってきた子供たちの信仰生活と塾や部活動への対応に疑問を投げかけられました。

そして、お二人とも「子供たちにキリストの姿を刻みつけるのは、親であり、家庭です」と熱心に話されました。

「教会も日曜学校も家庭を肩代わりすることはできない」ということは分かるが、親にしてみれば「伝えるだけの信仰教育を教会は与えてくれただろうか」という反発を感じていました。しかし、キリシタン時代の信仰や難民となられるほどの国情の中で育った信仰の話を聞きながら、毎日曜日出かけて行く教会の前に、家庭という教会があることを実感させられました。

教会には、信徒だけが集まって来るのではない。求めている人、迷っている人、冠婚葬祭の時だけの人、さまざまな人がいる。家庭教会だって同じなのではないだろうか。家族全員で祈る家庭、一人でしか祈れない家庭、平和な家庭、痛みを抱えた家庭、いろいろな家庭教会が私たちの中にあることを考えさせられました。

お話を聞きながら、ある外国宣教会の神父様が自分の体験を話された時のことを思い出しました。毎晩、ロザリオのお祈りをする習慣があったご自分の家族の話でした。ロザリオの先読みは、とても名誉なことだったのでいつも祖父がしていました。祖父がひどく年を取ってからは父親が先読みをしていました。その後、長男がするようになり、お兄さんが独立すると長女が、彼女がお嫁に行ったので次の兄さんがという順序だったそうです。兄弟でも下の方だった神父様が先読みをさせてもらうようになったのは十五歳の時だったそうです。「この日が、私の成人式でした」というお話でした。

信仰を伝えるとはキリストを伝えること。伝えたくなるほどキリストを愛するためにはキリストをよく知ることだと思いました。今年こそキリストと真の出会いが出来るように祈り、学ぶことにしようと思っています。

（大名町教会）

26聖人の横顔②

⑭聖ゴンザロ・ガルシア＝インド。フランシスコ会修道士。槍で突かれる前、刑吏に悔悛と改宗を勧めたという。40歳。

⑮聖フランシスコ・ブランコ＝スペイン。フランシスコ会司祭。十字架にはりつけられた時の顔は、微笑が死後も消えなかった。28歳。

⑯聖フランシスコ・デ・サン・ミゲル＝スペイン。フランシスコ会修道士。若くて同会に入会し、貧しい人や病人の友となる。愛徳の実践者。53歳。

⑰聖マチアス＝京都。家がフランシスコ会修道院のすぐ近くにあった。受洗後、間もなく迫害が始まり捕らえられた。年齢不詳。

⑱聖レオン烏丸＝尾張。パウロ茨木の弟。フランシスコ会士のもとで伝道士になる。京都中の人たちに尽力「神の教役者」と呼ばれる。48歳。

⑲聖ボナベントゥラ＝京都。出生後受洗。両親の死で仏教徒として育ち、僧りょになるため寺に入る。洗礼を受けていることがわかり、フランシスコ会の同宿として教理の勉強に励み、布教に尽力。年齢不詳。

⑳聖トマス小崎＝伊勢。ミカエル小崎の息子で、マルチノ神父を手伝う。信仰深い少年で、司祭になる希望を持ち、母親にあてた手紙は感動的。14歳。

㉑聖ヨアキム榊原＝大阪。最初は医学を学ぶが、ある日、宣教師の説教にひかれ受洗。貧しい病人のために働く。40歳。

㉒聖フランシスコ医師＝京都。豊後の大名、大友宗麟の侍医を務める。京都で洗礼を受け、聖ヨゼフ病院で活躍。46歳。

㉓聖トマス談義者＝伊勢。キリシタンの教えを聞き改宗。その後、フランシスコ会の伝道士になる。強い正義感の持ち主。36歳。

㉔聖ヨハネ絹屋＝京都。織物師。修道院の近くに住み、外国人宣教師と接触の機会が多く、その教えを聞いて洗礼を受ける。28歳。

㉕聖ガブリエル＝伊勢。京都奉行に仕えていたが、改宗してフランシスコ会に入り、司祭、修道士を手伝う。19歳。

㉖聖パウロ鈴木＝尾張。若くて洗礼を受け、フランシスコ会の伝道士となる。通訳として外国人司祭の布教を助け自らも説教師として活躍。49歳。

（参考・長崎教区作成リーフレット）

ご会葬御礼

故ジョン・ブレンダン・シュルツ神父の教区葬に際しましてはご多忙中にもかかわらずご会葬賜り、温かいご芳志をいただき心より御礼申し上げます。

勝手ながら香典返しとして福岡カトリック神学院に寄贈させいただきましたのでご諒承くださいますようにお願い申し上げます。

実は拝眉のうえお礼申し述べるはずのところ、略儀ながら紙上をもってお礼申し上げます。

一九九六年十二月

福岡教区長　松永　久次郎
スカボロ外国宣教会副管区長　フランシス・ハクシャ

神学院基金への寄付の御礼

故ジョン・ブレンダン・シュルツ神父の香典返しとして教区長松永久次郎司教様、スカボロ外国宣教会副管区長フランシス・ハクシャ神父様より多額の寄付を福岡カトリック神学院における司祭養成のためにいただき心よりお礼申し上げます。

故人のご安息を心よりお祈り致します。

一九九六年十二月

福岡カトリック神学院院長　山元　眞

必要なことはただ一つだけである
（ルカ10-42）
—多くの思いや忙しさから離れ
主の足下に座って、その話を聴こう—
※ 個室（トイレ付）30室／ご希望により個人指導もいたします
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289
※求人　信者の方を求む！
詳しくは電話をしてください。

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

美野島司牧センターを支えてください！

開設から二年半―多種多様な相談に対応

「美野島司牧センター」が設立されて二年半になる。同センターは、おもに滞日、在日の外国人の司牧のために旧美野島教会（福岡市博多区）の敷地に教区によって設立されたもの。さまざまな相談が持ち込まれ、担当責任者のマルセル・コース神父は休む間がない。金銭的な支援も求めている。

美野島司牧センターには、毎日さまざまな相談が持ち込まれる。おもな相談事は滞日、在日外国人によるものが多く、同センターが出来てすでに八百件以上の相談が扱われた。センターのスタッフは現在、四人の女性と一人のペルー人の男性。最近では、子供の教育の問題、国際結婚、健康の問題などに悩まされている。スタッフは全員ボランティア。昨年四月にカテドラル大名町教会で開かれた全国移住労働者問題フォーラムを機に、「移住労働者と共に生きるネットワーク（福岡）」、「外国人労働者と共に歩む会（北九州・天神町教会）」、「コムスタカ（熊本手取教会）」の協力を得ている。

毎日曜日の午前中にはスペイン語のミサが行われており、三十人から五十人が集まっている。礼拝会のシスターの協力を得て子供たちの日曜学校も始まった。

また、同センター内には全国で八番目に開設されたDARC（＝ダルク・薬物依存回復施設）もあり、その活動もマスコミなどを通して次第に社会に知られるようになった。カトリック教会内でも少しずつではあるが、支援の輪が拡がっている。昨年七月にはセンター内にあるダルクの共同生活施設が、精神障害者の社会復帰支援事業として国庫援助を受けられることになった。薬物依存症からの回復（リハビリ）施設としては現在のところ、ダルクしかなく、さらに多くの人々の支えが必要とされている。

野宿生活者もセンターにやってくる。「福岡おにぎりの会」は夏の間も炊き出しを続けている。もうじき冬の炊き出しも始まるが、センターの責任者のコース神父は炊き出しのための米やカンパ、実際におにぎりなどを配ってくれる人を求めている。

センターのレポートから、いくらかのデータを紹介する。

①福岡県および福岡市に在住している外国人の数（1996年6月30日現在の登録者数）【福岡県】36158人（105ヵ国）【福岡市】13168人（90ヵ国）

②カトリック国の人数【福岡県】2951人【福岡市】840人

③センターに寄せられた相談の種類と件数（1996年1月～10月）【住居】107件【入管】41件【仕事】30件【病気・けが】26件【役所】24件【大使館・領事館】16件【学校・保育園】15件【収容者面会】9件【その他】75件（国際結婚／生活用品、学用品支援／経済支援／警察での遺失物届け／帰国時の空港での付き添いと手続き／夫婦間のトラブル／心の悩み相談／交通事故の加害者としての相談／日本語の勉強等）

【問合先・支援先】〒812福岡市博多区美野島2・5・31 ☎FAX092・431・1411【郵便振替口座番号】01760−4−89531【口座名】美野島司牧センター

典礼聖歌研修会

高田三郎先生を迎えて

十二月一日、高田三郎先生を迎えて、典礼聖歌の研修会が行われた。質問されたらどうしよう。とび出したら叱られないだろうかと心配しながら。だが、お元気で前向きな先生と向き合うと、その世界にぐいぐいと引き込まれて行く。指揮をなさる先生には迫力があり、小柄な先生が大きく見える。歌い慣れた聖歌だが、先生の詩に対する思い、さまざまな体験を聞いた後では、メロディーの流れが自然に感じられ、気持ち良く声を出すことができる。やはり先生の信仰、祈りがそのメロディーとなって生れているのだ。生きているのだと感じ、心が熱くなった。最後に歌った「行け、モーゼ」は、先生のイメージと少し違った雰囲気で、ウエスタンを思わせるギターの伴奏が力強く心に残る曲だった。幾人の人が参加したのだろう。その声はどんどん大きく、そして一つになっていった。研修会の結びは森山神父様司式のごミサだった。美しく、心のこもった歌ミサであったと思う。閉祭の「私は門の外に立ち」は、ピアノ・ピアニッシモと消えていくように歌うことを要求されたが、音量とは反対に心は熱く熱く、信仰は深くしみとおっていった。これが聖歌の素晴らしさなのだ。

毎週のごミサであの時の心の熱さを感じることができたら、どんなに幸福だろうか。歌は祈りだ。天を見上げ、先生のように信仰への情熱をもって、聖歌を歌おう。また、先生の指揮で聖歌が歌えますように神さまにお願いしながら・・・・。

四〇〇年前のオラショ

NHKで元日に放映

NHK（衛星放送第二）は九七年一月一日、午後五時、四百年前のかくれキリシタンの歌オラショを放映する予定である。これは昨年十一月十七日、長崎、中町教会で行われた「東の音・西の音～音楽は時空を超えて～」の収録で、「日本二十六聖人殉教四百年記念」のサブタイトルつき。この番組では、今なお伝承されている長崎県北松浦郡生月のかくれキリシタン五人が出演している。

殉教者の栄光を賛えよう

『殉教者賛歌』出版

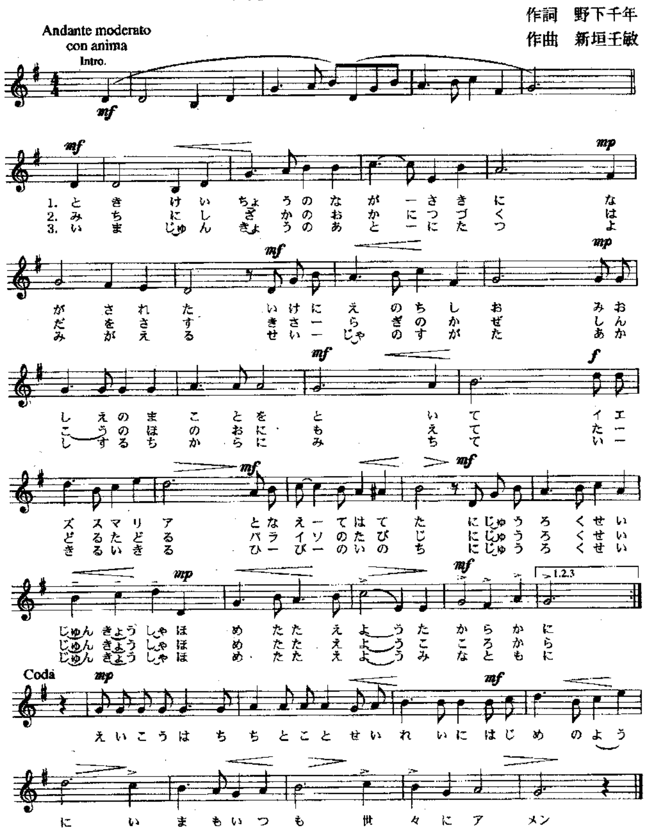
昨年十一月、長崎教区で楽譜「日本26聖人殉教四〇〇年記念殉教者賛歌」が出版された。B5判28ページで、野下千年神父作詞・新垣壬敏氏作曲による「二十六聖殉教者賛歌」と故永井隆作詞の「ルドビコさま」にはシスター石川和子（純心聖母会）作曲と新垣壬敏氏作曲の二種がある。共に単旋律のほか伴奏譜、同声三部合唱曲、混声四部合唱曲が収めてある。

希望者は日本26聖人殉教四〇〇年祭実行委員会（長崎カトリック大司教館内）まで。☎0958・42・4026

二十六聖殉教者賛歌

—殉教400年の記念に—

作詞　野下千年
作曲　新垣壬敏



二十六聖殉教者賛歌

殉教四〇〇年の記念に

作詞　野下千年
作曲　新垣壬敏

一、時　慶長の長崎に
流された　犠牲の血潮
御教えの　まことを説いて
イエズス　マリア　唱えて果てた
二十六聖殉教者
ほめ賛えよう　たからかに

二、道　西坂の丘につづく
肌をさす　きさらぎの風
信仰の　焔に燃えて
辿る　辿る　パライソの旅路
二十六聖殉教者
ほめ賛えよう　こころから

三、今　殉教の跡にたつ
蘇る　聖者の姿
証しする　力に満ちて
生きる　生きる　日々のいのち
二十六聖殉教者
ほめ賛えよう　みなともに
栄光は御父と子と聖霊に
はじめのように　いまもいつも
世々に　アーメン

全世界へ行って、福音を宣べ伝えよ

聖パウロ修道会
志願者募集

聖パウロ修道会は、社会的コミュニケーションを通して福音宣教を行う修道会です。現在、サンパウロ（旧：中央出版社）を中心に活動しています。将来の修道者（司祭、修道士）を希望するカトリック信者の男子志願者（新中学生以上）を募集しています。手続きなど詳しくはお問い合わせください。

〒810福岡市中央区小笹4-11-11
聖パウロ修道会福岡修道院
☎ 092-531-0924
FAX 092-524-6169
担当　Fr. 戸村　修
Br.小川　孝志

福岡カトリック神学院
生徒募集

神学院入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭と相談の上、福岡カトリック神学院までご連絡ください。

【入学条件】
①司祭を希望するカトリック信者の男子（今年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）
②主任司祭の推薦
＊途中編入も可
詳しくはお問い合わせください。

〒810福岡市中央区浄水通38
福岡カトリック神学院
☎ 092-531-6821
FAX 092-524-7373
院長　山元　眞

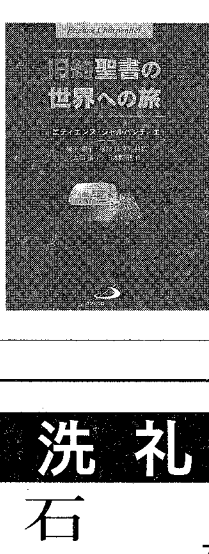
福岡サン・スルピス大神学院
入学案内

資　格：カトリック司祭になる意志を持っているカトリック男子・高等学校卒業以上の学歴（受洗後3年以上経過）
手続き：所属教区司教の推薦、所属小教区主任司祭か小神学院長推薦、洗礼・堅信等の書類提出
試　験：日時1997年1月23日（木）・24日（金）
科　目：国語・英語・ラテン語・カトリック要理・小論文・面接

福岡サン・スルピス大神学院
☎ 092-871-4943
FAX 092-863-6329
院長　高見　三明

BOOK 読みま専科

★旧約聖書の世界への旅
E・シャルパンティエ著
柳下崇子／椎尾匡文共訳
太田道子　日本語版監修



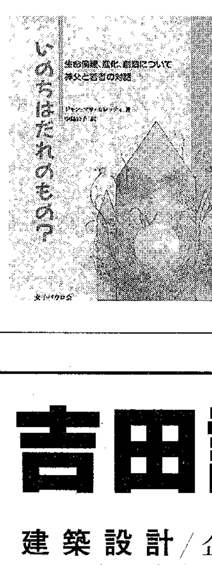
旧約聖書は、新約聖書を理解するために必要である。にもかかわらず、日本ではなじみがうすく、有名な個所が断片的にしか読まれていないようだ。

本書は、各国で聖書学習グループや講習会の指導に豊富な経験をもつ著者が、「聖書を読んでみたいが、どのようにとりかかればよいか分からない」という人たちのために、道案内としてまとめたもの。一人でもグループでも、重要な手がかりをすべて与えてくれる、便利な本である。

サンパウロ刊　二〇六〇円

◇　◇　◇

★いのちはだれのもの？
ジャン・マリ・モレッティ著
中島公子訳



この本は、生物学者・科学者でもあるフランス人神父と接する若者との教育の現場から生まれたもので、質問はどれも実際に生徒たちから提起されたもの。

対話の主題は、生物の進歩によって人類にどのような問題が生じてきたか（生命倫理の問題）、あるいは世界・生命・人間の起源や進化論と天地創造説など科学的データとキリスト教の信仰の間の一見矛盾とみえるものとについてなされた。取扱われているテーマはいずれも重大な問題であるが、この本の性質上、ごく簡単に答えている。

女子パウロ会　一一三三円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4−9−4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4−9−7
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石　御影石　その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2−21
TEL096−352−2417

福岡黙想の家　1月

◇5日（日）まで　幼きイエズス修道女会黙想
◇6日（月）～12日（日）休館
◇17日（金）～19日（日）日本カトリック研修センター・コース　九州会場〈参加者受付中〉
◇21日（火）人生講座『いのちを　ありがとう』　賀来はつ先生13：30～15：30
◇22日（水）ミカエル会
◇25日（土）～26日（日）聖霊による刷新／九州地区連絡会議

［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 0940・32・3385

日本26聖人

26聖人殉教：1957年2月5日
殉教400年祭：1997年2月5日
昭和6年製作の不朽の名作
白黒／無声／時代劇
上映時間：1時間20分
弁士：小崎登明修道士
費用：自由カンパ

弁士は小崎修道士

上映会の内容

①あいさつ：小崎登明修道士
②ビデオ（約7分）とお話（15分）
　現代の殉教者・聖コルベ神父の身代わりの愛
　小崎登明修道士（聖母の騎士修道会）
③映画（活動写真）
　「日本26聖人・われせに勝てり」
④おわりの言葉
　＊上映会の後、26聖人記念十字架を迎え、みことばの祭儀が行われます。

1月12日（日）12時カテドラル

会合と催し

教区年間テーマ：キリストとの真の出会いを求めて

1月

1日（水）神の母聖マリア（守るべき祝日）／元旦
　世界平和祈願ミサ（カテドラル10時）
　＋G.ロー［人吉教会1950］
2日（木）＋J.ドノフ［菊池教会1985］
　＋ヨセフ牧山藤房［福岡司教館1993］
3日（金）初金曜日
5日（日）主の公現
7日（火）**司祭新年の集い（浄水通11時）**
　司祭評議会常任委員会（司教館）
12日（日）主の洗礼
　福岡ブロック成人式ミサ（カテドラル）
　筑後ブロック成人式ミサ
14日（火）＋A.ハルブ［崎津教会1945］
15日（水）成人の日【教区長着座記念日】
18日（土）キリスト教一致祈祷週間（～25日）
　＋M.J.マルタン［大牟田教会1975］
19日（日）教区信徒協役員会（カテドラル14時）
　＋L.ガルニエ［大江教会1941］
21日（火）聖アグネスおとめ
　熊本結婚準備セミナー①（～2月18日）■
25日（土）聖パウロの回心
26日（日）カトリック児童福祉の日《指定献金》
　佐賀地区信徒研修会　■
28日（火）**司祭評議会（司教館）**
　教区顧問会（司教館）

2月

1日（土）教会奉仕者・宣教奉仕者選任式
　（福岡サン・スルピス大神学院）
　福岡結婚準備セミナー①（～27日）
2日（日）主の奉献
　司祭叙階式（カテドラル14時）
5日（水）日本26聖人殉教者
　日本26聖人殉教400年祭荘厳ミサ（長崎）
6日（木）聖アガタおとめ
7日（金）路上生活者への炊き出し（2月中の火・金）
10日（月）聖スコラスチカおとめ
11日（火）ルルドの聖母／建国記念日
　福岡地区信徒協代表者会議（カテドラル13時）
12日（水）灰の水曜日（四旬節）大斎・小斎
14日（金）＋J.オマラ［荒尾教会1974］
16日（日）四旬節第1主日
　＋J.ボア［黒崎教会1957］
22日（土）聖ペトロの使徒座
　＋F.ベルトラン［門司港教会1940］
23日（日）四旬節第2主日
　＋パウロ糸永武男［今村教会1992］
26日（水）今村信徒発見記念日
　＋F.ドルエ［八王寺教会1983］
　＋G.オーブリ［大神学院院長1985］

■印は本面に詳細説明あり

■**ロザリオへのおさそい**　［日時］毎水曜日11時30分～［場所・問合先］美野島司牧センター☎092・431・1419
■**韓国語によるミサ**　［日時］毎月第1、第3日曜日10時30分［場所］聖パウロ修道会福岡修道院［問合先］尹汝沃神父☎0942・33・6274（司祭館）FAX 34・3115（聖マリア病院）
■**青年の祈りの集い**　［日時］毎月第2、第4日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会信者会館［指導］伊東成晃神父［参加費］自由献金［問合先］橋爪章一☎092・714・3477
■**第4回聖書を読む会―キリストの譬え話を読む　開催中**　［日時］97年3月6日まで第1木曜日（1月は第2木曜日）全7回、午前の部10時～11時30分／午後の部19時30分～21時［場所］佐賀教会［テーマ］⑤死への準備⑥傲慢と謙遜⑦自分が損して他人を助ける［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父［参加費］無料［申込・問合先］佐賀教会☎0952・23・4754
■**よみうりFBS文化センター特別講座―　開催中**「生かされて生きる」［日時］97年3月22日（月2回）土曜日14時～15時30分［場所］西部ガス「パピヨン24」（福岡市博多区千代）［講師・演題］▽池見酉次郎（九州大名誉教授）・生かされて生きる～癌に克つ生き方▽本多正昭（産業医科大名誉教授）・死の壁を超えるそよ風▽古川泰龍（超宗派シェバイツァー寺代表役員）・仏教とマザーテレサ▽藤江良郎（福岡亀山栄光病院理事長）・安楽死から見た医療と宗教・▽田中正敏（久留米大医学部教授）・脳を学ぶ▽佐藤信義（産業医大医療技術短大名誉教授）・カウンセリングマインド～生かされて生きるいのちを支えるこころ他［申込・問合先］よみうりFBS文化センター FAX ☎0933・541・6556
■**講話と祈りの集い―幼いイエスの聖テレジア逝去一〇〇年記念、準備―**　テレジア帰天一〇〇年を迎えるに当たって一年間テレジアとともに教会のこと、宣教のことなどを祈り、学ぶ小さな集いを計画してすでに二回が終わりました。参加された方々の好評をいただきましたので、今後の日程をお知らせいたします。［日時］④1月12日（日）14時～講話／13日（月）13時（聖書深読―聖書持参のこと）［講師］奥村一郎神父（カルメル会）⑤2月9日（日）13時～講話［講師］チプリアノ・ポンタッキヨ神父（カルメル会）［場所］福岡カルメル会修道院、テレサの家［問合先］同右☎FAX 092・807・7361
■**カテキスタの集い**　対象日時に諸行事が予定されているため、当分の間お休みします［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX 092・524・7373
■**太郎と花子のよか人生大学　傾聴力養成講座・ライフプラン講座公開セミナー～生と死とユーモア～**　～にもかかわらず笑う」というドイツのことわざがあります。とくに高齢者の生活や、ターミナルケアの場では人生の潤滑油としてのユーモアと笑いが大切です。ユーモアはみせかけの仮面をはぎとり、ありのままの姿を認めてQOLを高め、コミュニケーションを深めるのに役立ちます。デーケン先生と一緒に、だれもがもっている潜在的能力〈ユーモア感覚〉の開発について考えましょう。［日時］1月19日（日）14時～16時（開場13時30分）［場所］ももちパレス（福岡市早良区百道2・3・15（☎092・851・4511）地下鉄・バスとも『藤崎』下車、歩いて1分［講師］アルフォンス・デーケン神父（イエズス会）［主催］西日本新聞社他［入場料］1500円（当日2000円）［チケット販売］福岡ビルプレイガイド・岩田屋プレガイド［問合先］金印倶楽部☎092・733・3880
■**第52回熊本結婚準備セミナー**　［日時］1月21日（火）～2月18日（火）毎月曜・火曜日19時～21時20分・全8回（但1月28日は除く）［場所］手取教会☎096・352・3030 FAX（カトリックファミリーセンター）092・552・5022
■**SE・CO～奉仕と分かち合いボランティア・グループ新年の集い**　［日時］1月25日（土）11時30分～14時30分［場所］聖心のウルスラ宣教女修道会ホール［講師］カトレット神父（イエズス会）［会費］1000円（昼食代共）［申込・問合先］龍山下574・3787／武田552・4250／白壁552・1879／シスター高取512・0033（1月18日迄）
■**佐賀地区信徒研修会**　［日時］1月26日（日）10時～［場所］佐賀教会［テーマ］①信徒使徒職とは②聖体奉仕者について［講師］①深堀純（大名町教会信徒）②熊本地区信徒3名
■**福岡生と老い・死をみつめる会**　［日時］1月26日（日）14時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［テーマ］みこころホスピス4年の歩み～その人らしい生の完成を願って～［講師］井田栄一（熊本イエズス会聖心病院みこころホスピス担当医師）［会費］500円［問合先］大山美穂子☎FAX 092・713・8523
■**第67回福岡結婚準備セミナー**　［日時］2月1日（土）～27日（木）毎木曜・土曜日19時～21時20分・全8回［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022
■**聖歌研修会**　［日時］2月16日（日）13時～［場所］大楠教会［聖歌指導］深掘純
■**典礼・聖歌と祈りの集い**　［日時］2月23日（日）14時～17時［場所］福岡黙想の家［聖歌指導］深堀純［テーマ］四旬節・聖週間の聖歌［会費］1000円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎0940・32・3222 FAX 32・3385
◎**生活のなかで読む聖書**　［日時］1月17日（金）16時～19日（日）13時［場所］カトリック福岡黙想の家［テーマ］7ステップ法による聖書の活用［内容］7ステップは現在世界的に注目をあびているダイナミックな「聖書の読み方」。復活のキリストの現存を個人・グループ・教会共同体に強く反映させ、使徒職遂行の精神的基礎を据える［指導］日本カトリック研修センタースタッフ［対象］信徒・修道者・司祭［費用］2000円［問合先］日本カトリック研修センター研究企画部〒466名古屋市昭和区広路町隼人30☎052・831・5037 FAX 831・5317

研修センター出張コース

巡礼へのお誘い

聖書の世界がそのまま息づいている国、イスラエル。聖地巡礼は、キリストご自身や多くの聖人の信仰をより身近にとらえ、ご自身を見つめ直すよい機会となることでしょう。
この機会に今しか味わうことのできない感動を体験してみませんか。　カトリック学生センター　余語久則神父

問合先：阪急交通社（03）5445・3601

VEC　ベストシーズンに訪れるイスラエル
学生向け特別価格巡礼
イスラエル9日間の旅
◇旅行期間
1997年2月19日(水)～2月27日(木)
◇同行司祭
余語久則神父（東京教区司祭）
旅行代金　学生向け特別価格　208,000円

編集後記

新年あけましておめでとうございます

いろいろな方々のご協力のおかげで教区報を発行できますこと、感謝申し上げます。今年もまた、新たな気持ちで編集に取り組んでまいりたいと思っております。今後とも、情報の提供など、ご協力をよろしくお願い申し上げます。（スタッフ一同）

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月のみことば

行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。…わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる。

（マタイ28・19～20）

帯山教会　山頭　原太郎　神父

カテドラル→西新教会4…

26聖人十字架行列に430人参加

信仰を証しする恵みを求めながら

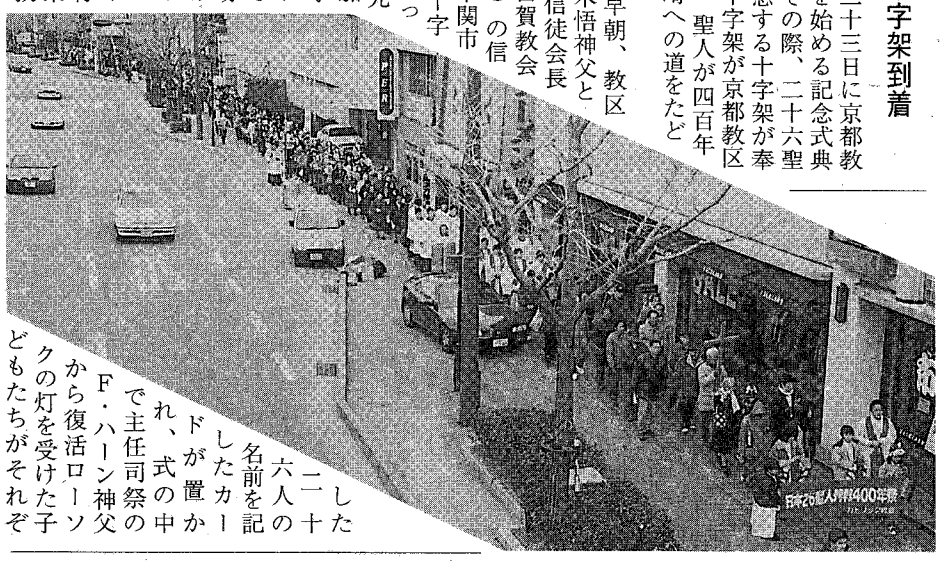
一月十九日午後一時からカテドラル大名町教会で松永久次郎司教司式による日本二十六聖殉教者を賛えるミサが、記念十字架を迎えて行われた。ミサ後、十字架を先頭に各地から集まった四三〇人が西新教会までの道のりを巡礼した（三面参照）。

記念十字架到着

昨年十一月二十三日に京都教区で四百年祭を始める記念式典が催された。その際、二十六聖人の殉教を記念する十字架が奉納され、その十字架が京都教区の企画により、聖人が四百年前に歩いた長崎への道をたどっている。

一月十二日早朝、教区事務局長の青木悟神父と大名町教会（信徒会長高木昇氏）、古賀教会（同福田宏道氏）の信徒代表数名が下関市の細江教会に十字架を迎えに行った。当地での九時のミサに参加し、その後十字架を古賀教会に運んだ。古賀小教区内にある赤間では、聖人が泊まったといわれている。

同教会ではみ言葉の祭儀が行われた。十字架の周りには殉教した二十六人の名前を記したカードが置かれ、式の中で主任司祭のF・ハーン神父から復活ローソクの灯を受けた子どもたちがそれぞれの聖人の前に置かれたカップローソクに点火した。その間、聖人の取り次ぎを求めて連祷が歌われた。



古賀教会を出発した十字架は午後二時三十分の定刻通り、カテドラル大名町教会に到着。鐘の音が高らかに鳴り響く中、十字架は青木神父から伊東成晃神父に渡され、出迎えた信徒と共に聖堂に入った。

これに先だって十二時からは聖母の騎士修道会の小崎登明修道士を迎え、無声映画「日本二十六聖人―われ世に勝てり―」が上映された。約三百人の参加者のほとんどが上映後も残り、十字架を迎え、祈りを捧げた。

み言葉の祭儀の後、十字架はカテドラル小聖堂に安置され、次の経由地、西新教会に運ばれるまで、毎日、市内の小教区、修道院持ち回りでミサや祈りが十字架の前で捧げられた。

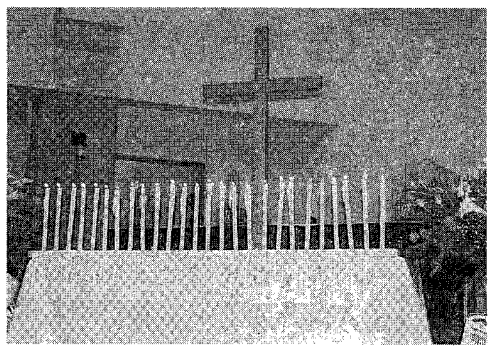
記念ミサには800人

記念ミサ

一月十九日、午後一時から松永司教司式で二十六聖人記念ミサがカテドラルで行われた。十字架の前には二十六本のローソクがそれぞれの聖人の名前を記したカードとともに準備され、一人ひとりの名前が連願で歌われるのに合わせて点火された（＝写真下）。

ミサ中の説教で松永司教は大要、次のように述べた。「カトリック教会の信仰は、殉教者の後に続く信仰である。キリストは十字架上で救いを全うされたが、殉教者は同じ血を流して信仰の基礎を固めた。殉教者と私たちの信仰のつながりを忘れてはならない。今日の福音で示された『私は世の終わりまでいつもあなたたちと共にいる』というみ言葉は二十六聖人にふさわしく当てはまるものである。京都から長崎への殉教の歩みの中で神はいつも特別に彼らと共にいた。彼らも弱さを持っていたが、恵みのもとに英雄になったといえる。

殉教するにあたって、彼らは三つの願いをする。ゆるしの秘跡を受け、ミサに与り、キリストのように金曜日に殉教すること。しかし、例外的に何人かはゆるしの秘跡を受けたが、これらの望みは実現せず、ただ『殺される―殉教する』という望みだけが実現した。彼らは二月五日の水曜日に殉教した。今年の二月五日は四〇〇年前と同じ水曜日である。



二十六聖人はいつもキリストを語った。この世の名誉やいのちではなく、永遠のいのちを想うように、パライソ（天国）を忘れないように、と。今の時代でも「信仰は何か」と語りかけている。それは、いのちをかけた言葉である。

彼らは西坂の丘から本当に大事なことは神の愛に応えることであることを証しした。それゆえ死に打ち勝った。殉教者は平凡な生活の中で自分の信仰を地道に生きていた。そのことが殉教につながった。殉教者に倣って、私たちも日々、堅実な信仰の顔はすでに傾きかけた陽をあびてこころなしか輝いていた。

西新教会でも、大名町教会同様、十字架の前でミサが毎日捧げられた。最終日の二十六日には糸島教会の平田三郎司教主司式で殉教記念ミサがささげられ、その後、十字架は長崎へと

長崎へ

十六聖人（聖パウロ三木）に捧げられた教会。カテドラルから約四キロメートルの福岡市内中心部の道のりを約四百三十人の参加者は聖歌を歌い、ロザリオを唱えながら二十六聖人と共に歩いた（＝写真上）。道中の要所にはボーイスカウトが待機し、巡礼を支えた。約二時間かけて西新教会に到着。聖体賛美式をして閉会。参加した人たち

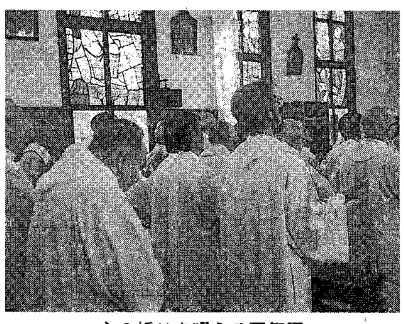
奉仕のために新たに派遣

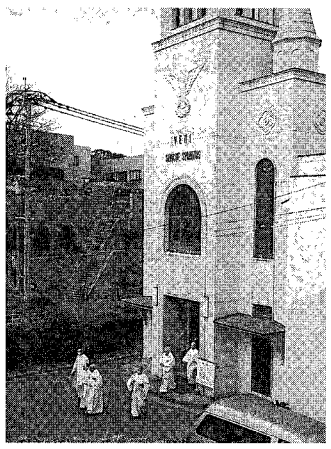
―司祭新年の集い―

一月七日、恒例の司祭新年の集いが開かれた。午前十一時から浄水通教会で新年のミサ。参加者は信徒、修道者、助祭団、司祭団の約八十人。その後、司教館別館五階で新年祝賀会が開かれた。

説教の中で、松永司教は次のように語った。

「病気、その他の理由でこのミサに参加できない兄弟と心を合わせて、まず神に感謝を捧げたい。新しい年が歩みを続ける。


主の祈りを唱える司祭団


▼新たな気持ちで派遣される司祭団

与えられたが、キリストはこの年に何を求めているのだろうか。今日の福音で『あなたが食べ物を与えなさい』と弟子たちに言われている。奉仕のために力と心を尽くしたい。

今年から大聖年の直前の準備が始まる。第一年目は《イエス・キリストの年》。受肉の神秘を黙想しよう。教会の心、教皇様の心に自分たちの歩みを合わせたい。洗礼によって、神とのきずな、兄弟、人間の間のきずなが確立した。このことを基に、エキュメニズム（教会一致運動）にも関心を持ち、すべての善意の人と一致し、力を合わせてほしい。受肉と十字架の神秘のいちばん近くにおられた聖母マリアを通してキリストへ近

司祭叙階式と選任式

二月二日、午後二時からカテドラル大名町教会において司祭叙階式が松永久次郎司式により行われる。受階者はパウロ田中重治助祭。田中助祭は一九七〇年十一月小倉に生まれ、中学一年生の時に福岡に引っ越す。西新教会所属。福岡中央高校卒。高三の十月に小神学校入学。音楽観賞、ドライブが趣味。翌、三日には長崎で三名の助祭が司祭に叙階される。日本26聖人殉教四〇〇年祭があるため、例年より早く叙階式が行われることになった。叙階後は三月まで大神学院に居住し、神学課程を修了する。

田中重治助祭

なお、これに先立つ二月一日十時三十分からは、同神学院で宣教奉仕者と教会奉仕者の選任式が行われる。小倉教会出身の藤渕邦大神学生が宣教奉仕者に選任される。

人事

百村等（聖パウロ会福岡修道院院長）一月一日付／青木悟（浄水通教会管理者）二月一日付

世界病者の日（2月11日）

教皇メッセージ

教皇ヨハネ・パウロ二世は二月十一日、ファティマ（ポルトガル）で祝われる「世界病者の日」に当たり、病者と医療関係者、すべての善意ある人々にメッセージをおくり、この日は「この人が何か言いつけたら、その通りにしなさい」という聖母マリアのことばに耳を傾け、それを受け入れるための大切な機会であると、諭された。

◇　◇　◇

肉体的、精神的に苦しんでいる人々には、「苦痛を全く否定的な体験と考えたり、神の善を疑ったりする誘惑に負けないでください。どんな病者も、苦しむキリスト、死んで復活されたキリストのうちに、苦しみの新たな側面、真の意味を見いだすのです。苦しみは失敗ではなく、信仰と愛のあかしをささげる機会となるのです…。試練ではあっても、十字架の光によって、キリストにおける成長と一致、救いの手段となるのです」。

病者に心を留めよう
苦しみは救いの手段

また、病者に心を留める世論づくりをすることは、世界病者の日を祝う主要な目的の一つであると述べて、人々に促す。「苦しんでいる人々のそばにいることこそ、世界病者の日が呼びかけている献身のあり方です。よきサマリア人のように、苦しんでいる人に近づかなければなりません。《通り過ぎる》のではなく、かれらのそばに留まって、その《隣人》となるのです」。

最後に、国家と諸機関、医療関係者、ボランティア団体と善意の人に対し、苦しむ人への奉仕という教会の活動に、ともに参加するよう呼びかけている。

みちくさ

二月は殉教者の月である。ちょうど四百年前の二月五日に長崎で、日本二十六聖人が生命を捧げてその信仰を証ししたのであった。「流血において弟子が師の姿にあやかる殉教を、教会はすぐれた賜物、愛の最大の証明と考える」とは公会議の教えである（教会憲章42）▼ところで、生命をかけて信仰を証しすることは凡人にとっては大変なことである。自分は殉教できるだろうか、と今自問するとき戸惑いの感じを隠しきれない。信仰は捨ててはならない。天国にはぜひ行きたい。だけど自分は殺されてもキリストに忠実を守れるだろうか。神のお恵みで何とかなるだろう。何とかしていただけるだろうと思うだけである。この寒い二月にふさわしい考えの一つである▼あの二十六聖人の殉教は四百年も前の出来事であった。しかし彼らはわたしたちと同じ人間であり、しかも京都から長崎への旅の途中、小倉、赤間、志賀、博多、唐津、伊万里、武雄など、この福岡教区の地を歩いて通ったのであった。あの仲間には聖職者だけでなく一般信徒もおり、十二歳のルドビコ茨木など子供たちもいたのである▼カトリックの教会の中で殉教者は彼らだけではない。この福岡教区でも、八代、天草、小倉、熊本の殉教者がいる。現代でも生命をかけて信仰に殉じる者は決して少なくないと言われる▼カトリックの信仰は殉教者の後に続く信仰である。わたしたちは殉教者のように英雄的ではあり得ないであろう。ただ、神のお恵みに信頼して今日の務めを果たし続けるのである。（M）

リジューの聖テレーズ帰天一〇〇年に

甘ったるい霊性ではない

今年一九九七年九月、聖テレーズの帰天一〇〇周年を迎える。フランスのノルマンディー地方、リジューのカルメル会修道院から一歩も出ることなく、時の流れるままに忘却されることを望んだ彼女の希望は、見事に裏切られた。彼女は、自分の書いた著作（著作というのは、大げさかもしれない。それらは修院長の希望により、従順のもとに書かれたものだから）、手紙、詩、戯曲を通して、後世の人々が彼女を賞賛するなどとは、夢にも思わなかったであろう。宗教雑誌などにときどき掲載される彼女の特集を、テレーズ自身が見たとしたら、どういう反応を示すだろうか。これは自分のことなのかと笑いころげるだろうか。ある意味で、彼女の文体が原因と思われるが、彼女ほど、そのメッセージが誤解された聖人も数少ないであろう。いわく、

「テレーズは甘ったるい」

「少女趣味的」

「世の苦しみを知らない大聖人」

この何年か、彼女のメッセージに対する関心が深まり、その現代性、普遍性が読みとかれてきている。それはけっして甘ったるい、少女趣味ではなく、賢い者に隠された真理を断固として語っている。

①神は裁く方ではなく、ともにいてくださる方である。

②信心業ではなく、みことばに対する信頼、すなわち、みことばは、すべての中心。

③ご聖体に対する限りない崇敬と信頼。

④信徒使徒職の重視。一人ひとりがキリストをはこぶ者である、ということである。

これらのことを一つひとつテキストから抜きだし、解釈するよりも、彼女のメッセージをテキストを通して味わうことをお勧めしたい。すべては、自叙伝と手紙を通して語られている。

テレーズの履歴は単純である。しかし、つまらない、たいくつな一生ではない、御父への愛を信頼し、愛にチャレンジした一生であった。

一八七三年一月　アランソンに生まれる。

一八八四年五月　初聖体（11歳）

一八八八年四月　カルメル会入会（15歳）

一八九七年九月　死去（24歳）

◇　◇　◇

愛の天才テレーズのメッセージを読もう

『幼きイエスの聖テレジア』といえば、日本では絶大な人気があり、洗礼名には、聖母マリアに次いで多い、といわれるほどである。が、テレジアさんがその保護者のことをよく知っているかといえば、はなはだ心もとない。最近は『テレーズ』の呼び名がかなり普及してはいるが、『リジューの聖テレーズ』は聖テレジアとは別人と勘違いする向きも少なくない。

聖テレーズを知るには、自伝はもちろん、その著作を読むのが一番である。イエス・キリストを知るためには聖書を読むのが早道であるように。女子カルメル会はテレーズの著作の翻訳を多数手がけており、書店でも見かけた人は多いと思う。紙面の都合上ここで聖人の全著作を列挙できないが（いずれリストアップしたい）、最新刊を二冊紹介したい。

『死と闇を越えて＝テレーズ最後の六カ月』ギイ・ゴシェ著。絶版になっていたが帰天百年記念に当たり久々に再版したもので、生涯を主にささげ、病気・苦しみをまったく主に委託して、死から生命への変容をとげた最後の数カ月の記録は、今同じように病み、苦しみ、孤独のうちに死に直面している人にとってはもちろん、病者の傍らで共に苦しむ人や医療に携わる人たちにとって、大きな慰めとなり、支えとなるであろう。

聖女の最後の言葉（七月十七日）は胸を打つ。『私は憩いに入ろうとしていることを感じます。でも特に、私の使命が始まろうとしているのを感じます。私の使命、それは、私がお愛しているように、人々にも、神様を愛させ、私の道を人々に教えることです。もし、私の望みが聞き入れられましたら、私は世の終わりまで、この地上で、私の天国を過ごしましょう。私は、地上の人々に善をなしつつ、私の天国を過ごしたいと思います。』聖母の騎士社（一〇〇〇円）

『天才　リジューのテレーズ』ジャン・ギットン著。愛そのものがすべてであり、沈黙のうちになされた純粋な愛のただ一つの行為はどんな苦行よりも価値があるということを、子どものように単純で、みごとな（＝天才的な）言葉で語っている。カルメル会の奥村一郎神父は本書をすすめて言っている。『テレーズの場合、正しい理解だけでは十分でない、つまり、正しい理解よりも深い理解が必要である。言い換えると、深い理解だけが、真に正しい理解となる。本書はまさしく、テレーズの深い理解から、正しい理解を生み出すという至難の業をなしとげた好著と言えよう。』南窓社（一六〇〇円）

希望者はカトリック書店のほか、福岡カルメル会（福岡市西区今宿上ノ原三☎FAX092・807・7361）で求めることができる。なお、同所テレサの家では、帰天一〇〇年記念の準備として「講話と祈りの集い」を開催中である（四面参照）。次回は二月九日13時より。多くの参加を望みたい。

典礼　ミサのこころ⑩『繰り返し食べる』

カトリック教会では、キリストの十字架上での死を境にして、それ以前に書かれた宗教的書物の中から45書を、またそれ以後に書かれたものの中の27書を、神感を受けた人々によって記された神のことば（＝『聖典』）と認め、それぞれ『旧約聖書』、『新約聖書』と呼んでいます。さらにカトリック教会では、神を信じる民が、この「神のことばの霊的な財宝を豊かに受ける」（『ミサの聖書朗読指針』45）ことができるように、主日と祝祭日のミサのために、三年周期の朗読配分を作成しています。そして便宜上、この三年周期の第一年目をA年、第二年目をB年、第三年目をC年と呼び、毎年、教会の典礼暦の初めに当たる待降節から、A年、B年、C年、その後はまた元に戻ってA年へというように、朗読配分を引き継いでいきます。今年はB年に当たっています。このような聖書の朗読配分によって、毎日曜日のミサにあずかる信者は、『創世記』から『黙示録』までの旧・新約聖書（72書）を、三年間で一巡りできるようになっています。

ところでこの新しい『ミサ朗読配分』は、第二バチカン公会議の典礼改革によって着手され、一九六九年に出来上がり、さらに一九八一年には改訂増補されました。その緒言の中で次のように述べられています。

「聖書は、何よりも典礼の中でのべ伝えられるとき、生命と力の泉となる。…それゆえ、すべてのキリスト信者は神のことばを喜んで聞くように自分を整えなければならない。神のことばは教会によって告げられ、生活の中で実行に移されるとき、聖霊の働きによって信者を照らし、キリストの秘義全体へと導く。…神のことばはキリスト信者の生活の食べ物であり、全教会の祈りの泉なのである」（46）。

多くの教会では『聖書と典礼』というパンフレットが用いられているのではないかと思います。このようなパンフレットは、ミサの間に用いるものというよりもむしろ、その前に読んで自分の心を整えるため、またミサの後に、家に持ち帰って、それをしばしば繰り返して読む（＝食べる）ためのものです。このようにもっと有効にパンフレットを用いることによって、典礼の中で聞いた神のことばを「生活の中で実行に移す」ように心がけていきたいと思います。

福岡サン・スルピス大神学院　白浜　満　神父

ダルク九州地区支援センター

島本大司教が名誉顧問に

ダルクの九州地区支援センターの名誉顧問に、このほど島本要長崎大司教が就任することになった。これは、日本におけるダルクの創設者で、日本ダルク代表の近藤恒夫氏と九州ダルク主宰の大木文夫氏の要請に応えたもの。島本大司教は関係者にメッセージを送り、「薬物汚染が世界的に青少年の心と魂をむしばんでおり、その低年齢化は極めてうれうべきこと」と心を痛めていることを表明し、「若者にとっては暗く夢のない現実に対する抗議または逃避であろうが、病根は大人にある」として、若者を薬物の危険から助け出す力の一つにでもなれば…」と、就任の理由を述べたが、関係者らは「カトリックの頂点に立つ人の支援は大きな力になる」と喜んでいる。

◇　◇　◇

DARC（＝ダルク）とは薬物依存回復施設のことで、一九八六年に東京で始まった。福岡教区でも一九九五年、美野島司牧センター（所長マルセル・コース神父）内に全国で八番目に開設され、活動している。この施設は「九州ダルク」と呼ばれ、今回新たに設立された「ダルク九州地区支援センター」とは区別される。支援センターは、福岡、宮崎、大分、北九州（三月開所予定）、女性ハウス九州（宮崎）のダルクを総轄するもの。資金難のため、多くの人の支援を先月本紙で訴えたばかりである。【問合先】九州地区ダルク支援センター☎092・473・6696

子どもたちの目は世界に

貧しい国の子どもたちのために祈りと援助

シーグのクリスマス

十二月二十三日、シーグ（CYG＝カトリック・ヤング・ガールズ、担当、L・ベリヨン神父）のクリスマス会が行われた。

第一部は「み言葉の祭儀」（タブロー）。ベリオン神父（黒崎主任）のみごとな采配で、たった三十分のにわか練習で、すばらしい聖劇が出来上がった衣（＝写真）。各自が持ち寄った衣装がさまになっていた。

第二部は「恵みの広場」（バザー）。シーグの精神は、イエス様のお望み、神様の教えに従い、互いに協力して助け合うこと。子どもたちは、西アフリカの最貧国の一つ、シエラレオネについて勉強会を重ね、バザーの収益金を送ることに決めた。ヤング・ガールたちは、みな一様に、自分の生活と較べ、その格差の大きさにショックを受けたよう。中口美幸さん（飯塚教会六年生）は次のような感想文を寄せてくれた。

「私はシエラレオネのことを調べて、その国の人たちが苦しくてつらい生活をしていることが分かりました。私たちがふだんなにげなく使っているものでも、シエラレオネに住んでいる人たちは、着るものや食べ物がなくて困っているなんて、かわいそうだと思います。めぐみの広場であつまったお金がその人たちのために役だってくれたら、とてもうれしいです。苦しくてつらい生活をしている人たちが、早くみんな幸せな世の中になるといいなと思いました。」（取材協力　福吉三代子）

新田原教会でも

新田原教会（主任・竹森勇神父）でも同日、「子どものクリスマス」会が行われ（＝写真）、地域の子どもたちと交流を深めながら、世界の平和のために祈りを捧げた。

目指せ！　司祭職

聖パウロ修道会
志願者募集

聖パウロ修道会は、社会的コミュニケーションを通して福音宣教を行う修道会です。現在、サンパウロ（旧：中央出版社）を中心に活動しています。将来の修道者（司祭、修道士）を希望するカトリック信者の男子志願者（新中学生以上）を募集しています。手続きなど詳しくはお問い合わせください。

〒810福岡市中央区小笹4-11-11
聖パウロ修道会福岡修道院
☎　092-531-0924
FAX　092-524-6169
担当　Fr.戸村　修
Br.小川　孝志

福岡カトリック神学院
生徒募集

神学院入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭と相談の上、福岡カトリック神学院までご連絡ください。

【入学条件】

①司祭を希望するカトリック信者の男子（今年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）

②主任司祭の推薦

＊途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。

〒810福岡市中央区浄水通38
福岡カトリック神学院
☎　092-531-6821
FAX　092-524-7373
院長　山元　眞

四旬節の黙想会ご案内

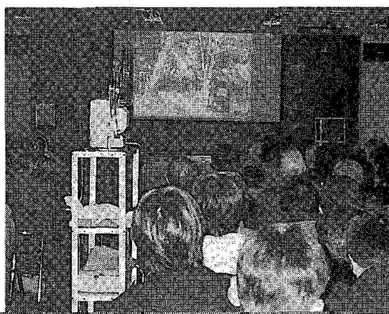
2月21日(金) 17：00 ～ 23日(日) 15：00〈マテオ神父〉
3月　1日(土) 16：00 ～　2日(日) PM〈御受難会召命黙想会/青年男子〉
7日(金) 17：00 ～　9日(日) 15：00〈マテオ神父〉
14日(金) 17：00 ～ 16日(日) 昼食後〈ガブリエル神父〉
21日(金) 17：00 ～ 23日(日) 15：00〈畠神父〉
※聖週間/27(木) 17：00 ～ 30日(日) 昼食後〈畠・マテオ・ガブリエル〉

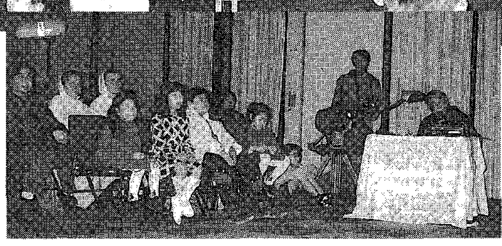
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

映画上映会（1月12日）





京都・伏見・大阪・堺・兵庫・明石・姫路・室・赤穂・片上・岡山・川辺川・神辺・尾道・三原・西条・広島・岩国・徳山・山口・小郡・吉田・下関・小倉・赤間・志賀島・博多・唐津・伊万里・武雄・彼杵・時津・浦上・長崎

十字架出迎えメンバー（細江教会出発前）▶

▼カップローソクに点火する（古賀）

▶喜ぶ古賀教会の信徒

◀26聖殉教者記念ミサ（1月19日）

▶連願の間、26本の十字架に灯がともされていく

✝✝聖フランシスコ吉／聖コスメ竹屋／聖ペトロ助四郎／聖ミカエル小崎／聖ディエゴ喜斎／聖パウロ三木／聖パウロ茨木／聖ヨハネ五島／聖ルドビコ茨木／聖アントニオ／聖ペトロ・バプチスタ／聖マルチノ・デ・ラ・アセンシオン／聖フェリペ・デ・ヘスス／聖ゴンザロ・ガルシア／聖フランシスコ・ブランコ／聖フランシスコ・デ・サン・ミゲル／聖マチアス／聖レオン烏丸／聖ボナベントゥラ／聖トマス小崎／聖ヨアキム榊原／聖フランシスコ医師／聖トマス談義者／聖ヨハネ絹屋／聖ガブリエル／聖パウロ鈴木✝✝

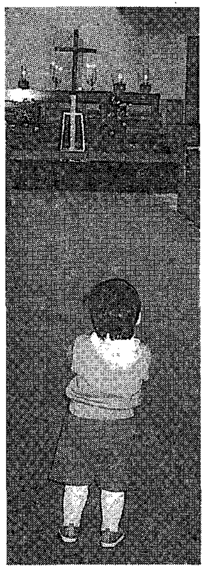
◀待ち受けた信徒に迎えられて入堂

▶カテドラルに到着した記念十字架（青木悟神父）

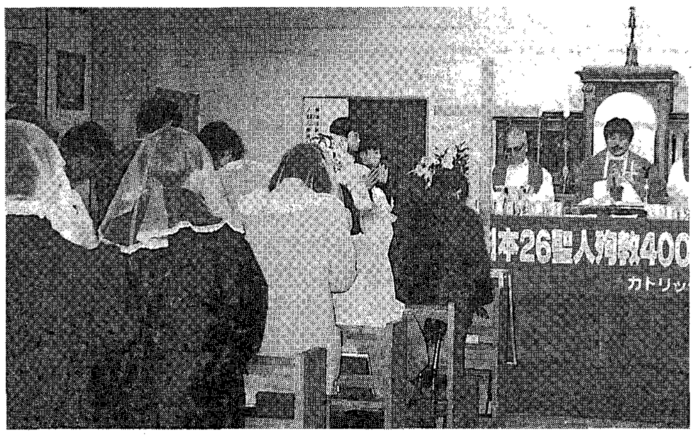
▲司教様と事務局長

▲西新教会へ向けて４キロの巡礼へ出発

◀10本のノボリを立てて…



◀十字架を見つめて祈る幼児



▼週日には小聖堂で祈りが捧げられた

◀西新教会

▼子供たちが先頭に立つ

◀うれしそうな？子供たち

▶横断幕を掲げて

BOOK 読みま専科

★日本二十六聖人殉教記　永富映次郎著

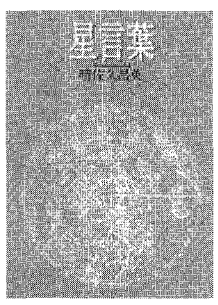
豊臣・徳川時代にかけて起こったキリスト教弾圧下に、己が信念をいのちをかけて守り通した聖なる二十六殉教者の物語。殉教四百年祭記念に『鮮血の十字架』を、表題・体裁を変えておくるもので、少ないページにすべてが盛り込まれている。

著者は明治36年、長崎に生まれ、若くして映画界に入り、いつかはぜひ「日本二十六聖人」をドラマ化しようと、幾多の資料を基に筋書きをまとめ、夢の実現に奔走しながらも果たせなかったが、結果として、史実に忠実な、臨場感あふれるドキュメントとなったのが本書である。

サンパウロ刊　一二三六円

◇　◇　◇

★星言葉　晴佐久昌英著



愛する、信じる、怒る、喜ぶ…50の動詞（ことば）をポイントとして著者が歩んできた人生のなかで、感動し、思いめぐらした星言葉。

「神」という言葉はでてこないが、特定の信仰をもたない人や信仰をもっていても、どこかしっくりこない人に、人間の造った枠組みを越えた本物の神とその愛を、少しでも味わってもらえたら、そして今まさに癒しと希望を求めている人への喜びの知らせになってくれたらという願いがこの本に込められている。読者はこの中に、不思議な星の光と力を感じることでしょう。女子パウロ会　一〇三〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石・御影石・その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

ふくらむ期待

期待はふくらむものみたいです。

鳥栖のマグリン神父様がイタリアに行っている間に、そこの教会で留守番（ドアを開けたり閉めたり、電気を付けたり消したりして）をしました。福岡教区は初めてだったので、松永司教様にお会いしたら、いろいろと聞かれました。「鳥栖は五カ月ぐらいの予定です」と司教様の質問に答えたら、「その間、五百人に洗礼を授けなさい」と言われてしまいました。

佐賀教会赴任が決まった後のある時、また司教様にお会いしたら、そのことが話題になりました。今度は司教様の質問に答えて「佐賀教会の信者さんは名簿上、七百人ぐらいいます」と言ったら、「佐賀では、その七百人を残して他の人を皆信者にしなさい」と言われてしまいました。

じつは私も期待を持っていました。

司祭になってから十四年目、日本に来てから七年目、やっと教会の責任者になって自分なりに司牧の計画を立てて、それを進めることができます。あれもこれもしたい、と心が燃えている感じでした。

でも期待と夢は限界にぶつかりました。計画が進むより体の変化が速く進んだみたいです。ひとつは、おなかがもっと出てきました。妊娠しているある奥さんに「私より神父様の方が大きい」と言われるぐらいでした。もうひとつは、頭のハゲです。頭の覆いが薄くなったから風邪をひかないように『風邪防止帽子』を被っています。そのかわりハゲは長生きするしるしです。鶴は千年、亀は万年といわれるから、ツルツルだったら、きっと二千年になります。司教様の信者増員の期待に応えられないとしても司教様の司祭長寿の期待には応えられるかも知れません。

期待が膨らんで現実にぶつかったら挫折することもあります。でも、司教様や自分の期待よりキリストの期待を大事にしたいものです。キリストは私に何を期待しておられるのか…。

ここでマザーテレサの言葉は慰めと励ましになります。マザーは「キリストは私たちに成功ではなく、忠実さを求めておられます。」と言っています。成果を気にするより、キリストを中心に生きたいものです。そうしたら、かえってキリストは私を通して一番大きな宣教活動の実りをもたらせるはずです。

佐賀カトリック教会
主任　マルコ・ターディフ

会合と催し

教区年間テーマ：キリストとの真の出会いを求めて

2月

1日（土）**教会奉仕者・宣教奉仕者選任式**
（福岡サン・スルピス大神学院10時30分）
福岡結婚準備セミナー①（～27日）
2日（日）主の奉献
司祭叙階式（カテドラル14時）
5日（水）日本26聖人殉教者
日本26聖人殉教400年祭荘厳ミサ（長崎）
6日（木）聖アガタおとめ
10日（月）聖スコラスチカおとめ
11日（火）ルルドの聖母／世界病者の日／建国記念日
福岡地区信徒協代表者会議（カテドラル13時）
12日（水）灰の水曜日（四旬節）大斎・小斎
14日（金）＋Ｊ.オマラ［荒尾教会1974］
16日（日）四旬節第１主日
大牟田教会堅信式
＋Ｊ.ボア［黒崎教会1957］
22日（土）聖ペトロの使徒座
＋Ｆ.ベルトラン［門司港教会1940］
23日（日）四旬節第２主日
＋パウロ糸永武男［今村教会1992］
26日（水）今村信徒発見記念日
＋Ｆ.ドルエ［八王寺教会1983］
＋Ｇ.オーブリ［大神学院院長1985］

■印は本面に詳細説明あり

3月　聖ヨセフの月

2日（日）四旬節第３主日
＋Ｒ.ミケレ［鹿島教会1988］
＋Ｊ.オブライエン［手取教会1990］
6日（木）＋Ｈ.ジョリ［久留米教会1966］
8日（土）聖ヨハネ・ア・デオ
9日（日）四旬節第４主日
浄水通教会堅信式
12日（水）＋Ｆ.Ｍ.ヴェイヨン［唐津教会1973］
16日（日）四旬節第５主日
＋Ｌ.Ｍ.ベリボ［箱崎教会1977］
19日（水）聖ヨセフ
松永司教霊名の祝日
＋Ｊ.ベラス［水俣教会1990］
＋Ｍ.ボア［新田原教会1959］
20日（木）春分の日
23日（日）受難の主日（枝の主日）
世界青年の日
26日（水）＋Ｊ.ドイル［荒尾教会1962］
27日（木）聖木曜日（主の晩さん）
聖香油ミサ（カテドラル）
28日（金）聖金曜日（主の受難）
大斎・小斎・《聖地献金》
29日（土）聖土曜日（復活徹夜祭）
司教ミサ（カテドラル）
30日（日）復活の主日
司教ミサ（カテドラル）

■ロザリオへのおさそい［日時］毎水曜日11時30分～［場所・問合先］美野島司牧センター☎092・431・1419

■韓国語によるミサ［日時］毎月第1、第3日曜日10時30分［場所］聖パウロ修道会福岡修道院［問合先］尹汝沃神父☎0942・33・6274（司祭館）FAX 34・3115（聖マリア病院）

■青年の祈りの集い［日時］毎月第2、第4日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会信者会館［指導］伊東成晃神父［参加費］自由献金［問合先］橋爪章一☎092・714・3477

■第4回聖書を読む会―キリストの譬え話を読む　開催中［日時］97年3月6日まで第1木曜日全7回、午前の部10時～11時30分／午後の部19時30分～21時［場所］佐賀教会［テーマ］⑥傲慢と謙遜（2月6日）⑦自分が損して他人を助ける（3月6日）［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父［参加費］無料［申込・問合先］佐賀教会☎0952・23・4754

■よみうりFBS文化センター特別講座―開催中「生かされて生きる」［日時］97年3月22日（月2回）土曜日14時～15時30分［場所］西部ガス「パピヨン24」（福岡市博多区千代）［講師・演題］▽池見酉次郎（九州大名誉教授）・生かされて生きる～癌に克つ生き方▽本多正昭（産業医科大名誉教授）・死の壁を超えるそよ風▽古川泰龍（超宗派シュバイツァー寺代表役員）・仏教とマザーテレサ▽藤江良郎（福岡亀山栄光病院理事長）・安楽死から見た医療と宗教・▽田中正敏（久留米大医学部教授）・脳を学ぶ▽佐藤信義（産業医大医療技術短大名誉教授）・カウンセリングマインド～生かされて生きるいのちを支えるこころ他［申込・問合先］よみうりFBS文化センター☎FAX 093・541・6556

■2月の熱いスープ―路上生活者への炊き出し―［日時］2月7日（金）～2月中の火曜・金曜日20時。［場所］カテドラル

■講話と祈りの集い―幼いイエスの聖テレジア逝去一〇〇年記念、準備―　テレジア帰天一〇〇年を迎えるに当たって一年間テレジアとともに教会のこと、宣教のことなどを祈り、学ぶ小さな集いを四回にわたって開いてきました。最終回のお知らせです。［日時］⑤2月9日（日）13時～［講話］［講師］チプリアノ・ポンタッキョ神父（カルメル会）［場所］福岡カルメル会修道院、テレサの家［問合先］同右☎FAX 092・807・7361

■カテキスタの集い　対象日時に諸行事が予定されているため、当分の間お休みします［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX 092・524・7373

■第52回熊本結婚準備セミナー開催中［日時］～2月18日（火）毎月曜・火曜日19時～21時20分・全8回［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX（カトリックファミリーセンター）092・552・5022

■福岡生と老い・死をみつめる会［日時］2月23日（日）14時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［テーマ］豊かな死／死別体験者の語り合い［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父（佐賀ロザリオの園）［会費］500円［問合先］大山美穂子☎FAX 092・713・8523

■第67回福岡結婚準備セミナー［日時］2月1日（土）～27日（木）毎木曜・土曜日19時～21時20分・全8回［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022

■聖歌研修会［日時］2月16日（日）13時～［場所］大楠教会

■典礼・聖歌と祈りの集い［日時］2月23日（日）14時～17時［場所］福岡黙想の家［聖歌指導］深堀純［テーマ］四旬節・聖週間の聖歌［会費］1000円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎0940・32・3222 FAX 32・3385

日本カトリック研修センター

⑯生活の中で読む聖書4［日時］2月13日（木）～16日（日）［場所］日本カトリック研修センター［テーマ］全員参加の教会・明日の教会のビジョン［対象］信徒、修道者、司祭［費用］25000円

⑰カテキスタ養成コース（後期）［日時］3月3日（月）～12日（水）［テーマ］子どもたちの信仰生活のコンパニオンを育てる［対象］信徒、修道者、司祭［費用］99000円［問合先］日本カトリック研修センター研究企画部〒466名古屋市昭和区広路町隼人30☎052・831・5037 FAX 831・5317

福岡黙想の家　2月

◇2日（日）日本心身医学協会研修
◇2日（日）～3日（月）パリ外国宣教会
◇7日（金）～9日（日）新求道共同体の集い
◇10日（月）～11日（火）きょうだい会黙想
聖母カテキスタ会黙想
◇14日（金）～16日（日）福岡黙想の家後援会
会員黙想会
◇16日（日）福岡黙想の家後援会総会
◇16日（日）～17日（月）九州ダルク
ｽﾋﾟﾘﾁｭｱﾙ・ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ
◇18日（火）人生講座「家庭と子どもの相談」
瀧口正子先生
◇23日（日）典礼・聖歌と祈りの集い
◇23日（日）～3月1日（土）アウグスチノ会黙想
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222
FAX 0940・32・3385

巡礼する方へのご案内

1597 慶長元年
日本２６聖人殉教４００年祭
平成9年 1997

バス［九州観光バス２台］の発着場所と時間は以下の通りです。
・カテドラル前：８時00分に出発
・中バス停：８時40分
・基山パーキングエリア：９時着／９時20分発
・金立サービスエリア：９時50分着／10時10分発
・バスの中で参加章を配付し（参加章がないと入場できません）、参加費を徴収いたします。
・帰りは20時50分福岡着予定。
申し込みはメ切りました。
参加者は発時間を厳守してお集まり下さい。
・確認先［教区本部事務局・深堀邦枝まで］
☎０９２・５２２・５１３９（10時～16時）
【主催・教区広報委員会】

2月5日（水）8時カテドラル前出発

【日本26聖人殉教400年祭】記念グッズ

・テレファンカード❶プレミアム（26人全員、マーク、全景）26000円❷セット売り（マーク、全景、夜景）3000円❸単品売り1000円・Ｔシャツ❶全景（サイズM／L）2500円❷マーク（サイズM／L）2500円・帽子（フリーサイズ）1500円・キーホルダー300円・紙芝居3000円3000円・画集800円・カレンダー500円
＊Ｔシャツの生地はアメリカ製を使用している。送料は実費。
【申込み】長崎市橋口町1-1／日本26聖人殉教400周年祭記念グッズ係／☎0958-42-4026

編集後記

二十六聖人の無声映画を見て、中学時代にも見ていたことを思い出した。あの頃はルドビコ茨木が身近に、今回はパウロ三木が親しく思えた。十字架を親しく思うのはまだまだ…。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJKi
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

司祭叙階式

両親・祖母に感動の祝福

西新教会出身で初の教区司祭誕生

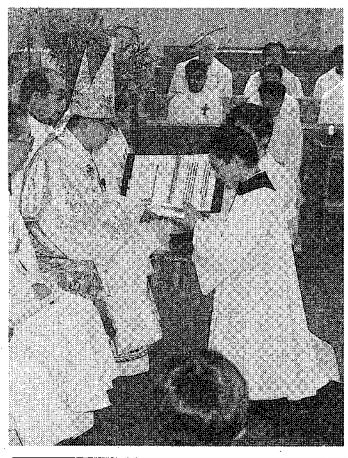
二月二日午後二時、福岡カテドラル大名町教会で松永久次郎司教により、田中重治助祭の司祭叙階式が挙行された。折から司祭召命の減少が叫ばれている中、新しい司祭が与えられたことに、叙階式に参加した約千人の信者は心からの感謝の祈りをささげた。田中新司祭は福岡市内の西新教会出身。当教会からは初めての福岡教区司祭の誕生となった。

司祭の叙階式は例年は三月下旬に行われる。大神学院卒業後に叙階されるのが通例である。今年は長崎教区で日本二十六聖人殉教四百年祭があり、その記念に合わせて司祭・助祭の叙階式が行われることから、福岡教区でも例年より式の時期が早まった。

二月二日午後二時、カテドラルの鐘が鳴り響く中、平田三郎前教区長と七十余名の司祭、助祭団に続いて、受階者と主司式の松永久次郎司教が入堂。式は滞りなく進んだ。叙階式のミサ典礼に引き続き、聖堂内で祝賀式が開かれ、教区信徒使徒職協議会会長の田丸鋭さん（佐賀教会所属）が信徒を代表して、また中浜一男神父（今村教会主任）が新司祭を司祭団に受け入れるにあたっての挨拶をした。

最後に新司祭の強い要望で、祖母にも司祭としての最初の祝福が与えられ、参列者の感動を誘った。田中新司祭は、祝福を与えるにあたって、自分の信仰の原点が祖母にあること、司祭への道を支えてくれたのは祖母の信仰であったことを付け加えた。

両親と祖母に新司祭の祝福を与える田中重治神父



選任式には出身教会の信徒をはじめ多数の参加があり、司祭職への恵みを強く祈った。

同神学院では、五年修了時に宣教奉仕者に、六年修了時に教会奉仕者に選任される。宣教奉仕者は典礼儀式において正式に聖書の朗読をし、要理の指導をすることができる。そのことを表すために、式中、聖書が手渡される（＝写真）。

今月のみことば

空の鳥を見なさい。種をまくことも刈り入れもしない。それなのに天の父はこれを養ってくださる。

（マタイ6・26）

伊万里教会　C・ガザルディ　神父

四旬節メッセージ

私が放浪していたとき あなたは宿を与えてくれました

ヨハネ・パウロ2世

「私が放浪していたとき、あなたは宿を与えてくれました」（マタイ25・34～35参照）

ヨハネ・パウロ二世教皇は四旬節にあたり、このテーマのもとに全世界の愛する兄弟姉妹たちにメッセージをおくった。

教皇は世界の現状に思いをはせ、特に難民や移住者、家なき人々への援助が急務であることを強調され、「すべての人が主のお望みに耳を傾け、助けを必要としているすべての人々に心を開くよう」招かれている。

メッセージの要旨

教皇は冒頭で、約束の地に向かうイスラエルの民が過ごした荒野の不自由な四十年間、神が彼らと共にいて守られたことを想起し、私たちの霊的旅路においても神の現存を再発見するよう促す。

次いで「家のない人々の悲劇的な状況に心を留め、熟考したい」と、マタイ福音書の言葉（前出）を四旬節の黙想として勧めた後、家族の交わりの場・心の支えとなる《住居》の大切さを説いて訴えている。

「不幸なことに、どれだけ多くの人々が家庭の温かみと歓待される雰囲気から閉め出されていることでしょう。私は戦争と自然災害の犠牲者である難民と、経済的理由で移住せざるを得なくなった人々に思いをはせています。同じように、自分たちの家から立ち退かされた家族、住居を見つけられない人々を…」

そして、このために働く義務が教会にあるとして、その根拠を聖書に求めている。

「聖書の多くの個所が、家のない人々を助ける義務を強調しています…実に、神は明らかに、そして繰り返し、寄留者に対する手厚い保護を勧めています。イエスはご自身を《家のない人》と同一視しました。《人の子には枕する所もない》」。

「《家なき人》であるキリストに近づくよう呼びかけている福音は、すべての信者がこの四旬節に、自分の生活を見直し、兄弟姉妹の困難を分かち合い、彼らとの連携を実践するよう招いています」。

藤渕神学生は宣教奉仕者に

司祭叙階式の前日、二月一日には、福岡サン・スルピス大神学院で宣教奉仕者と教会奉仕者の選任式が行われ、小倉教会出身の藤渕邦大（くにひろ）神学生が宣教奉仕者に選任された。

司教教書

洗礼の秘跡について 洗礼のこころを大切に

福岡教区長ヨセフ松永久次郎司教は、一九九七年イエス・キリストの年の四旬節にあたり、全教区民にあてて教書「洗礼の秘跡について」をおくり、キリスト者としてふさわしく生きるための根本を示された（**2面に全文掲載**）。

この四旬節教書の中で松永司教は、《キリスト教的な生き方の基礎》である洗礼の秘跡の本質的性格を述べ、それから派生するキリスト者の務めに言及して、全信者に、ふさわしい実践を促している。

要約すれば、洗礼は神と人、また人と人との間に、特別な関係を成立させる。すなわち、洗礼によって人はキリストの命にあずかり、神の子となる。同時に、同じく神の子となった隣人と兄弟となる。当然の帰結として信者は、神の子にふさわしい生活を要求される。すなわち、父なる神への礼拝と賛美、掟を守り、神を愛し、すべての隣人、特に弱い立場にある人、別れた兄弟たちを愛さねばならない。

また洗礼を受けた者は教会の一員となり、教会の活動、礼拝と福音宣教に参加する義務を負う者となる。言葉と生活の証しによって福音を伝えるためには先ず、教えをよく学び、信仰を育て、完成することである。

97年四旬節

日本26聖人殉教400年祭

荘厳ミサに教区から160人参加

四百年前の二月五日水曜日、長崎の西坂で二十六人の聖者が十字架に付けられて殉教した。その記念祭の「荘厳ミサ」が長崎県立総合体育館で同じ二月五日水曜日にささげられた。参列者は六千三百人。福岡教区からは、広報部が企画した巡礼に百人が参加。古賀教会（主任、F・ハーン神父）も独自にバス巡礼を企画。合わせて約百六十人が「荘厳ミサ」に参加した。

ミサは午後二時から教皇特使エドムンド・カシミル・ショーカ枢機卿（教皇庁財務局長）の主司式で行われ、駐日ローマ教皇大使のウイリアム・アクイン・カルー大司教はじめ枢機卿、司教、司祭ら約二百人が十字架の形をした祭壇を囲んでの歌ミサを日本語で行うためにローマで特訓をされたと聞く。

大きな十字架をかたどった祭壇は、どこからもよく見えるように、あらゆる角度から計算をして設計されたという。二百人におよぶ聖歌隊は信徒、大神学生、修道女で編成され、典礼に深みを添えた。

典礼の形式や役割分担にも創意工夫が随所にみられた。ミサ前半の「ことばの典礼」には十分な時間が割かれていた。京都から福岡を経て長崎に運ばれた十字架が、一本一本に二十六聖人の名前が書かれたローソクと聖遺骨を伴って入堂。ローソクは会場内の各所に配置された。

回心の祈りでは十五の短いゆるしを求める祈りのあとに「主よ、あわれみたまえ」の答唱句を唱えた。共同祈願は二十六聖人の遺徳を偲びながら、さまざまな国籍の信徒がその意向を述べ、「主よ、わたしたちを新たにしてください」と心を合わせて祈った。奉納行列は中・高生に役割が与えられ、奉納の最後はプロテスタントの方が聖遺骨に献花をした。以後、感謝の典礼が滞りなく進められ、派遣の荘厳祝福の後、「福音を宣べ伝えるために行きましょう」の呼びかけに応えて、午後四時四十分閉会した。（写真＝畠山春秋氏提供／3面に関連記事）

共同司式をした。

「殉教者の生き方を体験すること」を目的としたミサに参加した多くの信者は、その典礼のすばらしさに感動の意を表していた。ショーカ枢機卿はこの日

殉教者の

花岡山殉教祭への御案内

† 主の平安。イエス・キリストの十字架上の御受難と御復活の栄光を黙想しつつ。

毎年、花岡山にて行われております小笠原玄也、加賀山マリアみや御一族の殉教祭を、今年は来る四月六日（日）、松永久次郎司教様をお迎えし、左記の通り執り行うことになりました。

大勢の皆様方のおいでをお待ちいたしております。

記

一、日時　四月六日（日）午後二時
二、行事　野外ミサ、司式　松永久次郎司教
三、場所　加賀山マリア殉教碑前（花岡山）

なお、当日雨天の際も、予定通り挙行いたします。

お問い合わせは、島崎教会へ　☎096・352・5610

司祭評議会の動き

去る一月二十八日、司祭評議会の会合が司教館別館にて行われ（出席者は松永司教他司祭十八人）、今年度の司祭研修会など数件の議題が検討された。決議事項は以下の二件。

①司祭研修会について

期間は六月十日～十二日、テーマは「大聖年を迎えるにあたって教区を考える」と決まったが、場所、サブテーマなど内容を煮詰めるまでには至らなかった。そのため、各地区の司祭集会で、具体的に取扱うべき問題を話し合い、項目に優先順位をつけて、三月末日までに事務局に送ってもらうことで了承した。

②評議員の選出について

司祭評議会の現評議員の任期が今年三月に満期となるため、教会法と福岡教区の規約に則って、三月四日、松永司教霊名の祝いミサ後、新評議員の選挙を行うことになった。投票用紙はすでに全司祭に配布され、各司祭は二名を連記する。当日投票できなかった司祭は三月十五日までに事務局へ郵送する。

福岡教区司祭評議会規約によれば、評議員数は①司祭の互選によってグループ別に選出される者十四人、司教が任意に任命する者若干名、職務上（例えば教区事務局長や会計など）六人である。

みちくさ

「仰げば尊し我が師の恩…」。今月はあちこちでこの歌が歌われ、多くの若者が巣立っていく。もっとも最近は、この歌を中止した学校も少なくないという。先生に何の恩も感じなくなったのか。恩師ということばも死語になりつつある。ひどいもので「和菓子の恩」とばかり思っていた、という人もあるくらいだ。先生も立つ瀬がない▼総じて学校唱歌というものは、耳で聞きおぼえたものが多いだけに、こういった勘違いや思い込みが多いようである。何気なく、よく考えもしないで口ずさみながら、ことばも、そして意味もとり違えてしまう▼ある出版社がこの「思い込み」を募集したところ、投稿の山。その代表が『ふる里』で、「兎追いしかの山」を「かの山のウサギはおいしい」と勘違いし、『もみじ』の「濃いも薄いも」は「小芋薄芋」、『浦島太郎』では「帰りてみれば怖いカニ」と思っていた、というのが多数あったという。食べ物に間違っているところをみると、こうした思い込みは（失礼ながら）どうも女性に多いらしい▼耳といえば電話による勘違いは今でもある。「もしもし、お宅に帰省中の娘さんがいらっしゃいますか」「うちの娘は寄生虫じゃありませんッ」ガチャンッ　勘違いと気づいたが〈でも、手伝いもしないでお客さま然としているわが子をみると、寄生虫みたいね〉とはある主婦の弁▼こんな勘違いはちょっと恥をかくだけですむが、神のみことばをとり違えると冗談ではすまない。イエスも警告している（マタイ6・7～8）。心したいものである。（H）

一九九七年四旬節教書

洗礼の秘跡について

† 聖父と聖子と聖霊の御名によって。アーメン

一九九七年は、二〇〇〇年の大聖年を直接準備する最初の年として、「イエス・キリストの年」と定められています。そしてこの年にあたりパパ様は、「キリスト教的な生き方の基礎である洗礼」についての理解を深めるよう勧めておられます。この教会のこころを体して、今回は洗礼の秘跡について考えてみたいと思います。

洗礼の秘跡については種々の観点から考えることができますが、ここでは洗礼によってわたしたちは、キリストにおいて「神の子となる」、そして「人々のきょうだいとなる」という教えを中心に、考察することにいたします。

一、神の子となる

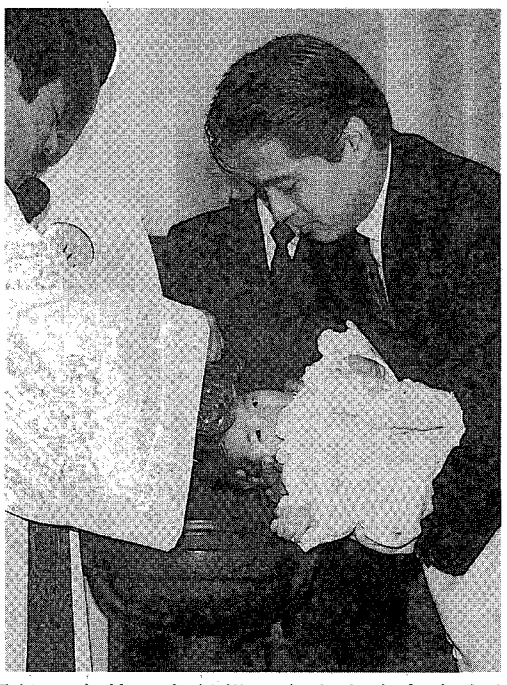
洗礼の秘跡によってわたしたちは、神の子であるキリストの命に与り、神の子としての品位をいただきます。これは、神の子の品位に反するすべての汚れから清められることを含みますから、原罪、自罪など、すべての罪は赦されることになります。そして、神の子の身分にふさわしく行動できる能力、すなわち父なる神のみ心に適う行為ができる能力が与えられます。このように洗礼のお恵みは先ず、神と人間（神とわたし）との間に親しい間柄を成立させ、人を神の子といたします。こうして、洗礼の秘跡により、キリストの救いの働きがわたしの中で具体的な実を結ぶことになります。

神の子とされた人間は当然、神の子にふさわしい生活を送らなければなりません。父なる神に対する務め、すなわち礼拝・賛美の務めをふさわしく果たすとともに、神の掟、すなわち倫理上の務めを正しく守るよう努めて、神の愛に応えることが必要となります。まさに洗礼は「キリスト教的生き方の基礎」なのです。洗礼を受けて神の子となり、キリストに結ばれた信者は皆、キリストを着ているのですから（ガラテヤ3・27参照）、キリストの心を心として生きて行くべきなのです。それは具体的には、神に対して子としての真心を込めて礼拝の務めを果たし、人々に対して隣人愛を実践することを意味します。

二、人々の兄弟となる

わたしがキリストの命に与り、神の子とされるとき、わたしは同じく神の子である隣人に対して特別に近い関係に置かれることになります。それは、同じ神を共に父としていただき、深い意味で「きょうだい」となることを意味します。わたしたちは神に向かって、「天にます我らの父よ」と、共に祈る仲間となるのです。

互いに「きょうだい」であるということは、相互に隣人愛の務めを持つ者となったことを意味します。そこでわたしたちは、すべての人に対して、特に弱い立場にある人々に対して、「言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛する」（Ⅰヨハネ3・18）よう努めることが必要となります。この隣人愛の務めをふさわしく実践するかどうかが、洗礼のお恵みを良く生きているかどうかということの尺度となります。これこそ、わたしたちキリスト信者がいつも心しておかなければならない要点なのです。



ところでこの隣人愛の務めは、洗礼の秘跡により特別に兄弟姉妹の関係にあるすべてのキリスト者に対して、強調される必要があります。そこで、イエス・キリストの年にあたり、全キリスト者の一致推進運動（エキュメニズム運動）に関心を持ち、そのために祈り協力する心構えを持つことが強く勧められています。このエキュメニズム運動の進展と結実は、大聖年にあたってのパパ様の特別な願いの一つでもあります。

また人間はある意味においてすべて神の子といえますから、そしてすべての健全な宗教は、わたしたちの立場から言えば、人類の救い主キリストへ向かう一つの準備とも言うことができるのですから、諸宗教との正しい対話を進め、深い兄弟愛の内に、真理を求める真摯な努力をしなければならないことになります。

このように、イエス・キリストの年は、洗礼について考えさせ、エキュメニズム運動の推進と、諸宗教間の対話の促進という課題を与えるのです。

三、キリストの教会の使命に参加する

洗礼を受けた者はまた、キリストの教会の集いに迎えられ、その使命に与る務めをいただきます。すなわちキリスト信者は、キリストの教会の活動に参加し、その推進者とならないのです。ところで教会の務めは大きく言って、神の礼拝と福音宣教です。

そこで信者は先ず、教会の中で、神に対する礼拝と賛美の勤めを果たすことが求められます。そして、神への最高の礼拝はイエス・キリストの十字架の犠牲ですから、信者は十字架の犠牲の秘跡的再現であるミサの祭りをふさわしく祝い、またミサの延長ともいえる諸秘跡を大切にし、ミサの心で毎日の生活を送るよう心掛けなければなりません。

また、言葉と生活の証しによってキリストの福音を伝える者となり、また愛の業の実践によって人間に対する父なる神の愛の働き手になることで、福音宣教活動の推進者となるよう努めなければなりません。わたしたちは神の礼拝の時だけでなく、職業的活動の場・日常生活の場でも、信仰を証しする責任があります。また個人的レベルだけではなく、社会の仕組みそのものを神の御心に適うものに造りかえる努力も大切です。神の御心が実現される世界を築くこと、これがキリスト者一同の使命なのです。

四、お恵みの命の成長のために

洗礼は秘跡です。キリストのお恵みを確かに与えます。だけど、神のお恵みは人間の協力を求めることを忘れてはなりません。

洗礼によってキリストの命に与った者は、キリスト者らしく生きる責任がありますから、そのために、キリストの教えをよく学び、実践の場での確かな判断ができる者とならねばなりません。また社会の事情は複雑ですから、キリストの真の証し人であるために、わたしたちはそれぞれの場で、正しく適切な判断と決断をすることができねばなりません。ひとり合点の、自分の思いつき的な行動はキリスト者の道ではありません。わたしたちは自分の信仰の知識を育て、完成して行く義務があるのです。それ故、幼時洗礼の人々も成人洗礼の方々も、信仰についての勉強を怠ってはなりません。それぞれ自分の生活のなかで起こる種々の問題に正しく対処できる信仰の知識を持つ必要があるのです。

またわたしたちは周りにいる人々に、キリストの「こころ」を間違いなく伝えることができるよう準備しておくことが必要です。聖書に、「あなたがたの抱いている希望については、いつでも弁明できるように備えていなさい」（Ⅰペトロ3・15）とある通りです。

また洗礼の時いただいたお恵みの命を清く保つように、そしてそれを愛の実践によって実りあるものとするよう、日々努力を続けなければなりません。すなわちキリスト者的徳の実行者となる必要があるのです。ところで人間は習慣の動物です。繰り返し善を行うことで、善を身につけるというのがその本性です。宗教心もキリスト者的徳行も、習慣によって初めて本当に自分のものになるということを心しておく必要があります。

洗礼を受けて神の子の命に与った者は、堅信と聖体の秘跡を受け、お恵みの命の成長の過程を堅実に進むよう方向づけられています。信者はこのことを心に留め、これらの秘跡をふさわしい準備をもって受け、お恵みの命の順調な成長・開花を配慮すべきことを忘れてはなりません。

― 結び ―

イエス・キリストの年にあたり、教会のこころを受けて、洗礼の秘跡について少し考えてみました。そしてそれは、キリストの命に与り、神の子・人々の兄弟となるということ、そしてキリストの教会の使命に参加することであることを学びました。

キリストの年に当たり、わたしたちはこの洗礼のこころを大切にして、キリストの命を生き、キリストの救いのみ業の働き手となるよう努めなければなりません。キリストの年に当たり、「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」（ガラテヤ2・20）と言うことができたら、わたしたちは幸いです。この理想を掲げながら、すべての方々が、より深い意味で、キリストの年の「こころ」を生き抜いてくださるようこころからお祈りする次第です。

一九九七年二月

福岡教区長
ヨセフ　松永　久次郎

典礼

ミサのこころ⑪『応えて祈る』

主日や祭日のミサでは三つの朗読（祝日や週日には二つの朗読）の後に、説教が行われます。『ミサ典礼書総則』41によると「説教は、祝われている神秘や会衆の特別な必要を考慮に入れて行われるべきもの」とされています。説教は、人類の救いのためにキリストが行われた神秘（＝不思議なわざ）を想起させ、そして今なお教会を通して、この不思議なわざを行い続けておられるキリストの救いの働きを説明するためのものであり、また私たちがキリストの福音を今日、どのように生きればよいのかを黙想する手助けとして行われるものです。そのために司祭は「朗読された内容の一面、もしくはその日のミサの通常式文または固有の式文の一部（同総則41）を用いて説教を行うことになっています。説教の出来栄えは、確かに説教を準備する司祭の祈り・黙想・体験また表現力などの力量に負うところは大ですが、同時に「聞く耳のある人は聞きなさい」と民衆に注意を促しておられました（マタ13・9）。

説教の後、私たちは主日および祭日には立ち上がって、信仰宣言を行います。この信仰宣言は、「会衆が聖書朗読と説教を通して聞いた神のことばに共鳴し、応答し、感謝の典礼を行う前に、信仰の規範を思い起こすため」（『ミサ典礼書総則』43）のものです。「天地の創造主（→創世記）……永遠の祈り（→黙示録）を信じます」。信仰宣言（信条）の内容を見ると、旧約の冒頭の『創世記』から、新約の末尾の『黙示録』におよぶ聖書全体に呼応し、その見事な要約となっていることが分かります。またこの信条は、キリストの直弟子である使徒たちの時代から二千年もの間、教会の中で受け継がれてきた不変な「信仰の規範」です。私たちは信仰の源泉に立ち返る気持ちで信仰宣言を唱えたいと思います。そしてより多くの人々に、この信仰の喜びを伝える使命を帯びている者としての自覚を新たにしながら、私たちは引き続いて共同祈願を行います。こうして私たちは、聖パウロが『テモテへの手紙二』（2・1～4）で勧めているように、「願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のために」ささげて、すべての人のために、自分の命さえもささげられたキリストの祈り（救いのわざ）に心を合わせるのです。

福岡サン・スルピス大神学院
白浜　満　神父

司祭異動

四月一日付／古賀教会主任（徳島県徳島教会主任）ウイリアム・マヘル＝オブレート会▽フランシス・ハーン（古賀教会主任）＝同会、徳島県鳴門教会へ

自由席

佐賀地区信徒研修会に参加して

古賀重昭

受洗後三年を経過した今、キリスト信者としてさまざまな疑問を抱きつつ、聖書にその答を求めようとした毎日でしたが、一月二十六日の研修会でのお話の数々は、まず、疑問の大半を氷解してくれました。

中でも最大の疑問であったのは、「教会」という言葉を定義づけようとしていた点でした。それはカンボジアにおける教会活動のお話の中にありました。

私には最初から聖堂があり、神父様がおられ、多数の親しい信者たちがいらっしゃいます。そのような、いわばぬるま湯の中にどっぷりと浸っているだけでは、何のための教会なのか分かるはずはなかったのです。あるいは、洗礼志願者の勉強の中で、マルコ神父様はお話しくださったのかも知れませんが、なにぶん要理を理解しようとすることに夢中で、肝心な所に心が到らなかったのだと思いました。私の教師という職業柄だと思いますが、言葉によって理解することができないことには、あまり力を入れて理解の努力を払わないという癖があります。人の話を聞くことよりも、書物のほうに重点を置くという習慣も災いして、聖書と要理の本にばかり頼っていたのでした。

今回の研修会では、私のこのような欠点を十分思い知らされ、信者としていっそう神の道に近づけるよう努力しなければならないという決意のようなものを感じさせられました。

深堀先生と熊本の信者の方々が、より深い信仰の在り方を示してくださったことに、深く感謝申し上げたいと思います。

（鳥栖教会）

祈りたい時　祈るために
疲れた時　休むために
ひとりになるために
※皆様のご利用をお待ちしています〈問合せ申込みはお電話で〉
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

感激と恵みの一日

26聖人殉教祭に参加

二月五日水曜日、ちょうど四百年前のこの日、長崎の西坂に於いて二十六人の聖者が十字架につけられて殉教した。

この日を記念すべく、長崎では殉教四百年祭が準備され、長崎市油木町にある長崎県立総合体育館で行われた記念荘厳ミサに福岡からも百六十人が参加した。教区広報部が企画した巡礼団約百人と古賀教会の約六十人である。場所の都合により、入場者数が制限され、長崎教区の各小教区でもごく少数の参加人員が割り当てられただけである。

車中で聖歌の練習をする巡礼参加者

巡礼団のバスは二台。カテドラル大名町教会前を八時十分に出発。時間に間に合わなかった二人の参加者とバス出発後三分経って天神交差点でバッタリ出くわす。二十六聖人の引合わせと感謝。途中、三箇所でバスを留め、残りの参加者が乗車。長崎までの車中では、名古屋の音響映像社から最近出された二十六聖人のビデオを観賞。数名の参加者が自主的に巡礼のためにパンフレットを作成していたが、それに掲載されている「二十六聖殉教者賛歌」や「ルドビコさま」など、式典のための歌の練習もした。ロザリオの各玄義は、二十六聖人の長崎への道を黙想。大村湾を望む所では、車中からではあったが、景色を見ながら聖人たちの歩みを追想した。

予定された時間より、早め早めに行程が進み、正午まえに昼食。後の状況がよくわからなかったため、昼食後に記念撮影（＝写真）。食堂では大分教区の巡礼団とも一緒になった。会場には一時までに入場を完了していなければならなかったが、できるだけ早く到着した方がよい、という先発隊からの連絡があり、余裕をもって会場到着。

県立体育館は一九八一年にヨハネ・パウロ二世教皇が来日された際に荘厳ミサの会場になった松山競技場の近く。あの猛吹雪の悪天候をなつかしく思い出した参加者もいたにちがいない。会場に近づくにつれて、交差点などでの案内係の人々が目立ってきた。一箇所に六千人あまりが集合するのに、たいした混雑もなく、準備の周到さが随所にみられた。

駐車場では古賀教会の巡礼団とも一緒になり、のどかな雰囲気の中、「カトリック福岡司教区」の幟を先頭に会場に向かう。この幟は、一月十九日に福岡市内で行われた二十六聖人殉教記念の十字架巡礼の際使用されたもの。

会場では祭壇の左側の席が与えられ、歌の練習など、二時から始まる荘厳ミサの準備が行われた。写真撮影は開祭三十分前までは許可されたが、それ以降はミサの雰囲気を損なわないために禁止された。

殉教記念の荘厳ミサは文字どおり「荘厳」なミサで、参列者に感動を与えた。会場の設置、典礼の進行、各役割分担など、綿密な計画と準備が周到になされ、そのことが、ミサに本来の意義深さと神聖な雰囲気を与えていたことは否めない。

すべての司祭が共同司式をしたのではなく、幾人かの司祭が式の最初から最後まで会場スタッフとしての役割に徹していたことも、式がスムースに流れた理由の一つであろう。ビデオ、カメラなども各所に配置されていたが、それぞれの撮影の時やアングルなども事前にシナリオが作成され、十分にリハーサルがなされたという。会場正面に設置された大型スクリーンは参列者全員に式の詳細な部分を伝えるに十分なものであった。

幟を先頭に会場に向かう教区巡礼団

典礼の役割分担については、中・高生、青年が登用されており、これからの教会の将来を担っていく若者に希望の光が射していた。また、共同祈願などには外国人の方にも役割が与えられ、日本の教会のみの祝いでなく、世界の教会の殉教祭という色合いが濃く出ていた。

荘厳ミサは午後四時四十分に派遣の祝福をもって終了。予定時間を十分超過したにとどまった。六千人の人が一同に会したミサにもかかわらず、静寂の中で進められた祈りの祭典は参列者一人ひとりの心の奥底に殉教者の血潮を沸き立たせ、福音宣教の熱意を燃やすものであった。会場を去る人々の表情は殉教四百年の節目に生きる幸わせと感激をかもしだしていた。

教区巡礼団は予定出発時刻を過ぎて帰路についたものの、最終的には予定時間前に福岡に到着。感激と恵みの一日を神に感謝しつつ、殉教祭の一日を終えた。

紀元二千年の大聖年を準備するこの時期、日本の教会は、二十六聖人殉教を記念するにとどまらず、さらには一九九九年には聖フランシスコ・ザビエルの来日四百五十年も記念する。この恵みの時期を回心と救いの神秘を黙想する時期とし、福音宣教の新たなきっかけとなることが望まれている。

（教区報編集部）

十一月には オペラ「26人の殉教」公演

創作オペラ「二十六人の殉教」が今年の十一月二十九日と三十日に長崎市公会堂で初演される。このオペラは日本二十六聖人殉教四百年祭の一連の企画行事。脚本は作家の田中澄江さん。制作企画は野下千年神父（長崎教区司祭、日本カトリック研修センター所長）。作曲は典礼聖歌の作曲者で知られている新垣壬敏さんが行う。オーケストラは九州交響楽団。

「二十六人の殉教」長崎公演実行委員会事務局は長崎大司教館内の殉教四百年祭実行委員会に置かれる。（☎０９５８・４２・４０２６）

佐賀地区信徒協研修会

教会は信徒の交わり

一月二十六日、佐賀教会にて「信徒使徒職」をテーマに一日研修会が行われた。佐賀地区においては、近年の司祭の高齢化、召命の減少が深刻化し、同時に、信徒の役割りや共同体についても問い直すことが急務とされ、昨年二月頃から本研修会の企画が計画され、実行に至った。研修内容は、信徒使徒職についての講義と聖体奉仕者の体験談、そしてミサの三部からなり、県内から信徒約百人が参加した。

第一部では、「信徒使徒職とは何か」という題で、福岡サン・スルピス大神学院教授深堀純氏の講義が行われた。安田久雄大阪教区長のメッセージ「共同体づくりに励むカンボジア教会」をテキストにして、教会が信徒の交わりであるということ、洗礼を受けた意味をもう一度考え直すことによって、信徒の本来の使命を再認識することを学んだ。具体的な実行内容として①典礼をよく準備して行うこと②信仰を伝えること③周りの人たちを助けること、などが示された。

また、キリスト者として聖書を学ぶことが特に力説され、小さなグループ（例えば、近所同志や家族など）で聖書に親しんでいくことなども必要とされ、グループを形成していくなかでリーダー（アニメーター・助言する人）の養成についても教えられた。

第二部では、熊本地区で聖体奉仕に従事している南條登志子さん（帯山教会）、寺本みさ子さん（武蔵ヶ丘教会）、高柳博文さん（島崎教会）を招いて、体験談を語っていただき、その後、質問のコーナーを設けた。佐賀地区では信徒の聖体奉仕者が不在のためか、質問内容には多種多様。しかし今回の研修会で、聖体奉仕者への理解を通して信徒の役割りを再確認した。最後に日本語と英語の賛歌の流れる二カ国語のミサが行われ、研修会は実りあるものとして終了した。

（取材協力・吉武勉）

福音の光修道会

湯布院 祈りの家 オープン

福音の光修道会では、湯布院で新しい福音宣教を掘り起こすため、七年前に建築した祈りの家を四月より一般に公開することになった。

同会が最初に創立されたのは別府であって、東京より八名の女性が訪れ、結核療養所を開設したのが始まり、大分教区への里帰りができたことを喜んでいる。

また四百年前には一五〇〇人の信者が存在したという歴史をもつキリシタンの町湯布院に神が招かれたことを感謝している。

住所 〒879－51大分郡湯布院町大字川上4511－11庄屋の里（通称「庄屋の里祈りの家」）

湯布院駅より車で5分。サファリ方面に進み、ハーブワールドの反対側の別荘地に入り、左側の日本家屋。☎０９７７・８４・４７２６（不在の場合は０９２・５８１・１６６３福岡修道院）収容人員、八日間の黙想は7名。その他の場合は15名。

助祭叙階式・3月20日

新田原教会にて

新田原教会（竹森勇主任）で三月二十日午後一時から大分教区長平山高明司教により助祭叙階式が行われる。受階者は当教会出身で大分教区所属の上田徹神学生。

上田神学生は一九六九年六月二十二日生まれ。長崎カトリック神学院に入学。南山中学、同高校を経て、現在福岡サン・スルピス大神学院にて司祭職を目指して準備中。同神学生は昨年、教会奉仕者に選任されている。

カテケージス・説教のための資料集

長崎大司教区の二十六聖人殉教四〇〇年祭・実行委員会信仰教育部では、カテケジス・説教のために参考になるような資料の整理を続けており、この一月、二十六聖人をはじめ、迫害、殉教についての史料および資料をまとめた小冊子を発行した。

「長崎への道」と題された第一部では、「殉教者」についての第二バチカン公会議公文書や聖書の教え、ヨハネ・パウロ二世が来日した時の殉教者記念ミサでの説教やさまざまな著者による殉教に関する記事、二十六聖人の殉教の時の様子や聖人の言葉が引用された著作などが集められている。とりわけ結城了悟神父の記事が多く掲載されている。

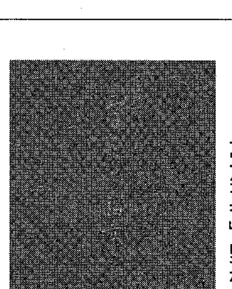
第二部は二十六聖人関係の資料が収録されている。年表、地図、二十六聖人・十六聖人の名簿、さらに書籍、新聞、雑誌などの関連記事がリストアップされている。巻末には、この度新たに作られた「二十六聖殉教者賛歌」を含む殉教者賛歌が収められている。

同実行委員会信仰教育部では、この資料集のテーマにとらわれることなく、組み換え再編して幾通りにでも利用してもらえれば幸いと言っている。

資料集「長崎への道」についての問合せは、長崎市橋口町1・1 26聖人殉教四〇〇年祭実行委員会事務局 ☎FAX０９５８・４２・４０２６まで。

BOOK 読みま専科

★毛筆のマタイによる福音書
フランシスコ会聖書研究所訳
「写筆者」野村 明子



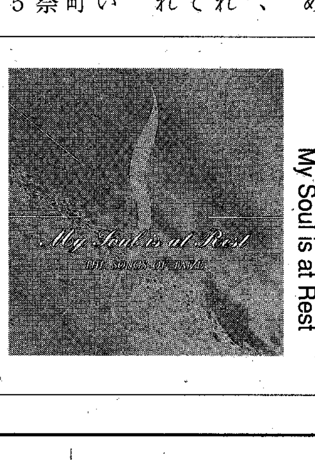
本文はもちろん、頁や章節のアラビア数字にいたるまですべて、聖母訪問会のシスター、野村明子さんの美しい楷書体で、整然と書かれている。写経を見ているようである。

一頁は二十五字詰めで十行という構成。字は八ミリ角だが見た目にはもっと大きく感じられる。漢字（所々にルビつき）とかなは大きさが異なるが、そのバランスがすばらしく読みやすい。視力の弱い人には待望の書。ちなみにシスター野村は昭和六十年に「ルカによる聖福音書」を写筆している（非売品）。

B5判上製 二六六頁
サンパウロ刊 一五〇〇円

◇ ◇ ◇

★〈新作CD〉
魂の憩い
My Soul is at Rest



イギリスのグループが歌うテゼの曲。魂に語りかけ、魂にしみこんで心をいやしてくれる曲。マルチメディア時代と言われる中で、すこしずつ感じるのは人間を大切にしようという動き、一人ひとりが心の安らぎを求めている今日ではないでしょうか。その中でこの曲を聴いて静寂とやすらぎを味わい黙想できる曲。四旬節に復活節に最適。○主を待ちなさい○キリストは復活された○魂の憩い○善きことそれは信頼 など他十二曲。

女子パウロ会 二〇〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家　3月

◇1日（土）カトリック若松教会土曜学校
◇1日（土）～2日（日）**御受難会召命黙想会**
◇3日（月）～5日（水）御受難会共同体の集い
◇6日（木）～9日（日）新求道共同体の集い
◇7日（金）～9日（日）四旬節の黙想会
Fr.マテオ《申込受付中》
◇14日（金）～16日（日）四旬節の黙想会
Fr.ガブリエル《申込受付中》
◇18日（火）人生講座（10時～12時）『こどもの心見えていますか？－子育てに悩む全ての親のために』講師：船木英示先生
◇18日（火）～20日（木）泰星学園黙想会
◇21日（金）～23日（日）四旬節の黙想会
Fr.畠《申込受付中》
◇26日（水）ミカエル会
◇27日（木）～30日（日）聖なる3日間の黙想と主の復活《申込受付中》
◇31日（月）～4/4（金）オブレート会黙想
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 0940・32・3385

生命山カトリック別院

■祈りの集い　1月から12月まで、ミサのテーマで10回連続で集いが開かれています。続けて参加されることをお勧めします。受付：9時30分／会費：1500円（昼食代含む）／指導：Fr.フランコ／申込：集いの日の5日前まで
③3月13日（木）「慈しみの秘跡。一致のしるし、愛の絆（聖アウグスチヌス）」
④4月17日（木）「過越の神秘」
⑤5月15日（木）「神の小羊の神秘」
⑥6月12日（木）「ミサを捧げる」
⑦9月11日（木）「キリストと教会の奉献」
⑧10月9日（木）「感謝の祭儀」
■個人、またはグループで、黙想等をなさりたい方はいつでもお申し込みください。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968－85－3100

会合と催し

教区年間テーマ：キリストとの真の出会いを求めて

3月　聖ヨセフの月

2日（日）四旬節第3主日
＋R.ミケレ［鹿島教会1988］
＋J.オブライエン［手取教会1990］
6日（木）＋H.ジョリ［久留米教会1966］
8日（土）聖ヨハネ・ア・デオ
9日（日）四旬節第4主日
浄水通教会堅信式
12日（水）＋F.M.ヴェイヨン［唐津教会1973］
16日（日）四旬節第5主日
＋L.M.ベリボ［箱崎教会1977］
19日（水）聖ヨセフ／**松永司教霊名の祝日**
＋J.ベラス［水俣教会1990］
＋M.ボア［新田原教会1959］
20日（木）春分の日
助祭叙階式（新田原教会）
23日（日）受難の主日（枝の主日）
世界青年の日
26日（水）＋J.ドイル［荒尾教会1962］
27日（木）聖木曜日（主の晩さん）
聖香油ミサ（カテドラル）
28日（金）聖金曜日（主の受難）
大斎・小斎・《聖地献金》
29日（土）**聖土曜日（復活徹夜祭）**
司教ミサ（カテドラル19時）
30日（日）**復活の主日**
司教ミサ（カテドラル10時）

4月

5日（土）＋F.ブレンゲ［佐賀教会1946］
6日（日）復活節第2主日
花岡山殉教祭　■
7日（月）神のお告げ
＋C.シュミッツ［黙想の家院長1988］
12日（土）＋パウロ大野正恒［泰星学園校長1985］
13日（日）復活節第3主日
福岡教区司教座教会献堂記念日（**特別献金**）
15日（火）＋J.ドレル［直方教会1984］
熊本結婚準備セミナー①（～5月20日）■
20日（日）復活節第4主日
召命祈願日
老司教会堅信式
22日（火）**臨時司祭評議会**
24日（木）福岡結婚準備セミナー①（～5月24日）■
25日（金）聖マルコ福音記者
＋A.レウトル［新田原教会1944］
27日（日）復活節第5主日
行橋教会堅信式
29日（火）シエナの聖カタリナ
みどりの日

■印は本面に詳細説明あり

■ロザリオへのおさそい　［日時］毎水曜日11時30分～［場所・問合先］美野島司牧センター☎092・431・1419
■韓国語によるミサ　［日時］毎月第1、第3日曜日10時30分、3月は多少変更あり［場所］聖パウロ修道会福岡修道院［問合先］尹汝沃神父☎0942・33・6274（司祭館）FAX 34・3115（聖マリア病院）
■青年の祈りの集い　［日時］毎月第2、第4日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会信者会館［指導］伊東成晃神父［参加費］無料［申込・問合先］佐賀教会☎0952・23・4754
■第4回聖書を読む会―キリストの譬え話を読む　開催中　［日時］3月6日午前の部10時～11時30分／午後の部19時30分～21時［テーマ］⑦自分が損して他人を助ける（最終回）［場所］佐賀教会［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父［参加費］無料［申込・問合先］佐賀教会☎0952・23・4754
■よみうりFBS文化センター特別講座―　開催中「生かされて生きる」［日時］97年3月22日まで（月2回）土曜日14時～15時30分［場所］西部ガス「パピヨン24」（福岡市博多区千代）［講師・演題］▽池見酉次郎（九州大名誉教授）・生かされて生きる～癌に克つ生き方▽本多正昭（産業医科大名誉教授）・死の壁を超えるそよ風▽古川泰龍（超宗派シュバイツァー寺代表役員）・仏教とマザーテレサ▽藤江良郎（福岡亀山栄光病院理事長）・安楽死から見た医療と宗教▽田中正敏（久留米大医学部教授）・脳を学ぶ▽佐藤信義（産業医大医療技術短大名誉教授）・カウンセリングマインド～生かされて生きるいのちを支えるこころ他［申込・問合先］よみうりFBS文化センター☎FAX 093・541・6556
■講話と祈りの集い―幼いイエスの聖テレジア逝去一〇〇年記念、準備―　テレジア帰天一〇〇年を迎えるに当たって、テレジアとともに教会のこと、宣教のことなどを祈り、学ぶ小さな集いを計画しております。皆様のご参加をお待ちしております。［日時］⑥3月9日（日）13時～［講話］［講師］J・バイヨ神父（光丘教会主任・パリ外国宣教会）★4月19日（土）10時～誓願50周年（シスター鈴木）の感謝ミサ・松永久次郎司教司式／14時～奥村神父の聖書深読連続講話⑦4月20日（日）13時～テレーズ講話［講師］奥村一郎神父（カルメル会）⑧5月11日（日）13時～テレーズの召命―宣教［講師］山元眞神父（福岡カトリック神学院院長）［場所］福岡カルメル会修道院、テレサの家［問合先］同右☎FAX 092・807・7361
■カテキスタの集い　対象日時に諸行事が予定されているため、当分の間お休みします［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX 092・524・7373
■SE・CO～奉仕と分かち合い～ボランティア・グループ①ガレージセール［日時］3月22日（土）11時～［場所］聖心のウルスラ修道会裏、SE・COの部屋1階②平成9年度総会［日時］4月19日（土）10時30分～［講話］使命―命の使い方［講師］山元眞神父［参加費］一〇〇〇円（弁当代）午後、決算報告・行事提案等／自由参加です［申込・問合先］☎龍（092・581・6838）山下（574・3787）武田（522・4250）白壁（522・1879）シスター高取（512・0033）4月12日までに
■第53回熊本結婚準備セミナー開催中　［日時］4月15日（火）～5月20日（火）毎月曜・火曜日19時～21時20分・全8回［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX（カトリックファミリーセンター）092・552・5022
■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］3月30日（日）時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］①メモリアルサービス②死別体験者のグループの語り合い［問合先］大山美穂子☎FAX 092・713・8552／村尾嘉道☎607・6992
■第68回福岡結婚準備セミナー　［日時］4月24日（木）～5月24日（土）毎木曜・土曜日19時～21時20分・全8回［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022
町隼人30☎052・831・5037 FAX 831・5317

日本カトリック研修センター

①ASIPAセミナーⅡ　［日時］4月6日（日）16時～11日（金）13時30分［場所］日本カトリック研修センター［テーマ］大聖年に向かって・具体的な歩み［内容］「SCCで共に信仰を生きることに参加する」を展開する。小教区共同体の活性化に取り組むための「アウエアネス・プログラム」習得と、この段階におけるリーダーシップのあり方を検討する［対象］信徒、修道者、司祭［費用］4725 0円
②**神のたまもの・生命と性**［日時］4月11日（金）16時～13日（日）［テーマ］―人間存在の根源［内容］人間存在の根源である性と生命について真っ正面から取り組む。家庭・学校・病院・施設などにおいてそれをどのように捉え指導するか。［対象］信徒、修道者、司祭［費用］2100 0円［問合先］日本カトリック研修センター研究企画部〒466名古屋市昭和区広路

第36回　クルシリヨ開催

このたび福岡教区では、来る5月2日（金）から5日（月）まで下記の通り第36回クルシリヨを開催いたします。
ご存じのとおり、このクルシリヨは教会の要望に従い、使徒職に献身する信徒の養成をめざすもので、司教様も、生涯教育の一環としてクルシリヨの体験を強く望まれています。
この世の福音化をめざす今年のクルシリヨに、小教区、修道会からもたくさん参加くださいますよう、お願い申し上げます。
参加希望者は教会等にあります申込書を、下記事務局に4月25日までにお送りください。
＊なお　時間的に間に合わない恐れがある場合には、下記連絡先に電話で直接お申し込みください。

記

1.日　時　5月2日（金）19時～5日（月）16時
2.場　所　福岡黙想の家　☎0940-32-3222
3.参加費　12,000円
4.携行品　ロザリオ・着替・寝間着・洗面用具
（筆記具・その他ほとんど事務局で用意します）
5.問合先　福岡教区クルシリヨ事務局
大谷真造　☎092-661-0120

＊当日は18時をめどに受付終了。夕食は済ませて参加のこと。

編集後記

先月号第一面を見てドキッ！なんとトップの見出しにミス。それを見てガクッ。「→西新教会4…」の「…」には距離を表す「km」が入るはずだった。イヤな予感。さらに目を進めると、またあった！　これも一面。本文の三段目の小見出しの後に一行ズレて入ってシマッタ！　結局、順にズレてズレて最後の一行が隠れてシマッタ！　いかにもコンピューターらしいミスだが、それをみすみす気づかなかったのは人間のミス。スミませんでした。今後、気をつけます。すっかり春の気配。梅の花も満開。ウメー話しはないかナ？今回は崩れ過ぎ？すみません。

【日本26聖人殉教400年祭】
記念グッズ

★テレホンカード❶プレミアム（26人全員、マーク、全景）26000円❷セット売り（マーク、全景、夜景）3000円❸単品売り1000円★Tシャツ❶全景（サイズM／L）2500円❷マーク（サイズM／L）2500円★帽子（フリーサイズ）1500円★キーホルダー300円★紙芝居3000円★画集800円★カレンダー500円
＊Tシャツの生地はアメリカ製を使用。送料は実費。
【申込み】長崎市橋口町1-1／日本26聖人殉教400周年祭記念グッズ係／☎0958-42-4026（福岡では受け付けていません）

▶紙芝居の一場面（永井隆作）

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

伝えよう道・真理・いのちのイエスを

第31回世界広報の日　教皇メッセージ

キリストとコミュニケーション

5月4日に広報研修会

教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九九七年の「世界広報の日」のテーマを「伝えよう、道・真理・いのちのイエスを」と決め、カトリックジャーナリストの保護者であるサレジオの聖フランシスコの祝日である一月二十四日にメッセージを発表した。「世界広報の日」は聖霊降臨祭の前週の主日であるが、日本では復活節第六主日に決められており、今年は五月四日に当たる。当日は教区広報委員会主催の広報研修会がカテドラル大名町教会で開かれる。

教皇は紀元二〇〇〇年を間近に控え、また、今年が「キリストの年」であることに鑑み、「道、真理、いのちであるキリスト」に従って行く決意を新たにするよう求めている。情報手段がいままでになく急激に発達し、情報があふれている現代社会にあって、その中から真に必要、有益な情報を選択することが難しいこと、また、選択には責任が伴うことを指摘している。とりわけ、一方的に与えられる有害な情報から、子供や青少年の目や耳を守ることの責任を親に思い起こさせている。

さらに、メディアを福音宣教のために積極的に利用し、「道、真理、いのちであるキリスト」を伝えていくよう、励ましている。

「世界広報の日」は福音宣教の分野の中でもとくに、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、映画などの広報機関（社会的コミュニケーションの手段）を用いて行う宣教について、教会全体として考え、反省し、祈り、犠牲をささげ、献金する日である。

「全世界に行って、すべての造られたものに福音をのべ伝えなさい」（マルコ16・15）と聖書の言葉にあるように、福音宣教は、わたしたちの使命である。

この福音宣教は、社会的コミュニケーション手段を使ってなされることが多い。日本のようにマスメディア技術が進歩している国においては、社会や文化に及ぼす影響ははかり知れないものがある。「世界広報の日」にあたり、「広報」の重要さを再認識し、わたしたちが「広報」をとおして、どのようにかかわっており、また、これからどのようにかかわっていくことができるのか、を考えることは時宜にかなったことである。

◇　◇

教区広報委員会（委員長山元眞神父）は毎年、広報の日に研修会を開いている。今年は「世界広報の日」の五月四日午前十時三十分からカテドラル大名町教会一階講堂で講師にカトリック中央協議会広報部部長のシスター長谷川昌子（女子パウロ会）を招いて開かれる。講演はより多くの人が聞けるように、午後から予定されている（詳細は3面の広告参照）。

あの方は復活なさって、ここにはおられない
《マルコ福音書16：6》
墓での三人のマリア　油絵　フーベルト・ファン・アイク（1426年没）

今月のみことば

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。（一テサロニケ5・16～18）
マリア会　友永徳一　神父

時の話題

畠　基幸

大聖年に向けて、今年はキリストの年と定められた。「紀元二〇〇〇年を祝う新しい福音化」の一環である。「新しい福音化」とは、これまでの福音宣教がキリスト教国から非キリスト教的地域への移入ないしは移植という方法から、「神の国のあかし」を伴う福音的生き方による福音化のことである。これは信者であっても福音的な生き方への信仰と生活の刷新を呼びかけられるもので「再福音化」とも言われる。

さて、このような再福音化への信者の意識改革として、教皇様はエコロジー（環境生態学）的観点からの回心を呼びかけておられる。『真の開発とは』（一九八七年）では、エコロジー的危機といのちへの尊敬の欠如の関連を分析され、道徳的な危機は、人間の尊厳に対するこれまでになかったような攻撃で頂点に達していることを憂慮されている（『いのちの福音』一九九五年）。

創世記の創造物語のビジョンに帰れば、地球だけが恐らく神によって創造された宇宙の中で生き物の生息に適した唯一の惑星で、百億年以上もかかって現在のような生き物が住める地球になった。しかし、今世紀、なんと多くの種が絶滅し、人類の歴史上最大最悪の戦争や、大量の殺戮（さつりく）を経験し、公害汚染や環境破壊によって美しい地球そのものまで危機に瀕してしまったのだろうか。

地球の御受難

自然破壊の背後には、必ず醜い人間の自己中心的な欲望が渦巻いており、私たちは知らない間に共犯者に仕立て上げられる。確かに、私たちは自分たちだけの快適な世界を生みだす現代の偶像（科学技術文明と消費文化）の恩恵を受けた礼拝者の一人である。

エコロジーに関わることは、私たち自身のライフスタイル（生き方）を見直し、回心を促す。少々不便を感じても地球全体のこと、将来の子供たちのことを思いやる。また貧しい国の資源と将来への責任を分かち合う。これが「新しい福音化」の一つの霊的な回心の道である。

「地球の御受難」の時代、人類社会に神の現存を復活させるためには、苦しむ地球、自然と一つになって救いへの願いを新たにしなければならない行動の時である。

（御受難会司祭・福岡黙想の家）

大聖年特別委がメッセージ

キリストは道、真理、いのち

日本カトリック司教協議会の大聖年準備特別委員会（委員長・白柳誠一枢機卿）は大聖年の直前準備の第一年目に当たり、去る二月十二日、一九九七年のテーマ「聖霊の働きによって人となられた神のみことば、イエス・キリスト」についてのメッセージを発表した。同委員会では第二回目のメッセージを準備中で、六月ごろに発表の予定である（2面に全文掲載）。

今回のメッセージのタイトルは「道、真理、いのちであるキリスト」であるが、これはキリストの貧しさとかあわれみといった一側面をあらわすのではなく、イエス・キリストの全体像を示すものとして、特に注目に値する、といえよう。

内容は①イエス・キリストを知る―道であるキリスト、②キリストにならう―真理であるキリスト、③キリストに近づく―いのちであるキリスト、の三部からなり、それぞれ、道、真理、いのちであるキリストの姿を述べ、このキリストに対してわれわれがとるべき姿勢を示唆している。

信仰の教育者、青木保神父　帰天

二月二十八日午後四時四十八分、浄水通教会主任、司教総代理マルチノ青木保神父が、前立腺がんのため入院中の聖マリア病院（久留米市）で帰天した。享年七十四歳。通夜は三月一日午後七時、葬儀・告別式は三月三日午後二時、カテドラル大名町教会で、福岡教区長松永久次郎司教司式で行われた。通夜、葬儀をとおして本教区出身の平田司教、平山司教、深堀司教と教区司祭団の他、故人と親交深かった他教区の司祭らも多数参列して共同司式し、聖堂を満たした一般信徒たちと共に、荘厳な雰囲気のうちに故人との別れを惜しんだ。

青木保神父は一九二二年七月二十六日、ブラジルのサンパウロで生まれ、一九二七年に帰国して本籍地の三井郡大刀洗町で育った。一九三五年福岡小神学校に入学、福岡サン・スルピス大神学院に進み、途中二年間の兵役に服した後、一九五〇（昭和二十五）年十二月二十七日、大名町教会で戦後初の教区司祭として、脇田浅五郎司教より司祭に叙階された。

叙階後は福岡小神学校で校長補佐を務めたのち、二日市、久留米、小倉、大名町教会の主任・附属幼稚園園長を歴任、一九九二年から浄水通教会の主任司祭として司牧・宣教に励んでいた。その間、司祭評議会評議員、教区顧問などを務め、さらに一九九一年からは司教総代理の重職にあった。

一九九五年五月下旬、不調のため久留米の聖マリア病院に入院、八月に一旦退院したが昨年五月に再入院、療養中であった。帰天当日は容態急変の報により、かけつけた松永司教はじめ親戚や信者たちが祈りのうちに見守る中、司祭生活四十七年の生涯をとじた。

みちくさ

今年も多くの（?）求道者が洗礼に導かれたと思う。幾人かの、そして結構高い率で次のように語る求道者がいた▼教会に通いはじめた頃、聖体拝領になると淋しく感じた。教会に導いてくれた人が聖体拝領の時になると、「あなたはここで待ってて」と言って席を立つ。周りの人もみんな行列に加わって自分一人になる。ある教会では、ていねいに「信者でない方は掛けてお待ちください」と言ってくれるが、なんとなく取り残された感じがする。そのことを思うと教会に行くのがおっくうになる▼実際、それがいやでミサに参加しなくなった人もいる。初代教会では聖体祭儀の前半の言葉の祭儀が終わると求道者は外に出され、カテキズムが行われていたという。ミサは本質的には信者のためのものであるが、近年、未洗のミサ参加者が多くなってきたことを考えれば、彼らのために何らかの工夫がなされてもよいであろう▼聖体拝領の時に、初聖体前の子どもに司祭が按手して祝福を与える教会がある。さらに、大人の参加者（未洗者）に祝福を与えているところもある。これは結構喜ばれている。司祭の立場からすれば、信者と未洗者の区別がわかりにくく、未洗者にご聖体を渡してしまうこともあるという理由で祝福を控えることもある▼拝領前に「お掛けください」というよりも「信者でない方にも祝福が与えられます。祝福をお望みの方は、司祭の前で手をお合わせになり、頭を下げて祝福をお受けください」と案内してはどうだろうか。「時間がかかる」などは問題外。（Y）

大聖年準備特別委員会メッセージ

道・真理・いのちであるキリスト

はじめに

皆さん、すでにご存じのように、ヨハネ・パウロ二世教皇は紀元二〇〇〇年を「大聖年」とし、一九九七年から一九九九年までの三年間を特別な準備期間とすると宣言されました。第一年目の今年は、「聖霊の働きによって人となられた神のみことば、キリスト」（『紀元二〇〇〇の到来』40）がテーマです。このテーマにそって、大聖年準備特別委員会も幾つかの文書を用意することにいたしました。その初めとして、「道、真理、いのちであるキリスト」を見つめてみたいと思います。

1　イエス・キリストを知る道であるキリスト

最近、聖書研究が盛んになり、福音に親しむ人が増えてきたことは嬉しいことです。聖パウロは、「わたしの主、イエス・キリストを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失と見ています」（フィリピ3・8）と言っています。パウロがここで言っているのは、復活なさって、今わたしたちとともにおられるキリストのことです。主キリストは、今もわたしたちにご自分のいのちを注ぎ、励まし、支えてくださっています。わたしたちがナザレのイエスのことを学ぶのは、今もともにおられる主キリストを知るためなのです。

イエスは、「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻ってくる」（ヨハネ14・19）と約束されました。その通り、復活の後に、主キリストは戻ってこられました。わたしたちの主イエス・キリストは常にわたしたちとともにおられる神なのです。キリストは「道であり」、キリストを通らなければ、だれも父のもとに行くことはできません（ヨハネ14・6参照）。父のもとに行きたければ、どうしても「道であるキリスト」を知り、キリストにすがらなければならないのです。

日本二十六聖人殉教者は立派な信仰者でした。しかし、彼らにも、イエスに従うことは難しく、殉教は苦しい闘いでした。それにもかかわらず従ったのは、主キリストを信じたからでした。キリストはその彼らを喜ばれ、困難や苦しみを喜んで乗り越える力をお与えくださったのです。主の力が働くとき、人間はそこまで変えられるのです。「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう逃れる道をも備えていてくださいます」（一コリント10・13）。

わたしたちもイエスに従わなければなりません。実践することが重要なのです。人間は弱い者です。しかし、あきらめてはなりません。キリストとともに歩むとき、主がそれを乗り越えさせてくださることを信じましょう。「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、……あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか」（ヘブライ4・15～16）。

「わたしは道、真理、いのちである」

2　キリストにならう真理であるキリスト

最後の晩餐のとき、「主よ、わたしたちに御父をお示しください、そうすれば満足できます」（ヨハネ14・8）というフィリッポに、イエスは「フィリッポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのだ」（ヨハネ14・9）と言われました。キリストこそ父なる神を、そして父のお望みをわたしたちに正しく示してくださる方なのです。そして、「真理であるキリスト」が示してくださった第一のことは、神とわたしたちの新しい関係であり、新しい契約の時代に生きている者の姿なのです。

イエスが「新しいぶどう酒は新しい革袋に入れるものだ」（マタイ9・17）と言われたように、神とわたしたちの関係は旧約の時代とはすっかり変わり、全く新しい生き方が求められることになりました。神は『アッバ、父よ』と叫ぶ御子の霊をわたしたちの心に送って」（ガラテヤ4・6）、わたしたちをご自分の子供としてくださったのです。神の子供としていただいたのであれば、子供として生きなければなりません。「父の愛にお応えしよう、父に喜んでいただこう」という子供の心が必要になってきたのです。イエスのお姿を振り返ってみましょう。ご受難、ご死去を最初に予告されたとき、驚いたペトロはイエスをわきにお連れして、いさめました（マルコ8・31～参照）。善意からだったことは疑いありません。しかし、イエスのお返事は「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」（マルコ8・33）でした。厳しいおことばです。イエスの脳裏には、「父の望みに応えよう、父の愛にお応えしよう」、これしかないのです。ですから父のみ旨から引き離そうとするものは、すべて悪魔の誘惑と感じられたのです。

このイエスにならわなければなりません。子供として、父のみ旨を何よりも大切にしようとする姿勢が求められているのです。単に善いことだからとか、価値あるからというだけでは足りません。この基準だけでは、時々不条理とさえ思われる神のご意志に従うことはできないでしょう。また、「決められていることなので、従う」というファリサイ派や律法学者の考え方とも違います。子供として、父の望まれることは自分から進んで行おうとする姿勢が求められているのです。たとえ、できることは小さくても、子供として父に何倍も喜んでもらうことができる、キリスト教はそういう宗教なのです。

3　キリストに近づく いのちであるキリスト

言うまでもなく神のいのちにあずかるためには、「いのちであるキリスト」、ご聖体に近づかなければなりません。初代教会はご聖体を特別の宝、秘密の宝として大切にしていました。洗礼を受けていない人には、ミサに参加しても、奉献の頃から席を外してもらうのが規則であったと言います。もちろん、ご聖体を汚されることのないようにという用心のためだったのです。しかし、何よりも、神ご自身がこんなにも近くにいてくださることへの驚き、畏敬の念からではなかったでしょうか。現代の教会にもぜひ取り戻したい感覚です。

子供や初めて教会にくる人たちは、ご聖体についての最初の教えを、聖堂での司祭や信者の姿から学ぶといわれます。アドリミナ（五年毎に行われる司教のローマ聖座訪問）の後、司教たちの間で何度かこんな話がかわされました。「ミサを捧げるとき、パパ様の姿を思い出して、思わず姿勢を正してしまう」と。ミサを捧げる教皇様の姿は「ここにどなたがいらっしゃるか」ということを、ことばよりも雄弁に教えてくれるのです。わたしたち信仰者には、「信仰の神秘」を神秘として感じ取らせる責任があるのです。ご聖体の信心は、十一世紀から始まったと言われます。しかし、ご聖体における「キリストの現存」は初代教会からの確信でした。ですから、十一世紀以来、ご聖体に対する信心のないカトリック教会の聖人は一人もいないのです。もちろん、ご聖体はパンにしか見えません。しかしその中に、聖人たちは見えないお方をいつも見ようとしていたのです。これが信仰者の姿ではないでしょうか。神学的にどんなに正しい知識があっても不十分です。「ここに神がおられる」という現存の感覚を育てることから始めなければならないでしょう。

「二人また三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」（マタイ18・20）。このおことばはただ、「そのつもりでいなさい」ということでしょうか。「わたしの兄弟であるこの最も小さな者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことである」（マタイ25・40）。これも親切をさせるための方便でしょうか。秘跡の場合とは違っても、イエスが小さな人はわたしなのです」といわれたのです。信仰者には、神秘を現実のこととして受け取ろうとする姿勢が必要です。

おわりに

この度、今年のテーマ「キリスト」について、大切と思われる「道、真理、いのちであるキリスト」を浮き彫りにしてみました。皆さんの熱心な祈りと真剣な準備によって、恵み多い大聖年を迎えることができますように。

一九九七年二月十二日
灰の水曜日に

日本カトリック司教協議会
大聖年準備特別委員会

典礼

ミサのこころ⑫『記念』

共同祈願によって、ミサの前半の部分が終わると、いよいよ「感謝の典礼」へと移っていきます。この「感謝の典礼」は、最後の晩餐の席でキリストが制定され（十字架の死によって成し遂げ）、記念として行うように命じられたミサの中心部です。そのため「感謝の典礼」の主な要素は、キリストが最後の晩さんの席で行われた動作に基づいています。すなわちキリストは(1)パン（ぶどう酒）を取り（→奉納・供え物の準備）(2)感謝をささげ（→叙唱・奉献文）、(3)（割って）弟子に与え、そして弟子はそれを食べ（飲み）ました（→パンの分割・聖体拝領）。

このように「感謝の典礼」は(a)キリストが最後の晩餐で行われた食事という形式を取りながら(b)キリストの十字架上での死（いけにえ）とともに、その実りである復活をも記念（再現）する祭儀です。それで「感謝の典礼」は「過越のいけにえと会食」（『ミサ典礼書の総則』48）であると言われています。キリストのいけにえ（御からだと御血）が、それをいただく人々をも復活させて永遠の命へと過ぎ越させるからです。キリストが「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる」（ヨハネ6・54）と仰せになっているとおりです。

ところでキリストは、ご自分のからだと血をいけにえとし、食物とするために、パン、ぶどう酒を手に取られましたが、「信者がパンとぶどう酒を奉納し、司祭あるいは助祭が適当な場所で、それを受け取る」ようにすることが勧められています（『ミサ典礼書の総則』49）。また、代表する信徒がそれを司祭（助祭）に渡し終えるまで、他の信徒（会衆）は立ったままでいるという工夫がなされている教会もみられます。このような行為によってわたしたちは、唯一のささげものであるキリストのいけにえに合わせて、自分自身を奉献するよう招かれているものであることを思い起こすようにしたいと思います。ぶどう酒の中に注がれる一滴の水は、このことを思い起こさせてくれるものであり、また同時に、人間の命が神の命に飲み込まれる神秘を表しているシンボルであると言われています。」

福岡サン・スルピス大神学院
白浜　満　神父

司祭異動

四月六日付（一部既報）カテドラル大名町教会主任（戸畑教会主任・幼稚園園長）浦口均▼戸畑教会主任・幼稚園園長（二日市教会主任・幼稚園園長）堤敏雄▼二日市教会主任・幼稚園園長（大名町教会主任）山川辰幸▼馬渡島教会主任（大名町教会助任）伊東成晃▼老司教会主任（馬渡島教会主任）畠山七郎▼若松教会主任（帯山教会主任）山頭原太郎▼帯山教会主任（大江・崎津教会主任）V・ヤングキャンプ＝聖コロンバン会▼大江・崎津教会主任（長崎教区・浦上教会主任）川添猛▼直方教会主任・幼稚園園長（戸畑・直方教会助任・幼稚園副園長）中村信哉▼古賀教会主任（高松教区徳島教会主任）ウイリアム・マヘル＝オブレート会▼大名町教会助任（新司祭）田中重治▼高宮カトリック幼稚園園長（同副園長）中村彰▼フランシス・ハーン（古賀教会主任）＝オブレート会、徳島県鳴門教会へ▼G（ピーノ）・カッツァニーガ（老司教会主任）＝ミラノ外国宣教会、ミラノ外国宣教会本部へ▼休暇（大神学院長）高見三明▼大神学院長（海外研修）大山悟

日本の殉教者二十六名を世界に伝えた…ビリオン神父の偉業
幻の名著「切支丹鮮血遺書」…日本カトリックの原点復刊

日本二十六聖人殉教四百年祭を記念して、現代語訳の「切支丹鮮血遺書」（きりしたんちしほのかきおき）が出版された。松崎實著、入江浩による現代語訳。燦葉（さんよう）出版社。☎03・3241・0049
★内容に誤りがあります。二二七頁、終わりから二行目。「イグナシオ影山隼人」は「ジエゴ加賀山隼人」の誤り。

修道女のための８日間の黙想＜申込受付中＞
① 4/21(月)～30(木)／Frマテオ　② 5/20(火)～29(木)／Frマテオ
③ 7/4(金)～13(日)／Frマテオ　④12/27(土)～'98/1/5(月)／Fr来住
⑤12/27(土)～'98/1/5(月)／Fr畠　※電話でお問合せ下さい（9:30～17:00）
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

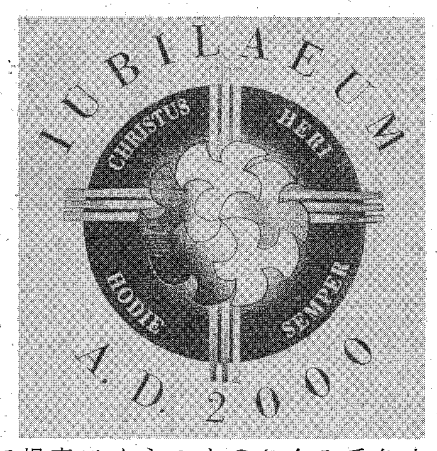
有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

大聖年のロゴマーク決まる

二〇〇〇年の大聖年の公的シンボルマーク（＝写真）が決定。このシンボルマークは、グラフィックアートの学生、（22歳）エマヌエラ・ロッキの作品です。教皇様も、とてもお気に入りの作品だそうだ。

シンボルマークは、青い円盤の上にギリシャ式十字架が描かれ、その中心に五つの鳩が施され、十字架の四隅に、キリストきのう　きょう　永遠に　と書かれている。円盤の上下には、大聖年　主の年　二〇〇〇年と記されている。



エチガライ枢機卿は、その意味を次のように説明している。①青い円盤は宇宙を意味し、②五つの鳩で表現されている五つの大陸の人類を十字架が支え、③十字架は鳩と同じ色、赤、緑、黄色、青、灰色で彩られ、それは、受肉の秘義、つまり、みことばが歴史の中に介入し、救いがもたらされたことを意味し、④中心から発する光は、すべての人を照らす真の光・キリスト（ヨハネ1・19参照）、⑤明るく調和のとれた色彩は、二〇〇〇年の大聖年が喜びと平和の時として祝われることを意味している。

あつまりませんか

女子青年黙想会

日時：5月11日（日）
　　10時集合
場所：コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会千防修道院
★松永司教様司式ミサ；終生誓願式に一緒に与りながら、《生き方をさがしてみませんか》
費用：1000円
主催：北九州地区女子修道会
申込み・問合先：Sr.塩路（北九州地区女子青年黙想会連絡係）☎093・621・5670

経験から学ぶ

一九九二年八月二十二日、叙階式が終わって後、スリランカのコロンボで二年間、病院のチャプレンの経験をしました。この経験は、オブレート会員として大変有意義な仕事であったと確信しました。というのは、一番助けを必要とする人に手をさしのべるこの奉仕職は、カウンセリング、いやし、なぐさめ、特別に聖体と病者の秘跡をさずけることにあるからです。

病院のチャプレンの仕事は、主に存在そのもののミニストリーです。この聖職をもう少し説明しますと、対話、考え、感情は言葉で話し、また沈黙の静けさの中で伝わります。

患者との付き合いでは、本当に直面している困ったことに出会い、できるだけなぐさめたいということがよく起こりました。意味のある深い対話の中に家庭、経済、信仰、道徳の問題がかかわっていました。ですから、チャプレンはいろいろな役割と関係があったと思います。お互いの話し合いが終わってから、私はその人の司牧的なケアをスタートできました。そのケアのためには、その病人が今、直面している病気以外に、その人の価値観、希望、失望を尊敬しなければなりませんでした。

その患者の苦しみをとり除くよりも、その人の一生の、もっと深い意味を探さなければなりません。ですから、ある程度まで、私の存在がこの苦しんでいる人に神の救いの愛を伝えることが実現できたと思います。このポイントが、病院の臭いや、人々の苦しみを見るのがいやでした。けれどもその場所になれてから、私はその仕事を愛しました。その経験は心を豊かにし、勇気づけ、興味深いものとなりました。この奉仕は一九九四年に終わりました。

日本に行くことになったその年の九月に、ジュード・ペリスプレ神父様と一緒に日本に来ました。翌月から名古屋YWCAで二年の語学の講座を受けました。そのうえ南山大学で、日本の歴史と社会についての勉強もあったので、大変忙しかったのですが、これも大変興味のあることでした。私の今までの経験は、日本のミッションのために役立つと思います。

私のチャプレンの仕事と他の医学の関係の人との違いであると思います。病院に入院している患者の立場から考えるとチャプレンの奉仕は大変価値があると思います。病人のために働くのは簡単なことではありません。最初、私は熱心にやりたかったのですが、

古賀教会　ブラッドリー・J・ロザイロ神父

第36回　クルシリヨ開催

このたび福岡教区では、来る5月2日（金）から5日（月）まで下記の通り第36回クルシリヨを開催いたします。

ご存じのとおり、このクルシリヨは教会の要望に従い、使徒職に献身する信徒の養成をめざすもので、司教様も、生涯教育の一環としてクルシリヨの体験を強く望まれています。

この世の福音化をめざす今年のクルシリヨに、小教区、修道会からもたくさん参加くださいますよう、お願い申し上げます。

参加希望者は教会等にありまず申込書を、下記事務局に4月25日までにお送りください。

＊なお　時間的に間に合わない恐れがある場合には、下記連絡先に電話で直接お申し込みください。

記

1.日　時　5月2日（金）19時～5日（月）16時
2.場　所　福岡黙想の家　☎0940-32-3222
3.参加費　12,000円
4.携行品　ロザリオ・着替・寝間着・洗面用具
　（筆記具・その他ほとんど事務局で用意します）
5.問合先　福岡教区クルシリヨ事務局
　大谷真造　☎092-661-0120

＊当日は18時をめどに受付終了。夕食は済ませて参加のこと。

世界広報の日5月4日

広報研修会

記

日時：5月4日（日）9時～ミサ
各小教区広報担当者の集い：10時30分
講演：13時～14時30分
講師：Sr.長谷川昌子（カトリック中央協議会広報部部長、女子パウロ会）
場所：カテドラル大名町教会1階講堂

・・・・・・・・・・・・・・

午後の部の講演会は「世界広報の日」の教皇メッセージについてのものです。広報担当者だけでなく、一般の方もぜひご参加ください。

自由席

「みちくさ」で回心　一読者

「教区報」の三月号の「みちくさ」を読みながら、久しぶりに声を出して笑ってしまった。思い当たる文章もあったし、似たようなことをしたおぼえもあった。「みちくさ」にもあったように、「我が師の恩・・」が「和菓子の恩」と聞こえても、少し変だと思いつつ確かめることもなく、そのままだとすれば、この歌のメッセージは伝わらないことになる。

最近、ワープロやパソコンを使うことが多くなったと思うが、打ち間違いというより変換違いと思われる間違いに気づくことも多くなった。例えば「習慣」が週間や週刊になっていたりする。ともかく、誤字や聞き違いを変だと思ってもあえて確かめもしないでいると、正確なメッセージは当然伝わらない。作者や作詞家の意図しなかった、または誤解されたメッセージで伝わってしまう。

神と私たちとの間にも同じような事がたくさんあるのではなかろうか。教会学校で絵を描かせたりお話をさせたりすると「道、見てるマリア・・」とか「世の罪を覗きたもう神の小羊」と思っている子供がいる。訂正されないまま成長する子もいるかもしれない。

四旬節に入ると「回心の時です」「回心とは神に立ち返ることです」と言われる。私たちは自分を回心させる作業をするためには、神の声に耳を傾け、自分の思いや態度を見直す必要がある。ところがこの神の声を聞き違えていたり、読み違えていたりするなら回心どころではない。

聖書の「種まきのたとえ」を読んで「わたしは、こんな乱暴な種まきはしない」とか「九十九匹を置きっぱなしにして、一匹を捜しに行くなんて・・」と言う人にときどき出会う。四旬節の黙想会で指導司祭が、「四旬節の第一主日の福音でキリストが荒野で四十日間の試練に遭われたところが読まれるのは何故だろう。」という語り出しで、この時期にキリストをもっとよく知るために、祈りと学びが必要です、「キリストは何故・・」とキリストに聴く心が今こそ必要ですと話された。普段、聞き違いや取り違いしているだろう「神の声」を確かめてみるのもこの四旬節なのかもしれない。「和菓子の恩」では、回心も改心もできない。やはり、「我が師の恩」に気づき、聴き入ってこそ自分を回心へ導く必要に目覚めることが出来るのではなかろうか。

四旬節の初日「灰の水曜日」の夜のミサに参加した。「悔い改めよ」で始まるみことばに四旬節のメッセージを深くする日だが、ミサを終えたばかりの子供が「0時になったら喰いあらためたい」と大声で言うのに「大斎・小斎の日だもんな」と誰かが言って皆が笑った。この子供は、きっとよい四旬節を過ごせるのではないだろうか。

ご会葬御礼

故青木保神父の教区葬に際しましてはご多忙中にもかかわらずご会葬賜り、温かいご芳志をいただき心よりお礼申し上げます。

勝手ながら香典返しとして福岡カトリック神学院に寄贈させていただきましたのでご諒承くださいますようにお願い申し上げます。

実は拝眉のうえお礼申し述べるはずのところ、略儀ながら紙面をもってお礼申し上げます。

一九九七年三月

福岡教区長　松永　久次郎

神学院基金への寄付の御礼

故青木保神父様の香典返しとして教区長松永久次郎司教様より多額の寄付を福岡カトリック神学院における司祭養成のためにいただき心よりお礼申し上げます。故人のご安息を心よりお祈り致します。

一九九七年三月

福岡カトリック神学院院長　山元　眞

BOOK 読みは専科

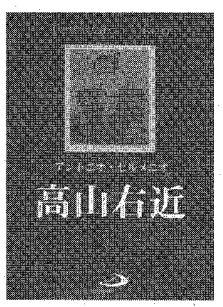
★キリストの復活
福音書は何を語るか
レイモンド・E・ブラウン著
佐久間　勤訳

四福音書が物語るイエスの復活は、それぞれに異なった強調点を備えているが、一つの福音書から他の福音書へと比べながら読んでいけば、非常に興味深い復活のイメージが浮かび上がってくる。物語のなかで人々の反応はさまざまである。だからイエスの復活は信仰を試す最後の試練である。福音書の物語は読者に一つの質問を投げかけている。「この出来事の場にいあわせたとしたらあなたはどんな態度を取りますか」と。本書はそのような黙想に助けとなる。

女子パウロ会　一四〇〇円

◇　◇　◇

★高山右近
アントニオ・セルメニオ著



くしくも聖フランシスコ・ザビエルが亡くなった一五五二年に生まれた高山右近は、戦国の世にキリストを受け入れ、国外追放令により地位も名誉もすてて信仰を守り抜いた聖将として名高い。

本書は一九八〇年発行のグロリア文庫に収められていたものであるが、日本二十六聖人殉教四〇〇年記念に当たり、揺るぎない信仰と勇気の人・高山右近の生涯を思い起こし、福者とあおぐ日が一日も早く実現されることを願いながら、体裁を変えて発行されたものである。

B6判　一六〇頁
サンパウロ　一二〇〇円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家　4月

◇3/31日（月）～4/4（金）オブレート会黙想
◇12日（土）～13日（日）Fr. 塩谷聖研グループ黙想
◇17日（木）聖公会・婦人会修養会
◇21日（月）～30日（水）修道女のための8日間の黙想／Fr. マテオ《申込受付中》
◇27日（日）～28日（月）プロテスタント・小倉教会修養会
［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 0940・32・3385

生命山カトリック別院

■祈りの集い　1月から12月まで、ミサのテーマで10回連続で集いが開かれています。続けて参加されることをお勧めします。受付：9時30分／会費：1500円（昼食代含む）／指導：Fr. フランコ／申込：集いの日の5日前まで
④4月17日（木）「過越の神秘」
⑤5月15日（木）「神の小羊の神秘」
⑥6月12日（木）「ミサを捧げる」
⑦9月11日（木）「キリストと教会の奉献」
⑧10月9日（木）「感謝の祭儀」
■個人、またはグループで、黙想等をなさりたい方はいつでもお申し込みください。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

花岡山殉教祭への御案内

■日時　1997年4月6日（日）午後2時
■行事　野外ミサ　司式：松永久次郎司教
■場所　加賀山マリア殉教碑前（花岡山）
＊雨天の際も予定通り挙行いたします。当日は、原則として自家用車での現地乗り入れはご遠慮下さい。尚、熊本市内からの交通手段については下記までお問い合わせ下さい。
★問合先：カトリック島崎教会　☎096-352-5610

会合と催し

教区年間テーマ：キリストとの真の出会いを求めて

4月

5日（土）＋F.ブレンゲ［佐賀教会1946］
6日（日）復活節第2主日
花岡山殉教祭　■
7日（月）神のお告げ
＋C.シュミッツ［黙想の家院長1988］
12日（土）＋パウロ大野正恒［泰星学園校長1985］
13日（日）復活節第3主日
福岡教区司教座教会献堂記念日（特別献金）
15日（火）＋J.ドレル［直方教会1984］
熊本結婚準備セミナー①（～5月20日）■
20日（日）復活節第4主日
召命祈願日
老司教会堅信式
22日（火）臨時司祭評議会
24日（木）福岡結婚準備セミナー①（～5月24日）■
25日（金）聖マルコ福音記者
＋A.レウトル［新田原教会1944］
27日（日）復活節第5主日
行橋教会堅信式
29日（火）シエナの聖カタリナ
みどりの日

■印は本面に詳細説明あり

5月　聖母月

2日（金）聖アタナシオ
第36回クルシリヨ（～5日）■
3日（土）聖フィリポ・聖ヤコブ使徒
憲法記念日
4日（日）復活節第6主日
国民の休日
広報の日《献金》
広報研修会（カテドラル 10:30）
5日（月）こどもの日
＋F．ルマリエ［八代教会1945］
9日（金）聖書講座［カテドラル19時］①　■
10日（土）＋F.チリ司教［初代福岡教区長1930］
11日（日）主の昇天
13日（火）福岡地区短期キリスト教講座①（～6月17日）■
14日（水）聖マチア使徒
15日（木）＋ヨハネ棚町正刀［茶山教会1968］
16日（金）聖書講座［カテドラル19時］②
18日（日）聖霊降臨の主日
合同堅信式［カテドラル14時］
23日（金）聖書講座［カテドラル19時］③
25日（日）三位一体の主日
26日（月）聖フィリポ・ネリ
30日（金）聖書講座［カテドラル19時］④
31日（土）聖母の訪問

■ロザリオへのおさそい　［日時］毎水曜日11時30分～［場所・問合先］美野島司牧センター☎092・431・1419
■韓国語によるミサ　［日時］毎月第1、第3日曜日10時30分［場所］聖パウロ修道会福岡修道院聖堂［問合先］尹汝沃神父☎0942・33・6274（司祭館）FAX 34・3115（聖マリア病院）
■青年の祈りの集い　［日時］毎月第2、第4日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会信者会館［指導］伊東成晃神父［参加費］自由献金［問合先］橋爪章一☎092・714・3477
■佐賀新聞文化セミナー　［日時］第2、4土曜日15時～16時30分［テーマ］聖書流人間関係12カ条［場所］佐賀玉屋教室［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父［受講料］三カ月6回で7200円（プリント料300円）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー玉屋教室☎0952・28・0371［日時・テーマ］①4月12日・「暗いと不平を言うよりも、すすんで、あかりをつけましょう」②26日・人との巡り合いを縁（神の計らい）と思い、感謝して、その巡り合いを大事にする③5月10日・自分自身の現実を喜んで受け入れる④24日・表情を改善するには、まず、心を改善する⑤6月14日・神や人に対する感謝の気持ちを現す⑥28日・心の喜びを現す（まず、どういうふうにして、いつも喜ぶことができるかということを考える）
★7月以降は次号に掲載
■カテキスタの集い　［予定日時］4月13日（日）／6月8日（日）／7月6日（日）いずれも13時30分～［場所］福岡カトリック神学院［問合先］同上☎0922・531・6821 FAX 0922・524・7373
■第53回熊本結婚準備セミナー開催中［日時］4月15日（火）～5月20日（火）毎月曜・火曜日19時～21時20分・全8回［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX（カトリックファミリーセンター）092・552・5022
■講話と祈りの集い―幼いイエスの聖テレジア逝去一〇〇年記念、準備―　テレジア帰天一〇〇年を迎えるに当たって、テレジアとともに教会のこと、宣教のことなどを祈り、学ぶ小さな集いを計画しております。皆様のご参加をお待ちしております。［日時］★4月19日（土）10時～誓願50周年（シスター鈴木）の感謝ミサ・松永久次郎司教司式／14時～奥村神父の聖書深読連続講話⑦4月20日（日）13時～テレーズ講話［講師］奥村一郎神父（カルメル会）⑧5月11日（日）13時～テレーズの召命―宣教［講師］山元眞神父（福岡カトリック神学院院長）［場所］福岡カルメル会修道院、テレサの家［問合先］同右☎FAX 092・807・7361
■SE・CO～奉仕と分かち合い～ボランティア・グループ平成9年度総会［日時］4月19日（土）10時30分～［講話］使命―命の使い方［講師］山元眞神父［参加費］1000円（弁当代）午後、決算報告・行事提案等／自由参加です［申込・問合先］☎龍（092・581・6838）山下（574・3787）武田（552・4250）白壁（552・1879）シスター高取（512・0033）4月12日までに
■第68回福岡結婚準備セミナー［日時］4月24日（木）～5月24日（土）毎木曜・土曜日19時～21時20分・全8回［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022
■第3回祈りの集い　［日時］4月26日（土）14時～15時［場所］マリアの宣教者フランシスコ福岡修道院聖堂［テーマ］キリストにとどまる［対象］どなたでも［申込・問合先］シスター中村☎092・565・5505
■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］4月27日（日）14時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］①総会とビデオ鑑賞「我が心の旅」A・デーケン教授②死別体験者グループの語り合い［会費］不要［問合先］事務局（大山美穂子☎FAX 092・713・8523／村尾嘉道☎607・6992）
■聖書講座―ガラテヤの信徒への手紙・前期［日時］5月9日から毎週金曜日19時～20時45分（7月11日まで）［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［受講料］前期5000円／1回毎800円［申込方法］教区本部事務局に氏名、電話番号、所属教会をお知らせください。当日申し込み可。［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139［内容・講師］①ガラテヤの信徒への手紙の著者、作製年代、場所、構成と教え・松永久次郎司教②序文、キリストの福音・同上③パウロが使徒として選ばれた次第・同上④パウロ、使徒から受け入れられる。パウロとペトロ・白浜満神父⑤律法によるか、信仰によるか・同上⑥律法と約束、奴隷ではなく神の子・青木悟神父⑦キリストが形づくられるまで・同上⑧キリスト者の自由・櫻井尚明神父⑨霊の実と肉の業・牧山強美神父⑩信仰に基づく助け合い、結び・同上
■聖霊の照らし、導き、愛を豊かに受ける祈りの集い　［日時］5月12日から毎週月曜日10時～12時（6月23日まで）［場所］カテドラル大名町教会［参加費］献金［主催］聖霊による刷新祈り会福岡［テーマ・講師］①神の愛・畠基幸神父②救いのみわざ・マテオ神父③新しい生命（いのち）・マルコ神父④神の賜物の受領・ドワイヤ神父⑤聖霊の満たし・マッケイ神父⑥聖霊のうちでの成長・青木悟神父⑦《ミサ》キリストの証人・松永久次郎司教他司祭一同［申込・問合先］司教館・ブラザー床島☎092・522・5139
■第4回短期キリスト教講座「生きるとは」あなたはお幸せですか／自分を大切にするとはどんなことでしょう／自分を愛するとはどんなことでしょう／温かい家庭とはどんなものでしょう／人は何のために生きているのでしょう／生きるとは、どんなことでしょう／この講座は、あなたをお待ちしています。友人、知人の方をお誘いください。昼の部はベビーシッターあり。［日時］5月13日～6月17日毎週火曜日（全6回）10時～11時45分・19時～20時45分［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［受講料］一講座500円（当日、受付にて）［主催］短期キリスト教講座福岡実行委員会［申込・問合先］各教会・カトリック福岡司教館（受付／平日10時～16時）☎092・522・5139 FAX 523・2122・5139（当日申し込み可）［日時・テーマ・講師］①5月13日・生きることの意味・松永久次郎司教②5月20日【午前】・心のかけ橋を築くために・高木義萌牧師【午後】法律事務所の窓から覗いた家族像・三浦啓作弁護士③5月27日【午前】法律事務所の窓から覗いた家族像・三浦啓作弁護士【午後】喜んで生きよう職場の輝く星として・皆川節夫氏④6月3日・生命にとって大切なこと・倉元涼子医師⑤6月10日【午前】殺人と人間の死・古川泰龍住職【午後】キリスト教と教育の原理・オチョア・サトルニーノ神父⑥6月17日【午前】子供は大人を創る為に生きている・三村邦明神父【午後】キリスト教と教育の原理・オチョア・サトルニーノ神父★申込書の日程が違っているものがあります。プログラムを参照の上、お申し込みください。
■第8回お母さんの集い　［日時］5月19日（月）10時30分～13時［場所］カトリック小倉教会聖堂［講師］中村倫明神父（長崎カトリック神学院）［内容］お話とミサ［参加費］500円［問合先］福吉三代子☎093・962・1395
■北九州教会学校リーダー研修会　［日時］6月2日（月）10時30分～15時［場所］カトリック小倉教会［テーマ］父なる神への歩み―やる気を育てる［内容］講話と実習［講師］岡俊朗神父［参加費］1000円と弁当代500円（希望者）［問合先］シスター館林☎093・871・1166 FAX 882・6872

日本カトリック研修センター

②神のたまもの・生命と性［日時］4月11日（金）16時～13日（日）［テーマ］―人間存在の根源―［内容］人間存在について真っ正面から取り組む。家庭・学校・病院・施設などにおいてそれをどのように捉え指導するか。［対象］信徒、修道者、司祭［費用］2100円［問合先］日本カトリック研修センター研究企画部〒466名古屋市昭和区広路町隼人30☎052・831・5037 FAX 831・5317

編集後記

主のご復活おめでとうございます。

一面にはファン・アイクの「空の墓」の絵を載せてみました。映りがあまりよくないかも知れません。今年の典礼暦はB年。マルコの年です。この絵は復活徹夜祭の福音、マルコ16・1～7の内容を思い起こさせます。「空の墓」を前にして、また、その話しを伝え聞いて、あなたはどのように思いますか？と福音書はわたしたちに問い掛けています。ともあれ、「主は復活されて今も生きておられる」というのが、わたしたちの信仰。編集も終わりました。アレルヤ。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJKI
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

召命祈願日

召命へ向けて 聖書に基づく信仰教育を

教皇ヨハネ・パウロ2世メッセージ

今年の世界召命祈願日（四月二十日）も、各小教区や共同体で司祭、修道者の召命のために祈りと献金が捧げられた。教皇ヨハネ・パウロ二世はメッセージを送り、世界中の司教・司祭・修道者とすべての信徒、とりわけ若者たちに、神の国のための奉仕に自分を与え尽くすように、と呼びかけた。

救いの歴史は召命の歴史

このメッセージを貫く思想は《より効果的な召命促進にかなう聖書に基づく信仰教育》を確立することである。その理由を《救いの歴史は召命の歴史》であり、「聖書の啓示は、神がご自分を民のために特別な使命を託された様々な人物の物語を伝えており、この啓示によってわたしたちは、神がどんな時代の男性にも女性にも呼びかけておられる、その招きの方法と性格をよりよく理解できる」と述べている。

さらに、聖書の中で「おん父のみことばであるキリストは、すべての男女が召命を理解し、人生の旅路を検証するための、また自分たちの使命を霊的に豊かに実らせるための模範」であり、したがって「聖書を読むとき、また聖書に基づいて信仰教育をするとき、聖霊に耳を傾け、聖霊に素直に従う姿勢が求められる」と強調している。

教皇は次に、以前にもまして緊急性を帯びている召命の問題は、個人的であると同時に教会、共同体の事柄であるとして、教会の各階層に個別に呼びかけている。

各層に訴える

《教会の牧者として、召命を活性化する第一の責任者である》司教団に対しては、「皆さんのエネルギーをすべて召命のための奉仕に使ってください……司祭職、奉献生活、宣教・観想生活への召命促進を、勇気をもって奨励してください」。

次に司祭・修道者に向かって《キリストへの徹底的な奉献を喜びをもって証しすること》を緊急なこととして呼びかけ、「あらゆる手段を使って、信徒たちが聖書に対する愛と理解を深めるよう力を尽くしてください。信仰教育に含まれる召命の側面について、絶えず配慮し……若者たちが神のみことばに耳を傾けることを大事にするよう尽力してください」と要請している。

各分野で働く信徒に対しては、「みことばに耳を傾けることは召命を開花させるすぐれた道である」と述べ、「聖書に親しむよう」勧めている。「召命のために必要な場を与え……召命の目的に向けて勘案された独創的な、聖書に基づく信仰教育と祈りを奨励してください」。そして黙想や練成会も大切にするよう求めている。

あなたたちが必要です

最後に教皇が特別に呼びかけるのは若者たちである。「キリストはご自分の救いの計画を実現するために、皆さんを、その若さと寛大な熱意を必要としておられます。この呼びかけにこたえて、キリストに、兄弟姉妹に、皆さんの生涯をささげてください……信頼して、皆さんの心をキリストに明け渡してください……いのちの書であり、なし遂げられた召命の書でもある聖書を尊重し、日々耳を傾けて、キリストの存在を皆さんのうちに確固たるものとしてください」。

・・・・・・・・・・・・・・

末尾に教皇自らの《召命のための祈り》が加えられているが、これは教皇の、神と全キリスト者への切実な叫びであり、訴えである。

召命は、老若男女を問わず、みんなの責任である、とよく言われる。しかし多くの場合、残念ながら《みんなの責任は誰の責任でもない》結果になりがちだ。一人ひとりが召命を他人事でなく、自分のこととして教皇のことばを受け入れ、祈り、実践することが求められている。

今月のみことば

一粒の麦は、地に落ちて死なければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。（ヨハネ12・24）

箱崎教会　T・リシャール神父

広報研修会

記

日時：5月4日（日）9時～ミサ（聖堂）
各小教区広報担当者の集い：10時30分
講演：13時～14時30分
講師：Sr. 長谷川昌子（カトリック中央協議会広報部部長、女子パウロ会）
場所：カテドラル大名町教会1階講堂

・・・・・・・・・・・・・・

午後の部の講演会は「世界広報の日」の教皇メッセージについてのものです。広報担当者だけでなく、一般の方もぜひご参加ください。

司祭数は確実に減少していく

現在、福岡教区司祭は38人。下の表は年代別にまとめたものである。カッコ内は小教区で司牧をしている司祭数。もっとも多い年代が60代で10人。60代以上は全体の半数を占めている。5年後には、もっとも多い年代は当然70代になる。60代以上は22人。50代までの司祭は16人？

現在、司祭を目指している神学生は一人の助祭を含めて14人。5年後は順調にいって4人の司祭が誕生する予定だが、はっきりはわからない。また、残念なことに、これまでの5年間で6人の教区司祭と2人の宣教・修道司祭が亡くなっている。帰国した司祭も3人いる。司祭の数は確実に減少していく。宣教・修道司祭についても同じことがいえる。新しく若い宣教司祭が来日することもあまり期待できない状況の中にあって、この数はひじょうに厳しいもの。しかも、現在の教区司祭がずっと健康であることが前提となっている。

これにともなって、複数の小教区主任や他の役務を兼任する司祭が増えており、一人当たりの負担が増加しているのも事実。六月十日から開かれる司祭研修会では、司祭の高齢化と召命促進の問題が取扱われる予定である。

年　代	司祭数（1997）	司祭数（2002）
20	1（1）	?
30	9（6）	4?
40	6（2）	9
50	3（3）	3
60	10（7）	6
70	7（6）	13
80	2（1）	3
計	38（27）	38?

教区合同堅信式

記

日時：5月18日（日）14時
聖霊降臨の主日
場所：福岡カテドラル大名町教会
司式：松永久次郎司教
対象：原則的に高校生以上
主旨：聖霊降臨を司教とともに教区で祝い、その中で堅信式を行う。
申込：申込書（各小教区にある堅信申込用紙）に記入の上、教区事務局まで
準備：各小教区で
集合：受堅者と代父母は、5月18日（日）13時に聖堂に集合
問合先：本部事務局　Fr. 青木
☎092-522-5139

司祭の卵・今年は2コ

教区と聖パウロ会

福岡教区には司祭の養成機関として、福岡サン・スルピス大神学院、福岡カトリック神学院、聖パウロ会小神学校があるが、今年の新入生はそれぞれ12人と一人づつ。

今年カトリック神学院を卒業した中村慶光君（鳥栖教会）は、上智大学の神学部で学ぶ。また、福岡サン・スルピス大神学院の哲学科を修了した松本麻人神学生（水俣教会）は教皇庁立ウルバノ大学で神学を学ぶためこの四月に渡伊した。現在、福岡サン・スルピス大神学院では藤渕邦大神学生（小倉教会）が宣教奉仕者として司祭職に向け準備を進めている。

今年は福岡カトリック神学院に江村哲君（新田原教会＝写真）が、聖パウロ小神学校には長岡洋介君（吉塚教会）が中学二年生として入学した。現在、神学院には九人、聖パウロ会には二人の神学生がいる。

キリストの聖体の祭日に

全国共通の典礼でミサ

「大聖年の準備のための祈り」も作成

大聖年準備特別委員会（白柳誠一委員長）は、紀元二〇〇〇年の大聖年をふさわしい心で迎える準備として六月一日のキリストの聖体の祭日に日本全国の教会で共通典礼文によるミサをささげることを決定した。

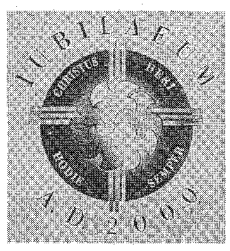
同委員会は四月十七日に「六月一日・キリストの聖体共通典礼文」とその「解説文」を各教区本部に送付。教区事務局から教区内の各小教区に送られる。これは二月に開かれた臨時司教総会で各司教の合意を得て作られたもの。

教皇ヨハネ・パウロ二世は大聖年を迎えるにあたって今年から毎年テーマを決めている。今年は「イエス・キリスト」。

また、同準備委員会は「大聖年準備のための祈り」を作成（本紙一面最下段に掲載）。唱えやすいように、小さなカードに印刷している。このカードは近日中に各小教区に配付される。小教区以外の共同体、または個人で必要な場合は、教区事務局から求めることができる。カードは無料。送料のみ負担。〒810福岡市中央区浄水通39、福岡教区本部事務局宛／☎092-522-5139、FAX523-2152。また、三年間を通して使用する祈りも作成中。

人事

【教区司教総代理】堤要吉（茶山）【教区顧問】堤要吉、M・ターディフ（佐賀）、H・オッカロール（手取）、平田寛（小倉）、山川辰幸（二日市）、岩永義人（本郷）、中浜一男（今村）、浦口均（大名町）、平田敬（西新）、松井忠之（教区会計）【司祭評議員】三村邦明（久留米）、山川辰幸、岩永義人、中浜一男、川上惣一（行橋）、森山信三（大牟田）、H・オッカロール、S・M・ライル（ファミリーセンター）、M・ターディフ、A・テンペリーニ（多久）、J・ガイヤール（水巻）、M・ラバルタ（天神町）、畠基幸（御受難会黙想の家）、T・シーベル（高宮）、浦口均、平田敬、平田寛、堤要吉、大山悟（福岡サン・スルピス大神学院）、山元眞（福岡カトリック神学院）、松井忠之、青木悟（事務局長）【常任委員】青木悟、松井忠之、岩永義人、中浜一男、山元眞【吉塚教会小教区管理者】松井忠之【戸畑教会付】牧山美好



大聖年準備のための祈り

◇歴史の主であるイエス・キリスト、／わたしたちの心を整え、紀元二〇〇〇年の大聖年を／信仰のうちに祝うことができるよう、／この年を恵みといつくしみの年にしてください。／あなたが聖霊によっておとめマリアのうちに宿られ、／わたしたちの兄弟となってくださった秘義を、／心新たに受け入れることができますように。▲キリストよ、あなたに栄光と賛美。

◇新しい人の初穂であり、完成であるイエス・キリスト、／わたしたちを回心へと導いてください。／過ちの道を捨て、あなたのいのちの道を歩むことができますように。／わたしたちが信仰を保ち、洗礼の約束を守り、みことばをあかしすることによって、／福音の光がわたしたちの家庭や社会のうちに輝きますように。▲キリストよ、あなたに栄光と賛美。

◇神の力、英知であるイエス・キリスト、／聖書に親しむ心をわたしたちに与え、／聖書に響く御父の声によって照らし、導いてください。／神のみことば、イエス・キリスト、／教会のうちに宣教への熱意を燃え立たせてください。／すべての人が、神と人との唯一の仲介者であるあなたを知ることができますように。▲キリストよ、あなたに栄光と賛美。

◇一致と平和の源であるイエス・キリスト、／あなたの教会の交わりを強め、教会一致のために働くわたしたちを支えてください。／聖霊の息吹によって、すべてのキリスト者が一つになりますように。／新しい愛のおきてを与えられたわたしたちが、／いのちを大切にし、世界を一つにする平和の担い手となることができますように。▲キリストよ、あなたに栄光と賛美。

◇恵みと真理のうちにすべての人々を照らす光、イエス・キリスト、／あなたを熱心に探し求める人々に、豊かないのちをお与えください。／時の始めであり、終わり、人類の救い主であるあなたと、／愛の交わりである聖霊と御父に、／すべての誉れと栄光が、今もいつも世々に。▲アーメン。（典礼委員会訳）

福岡教区教勢（1996.1.1～12.31）

＊司祭・修道者・神学生の数は含まれません

教勢記入留意点

教勢は以下の原則に基づいて作製される。

❶信徒の変動

(1)信徒総数＝12月31日現在で信者籍台帳に登録されている在籍信徒総数を記入。神学生、修道会会員（修練者、志願者含む）、在俗会会員を除く（ただし在俗会は、正式に認可を受けたもの）。なお、修道会、在俗会からは、独自に在籍人数が提出される。

(2)居所不明＝信者籍台帳に記載されている在籍信徒数の中で、12月31日現在で、過去一年間、通常の可能な方法（電話、郵便、問い合わせなど）で主任司祭が所在を確認できなかった信徒数。

❷秘跡

(1)洗礼＝臨終洗礼の欄は設けてない。臨終洗礼を受けた者は該当する年齢層の欄（幼児洗礼または成人洗礼の欄）に含めて記入。①幼児洗礼＝ここにいう幼児とは0歳から満7歳の誕生日までの子供（誕生日を含む）。②成人洗礼＝ここにいう成人とは満7歳の誕生日を過ぎた者（誕生日を含まない）を指す。③求道者＝12月31日現在、教理または聖書を定期的に勉強している満7歳の誕生日を過ぎた者で受洗の可能性のある者をいう。

(2)婚姻＝「他宗教」欄には、カトリック、プロテスタント以外の人（例えば、本人の意識とは関係なく、家の宗教が名目上仏教系、神道系、新宗教であっても信仰を自覚していない場合などを含む）を記入。

❸ミサ参加者＝該当ミサが数回行われる場合は、その合計数を記入。

この他にも諸原則があるが、主なもののみを挙げた。

地区名	小教区名	在籍信徒数 男	女	合計	転入 '94	'95	'96	転出 '94	'95	'96	洗礼 幼児	成人洗礼 '94	'95	'96	求道者 '94	'95	'96	不明	死亡	結婚 信者	混宗	異宗	他宗	ミサ参加者 主日	復活	降誕祭
福岡地区	糸島	140	153	293	19	13	23	2	6	8	8	1	1	1	3	3	3	24	0	0	0	0	0	100	130	150
	今村	456	526	982	8	6	5	15	8	9	13	7	6	4	2	2	2	0	12	0	0	12	0	750	900	950
	大楠	152	187	339	14	23	16	20	11	8	4	9	4	3	1	1	15	63	1	0	0	9	2	172	202	410
	大牟田	70	130	200	18	2	15	11	8	22	3	2	1	5	1	4	8	20	1	0	0	2	17	100	190	300
	小郡	164	220	384	4	3	27	12	7	10	1	0	0	0	3	1	2	40	0	0	0	3	0	100	200	250
	久留米	559	725	1,284	46	36	43	28	41	32	20	2	11	7	8	3	3	0	12	0	0	11	23	500	700	950
	古賀	375	478	853	51	38	38	27	25	28	4	5	2	5	6	0	7	0	6	0	0	0	4	242	540	485
福岡県総人口	笹丘	352	471	823	36	34	26	24	20	14	4	4	11	6	20	20	1	3	3	1	0	3	6	350	550	800
4,963.205人	浄水通	184	298	482	24	32	17	9	17	11	4	13	11	5	20	3	17	5	4	1	1	19	77	265	350	700
	大名町	641	917	1,558	85	58	72	86	105	67	6	22	24	20	38	29	18	104	2	0	0	28	40	500	800	3,000
県総信徒数	高宮	187	284	471	22	19	34	19	13	18	8	3	9	8	6	5	3	67	2	3	0	3	1	100	200	300
23,770人	茶山	264	299	563	23	7	17	14	12	8	0	1	1	2	7	4	1	0	4	0	0	3	0	259	314	338
比率 0.48%	西新	553	651	1,204	48	53	36	55	43	38	6	6	7	9	9	8	6	28	3	0	0	7	0	416	560	710
	箱崎	125	164	289	7	22	12	34	18	22	2	1	3	1	4	0	4	0	2	0	0	0	0	100	180	240
	光丘	605	655	1,260	44	68	45	35	48	31	6	9	5	8	10	12	8	11	5	2	0	6	1	370	450	550
	二日市	207	265	472	33	11	34	15	12	18	6	5	4	4	7	6	7	12	2	1	0	5	0	260	300	500
	本郷	335	351	686	6	11	10	6	4	4	3	1	1	2	4	4	3	14	3	0	0	3	0	370	550	600
	吉塚	302	400	702	24	30	13	9	18	14	2	1	5	9	7	8	3	0	1	0	0	4	0	250	400	500
	老司	263	323	586	23	26	13	65	23	14	9	3	5	8	6	8	3	12	2	2	0	2	3	120	300	350
	小計	5,934	7,497	13,431	535	492	496	486	439	376	109	95	111	107	162	121	114	403	65	10	1	120	174	5,324	7,816	12,083
北九州地区	飯塚	103	141	244	7	8	6	6	14	16	1	0	3	1	5	1	2	0	2	0	0	2	1	70	150	175
	黒崎	414	681	1,095	9	11	9	6	13	12	14	12	3	3	17	13	11	0	9	0	0	9	3	400	500	900
	小倉	958	1,340	2,298	32	135	34	63	79	348	10	13	9	10	12	14	15	287	13	1	0	15	0	500	700	1,000
	新田原	893	970	1,863	19	26	4	19	34	21	21	2	1	7	0	5	6	0	12	1	0	9	1	863	1,510	1,415
	田川	60	88	148	6	2	2	5	2	3	2	1	0	0	0	0	2	26	2	0	0	0	0	30	55	90
	天神町	143	200	343	9	42	11	4	4	13	5	0	1	4	1	2	2	0	3	1	0	1	0	88	160	190
	戸畑	336	431	767	13	9	8	3	22	9	6	0	0	8	2	5	7	0	10	0	0	3	4	200	300	580
	直方	79	84	163	0	10	7	2	2	6	4	2	0	1	0	1	2	17	2	0	0	1	0	40	100	120
	水巻	332	403	735	25	13	22	8	8	10	9	5	2	4	0	0	5	0	6	2	0	3	0	150	300	350
	門司	231	316	547	10	10	21	4	26	6	1	0	5	12	11	5	1	0	6	0	0	6	0	160	200	300
	湯川	561	651	1,212	15	45	14	18	17	16	13	10	3	6	4	5	2	6	7	2	0	4	3	350	500	600
	行橋	318	351	669	16	16	24	23	24	13	9	3	7	1	6	0	0	1	2	1	0	4	2	250	300	550
	若松	112	143	255	4	1	3	10	10	3	4	1	4	2	8	10	2	0	2	0	0	2	0	80	180	220
	小計	4,540	5,799	10,339	165	328	165	171	255	476	99	49	38	59	66	61	57	337	76	8	0	59	14	3,181	4,955	6,490
福岡県	合計	10,474	13,296	23,770	700	820	661	657	694	852	208	144	149	166	228	182	171	740	141	18	1	179	188	8,505	12,771	18,573
佐賀地区	伊万里	113	137	250	14	10	1	7	10	0	4	1	4	1	12	4	4	3	1	0	0	3	0	65	135	150
	鹿島	23	27	50	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	12	30	60
佐賀県総人口	唐津	202	261	463	18	14	13	7	10	4	11	9	11	1	0	0	0	0	1	1	0	3	4	120	150	250
885.351人	佐賀	261	405	666	16	19	31	42	20	30	3	25	21	18	2	18	7	19	22	0	0	6	15	150	400	500
	多久	54	60	114	0	1	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	25	35	75
県総信徒数	武雄	31	48	79	1	3	1	0	0	3	2	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	20	50	90
2,714人	鳥栖	149	223	372	12	10	19	3	9	5	7	8	5	3	9	6	10	1	2	0	0	4	1	110	250	280
比率 0.3%	馬渡島	185	158	343	1	2	0	10	6	8	8	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	180	325	350
	呼子	192	185	377	8	2	5	9	7	4	3	0	0	3	1	1	0	0	3	2	0	3	0	350	370	400
佐賀県	合計	1,210	1,504	2,714	71	62	71	78	63	57	39	46	42	27	26	30	22	23	32	5	0	21	23	1,032	1,745	2,155
熊本地区	荒尾	44	105	149	2	3	6	8	0	0	5	2	6	1	12	8	6	0	1	0	0	1	0	50	70	70
	大江	132	191	323	11	2	8	3	2	2	2	3	2	3	0	0	1	0	3	1	0	2	10	120	150	250
	帯山	118	168	286	0	9	13	0	17	6	1	0	3	1	0	0	6	0	3	1	0	2	1	80	150	150
	菊池	23	55	78	3	2	0	0	7	0	0	0	0	1	0	0	1	31	0	1	0	0	0	25	40	40
	健軍	191	262	453	18	12	10	17	19	11	3	5	8	3	8	4	0	0	5	0	0	3	0	158	200	250
熊本県総人口	崎津	102	134	236	2	6	0	7	9	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	60	140	160
1,863.989人	島崎	132	216	348	3	4	4	12	4	3	2	4	9	5	10	10	4	0	4	0	0	1	1	180	280	320
	玉名	48	75	123	0	0	0	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	60	80	230
県総信徒数	手取	365	667	1,032	39	49	32	39	56	42	2	47	37	22	27	23	23	256	29	1	0	21	24	370	550	650
4,015人	人吉	71	133	204	4	4	6	3	2	2	2	1	0	1	1	0	1	0	6	0	0	1	3	60	150	230
比率 0.2%	本渡	53	103	156	13	7	5	9	6	4	2	1	3	2	1	2	0	0	4	0	0	1	3	30	70	130
	水俣	40	62	102	2	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	30	47	88
	武蔵ケ丘	151	222	373	77	73	26	58	40	22	7	9	1	2	3	0	4	1	4	0	0	2	0	200	220	350
	八代	48	104	152	4	1	6	1	4	0	2	1	2	2	4	8	6	0	1	0	0	4	2	80	120	300
熊本県	合計	1,518	2,497	4,015	178	172	116	160	167	93	32	73	71	45	66	55	52	288	60	6	0	40	47	1,503	2,267	3,218
教区	総計	13,202	17,297	30,499	949	1,054	848	895	924	1,002	279	263	262	238	320	267	245	1,051	233	29	1	240	258	11,040	16,783	23,946

教勢を読む

求道者、成人洗礼者数が減少

今年も、教区本部事務局から昨年度（一九九六年一月一日～一二月三一日）の教勢が発表された。ほとんど全ての項目で「減少」が見られるが、そのおもなものを上げてみる。

①信徒総数は三〇、四九九人（一一〇人減）。②不明一、〇五一人（二一七人増）。③求道者二四五人（二二人減）。④成人洗礼二三八人（二四人減）。求道者の80％が受洗しているが、求道者の数が減っているので、当然受洗者の数も減っている。死亡者数は横ばいだが、不明者数が増加しているので信徒総数は減少。

「開かれた教会づくり」が叫ばれ、教会の第一義的な目的、使命である福音宣教の観点から見れば、この現状は大きな問題といえる。「司牧」と「宣教」が分けて考えられ、まず「司牧」、そして余裕があれば「宣教」という風潮が無きにしもあらず。としても、「不明者」が増加しているのはどういうわけか。「司牧」または教会内部の問題を優先するのであれば、「不明者」を発掘し、彼らの司牧を重点的に遂行していくことで教会の活性化が計れるのではないか。ともかく、司祭と信徒が一体となって状況の分析をし、その対応策を考え、実行していくことが求められている。

主日のミサ参加者も減少している。おそらく厳密に参加者を数えているところは少ないだろう。毎年、一年を振り返って見て、「感じ」で数の増減を決めていると思われる。

いずれにしても、教勢のデータを読み込んで、数の推移の原因を追及していくことが必要であろう。今後もデータをできるだけ正確に捉え、そのデータを教会委員会などでも利用し、小教区の活性化に役立てていただきたい、と本部事務局は望んでいる。

⑤この教勢には左記のデータは含まれていない。

【司祭】・・・・・・一〇一人
［教区］　三七人
［宣教／修道会］　六六人
【修道者】・・・・四八六人
【教区神学生】・・・一五人

（教区広報部）

修道女のための８日間の黙想＜申込受付中＞

② 5/20(火)～29(木)／Fr.マテオ　③ 7/4(金)～13(日)／Fr.マテオ

④12/27(土)～'98/1/5(月)／Fr.来住　⑤12/27(土)～'98/1/5(月)／Fr.畠

※電話でお問合せ下さい（9:30～17:00）

福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災

＊消防設備　設計・施工

＊電気工事　保守点検

〒810 福岡市中央区六本松3－11－33

代表取締役　ヨハネ　土本政実

☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち

草苑（SOU-EN）

ご葬儀

木下株式会社

TEL 092－526－5656

福岡市中央区平和3丁目1-5

花岡山

現代にも殉教精神を

四月六日午後二時より、熊本・花岡山殉教祭が、小笠原玄也とその妻加賀山マリアみや一家十五名の殉教者墓地広場にて、松永久次郎司教の司式で予定通り挙行された。今年は晴天に恵まれ、地元熊本および教区の各地から、司祭、修道者、信徒約四百名がここに集った。

式典は先ず、十五名の殉教者が眠る「聖域」へ行列が行われ、墓前にて子供たちの献花、ついで、司教による献香、散水式、この後、参列者一同、心を一つにして、十五名の殉教者たちの列福を求める祈りがとなえられた。

殉教ミサは松永司教と地元の各小教区の主任司祭ら六名の共同司式でささげられた。

式典は午後四時過ぎ、無事終了したが、司教は説教の中で、今の世も殉教者たちの時代であると強調して、殉教者たちの持つ現代的意義について次のように説かれた。

加賀山マリアみやの墓前で祈る

「今年は晴天に恵まれましたが、昨年は、ひどい雨でした。晴れの日も雨の日も、心を一つにして主を賛え、殉教者たちを慕い、尊ぶことは素晴らしいことです。

小笠原玄也とその妻加賀山マリアみや、そして子女九名と侍女四名の計十名、この先人たちが殉教されましたのは、三六一年前の出来事です。しかし私たちは、この殉教の史実を遠い昔の過去の事と考えてはなりません。ヨハネ・パウロ二世教皇様は『二〇〇〇年の到来』という使徒的書簡の中で、現代も殉教者の時代であり、その歴史を記録し、後世に伝える必要がある、と述べています。今世紀、血を流し、神に命をささげた殉教者がいます。

殉教記念ミサに参加して祈る信徒

ここで忘れてならないのは、平穏無事に見える日々の暮らしの中で命にかかわる重大な事柄を主にささげ、信仰を証しし、一生を終えた人も多くいるということです。これらの人たちも、生ける殉教者として二十世紀の殉教史の中に加える必要があります。今の世にあっても、神を信じ、その掟を実践することは並大抵のことではないのです。

ところで、小笠原玄也とその妻マリアみやは、九名の子女を育て、家族の殉教を遂げました。しかし、私たちと同じ弱さを持つ父親であり、母親であったはずです。この意味で今、この殉教者たちは私たちの良き理解者であり、神に取り次いでくださる方です。

現代も殉教者の時代と言いますが、それは殉教者の精神がもとめられているということです。今、福岡教区が直面している諸問題の一つ、召し出しについて考えます時、若い人にはそれぞれ人生の計画がおありでしょうが、ひとたび神からの召し出しの声を聞けば、すべてを措いてこれに従うべきです。ここに殉教者の精神が必要とされるのです。私は小笠原玄也御一家の御取り次ぎを願い、御父に、教区の召し出しの恵みを祈り求めるものです。…」

この殉教ミサの中で、今年から新たに、参列者全員による「宣言文の唱和」が加えられ、聖体拝領の後、これを行った。この意図するところは日々の暮らしの中で、殉教者を規範とした生き方を信徒一人ひとりが自覚をもって行うよう奨励するためのものである。

（取材協力　島崎教会　高木光行）

典礼　ミサのこころ⑬『聖変化』

イエスがカファルナウムの会堂で「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる」と仰せになった時、多くの弟子たちは「実にひどい話だ。誰がこんな話を聞いていられようか」と言って離れ去ったとヨハネ福音書（6・52〜66参照）に記されています。けれどもイエスは、どのようにしてご自分の肉を人々に食べさせ、またその血を飲ませるのかについて即答なさらず、ただ信じることだけを求めました。たとえイエスがすぐに説明したとしても、離れて行く弟子たちにとって、その説明は『愚の骨頂』としか映らなかったに違いありません。イエスは忍耐のうちに「時が来る」のを待ち、生涯全体を通してその言葉の真意が示されることを望まれました。イエスが語られた言葉の意味が、弟子たちに明らかになるのは、その生涯の頂点である〈最後の晩餐、それに続く受難・十字架上での死、そして復活〉（＝過越の神秘）が成し遂げられた後のことです。

ところで現代においても、パンがキリストの体に、そしてぶどう酒がキリストの血に変わること（＝聖変化）を信じることは容易ではありません。例えばパンとぶどう酒による会食を「象徴的な動作」と解釈して、聖変化を認めないような考え方は少なくありません。一方、聖変化を認める立場でも、いくつかの異なった見解がみられますが、特に次の二つが重要視されています。(a)一つは「聖霊の働き」を願いながら（＝エピクレーシス）、司祭が両手をパンとぶどう酒のそれぞれに向かって、十字のしるしを切る時。(b)もう一つは、司祭がパンとぶどう酒のそれぞれに向かって、最後の晩餐の席上でキリストが語られたことば（秘跡制定句）を唱える時に、聖変化が行われると考える意見です。けれども、どの瞬間に聖変化が行われるのかを正確に見極めるのは困難（神学の限界）であり、第二バチカン公会議の典礼神学では、これらの二つの見解を融合させた立場で、聖霊の働きを祈り始める時(a)から、キリストのことばを唱え終わる(b)までの間に聖変化が起こっており、司祭が「信仰の神秘」を唱える時には、確かに、〈パンとぶどう酒はキリストの御体と御血である〉と考えられています。どの瞬間なのか見極めがつかなくても、「おことば通りになりますように」というマリアの心で、全生涯を通して、その真実を証しされたキリストの「永遠の命の言葉」（ヨハネ6・68）を信じることが、わたしたちに求められているのではないでしょうか。

福岡サン・スルピス大神学院　白浜　満　神父

お詫びと訂正

本紙三月号二面の本欄『応えて祈る』二段目10行目以下に次の文が欠落していました。〈「聞く人の心構え」によって、大きく左右されることも否定できません。イエスさまも〉、また同欄二段目23行目の「…永遠の祈り」は「…永遠の命」の誤りでした。お詫びして訂正いたします（編集部）。

新田原　旧聖堂でお別れミサ

来る六月一日午後二時より新田原カトリック教会（行橋市東徳永）において、旧聖堂の信徒会館への立て替えにあたり、平田三郎司教司式による旧聖堂（テレジア館）の「お別れミサ」が行われる。

旧聖堂は昭和八年に建設され、昭和五十年の新聖堂完成後は信徒会館として各種の集会や通夜会場等に利用されていたが、老朽化が著しく、二十一世紀に向けた新しい時代にふさわしい宣教活動の拠点としての信徒会館の建設が望まれていた。

当教会では三年前から信徒会館建設の準備を進めており、この度教区長の認可により着工が決定したため、「お別れミサ」が計画された。往時をご存知の方々のご参加を特に期待している。

自由席　日本二十六聖人殉教四百年祭　長崎巡礼の旅

三月八日午前八時三十分、本郷教会岩永神父、教会委員長（棚町誠氏）外、五十名を乗せたバスは小郡インターより高速道、鳥栖分岐点通過、長崎道をすべるように二十分位走ったでしょうか。左前方に佐賀県大和町にある特養ロザリオの園を眼下に、長崎の殉教地西坂へ向かい、二十六聖人殉教地十時四十分到着。十時五十分より、岩永神父司式により殉教記念聖堂にてミサ。神父様は二十六聖人について、中でも十三歳のアントニオ少年に母親が途中で会い、悲しみのあまり我が子を抱きしめ泣く場面を語られた。少年は僕のために悲しまず喜んで下さい。神様が僕のこと、待っておられると言い、かえって母を慰めたと説教された。参列者一人ひとり心の中に殉教者の血潮を偲びつつ、いつにないミサの雰囲気に浸った。

ミサ後二十六聖人像広場で記念撮影。平和公園周辺のレストランで昼食。次の訪問地聖母の騎士修道院に十四時二十分到着。中村修道士の案内で聖堂にて聖者マキシミリアノ・コルベ神父様について話を聞く。聖書に「友のために生命を捧げる事は最高の愛である」とありますように、コルベ神父様は、アウシュビッツ強制収容所で若い妻子ある人の身代わりで死の牢獄に入れられた。食物一切与えず餓死を待った。コルベ神父様は最後まで残り、毒薬の注射で殺された。神父様の偉大な愛を語られた。コルベ神父様の記念館には、少年時代から強制収容所までの写真や遺物などが展示されてあった。それからコルベ神父様が作られたルルドへ向かいました。教会からまだまだ登らなければなりません。慣れない坂道はルルドまでがとても遠く感じ、たいへんでした。ルルドは大きな岩石で出来、洞窟に聖母像、その足元にベルナデッタの御像が置かれています。両脇にあるルルドの水を飲んで願い事をすれば願いが叶えられるとのことで各自、水を飲み、お祈りしました。

聖母の御保護を祈り、中村修道士に別れを告げ帰路に着いた。予定時間に到着。晴天にも恵まれ、信仰のお恵みを感謝しつつ、楽しい巡礼の旅を終えた。

（本郷教会信徒　平田正義）

クララ櫻井惺子氏

福岡サン・スルピス大神学院教授櫻井尚明神父の母堂。佐賀教会信徒櫻井太郎氏の妻。四月十二日午後二時前、佐賀市の福田病院で脳腫瘍のため帰天。享年六十二歳。四月十三日午後七時三十分から通夜、翌十四日午後十二時三十分から佐賀教会で葬儀および告別式が行われた。

イグナチオ平田清正氏

社会福祉法人慈愛会理事長。四月十三日、交通事故のため帰天。享年七十九歳。四月十四日通夜、翌十五日十時三十分に今村教会にて葬儀および告別式。二十七日に法人葬が清心慈愛園（三井郡大刀洗町）で行われた。福祉一筋に生き、家族も福祉事業にかかわっている。勲五等瑞宝章、厚生大臣表彰、県知事表彰などを受けた。

BOOK 読みま専科

★罪びとのチャンス
ヴィクトール・シオン著
福岡カルメル会訳

「霊的現実のために」というヴィクトール・シオンシリーズの三冊目の本。罪深い人間であるわたしたちのために神様がどのようなあわれみを注ぎ、どのように素晴らしい恵みを与えてくださるかが語られている。

「わたしはお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。」神はご自身で、わたしたちの罪の心を清めてくださいます。大切なのは、神のこの働きに自分を開くこと。

新しい心でつねに神に向かわせてくれる霊的読書。

女子パウロ会　税別一二〇〇円

黙想会

イエスの最初の弟子
マリアのように

聖母奉献修道会創立200周年記念

記

日時：6月14日（土）15時〜
　　　15日（日）16時
場所：御受難会福岡黙想の家
対象：18歳以上の未婚女性信徒
指導：畠基幸神父
費用：４０００円
申込先：〒810　福岡市中央区笹丘1-17-51
聖母奉献修道会　福岡修道院
☎０９２-７１３-３２７１
Sr. テレーズ・モロ

ジャパンスマイルか株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石　御影石　その他｝
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

会合と催し

教区年間テーマ：キリストとの真の出会いを求めて

5月　聖母月

1日（木）労働者聖ヨセフ
　福岡結婚準備セミナー③（～24日）■
2日（金）聖アタナシオ
　第36回クルシリヨ（～5日）
3日（土）聖フィリポ・聖ヤコブ使徒
　憲法記念日
4日（日）復活節第6主日／国民の休日
　世界広報の日《献金》
　広報研修会　■（1面参照）
5日（月）こどもの日
　＋F．ルマリエ［八代教会1945］
6日（火）熊本結婚準備セミナー⑥（～20日）■
9日（金）聖書講座［カテドラル19時～7月11日］①　■
10日（土）＋F.チリ司教［初代福岡教区長1930］
11日（日）主の昇天／母の日
13日（火）福岡地区短期キリスト教講座①（～6月17日）■
14日（水）聖マチア使徒
15日（木）佐賀「カトリック人生講座」①（～6月26日）■
　＋ヨハネ棚町正刀［茶山教会1968］
18日（日）聖霊降臨の主日
　合同堅信式［カテドラル14時］
21日（水）司祭候補者認可式［大神学院］
25日（日）三位一体の主日
　那覇教区長司教叙階式
26日（月）聖フィリポ・ネリ
31日（土）聖母の訪問

6月　みこころの月

1日（日）キリストの聖体／聖ユスチノ殉教者
3日（火）聖カロロ・ルワンガ
　福岡地区短期キリスト教講座④（～17日）■
4日（水）＋ミカエル西田邦洋［若松教会1996］
5日（木）佐賀「カトリック人生講座」⑤（～26日）■
6日（金）イエスのみ心
　聖書講座［カテドラル19時～7月11日］⑤　■
7日（土）聖母のみ心
8日（日）日本女子修道会総長管区長会九州地区研修会
　［雙葉学園］
10日（火）司祭研修会（～12日）
11日（水）聖バルナバ使徒
13日（金）聖アントニオ・パドバ
15日（日）京都教区長司教叙階式
21日（土）聖アロイジオ・ゴンザガ
　＋ドミニコ深堀仙右衛門司教
　　［第3代福岡教区長1985］
　＋トマス平田好［門司港教会1938］
22日（日）湯川教会堅信式
24日（火）洗礼者聖ヨハネの誕生
29日（日）聖ペトロ・聖パウロ使徒
　《聖ペトロ使徒座への献金》
　教区典礼研修会［カテドラル13時］■

■印は本面に詳細説明あり

福岡黙想の家　5月

◇2日（金）～5日　（月）第36回クルシリヨ
◇10日（土）～11日　（日）**福岡正義と平和協議会**
◇11日（日）～16日　（金）聖ザベリオ宣教会
◇20日（火）～29日　（木）修道女のための8日間の黙想／Fr.マテオ《申込受付中》
◇24日（土）～25日　（日）援助修道会
◇6月1日（日）　典礼・聖歌と祈りの集い
［問合先］黙想の家　☎　0940・32・3222
FAX　0940・32・3385

生命山カトリック別院

■**祈りの集い**　1月から12月まで、ミサのテーマで10回連続で集いが開かれています。続けて参加されることをお勧めします。受付：9時30分／解散：15時／会費：1500円（昼食代含む）／指導：Fr.フランコ／申込：集いの日の5日前まで
⑤5月15日（木）「過越の神秘」
⑥6月12日（木）「神の子羊の神秘」
⑦9月11日（木）聖体礼拝
⑧10月9日（木）「キリストと教会の奉献」
⑨11月13日（木）感謝の祭儀
⑩12月11日（木）ミサにおける終末論
■個人、またはグループで、黙想等をなさりたい方はいつでもお申し込みください。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

■**ロザリオへのおさそい**　［日時］毎水曜日11時30分～［場所・問合先］美野島司牧センター☎092・431・1419
■**韓国語によるミサ**　［日時］毎月第1、第3日曜日10時30分［場所］聖パウロ修道会福岡修道院聖堂［問合先］尹汝沃神父☎0942・33・6274（司祭館）FAX34・3115（聖マリア病院）
■**青年の祈りの集い**　［日時］毎月第2、第4日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会信者会館［指導］伊東成晃神父［参加費］自由献金［問合先］橋爪章一☎092・714・3477
■**第68回福岡結婚準備セミナー**　［日時］5月1日（木）～24日（土）毎木曜・土曜日19時～21時20分・全8回［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022
■**北九州ダルク開設記念チャリティコンサート**　［日時］5月4日（日）13時30分（13時受付）～16時30分［場所］北九州市立女性センター《ムーブ》5階大セミナールーム［出演］ジョッシュ大塚&リーブス・オブ・グラス［曲目］テネシー・ワルツ／ジャンバラヤ／ローハイド／花など［参加費］大人2500円、中・高生500円、小学生以下65歳以上無料［主催］九州地区ダルク支援センター［共催］北九州にダルクを呼ぶ会［後援］毎日新聞社、RKB毎日放送［問合先］九州地区ダルク支援センター☎FAX092・473・6696股村
■**第53回熊本結婚準備セミナー開催中**［日時］5月6日（火）～20日（火）毎月曜・火曜日19時～21時20分・全8回［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX（カトリックファミリーセンター）092・552・5022
■**聖書講座―ガラテヤの信徒への手紙・前期**［日時］5月9日から毎週金曜日19時～20時45分（7月11日まで）［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［受講料］前期5000円／1回毎800円［申込方法］教区本部事務局に氏名、電話番号、所属教会をお知らせください。当日申し込み可。［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139
■**佐賀新聞文化セミナー**　［日時］第2、4土曜日15時～16時30分［テーマ］聖書流人間関係12カ条［場所］佐賀玉屋教室［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父［受講料］三カ月6回で7200円（プリント料300円）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー玉屋教室☎0952・28・0371［日時・テーマ］③5月10日・自分自身の現実を喜んで受け入れる④24日・表情を改善するには、まず、心を改善する⑤6月14日・神や人に対する感謝の気持ちを現す⑥28日・心の喜びを現す（まず、どういうふうにして、いつも喜ぶことができるかということを考える）⑦7月12日・人を正直に褒める⑧26日・人の立場になってみて、人を理解する★8月以降は次号に掲載
■**典礼を考える集い**　［日時］5月11日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会3階会議室
■**あつまりませんか黙想会**【女子青年】　［日時］5月11日（日）10時［場所］コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会千防修道院［内容］松永司教様司式ミサ（終生誓願式）に参加して生き方を探す［費用］1000円［主催］北九州地区女子修道会［申込・問合先］シスター塩路（北九州地区女子青年黙想会連絡係）☎093・621・5670
■**講話と祈りの集い―幼いイエスの聖テレジア逝去一〇〇年記念、準備―**　テレジア帰天一〇〇年を迎えるに当たって、テレジアとともに教会のこと、宣教のことなどを祈り、学ぶ小さな集いを計画しております。皆様のご参加をお待ちしております。［日時］⑧5月11日（日）13時～テレーズの召命―宣教［講師］山元眞神父（福岡カトリック神学院院長）［場所］福岡カルメル会修道院、テレサの家［問合先］同右☎FAX092・807・7361
■**聖霊の照らし、導き、愛を豊かに受ける祈りの集い**　［日時］5月12日から毎週月曜日10時～12時（6月23日まで）［場所］カテドラル大名町教会［参加費］献金［主催］聖霊による刷新祈り会福岡［テーマ・講師］①神の愛・畠基幸神父②救いのみわざ・マテオ神父③新しい生命（いのち）・マルコ神父④神の賜物の受領・ドワイヤ神父⑤聖霊の満たし・マッケイ神父⑥聖霊のうちでの成長・青木悟神父⑦《ミサ》キリストの証人・松永久次郎司教他司祭一同［申込・問合先］司教館・ブラザー床島☎092・522・5139
■**第4回短期キリスト教講座「生きるとは」**［日時］5月13日～6月17日毎週火曜日（全6回）10時～11時45分・19時～20時45分★昼の部はベビーシッターあり［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［受講料］一講座500円（当日、受付にて）［主催］短期キリスト教講座福岡実行委員会［申込・問合先］各教会・カトリック福岡司教館（受付／平日10時～16時）☎092・522・5139 FAX522・2152［申込・締切］5月6日（当日申し込み可）［日時・テーマ・講師］①5月13日・生きることの意味・松永久次郎司教②20日【午前】・心のかけ橋を築くために・高木義萌牧師【午後】法律事務所の窓から覗いた家族像・三浦啓作弁護士③27日【午前】法律事務所の窓から覗いた家族像・三浦啓作弁護士【午後】喜んで生きよう職場の輝く星として・皆川節夫氏④6月3日・生命にとって大切なこと・倉元涼子医師⑤10日【午前】殺人と人間の死・古川泰龍住職【午後】キリスト教と教育の原理・オチョア・サトルニーノ神父⑥17日【午前】子供は大人を創る為に生きている・三村邦明神父【午後】キリスト教と教育の原理・オチョア・サトルニーノ神父★申込書の日程が違っているものがあります。プログラムを参照の上、お申し込みください。
■**第12回カトリック人生講座**［日時］5月15日～6月26日毎週木曜日10時～11時30分・19時30分～21時（5月29日のみ）［場所］佐賀カトリック幼稚園講堂［受講料］4000円（一講座のみ聴講の場合は700円）［申込・問合先］佐賀教会☎0952・23・4754 FAX23・4929［申込締切］5月8日［日時・テーマ・講師］①5月15日・開講式（「マザー・テレサの遺言」ビデオ鑑賞と解説・マルコ・ターディフ神父②22日・対馬藩田代領の地域性と切支丹・小林聖教授③29日【午前】生きるってすばらしい！命は宝もの・野尻千穂子氏【午後】「生きる力」を育む―心の教育・新富康央教授④6月5日喜びの人生・アレグリーニ・アレグリーノ神父⑤12日・願われて、守られて今ここに・熊谷勝住職⑥19日医療ボランティアに関わりながら―人の交わりを通して・小林朝子氏⑦26日「一粒の麦になって」―・マルコ・ターディフ神父★5月25日（日）バス日帰り研修「島原半島のキリシタン史跡探訪」の旅［解説］吉田安弘氏（参加費別途350円程度）
■**第8回お母さんの集い**　［日時］5月19日（月）10時30分～13時［場所］カトリック小倉教会聖堂［講師］中村倫明神父（長崎カトリック神学院）［内容］お話とミサ［参加費］500円［問合先］福吉三代子☎0963・962・1395
■**福岡教区信徒使徒職協議会役員会**　［日時］5月25日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会3階会議室
■**福岡生と老い・死をみつめる会**　［日時］5月25日（日）14時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［テーマ］ゆりかごから墓場まで［講師］大木松子氏（バングラデシュを支援する会会長）［会費］500円［問合先］事務局（大山美穂子☎FAX092・713・8583／村尾嘉道☎607・6992）
■**典礼・聖歌と祈りの集い**［日時］6月1日（日）14時～17時［場所］福岡黙想の家［聖歌指導］深堀純［参加費］1000円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎0940・32・3222
■**北九州教会学校リーダー研修会**　二〇〇〇年の大聖年を迎えるにあたり、大人も子供も共に、よい準備ができるために［日時］6月2日（月）10時30分（受付10時）～15時［場所］カトリック小倉教会［テーマ］父なる神への歩み―やる気を育てる［内容］講演と実技［講師］岡俊朗神父［参加費］1000円と弁当代500円（希望者）［申込締切］5月20日（火）人数と名前を明記の上、教会でまとめてお申し込みください［問合先］シスター館林☎093・871・1166 FAX882・6872
■**福岡地区信徒使徒職協議会代表者会議**　［日時］6月8日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会3階会議室
■**カテキスタの集い**　［予定日時］6月8日（日）／7月6日（日）いずれも13時30分～［場所］福岡カトリック神学院［問合先］同上☎092・531・6821 FAX092・524・7373
■**カトリックの看護婦（士）研修会**　［日時］6月21日（土）17時～22日（日）15時［場所］福岡黙想の家［内容］①霊の動きを知ることにより、看護者の霊性を学び、霊的ケアを深める②平成10年9月の全国大会に備える［指導］平田寛神父（カトリック看護協会福岡支部顧問司祭）［問合先］シスター泉キリ江（イエズスの聖心病院）☎096・352・7181 FAX352・7184シスター土田（聖母訪問会新田原修道院）☎0302・4・5570
■**典礼研修会**　［日時］6月29日（日）13時～17時30分［場所］カテドラル大名町教会講堂［テーマ］「わたしたちのミサ」―ミサをより豊かにするために［講師］国井健宏神父（御受難会・上智大学神学部教授）［会費］1000円［主催］教区典礼委員会［申込先］青木悟神父☎092・522・5139

編集後記

復活祭と春休みが終わり、また新年度が始まった。今年は「イエス・キリスト」の年。とくに聖体の秘跡においてキリストと一致しながら。アレルヤ！

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

6月1日＝キリストの聖体

大聖年準備：全国共通の典礼でミサ

写真＝エルサレムのオリーブ山にある《主、涙し給う教会》

6月10日～12日

大聖年に向けて教区を整えるために

「未来を担う司祭像」のテーマで司祭の召命促進について具体策を練る

教区内司祭研修会

教区内の全司祭を対象とした研修会が、六月十日から十二日まで、北九州市で開かれる。今年はメインテーマに「大聖年に向けて教区を整える」を掲げ、司祭召命減少の現実を深刻に受け止め、「未来を担う司祭像」のサブテーマで、召命促進の具体策を求めて研修が行われる。「召命をともに祈る会」、「子羊会」など、有志の会も活動を始める。

去る四月二十二日、新評議員による臨時司祭評議会が司教館別館で開かれ、毎年行われている教区内の全司祭を対象とした司祭研修会（今年は六月十日から十二日）のテーマが検討された。事前に各地区の司祭集会で研修会の具体的テーマが優先順位を付けて決められており、それを元に検討した結果、メインテーマを「大聖年に向けて教区を整える」とし、サブテーマを「未来を担う司祭像」とすることが決定された。折からの司祭召命不足の現実を真摯に受け止め、今後の召命促進のための具体策が検討される。

研修会では、福岡カトリック神学院院長の山元眞神父が「召命についての現状報告」と題して基調講演を行い、それを基に分団会形式で話し合いが持たれる。司祭召命減少の現状を分析した後、全体会で今後の具体的な対応策を考え、教区長の諮問に答えることになる。

研修会は毎年開かれているが、その成功のために、特に今年は信徒、修道者の祈りによる支えが求められる。

神学生の数

福岡教区の司祭のほとんどは教区内にある福岡カトリック神学院（小神学校）と福岡サン・スルピス大神学院（大神学校）で養成される。小神学校は、司祭職を希望する中・高生のため、現在六人の中学生と三人の高校生が在籍している。大神学校は高校および大学の卒業生、また、司祭職を希望する社会人のために開かれており、司祭叙階まで八年間を要する。現在、福岡教区所属の神学生は一名で順調に行って三年後に叙階予定である。

グラフ(1)に見られるように、この十五年間の小神学生の総数および入学者数は80年代初頭をピークに減少している。司祭叙階は86年の四名が最高で、後は0人か一人である。ちなみに、現在の小神学生はすべて毎夏開かれている召命学校の体験者である。

司祭の数

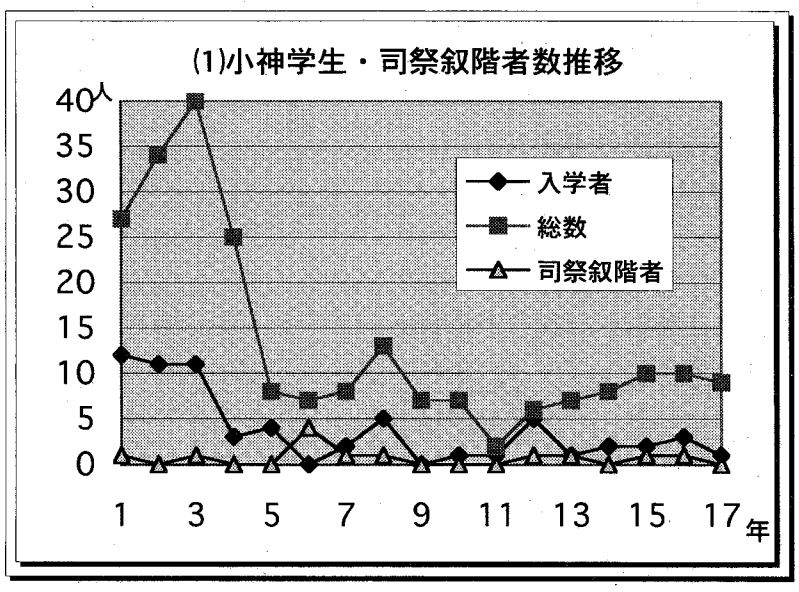
グラフ(2)は教区司祭の年齢の推移を表している。教区司祭（司教）は75歳になると引退を申し出なければならない。現在、75歳までの教区司祭は35人。その内、実際に小教区の司牧に当たっている司祭は30人。その中で61歳から75歳の司祭は14人で約半数を占めている。ちなみに教区内の小教区数は55。教区司祭の担当教会は26。小教区を兼任している教区司祭は三人いる。十五年後の教区司祭の数は現在の約半分にまで減少することが予想される。

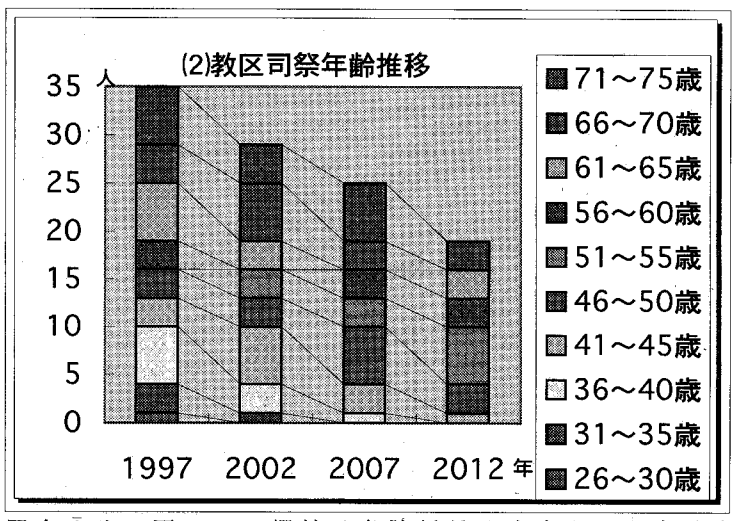
召命をともに祈る会

司祭召命は神の恵みであるので、単にデータによって将来を悲観する必要はないかも知れない。ともあれ、祈りのうちに未来の司祭養成に励まねばならないであろう。この一年間活動を休止していた「召命をともに祈る会」が活動を再開する。この会は信徒、修道者、司祭の有志の会で文字どおり司祭、修道者の召命を祈ることをその目的としている。その外に、以下のことを目的とする。司祭・修道者の召命について考える機会を教区民に提供する。青年のための召命黙想会の企画。召命・養成担当者のための研修会など。六月五日午後三時から司教館別館で会合が開かれる。また同日午後七時四十五分から教区総代理司式の召命祈願ミサが大神学院で行われる（4面参照）。問い合わせは司教館の青木悟神父か大神学院の櫻井尚明神父まで。

子羊会

司祭、修道者の召命を求めて毎月一度ロザリオとミサの祈りをささげる会もある。問い合わせは礼拝会福岡修道院まで。





今月のみことば

まことに、主は正義の神。
なんと幸いなことか
すべて主を待ち望む人は。
（イザヤ30・18）
聖マリア短大　W・キッペス神父

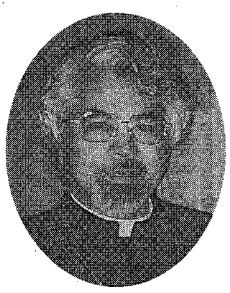
福岡サン・スルピス大神学院

体験入学

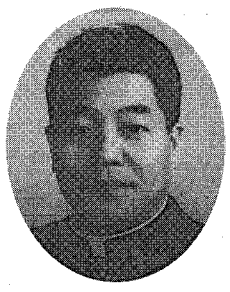
主旨：司祭職を志す神学生の生活を体験しながら、司祭への召命について考える機会とする
対象：高校生以上のカトリック独身男子
定員：10名
日時：6月20日（金）17時30分～
22日（日）正午昼食（途中参加も可）
場所：福岡サン・スルピス大神学院
〒814-01 福岡市城南区松山1丁目1-1
☎092-871-4943　FAX 863-6329
参加費：3,000円（当日受付にて支払）
申込締切：6月15日（日）まで
申込先：大山悟神父（神学院長）まで
必ず所属する教会の主任司祭を通して申し込むこと
＊期間中、神学院の司祭と個人的に話すことができます

那覇・京都教区に新司教誕生

ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世は、去る三月二十日付けで那覇教区長石神忠真郎司教の後任として、第二代教区長にベラルド押川壽夫（おしかわ・としお＝コンベンツアル聖フランシスコ修道会＝56歳）神父を任命した。新司教の叙階式は五月二十五日に宜野湾市のラグナガーデンホテルで行われた。


押川壽夫新司教

また、四月一日には京都教区の新司教がローマ教皇より任命された。田中健一司教の後任は、同教区司祭、パウロ大塚善直（おおつか・よしなお＝42歳）神父。新司教の叙階式は、六月十五日に洛星中・高等学校大講堂で、田中健一司教司式で行われる。大塚被選司教は一九五四年に京都市に生まれ、同志社大学、上智大学を卒業して八四年に司祭叙階。八七年にローマ留学。九三年に帰国した後、京都市伏見・桃山・八幡教会の共同宣教司牧を担当。京都教区本部事務局副局長を経て九六年には教区事務局長。現在に至る。


大塚善直被選司教

召命学校

対象：小学校4～6年生男子（中学生希望者も可）
日時：8月4日（月）15時～6日（水）昼食
場所：福岡カトリック神学院
参加費：2,000円（交通費は自己負担）
持参品：ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証コピー、筆記用具、水筒
定員：30人（定員になり次第締切）
申込・問合先：福岡カトリック神学院　山元　眞神父
☎092-531-6821　FAX. 092-524-7373

召命錬成会

対象：小学校4～6年生男子（原則として）
日時：7月20日（日）16時～22日（火）10時30分
場所：福岡・聖パウロ小神学校
参加費：1,000円
持参品：ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証コピー、筆記用具
申込・問合先：聖パウロ小神学校　戸村　修神父
☎092-531-0924　FAX. 092-524-6169
◎申込締切は7月15日です

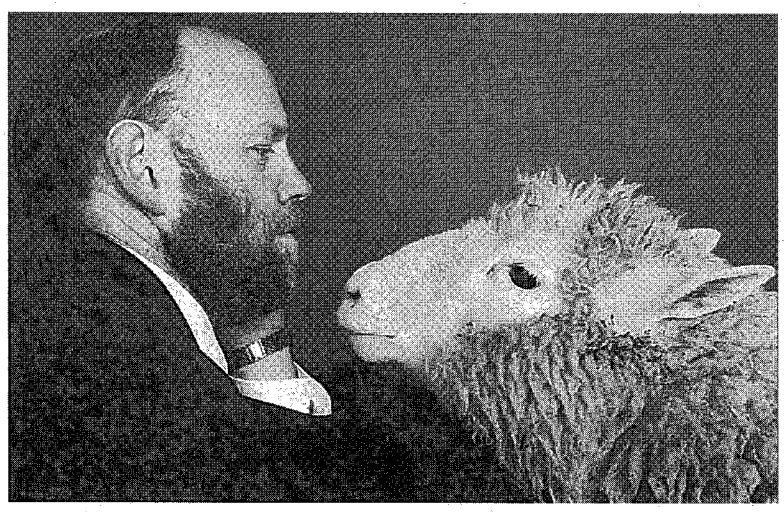
みちくさ

信者が直接聖書に親しむようにと、公会議後の教会は特別に勧めている。今年は「キリストの年」でもあるので、この呼びかけは特別の意味を持つことになった。それに答えて、各教会で聖書勉強会などが企画され、教区でも聖書講座が開かれている▼ところで、この聖書講座等の参加者が必ずしも多くない感じがする。なぜだろう。毎日が忙しいからだろうか。それとも講師に魅力がなく、講義の内容が充実していないからだろうか。ともあれ、参加者が少ないとは寂しいことである。一度覗いて見た者でも、がっかりして、次の時には欠席することになりかねない▼講義の内容を充実させるためには、講師の心がけが第一であるけれども、参加者が多数であり、熱心に聞いてくれ、好意的で適切な質問などがあれば、講師も張り切って、できるだけの準備をするので内容も向上する。「あそこは参考になりました」とか、「あのような見方は素晴らしいですね」など、励ましてくれる人がいたりすれば特にそうである▼ミサのお説教の場合もこれに似ている。「あのことを教えていただきありがたかった」、「あのお話しはとても為になりました」、などの応援の声を聞くと、説教にも熱がはいる。…なのに信者は全くの無関心を示すか、またはケチをつけるだけである。説教を益々つまらないものにしている▼お説教とか講義は、伝える人と受け取る人たちがいて成立するものである。「交わりの教会」の美しく実り多い「交わり」を造るよう努めたいものである。（M）

いのちは神のもの

『クローン人間についての日本のカトリック教会の見解』

科学の快挙か、神への冒とくか―一九五二年に最初のクローン動物（オタマジャクシの細胞からカエル）が誕生して以来、男女の産み分け、試験官ベビー、代理母など、生殖テクノロジーの開発はとどまるところを知らない。イギリスの科学者によるクローン羊の成功のニュースは世界に一大衝撃を与え、議論を沸騰させた。《次は人間か》と期待と不安が良識ある人々の脳裏をよぎったからである。多くの国が禁止の方向へ向いてはいるが、学界、宗教界、政界でも意見は様々だ。日本カトリック司教協議会常任委員会は去る五月三日、クローン人間の研究が神の領域への侵犯であり、人間の「もの」化・商品化につながり、人間の尊厳を損なうものとして「日本のカトリック教会の見解」を発表した。めざましい科学の進歩とは裏腹に、倫理的な議論が立ちおくれている現状に一石を投じ、暴走に歯止めをかけている。



羊のクローニングに成功したウイルマット博士（『ニューズウイーク』日本版、一九九七年三月十二日号より）

すべての善意の人びとへ

はじめに

最近イギリスのロスリン研究所のキャンベルとウィルマット両博士を中心とするクローン研究チームが、クローン羊の作成に成功したことをイギリスの科学専門誌『ネイチャー』に発表しました。これは、これまで牛やマウスに見られた「受精卵と未受精卵のみの操作によって作成する哺乳類クローニング」とは異なり、「成体の体細胞を元にして、未受精卵の核を取り除き、その細胞に体細胞の核を入れてクローン羊を作成した」という、世界で最初の事例です。この成果は、家畜類のクローニングに新たな展開をもたらすだけでなく、人間の「複製」に関しても現実味を加えることになりました。しかし、それは人間の根幹にかかわることから、ヒトのクローン研究に対してはアメリカやヨーロッパ諸国およびわが国において、いち早く、否定的な見解が表明されました。その大半は「ヒトのクローン研究は人間の尊厳を損わせるので、禁止すべきである」というものでした。

わたしたち日本の司教たちは、クローン人間の研究は、人間本来の生殖の基本や人間そのものの尊厳を侵し、遺伝的にも良くない結果を招く恐れがあり、さらにまた人間が神の聖域に踏み込んでいく道を開いてしまう可能性もあることから、クローン人間の研究については否定的であることを公にいたします。

1．カトリック教会としての見解を明らかにする前に、まず欧米社会で挙げられている、人間の複製を人為的につくることに反対する倫理的な理由の主なものを、紹介いたします。カトリック教会も、これらの理由には基本的に賛同するものです。

イ．ヒトのクローンは、人間本来の生殖の基本とは異なるので、自然の摂理に反する。

ロ．人間の複製は、遺伝学的に見ても良くない結果を招く恐れがある。

ハ．クローニングそのものが、人間の生命に干渉することになる。

二．優秀な人間の複製を始めれば、それは優生学的な考えにつながる。

ホ．病気の子どもを救うために骨髄提供者となる弟や妹をクローニングで作ることは、人間を単なる「臓器提供者」としか見ないことになる。

2．次に、カトリック教会としての立場から、その反対の理由を説明したいと思います。

まず、人間には、男女の営みにおいて誕生し、父と母とのもとで養育される権利があります。その権利を守るための義務と責任は両親にあります。それが自然の摂理です。この義務と責任は、両親だけではなく、社会全体にもあるのです。科学の力によって誕生してくるクローン人間についての責任はだれが担うのでしょうか。人間は、その誕生に責任を持つ男女が作りあげる家族の中にしっかりと受けとめられて成長し、やがて社会の一員として社会に送り出されていくものです。クローン人間については、このような視点が完全に欠けることになります。

また人為的に作られるクローン人間も、ひとたび作られたならば、人間としての尊厳、絶対的な価値をもつ存在となることを、見落としてはなりません。クローン人間は、遺伝子の視点からみるならば、自然に見られる一卵性双生児と同じであって、完全な人間なのです。一卵性双生児の二人が、人間としての絶対的価値と尊厳を備えているのと同じように、クローン人間も絶対的価値と尊厳を備えるのです。このような絶対的価値と尊厳をもつ人間を創造するという業は、神に属するものであり、絶対に人間の手にゆだねられてはなりません。

また、これまでカトリック教会が主張してきたように、人間の生命はヒトの卵母細胞が受精した瞬間から始まります。そして人間の胎児（受精卵、胚芽を含む）を守るための遺伝子診断とか遺伝子操作は、治療を目的とした場合以外には許されてはなりません（教皇ヨハネ・パウロ二世回勅『いのちの福音』63番　参照）。

さらにヒトのクローンの研究は、医学・医療としても問題があることを指摘したいと思います。つまり、研究の目的が明確でなく、未知な点があまりにも多いということです。科学技術や医学医療は人間の生存を守るために使われることが本来の目的であって、ヒトのクローン研究は、その目的に関してはなはだ不明であると言わざるをえません。

最後に

今回クローン羊の誕生によって一躍脚光を浴びたクローンの研究に関しては、これまで世界的に、特にキリスト教国においては早くから取り上げられ議論されてはきましたが、日本においては、生命倫理や神学の立場から広く深く検討されたことはなかったということを正直に認めながら、わたしたちは、今後ますます現実的になっていくクローンの問題に関して、さらに真剣な議論が深められ、倫理的なガイドラインが明確にされていくことを望みます。しかし、どのような議論が展開されるにしろ、わたしたちは、絶対的価値と尊厳を有する人間を創造するという業は、神に属するものであり、絶対に人間の手にゆだねられてはならないものであることを、ここにあらためて強調いたします。

一九九七年五月三日
日本カトリック司教協議会
常任委員会

典礼

ミサのこころ⑭『奉献』

ミサの中心部である〈感謝の祈り〉（奉献文）の結びとして司祭は、キリストの御体と御血になったパンとぶどう酒を手に取って、御父にささげながら祈ります。「キリストによって、キリストとともに、キリストのうちに、聖霊の交わりの中で、全能の神、父であるあなたに、すべての誉れと栄光は世々に至るまで。」そして会衆は「アーメン」と答えます。この荘厳な栄唱は、〈感謝の祈り〉（奉献文）全体の目的を見事に表現しています。それは「主・キリストを通してすべてのよいものを世にお与えになる」（第三奉献文）御父に対して、〈感謝の祈り〉の中で、「キリストによって、キリストのうちに」、人類のすべての賛美と感謝がささげられるからです。

この「キリストによって、キリストとともに…」という栄唱を唱えるとき、私たちは、キリストがすべての人の救いのために自ら進んで受難に身を委ね、すべてをささげてくださったあの十字架上での奉献を思い起こします。ところでミサの中では、キリストの全生涯の愛の結晶とも言うべき十字架上での奉献が記念され、私たちのために、秘跡として、血を流さない方法で再現されていることに、大きな感動を覚えます。けれどもミサの中では、さらに素晴らしいことが行われていることを忘れてはいけないと思います。それは、教会の頭であるキリストが、その肢体である私たちの賛美と感謝を、ご自分の奉献に合わせて、父である神にささげておられることです。このことは換言すれば、私たちが現代社会において、キリストの体の一部分として、キリストの救いの使命に奉仕しながら、自己を奉献するようにに招かれているということです。

〈ミサに積極的に参加する〉ために、〈生活の中でミサを準備する〉ことが、私たちに求められています。ミサの中で、神のみことばとキリストのからだの食卓に養われる私たちは、〈キリストのみ心の燃えるような愛〉を自分の中に奮い立たせて、キリストの使命に奉仕する生き方を、日々の生活の中で展開していきたいと思います。

福岡サン・スルピス大神学院
白浜　満　神父

（このコラムは次回で終了します）

第36回クルシリヨに参加して

クルシリヨ事務局

参加者の熱気のせいか、しばしばクーラーを入れるほどの盛り上がり。最終日、家路に向かうすがすがしい顔々。ああ、今年も確かに神様の大きな愛が注がれた、と実感するひと時であった。

今回は、はからずも男女同数、17から73歳と幅広い年齢層に加え、四人の神学生の参加により、一般信徒との相互の理解が深まったことは大きな収穫である。

これまでは祈祷書の「司祭のための祈り」も、ただ口先だけの時もあったが、これからは、あの司祭、この神学生の顔を心に思い浮かべながら、心から祈ろう、との参加者の発言がすべてを語ってくれる。

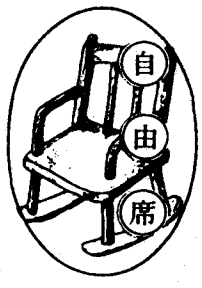
松永司教様の講話も、聖堂で話される時とはひと味ちがったユニークなもので、参加者もうなずいたり爆笑したり、好評であった。

ここに参加者の何人かの所感を紹介して、報告にかえさせていただきたい。

「神学校の限られた共同体の中では決して感じとることができない、信徒の皆さんの信仰体験や出会いを通して、様々な人の生き方を知ることができた」（神学生）。

「わたしも将来、子どもに恵まれたなら、一人は司祭にしたい、なってくれたらいいなと思う」（若い女性）。

「参加者が皆、感激のうちに閉会式を迎えることができたのは、神様の助けと皆様の祈りが支えになったのだと思う。クルシリヨで受けた感激をいつまでも忘れないように、頑張っていきたい。神に感謝」（主婦）。



地区婦人会総会

山口　紀子

前夜来のはげしい雨も上がり、晴天に恵まれての第14回福岡地区婦人会総会が四月二十三日、九十人の出席のもとカテドラル大名町教会で開催されました。二十年の長きにわたり、地区婦人会のご指導をいただいた堤要吉神父様がこのたび教区司教総代理になられたのを機に、新しく、教区会計をなさり大変お忙しい松井忠之神父様を指導司祭にお迎えすることが出来ました。また今年は任期二年の改選期にあたり、光丘教会の白石英子さんが地区婦人会長になられ、新委員と共にスタートします。ミサの後、地区婦人会のご指導に対して、堤要吉神父様に感謝をこめて花束を贈呈いたしました。

午後には参加者も百名以上にふえ、カトリック神学院院長山元眞神父様をお招きして「神さまと人に仕える―ボランティア―」と題して講演がありました。その中で、ボランティアの語源はラテン語のVOLO（ボーロ）からきており、それは「自分から望み、自分の意志で喜んでする」ことが基本であり、大切なことであること、またマザー・テレサの偉大さの中に、いつもキリストの出会いがあり聖体拝領の力がある（テレサは一日に二回聖体を拝領する）こと、また私たちカトリック信者は神さま（イエスさま）の愛、慈しみ、憐れみを感じとり、神さまは今、私に何を求めているのか…は祈りによって見えてくるので、常に祈ることの大切さを話されました。

人のことを言わない（人の心に入っていかない）を胸にきざみつつ、自分から望んでボランティア活動をしていきたい。六年の長い間地区婦人会に関り、たくさんのすばらしいお恵みを頂き、たくさんのお友だちを得たことを神に感謝しつつ総会を閉じました。（二日市教会）

ボランティア募集!!
6月28日(土) 9時30分から草とり・清掃等を致します。
皆様のご協力をお願い致します。
(昼食−軽食−はご用意致します)
後援会会長　鬼木保之
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

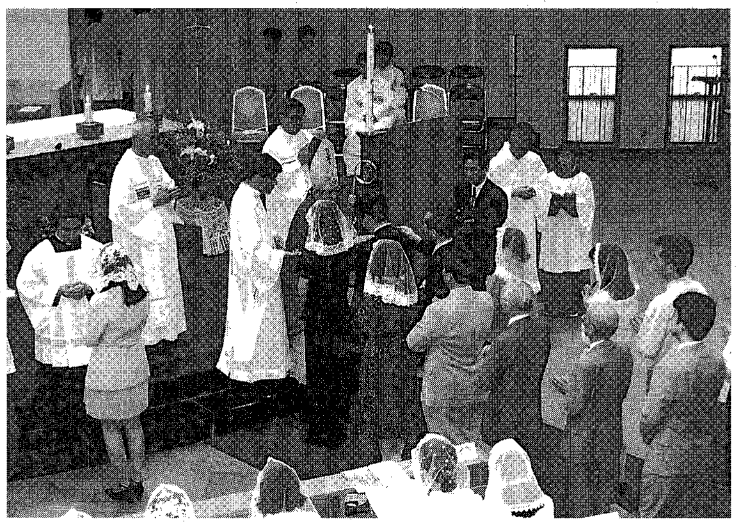
有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3−11−33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092−526−5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

カテドラル

聖霊の降臨と教会の誕生を祝う

合同堅信式で27人が受堅



五月十八日の聖霊降臨の祭日にカテドラル大名町教会で教会の誕生を祝う「聖霊降臨祭」と合同堅信式が行われた（＝**写真**）。松永久次郎司教主司式のミサには、十人の共同司式司祭、大名町教会の信徒、受堅者とその関係者をはじめ、近隣の小教区から約五百人が参列した。侍者は小神学生が担当した。聖霊降臨祭のカテドラルでの司教司式ミサと合同堅信式は三年前から行われているもので、その年の復活祭に洗礼を受けた人を中心に受堅を呼びかけ、聖霊の降臨による教会の誕生を祝いながら、堅信式を行うもの。今年は、浄水通、吉塚、大楠、老司、玉名、大名町から受堅者が集まった。松永司教はミサ中の説教で、一つになり、互いに思いやりと愛をもって、兄弟的な共同体を作るよう、受堅者と参列者に呼びかけた。

ミサ後カテドラル一階の講堂でお祝いの会があり、吉塚教会の杉本啓明さんが受堅者を代表して挨拶し、信徒として、宣教者として聖霊の助けのもと、力強く歩み続ける決意を新たにした。受堅者と関係者が教区長を囲んで記念撮影をするなど、終始なごやかな雰囲気の内に閉会した。

世界広報の日

現代のメディアについて考える 広報担当者の集いと講演会

5月4日

五月四日、カテドラル大名町教会で九時の広報の日のミサに続いて小教区の広報担当者の集いが同教会一階講堂で開かれた。約三十人が参加。午後の講演会の講師、シスター長谷川昌子（カトリック中央協議会広報部部長＝女子パウロ会）を交え、教会における広報伝達の経路を確認し合った。中央から、教区から送られる情報と各小教区の情報を伝えるために苦労している担当者の熱意が伝わる。教区本部からは、毎年出される教勢報告を各小教区で利用することが勧められた。たとえば、不明信徒の推移などを中心にそれぞれの小教区の動きを分析し、司祭の司牧に協力するなど。会場にはコンピューターも持ち込まれ、教区報が出来る様子も紹介された。

午後一時からは一般信徒も交えて、シスター長谷川の講演会が開かれた。シスターはメディアに関する教皇文書を説明しながら、現代におけるメディアの利用についてよく考えるように、という教皇の考えを紹介した。一方的にやってくる情報を主体的に選択すること。特に子どものために親がその責任をもっていることが強調された。また、現代社会において伝達が97％も占めていることが紹介され、社会のみでなく、教会においてもメディア教育、映像教育の今後の必要性を説いた。そして「私たちひとり一人が生きたメディアになることが求められている」と講演を結んだ。講演会の参加者は約五十人。

カトリック福岡司教区信徒使徒職協議会

「発足25周年記念誌」発行

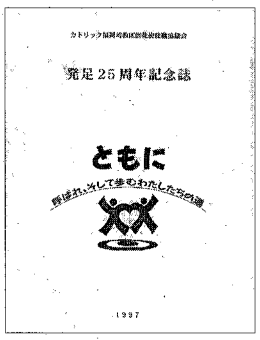
昨年十一月二十三日、福岡教区信徒協・修道女連盟の発足二十五周年合同記念祭がカテドラル大名町教会で盛大に行われたが、このほど、その行事の模様を収録した記念誌が発行された。

当日の記念講演と信仰の証し（体験発表）が中心で、文章が主体になるのは当然だが、適宜に挿入された写真が臨場感をかもしだしている。

巻頭に松永司教はじめ会長田丸鋭氏、担当司祭平田敬神父、修女連会長シスター佐藤節子のあいさつがある。

末尾に収録された各小教区と在籍信徒数、レジオ・マリエなど使徒職団体の紹介、協議会の二十五周年の歩みと同会会則は、単なる記念誌を超えて資料として貴重であり、永久保存版ともいうべき価値がある。

この意味で、記念行事に参加できなかった人だけでなく、記念祭で恵みを受けた人にとっても、召命を再確認し、使徒的活動への理解を深め、分かち合いながら、ともに、呼ばれた道を歩むために、大いに助けになろう。



本誌は各小教区で購入できる。B5判82頁、配布価二〇〇〇円。

御寄付御礼

故クララ櫻井悍子様の御香典返しに代えて櫻井太郎様より多大のご芳志を賜りましたことをご報告し、故人のご安息をお祈りし、厚く御礼申し上げます。

カトリック福岡司教区

聖年とは

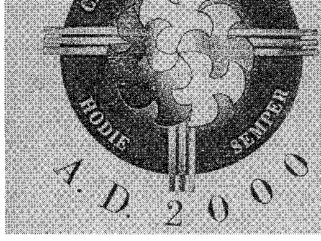
昨年来、カトリックの新聞・雑誌などには「聖年」ということばが幾度となく登場している。しかし今でも、「聖年って何ですか」という質問を受ける。紀元二〇〇〇年まで、このことばは頻繁に見られることは確かだろう。大聖年をふさわしく迎え、生きるためにも、このことばの意味、起源など、しっかりと心に留めておきたいものである。

聖年とは

旧約聖書の「ヨベルの年」に起源をもつ。ヨベルの年とは、モーセの律法によって七年毎の「安息の年」の慣行（土地が休閑となり、奴隷が解放されるなど）を拡大して五十年目毎により荘厳に祝う年。ヨベルとは、雄牛の角で作ったラッパで、これを吹いて贖いの年が始まったことを知らせた。贖いの年とは自由と解放の年で、この年には人の手に渡っていた土地は元の所有者に返され、奴隷は解放されることになっていた（レビ記25章）。これが理想としたのは、土地と民のほんとうの所有者は神であり、すべての人は平等であることを悟らせることであった。

『時』を聖化する伝統は新約の教会にも受け継がれた。現在のような「聖年」が制定されたのは一三〇〇年教皇ボニファチオ八世によってである。最初は百年毎であったが、人が一生のうち一回でもその機会に恵まれるようにと、一四七〇年教皇パウロ二世によって二十五年毎に催されるようになった。最近では一九五〇年、教皇ピオ十二世の時、一九七五年、教皇パウロ六世の時に聖年が祝われた。

聖年の年にはローマの二大使徒の墓所に建てられた聖ペトロ大聖堂と聖パウロ大聖堂、全世界の母教会といわれるラテラノの聖ヨハネ大聖堂、そして雪の聖母大聖堂を巡礼する習慣がある。この四大聖堂には「聖門」あるいは「聖なる扉」があって、聖年の年に開かれ、巡礼者はここを通って聖堂に入る。



教会の中で「聖年」が催されるのは、イエス・キリストが私たちの歴史、私たちの『時』の中に入ってこられたことによる。すべての聖年はこの『時』に注意を向けさせ、「主が恵みをお与えになる年」として反省と回心に励み、この『時』を迎える準備をし、より豊かに主の恵みをいただく。罪の赦しと償いの年、抗争している人たちの和解の年、回心の年である。

紀元二〇〇〇年の大聖年に向かって

準備の期間は大きく次の二段階に分けられる。

第一段階（一九九四年～九六年）「全教会における反省と行動の時」

第二段階（一九九七年～九九年）「三位一体に向けられた準備の時」

準備の第二段階（昨年十二月一日待降節第一主日に開始）の期間の主眼は、「人となった神の子キリストを中心に据え、三位一体の神に注目すること」。

この大聖年直前の準備期間は三年にわたっており、各年のテーマは、

第一年目（一九九七年）「イエス・キリスト」

第二年目（一九九八年）「聖霊」

第三年目（一九九九年）「父である神」である。

第一年目「イエス・キリストの年」の主眼は、信仰を固め、キリスト者として証しをたてること、そのため回心への望みや熱心な祈りと聖性へのあこがれを抱き、隣人、特に最も貧しい人々と関わっていくこと、である。

具体的には、キリストとその救いの業をもっと知るために、典礼の中であるいは個人やグループで聖書に親しみ、教会の教えを知ることに努めること。キリスト者の生活の基礎である信仰の徳と洗礼についてあらためて考える。

第二年目「聖霊の年」は、キリストの体である教会を生かし、その中で働かれ、福音宣教の主である聖霊に焦点をあてる。特に堅信の秘跡と希望の徳の価値を再認識する。この年の全国一斉祈願日は五月三十一日「聖霊降臨の主日」。

第三年目「父である神の年」は、キリストの目ですべてを見るようになることが主眼。神と隣人への愛、特に貧しい人、見捨てられた人への関わりを大切にする。ゆるしの秘跡を大切にし、愛と正義の実践に励む。全国一斉祈願日は五月三十日「三位一体の主日」。（参考「紀元二〇〇〇年を目指して『教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的勧告紀元二〇〇〇年の到来』要旨」）

「信徒の霊性」10周年合宿

隣人が他人になるとき、他人が隣人になるとき

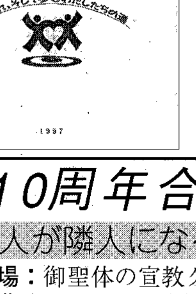
“友だちだと思っていたのに冷たいなあ”
“知らない人なのにとても親切だった”
“可愛がって育てたのに離れていった”
“目覚めたらあの嫁が微笑んで見ていた”

私たちの生活の中では期待されている人からは得られず、思いがけない出会いによって豊かにされるときがあります。この現実を分かち合い、キリストのみことばを通して、ともに学び、祈りたいと思います。

日時： 8月15日（金）15時（受付14時～）～17日（日）12時
会場： 御聖体の宣教クララ会　中軽井沢修道院
会費： ２０,０００円
定員： ８０人（定員になり次第締切）
企画担当： 「信徒の霊性」スタッフ　代表　森一弘
申込方法： 官製はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、所属教会を明記し、下記まで
申込先： 〒107 東京都港区赤坂8-12-42
☎03-3479-3603
聖パウロ女子修道会「信徒の霊性」係（清家・牧山）

BOOK 読みま専科

★マリアをわが家に
ヴィクトール・シオン著
福岡カルメル会訳



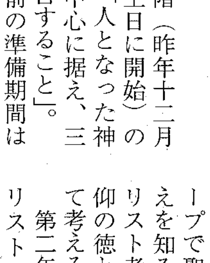
ヴィクトール・シオンの「霊的現実」シリーズの四冊目。

神様の限りない慈しみへの信仰と信頼がこの本の中に流れている。聖母をわが家に入れることは、使徒ヨハネやヨセフがマリアを受け入れたように、聖母と共に行うこと。聖母が受けた試練、イエスとの交わりの生活、マリアの特長である単純さなど、聖母が歩まれた道を深く考えさせてくれる霊的な読みもの。マリアを知り愛することは、父なる神、救い主である御子、愛である聖霊の招きに生きるようになる。

女子パウロ会　税別一三〇〇円

◇ ◇ ◇

★人間と聖書（全三巻）
ラシャペル・アンドレ著



本書は、主にキリスト教系学校の高校生を対象に書かれた宗教の教科書であるが、広く、聖書を勉強したい人、人生の真の幸福・目的・生きがいを求める人々をも視野に入れて編集されている。1「旧約聖書による人間像」2「新約聖書による人間像」3「現代キリスト教による人間像」の三巻よりなるが、一貫して、神と出会うことによって自分の存在の意味と依りどころを見いだし、人間を理解することによって、真の生き方を学べる構成である。A5判　一五六～一八六頁

サンパウロ　各七〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産 管理・仲介・売買・建設 一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計 企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家　6月

◇1日（日）典礼・聖歌と祈りの集い
◇2日（月）～いのちの井戸の会
◇6日（金）～8日（日）ｶﾄﾘｯｸユースフルライフ／カウンセリングワークショップ
◇13日（金）～15日（日）在世カノッサ会黙想
◇15日（日）～16日（月）聖母カテキスタ会
◇28日（土）後援会奉仕の日（ボランティア募集中！）
◇28日（土）～29日（日）鳥栖教会婦人会黙想
［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222
FAX 0940・32・3385

生命山カトリック別院

■**祈りの集い**　1月から12月まで、ミサのテーマで10回連続で集いが開かれています。続けて参加されることをお勧めします。受付：9時30分／解散：15時／会費：1500円（昼食代含む）／指導：Fr. フランコ／申込：集いの日の5日前まで
⑥6月12日（木）神の子羊の神秘
⑦9月11日（木）聖体礼拝
⑧10月9日（木）キリストと教会の奉献
⑨11月13日（木）感謝の祭儀
⑩12月11日（木）ミサにおける終末論
■個人、またはグループで、黙想等をなさりたい方はいつでもお申し込みください。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

召命祈願ミサ

日時： 6月5日（木）19時45分
場所： 福岡サン・スルピス大神学院聖堂
司式： 堤要吉神父　**説教：** 山元眞神父
主催： 召命をともに祈る会
＊＊「召命をともに祈る会」については本紙1面参照
参加者： 大神学生、小神学生、「召命をともに祈る会」有志、信徒・修道者・司祭の希望者どなたでも
問合先： 櫻井尚明神父（福岡サン・スルピス大神学院）
☎092・871・4943

会合と催し　教区年間テーマ：キリストとの真の出会いを求めて

6月　みこころの月

1日（日）キリストの聖体
「イエス・キリストの年」全国一斉祈願日
3日（火）聖カロロ・ルワンガ
福岡地区短期キリスト教講座④（～17日）■
4日（水）＋ミカエル西田邦洋［若松教会1996］
5日（木）召命祈願ミサ［大神学院19時45分］■
佐賀「カトリック人生講座」⑤（～26日）■
6日（金）イエスのみ心
聖書講座［カテドラル19時～7月11日］⑤■
7日（土）聖母のみ心
8日（日）日本女子修道会総長管区長会九州地区研修会［雙葉学園］
10日（火）**司祭研修会（～12日）**
11日（水）聖バルナバ使徒
13日（金）聖アントニオ・パドバ
15日（日）**京都教区長司教叙階式**
21日（土）聖アロイジオ・ゴンザガ
＋ドミニコ深堀仙右衛門司教［第3代福岡教区長1985］
＋トマス平田好［門司港教会1938］
22日（日）**湯川教会堅信式**
24日（火）洗礼者聖ヨハネの誕生
29日（日）聖ペトロ・聖パウロ使徒
《聖ペトロ使徒座への献金》
教区典礼研修会［カテドラル13時］■

7月

3日（木）聖トマ使徒
＋フランシスコ・X平田正喜［老司教会1994］
4日（金）聖書講座［カテドラル19時］⑨（～11日）■
11日（金）聖ベネディクト修道院長
15日（火）聖ボナベントゥラ
16日（水）カルメル山の聖母
20日（日）海の日
召命錬成会［聖パウロ会～22日］
＋ヤコブ平田勇［西新教会1980］
＋W.シュルツ［吉塚教会1987］
22日（火）マグダラの聖マリア
25日（金）聖ヤコブ使徒
＋J.ラグレブ［門司天使園園長1982］
＋J.ブルトン［呼子教会1957］
26日（土）聖ヨアキム・聖アンナ
27日（日）＋L.ルリエ［聖小崎育児園園長1970］
29日（火）聖マルタ
31日（木）聖イグナチオ・ロヨラ
＋聖ヨハネ平田惣五郎［浄水通教会1989］

■印は本面に詳細説明あり

■**ロザリオへのおさそい**　［日時］毎水曜日11時30分～［場所・問合先］美野島司牧センター☎0092・431・1419
■**韓国語によるミサ**　［日時］毎月第1、第3日曜日10時30分［場所］聖パウロ修道会福岡修道院聖堂［問合先］尹汝沃神父☎0942・33・6274（司祭館）FAX 34・3115（聖マリア病院）
■**聖書講座―ガラテヤの信徒への手紙・前期**［日時］毎週金曜日19時～20時45分（7月11日まで）［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［日時・題・講師］⑤6月6日・律法によるか、信仰によるか・白浜満神父⑥13日・律法と約束、奴隷ではなく神の子・青木悟神父⑦20日・キリストが形づくられるまで・同⑧27日・キリスト者の自由・櫻井尚明神父⑨7月4日・霊の実と肉の業・牧山強美神父⑩11日・信仰に基づく助け合い、結び・同［受講料］1回毎800円［申込方法］教区本部事務局に氏名、電話番号、所属教会をお知らせください。当日申し込み可。［申込・問合先］教区本部事務局☎0092・522・5139
■**佐賀新聞文化セミナー**　［日時］第2、4土曜日15時～16時30分［テーマ］聖書流人間関係12カ条［場所］佐賀玉屋教室［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父［受講料］三カ月6回で7200円（プリント料300円）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー玉屋教室☎0952・28・0371「日時・テーマ」⑤6月14日・神や人に対する感謝の気持ちを表す⑥28日・心の喜びを表す（まず、どういうふうにして、いつも喜ぶことができるかということを考える）⑦7月12日・人を正直に褒める⑧26日・人の立場になってみて、人を理解する⑨8月9日・「天にましますわれらの父よ、われらが人にゆるすごとく、われらの罪をゆるしたまえ」⑩23日・自分が損しても、人に役立とうとする（小さな親切運動、など）⑪9月13日・「人を裁くな」とキリストが言われた。人の悪口を言わず、人の善行を第三者にも紹介する⑫27日・社会を明るくするために活動するすべての人々と協力する
■**講話と祈りの集い―幼いイエスの聖テレジア逝去一〇〇年記念、準備―**　テレジア帰天一〇〇年を迎えるに当たって、テレジアとともに教会のこと、宣教のことなどを祈り、学ぶ小さな集いを計画しております。皆様のご参加をお待ちしております。［日時］⑨7月16日（水・カルメル山の聖母の祭日）13時30分～ミサ（松永司教）・茶話会⑩8月24日（日・教会博士の称号を受ける）13時～記念講話と祈り［講師］カルメル会司祭⑪9月21日（日）13時～記念講話と祈り［講師］星野正道神父（カルメル会）⑫10月5日（日）13時30分～聖テレーズ帰天一〇〇年記念ミサ（松永司教）・茶話会［場所］福岡カルメル会修道院、テレサの家［問合先］同右☎FAX 0092・807・7361
■**聖霊の照らし、導き、愛を豊かに受ける祈りの集い**　［日時］毎週月曜日10時～12時（6月23日まで）［場所］カテドラル大名町教会［参加費］献金［主催］聖霊による刷新祈り会福岡［テーマ・講師］④6月2日／神の賜物の受領・ドワイヤ神父⑤9日／聖霊の満たし・マッケイ神父⑥16日聖霊のうちでの成長・青木悟神父⑦23日《ミサ》キリストの証人・松永久次郎司教他司祭一同［申込・問合先］司教館・ブラザー床島☎0922・5222・5139
■**第4回短期キリスト教講座「生きるとは」**［日時］毎週火曜日（全6回、6月17日まで）10時～11時45分・19時～20時45分★昼の部はベビーシッターあり［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［受講料］一講座500円（当日、受付にて）［主催］短期キリスト教講座福岡実行委員会［申込・問合先］各教会・カトリック福岡司教館（受付／平日10時～16時）☎0922・5222・5139 FAX 5223・2152、当日申し込み可［日時・テーマ・講師］④6月3日・生命にとって大切なこと・倉元涼子医師⑤10日【午前】殺人と人間の死・古川泰龍住職【午後】キリスト教と教育の原理・オチョア・サトルニーノ神父⑥17日【午前】子供は大人を創る為に生きている・三村邦明神父【午後】キリスト教と教育の原理・オチョア・サトルニーノ神父
■**第12回カトリック人生講座**［日時］毎週木曜日10時～11時30分（6月26日まで）［場所］佐賀カトリック幼稚園講堂［受講料］一講座700円［申込・問合先］佐賀教会☎0952・23・4754 FAX 23・4929［日時・テーマ・講師］④6月5日・喜びの人生・アレグリーニ・アレグリーノ神父⑤12日・願われて、守られて今ここに・熊谷勝住職⑥19日・医療ボランティアに関わりながら―人の交わりを通して・小林朝子氏⑦26日「一粒の麦にならって」―茶話会と修了式―・マルコ・ターディフ神父
■**福岡生と老い・死をみつめる会**　［日時］6月29日（日）14時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［テーマ］L・M・D（Let me decide）について［講師］二ノ坂保喜氏（にのさかクリニック院長）［会費］500円［問合先］事務局（大山美穂子☎FAX 0092・713・8523／村尾嘉道☎607・6992）
■**典礼・聖歌と祈りの集い**　［日時］6月1日（日）14時～17時［場所］福岡黙想の家［聖歌指導］深堀純［参加費］100円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎0940・32・3222
■**北九州教会学校リーダー研修会**　二〇〇〇年の大聖年を迎えるにあたり、大人も子供も共に、よい準備ができるために［日時］6月2日（月）10時30分（受付10時）～15時［場所］カトリック小倉教会［講演と実技］父なる神への歩み―やる気を育てる［講師］岡俊朗神父［参加費］1000円と弁当代500円（希望者）［問合先］シスター館林☎093・871・1166 FAX 882・6872
■**福岡地区信徒使徒職協議会代表者会議**　［日時］6月8日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会3階会議室
■**典礼聖歌研修会**　［日時］6月8日（日）13時～15時30分［場所］大楠教会［参加費］献金
■**カテキスタの集い**　［予定日時］6月8日（日）／7月6日（日）いずれも13時30分～［場所］福岡カトリック神学院［問合先］同上☎092・531・6821 FAX 092・524・7373
■**黙想会　聖母奉献修道会創立200周年記念**　［日時］6月14日（土）15時～15日（日）16時［場所］御受難修道会福岡黙想の家［テーマ］イエスの最初の弟子マリアのように［指導］畠基幸神父［対象］18歳以上の未婚女性信徒［参加費］400円［申込・問合先］聖母奉献修道会福岡修道院シスター・テレーズ・モロ☎092・711・3327
■**カトリックの看護婦（士）研修会**　［日時］6月21日（土）17時～22日（日）15時［場所］福岡黙想の家［内容］①霊の動きを知ることにより、看護者の霊性を学び、霊的ケアを深める②平成10年9月の全国大会に備える［指導］平田寛神父（カトリック看護協会福岡支部顧問司祭）［問合先］シスター泉キリ江（イエズスの聖心病院）☎0962・352・7181 FAX 352・7184／シスター土田（聖母訪問会新田原修道院）☎093302・4・5570
■**典礼研修会**　［日時］6月29日（日）13時～17時30分［場所］カテドラル大名町教会講堂［テーマ］「わたしたちのミサ」―ミサをより豊かにするために［講師］国井健宏神父（御受難会・上智大学神学部教授）［会費］1000円［主催］教区典礼委員会［申込先］青木悟神父☎092・522・5139
■**SE・CO奉仕と分かち合いのボランティア・グループ第7回バザー**　［日時］6月15日（日）11時～14時［場所］聖心ウルスラ幼稚園［申込先］平井☎0940・32・3047／山下☎092・574・3787／武田☎552・4250／白壁☎552・1879／シスター高取☎512・0033
■**第3回九州ダルク支援フォーラム**　［日時］7月12日（土）13時～16時［場所］福岡県精神保健福祉センター（JR…春日駅下車徒歩3分、西鉄電車…春日原駅下車徒歩10分、バス…千歳町一丁目バス停下車）［テーマ］支え、支えられて［内容］ダルクの仲間の話し・シンポジウム「支え、支えられて」［主催］九州ダルクを支援する会［問合先］福岡県精神保健福祉センター☎092・582・7500

編集後記

コンピューターで編集を始めて一年が経つ。コストは大幅に減少したと思うが、編集にかかる時間はいっこうに短縮できないでいる。どなたか、編集作業を手伝ってくださる方はいないものか。ただし、条件は結構きつい。毎月20日以降、自由に時間が取れる人。つまり、夜中でも…となると、やはり誰もいないか。毎月下旬は地獄の日々が続く。まだまだ要領が悪いのだろう…自己嫌悪。それでも何とか出来上がっている。人々の助け。聖霊降臨祭も終わり、典礼は年間に戻った。なにやら淋しい感じ。「いつも主が共にいてくださる」ことを信じ、復活のローソクを心にいつも灯しながら励んで参りましょう。発送支援者にも感謝！

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

司祭研修会

召命促進のため司祭職を見直す
大聖年に向けて教区を整えるために

北九州

紀元二〇〇〇年の大聖年に向けて教区を整えるために、教区内の全司祭を対象とした研修会が、六月十日から十二日まで、北九州市で開かれた。今回は講師を呼ばずに、参加する司祭が、自分の司祭職を見つめ直すことによって、司祭召命減少に歯止めをかける糸口を探ろうとした。五つの分団会に分かれ、第二バチカン公会議の公文書に基づいて、各自の司祭職の見直しを計った。今後、さらに司祭的交わりが深められていく。

予定変更

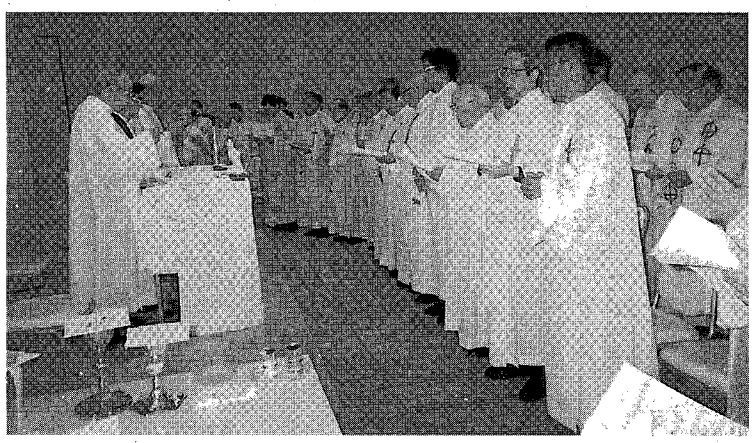
四月二十二日の司祭評議会の後、研修会を具体的に準備する五人の委員（準備会）が決められ、会の進め方が検討された。当初は、すでに本紙六月号で報告されていたように、司祭の召命促進について具体策を練るのが本会の目的であった。しかし、準備会では、どのようにして司祭志願者の数を増やすか、というよりも先に、今の司祭職の生き方を見直すのが先決問題と判断。第二バチカン公会議が出した『司祭の生活と役務に関する教令』を基に五つの分団会で意見交換がなされた。何らかの具体的な結論が出たわけではないが、司祭的交わりの中で、司祭職の原点を共に見つめ直したことは、将来の召命促進につながる、と考えられる。

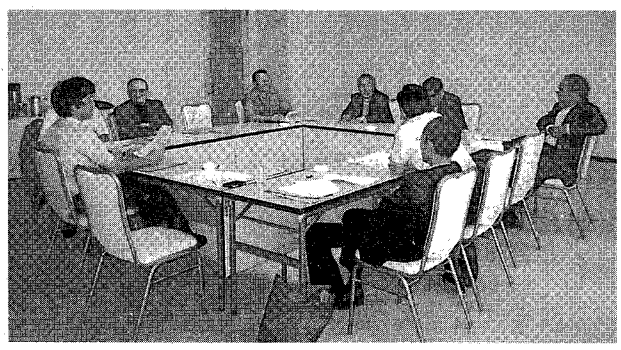
召命の現状報告

研修会の始めに、この会の方向づけと問題提起をするために福岡カトリック神学院の山元眞院長が基調講演をした。教区報六月号で報告されているように、ここ十五年間の神学生、司祭叙階数のデータなどを参考に、まず、召命の現状を報告。次いで以下のような召命減少の原因を提示。司祭と青少年との関わりの不足、家庭の（信仰）生活の状況変化、教会の社会への適応不足、司祭の魅力の不足など。これら諸原因の中で司祭が司祭の立場として自ら検討できるのは「司祭の魅力の不足」という点に注目。司祭職の原点を見つめ直すことが召命促進につながると強調した。

分団会で検討

基調講演を受けて、五十人の参加者が五つの分団会で司祭職の見直しを行った。このようなことは黙想会ですればよい、という声も出た。このような声は準備会において事前に予測されていたが、「司祭召命の数を云々する前に、まず、司祭の司祭としての生活の現状の見直しがどうしても必要である」、との強い方向づけの元、分団会が進められた（＝写真右）。

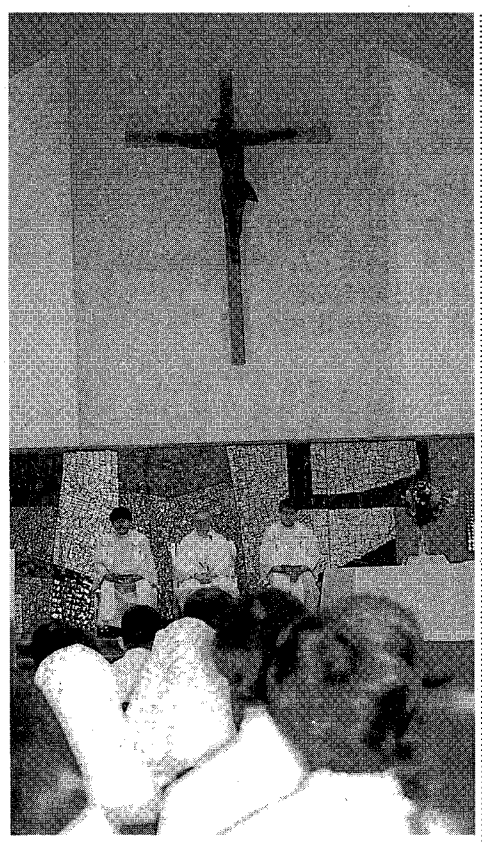




司祭の生活の見直しは第二バチカン公会議の公文書『司祭の生活と役務に関する教令』を基に行われた。以下の主な項目を参照した。「神の言葉の役務者、司祭たちの兄弟的一致と協力、司祭と信徒の関わり、謙虚と服従、貞潔と独身、財貨と貧しさ」など。

三回の分団会の後には、それぞれの分団会で討議された意見が全体会で発表された。今回の研修会の目的は召命減少の具体的対策を決定することではなく、召命減少の現実を踏まえて司祭各自が司祭としての自分の司牧宣教生活を見直すところにあった。それぞれの分団会では活発な意見交換、分かち合いが行われ、当初の目的は達成されたといえる。

閉会のミサ（＝写真上）では参加した司祭がそれぞれの個人的決心を奉納。教区長松永久次郎司教は以下のような所見を説教の中で述べた。「参加者がそれぞれのグループで忍耐と寛大な心で真剣に討議してくれたことに感謝する。この会にキリストが共にいてくださったことを感じ、感謝している。日頃から司祭同志の交わりと話し合い、分かち合いの機会をもっていただきたい。聖体の秘跡と教会を切り離すことはできない。個々の司祭が生きられるのは、神の召し出しと人間の協力があるから。今、司祭が求められているのは事実。司祭が足りないというのは現代の一つのメッセージ。司祭が足りないから信徒を養成しよう、というのは一つの敗北主義に見える。召命減少の現実を基に今の教会のあり方、今後の教会のあり方を考えなければならない。司祭職にはそれ自体魅力がある。今、司祭はそれを実際に生きることが求められている。明日のことを想いながら、今日の務めを果たしていくことが必要。経済的にも互いに兄弟の心をもって支えあっていこう。今日の研修会を今後の活動に生かしていこう。」



召命祈願ミサ

6月5日、有志の会である《召命を祈る会》主催で、福岡教区に豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われた。
次回は10月2日（木）19時45分から。

今月のみことば

わたしはぶどうの木
あなたがたはその枝である。
（ヨハネ15・5）

八代教会　J・ノーリス神父

時の話題

藤田　弘美

チームワークは大きな力

きょうびの中学生は、塾や部活動で大人顔負けの忙しさである。朝からのあくびも、決してめずらしい光景ではない。しかし、彼らは良い意味でも悪い意味でも、本当に幼くなった。「学校」という場であるからこそ、「誠実」とか「誠意」とかが生きる所であってほしいと思うのであるが、その幼さ故に裏切られ、失敗することは度々である。

それでも年々子どもたちがかわいく思えてくるのは、自分自身が年をとっている証拠かもしれない。

さて、もうひと昔以上前になろうか。「校内暴力」という言葉が世間で云々されていた頃に比べると、見た目には落ちつき、「授業が成り立たない」というようなことは、ほとんどなくなった（もちろんすべての学校がそうであるということではなく、総体的なこととして）。しかし、私たちが毎日直面している「いじめ」「不登校」などの問題が、以前に比べ決して軽いものになったわけではない。

これらの問題を含め、様々な生徒指導の中で、常に感じることは、「家庭」の存在とわれわれ教師の在り方である。「家庭」の大切さは言うまでもない。もう一つの教師の在り方とは、個々の教師の頑張りもさることながら、一つの学校なり、学年の教師集団の姿勢のことである。

子どもたちの目は鋭い。その鋭さは私たち教師の足並の乱れを見のがさない。毎日の授業や様々な学校行事の中で、今子どもたちの雰囲気はどうなのか、何が大切なのかを察知し、実行していくチームワークが大きな力となる。

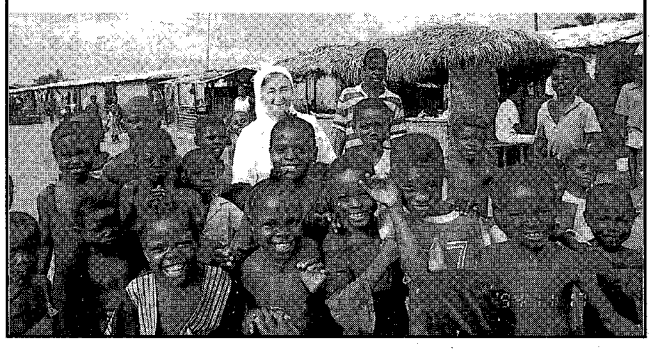
じみな作業も、いやになる話し合いもある。時には演技も必要だ。

様々な個性を持った教師たちと、しっかりスクラムを組んで、一人ひとりを見つめ、時に戦い、共に成長していければと思う。

（小倉教会・中学校教諭）

平和を祈る集い・平和祈願ミサ

日時：8月10日（日）13時～16時
講演会：叫び―沖縄から［福岡地区正義と平和協議会］
13時［カテドラル講堂］
講師：山田佳吾氏（沖縄カトリック文化センター館長・那覇教区正義と平和協議会会員）
【主催】福岡地区正義と平和協議会
ミサ：14時30分［カテドラル聖堂］Sr.根岸も参加
献金はアフリカのシエラレオネ援助のため
【主催】福岡教区・福岡地区信徒使徒職協議会



人事

大神学院の改革

この四月から福岡サン・スルピス大神学院の院長に就任した大山悟神父も研修会に参加。現在進められている大神学院の改革について説明。司祭の理解と協力を求めた。それによれば、今後は高校卒は原則として受け入れず、大学（四年制、二年制）もしくは専門学校を経た司祭志願者のみを受け入れることになる。

聖パウロ会修道士小川孝志は東京若葉修道院へ（サンパウロ販売部長）。塚本修治修道士（同若葉修道院より福岡修道院へ）

召命学校

対象：小学校4～6年生男子（中学生希望者も可）
日時：8月4日（月）15時～6日（水）昼食
場所：福岡カトリック神学院
参加費：2,000円（交通費は自己負担）
持参品：ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証コピー、筆記用具、水筒
定員：30人（定員になり次第締切）
申込・問合先：福岡カトリック神学院　山元　眞神父
☎092-531-6821　FAX. 092-524-7373

召命錬成会

対象：小学校4～6年生男子（原則として）
日時：7月20日（日）16時～22日（火）10時30分
場所：福岡・聖パウロ小神学校
参加費：1,000円
持参品：ロザリオ、洗面用具、着替え、保険証コピー、筆記用具
申込・問合先：聖パウロ小神学校　戸村　修神父
☎092-531-0924　FAX. 092-524-6169
◎申込締切は7月15日です

みちくさ

熊本県の人吉市で五月下旬に開かれた中学校のサッカー交流試合で、水俣市の二つの中学校のサッカー選手が、鹿児島、宮崎両県の選手から「チビ」とか「水俣病にかかるなよ」などと言われていたことが、六月七日、分かった。「試合に負けて悔しまぎれに出た言葉だが、今は保護者とともに反省している」と、鹿児島、宮崎両県の校長や生徒らは水俣市の中学校や市教委に謝罪した、という記事が、六月七日付西日本新聞夕刊に載っていた▼水俣病とは昭和二十八～三十五年にかけて水俣湾周辺地域で発生した有機水銀中毒による神経疾患で、当初はイタイイタイ病とも呼ばれていた。他の地域でも発生している公害病で風土病ではない。病名に土地の名がつけられるのはイメージダウンになる、と地元では他の病名に変えるよう運動したという話を聞いたことがあるが、辞典にも載っているところを見ると、いつの間にかこの病名が定着したのだろう▼スペイン風邪や香港ウイルスにハンセン病など、こういうものに人名や土地名がつくのは、誰しもいやなものにちがいない。それが差別をうむとなればなおさらだ。新大陸発見後ヨーロッパで蔓延した性病についてこんな話がある。人々は自分のことは棚にあげて、互いに隣国の名前を冠して呼んだ。いわくドイツ病、フランス病、イギリス病、スペイン病…コロンブスの出航国イタリアでは、ほかに持って行き場がなく、やれヴェニス病だ、いやナポリ病だとやり合った。人の気持ちは変わらない。自分勝手なものだ。（H）

司祭叙階50周年を祝う

NORRIS James（ノーリス）師／BASTID Claude（バスチ）師

J・ノーリス神父（八代教会）：聖コロンバン会／1947年7月27日司祭叙階
［赴任地：人吉・少年の町・手取・帯山・健軍・飯塚・八代＝福岡教区内のみ］
C・バスチ神父（黒崎教会）：パリ外国宣教会／1947年5月18日司祭叙階
［赴任地：戸畑（23年間）・小倉（15年間）＝福岡教区内のみ］

ノーリス神父の叙階金祝ミサに参加した、日向常子様（手取教会）からの報告を掲載します。

今年は、年の初めに、思いもかけなかったニュージーランドの旅をしました。この旅は、ノーリス師のご兄弟が企画なさった母国での金祝式典に招かれたものです。八人の信徒、カリー神父様とカレン神父様と一緒の六泊九日の旅でした。

叙階五十周年のお祝いのプログラムは三日間にわたりました。一日目は、ゴルフコンペ。二日目は、マオリ族の歓迎の式典と共同ミサ。三日目の日曜日が、神父様の郷里の教会で金祝ミサ。その中でも、先住民マオリ族の歓迎の式典に参加できたことは貴重な体験でした。

招かれたところは、マオリ族の城ともいうべき正式な集会の家でした。マオリ族独特の彫刻をした赤茶色の柱の組合せが、紺碧の空に美しかった。儀式は炎天下、その城の前の広場で荘厳に始まりました。マオリの装束をはおった酋長らしき人物の歓迎の長い挨拶が力強く響き渡り、聖歌隊の歌声も、言葉はわからないながら伝統的な素朴さの中に誠意を感じました。

儀式の終わりに、マオリと私たち一人ひとり互いに「キオラ」（？）と言葉を交わしながら、（握手ではなく）鼻先を二度くっつけて歓迎を受けました。

鼻を二度くっつけてごあいさつ「キオラ」

集会堂内に行列をもって導かれ、金祝の共同ミサがささげられました。先刻の酋長らしき人物は聖公会の司祭でした。ちなみに、マオリはカトリックと聖公会の信者が半々（先祖たちがそうしたとか…）。

この日のことは、神父様ご自身たいへん感動しておられたのですが、その訳は、翌月のニュージーランド・カトリック新聞を見せて戴いてわかりました。

《司祭の金祝を祝うため日本人が来た》という見出しで、日本人が参加したことが強調され、「ハイライトはマオリの式典で、マオリから正式に迎えられ、このようなミサがあったことは、今生存している人々の記憶では初めてで、その意味は、ロトルア出身のノーリス神父が、マオリの地元の首長として認められたこと」と記事に書かれていました。これは神父様の父上が、生前マオリの聖歌隊やオペラの指導をしたり、マオリと親交あつかったためで、儀式の中でもお礼のことばが述べられました。

さらに、あとで新聞記事の意味が分かったことは、日本人に対するニュージーランド人の感情には、戦後五十年以上経っている今も心の傷が残っている、ということでした。だから戦後日本で宣教五十年を貫かれた神父様を囲んで、あちこちの国の司祭、信者が、差別を超えて集まり、しかもマオリの城で神を賛美し、金祝のミサをささげたことは素晴らしい喜びなのです。これは主のみ業でなくて何でしょう！　神父様の喜びと感動の泉はここにあったのではないでしょうか。

最後の日曜日に九時から神父様の郷里のマリア教会で、地元の司教様も一緒に共同金祝ミサが捧げられました。私たちが日本から金祝の記念として、特製の博多織のストラを奉納しました。これは貴重な品としてたいへん喜んでいただきました。ミサの聖歌は、近代的で力強く美しかった。そんな中で、拝領中私たちも日本語の聖歌を歌わされ、「主は水辺に立った」を心をこめてどうにか歌いました。

ここに、ノーリス神父様のお喜びを、もう一つ加えましょう。金祝のこの年に、十二年前、健軍教会で洗礼を授けた遠山満君が、この四月二十六日に長崎で司祭叙階の秘跡を受けました。その記念品として五十年前にノーリス神父様が叙階記念としていただかれた《カリス》を遠山神父に贈られたとのこと。

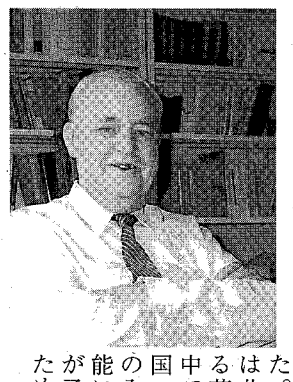
ノーリス神父様、本当におめでとうございます！　主のみ業は素晴らしい！！　復活の主に賛美！！

北九州で44年間

C・バスチ神父叙階金祝

人呼んで《信徒製造機》

北九州地区ではクロード・バスチ神父（パリ外国宣教会）の司祭叙階五十周年の祝いが、さる五月十八日小倉教会で、六月八日には黒崎教会で盛大に行われた。同神父は現在黒崎教会で二年前から助任を務めているが、一九五二年五月に中国から香港経由で来日以来、戸畑教会で二十三年間、小倉教会で十五年間司牧宣教に従事し、在日四十四年にわたり一貫して北九州地区での宣教と司牧に徹した。いわば北九州の顔的存在である。宣教師としての五十年間の授洗数は二千人にのぼるという。



生い立ち

日本の教会に多大の恩恵をもたらしたバスチ神父の生立ちをたどってみよう。

クロード・バスチ神父は一九二四年一月二十九日、パリの西郊外のヴィロフレで、五人兄弟の第三子として生まれた。父は弁護士であった。

一九三五年にベルサイユの聖ヨハネ中学に入学。同高校を経て、ベルサイユ教区大神学校へ入学した。「身体が弱く病気がちだったので、学校についての思い出はほとんどありません」と本人は語るが、ドイツ軍のパリ侵攻に際し避難するなど、苦労は多かったらしい。

一九四四年、宣教師を志してパリ外国宣教会に入会。パリ解放の年であった。

中国最後の宣教師として

一九四七年六月二十九日に晴れて司祭に叙階され、すぐローマ留学の予定であったが、きゅうきょ中国への派遣が決定された。当時中国は共産党による革命が進行中で、以後中国への宣教師の入国が不可能になることが予想されたためである。

マルセイユから船で香港へ向かう。同勢十二人。その中には、後に北九州で共に働くことになる徳山神父とモーゼ神父の姿もあった。「私のグループは、中国に入った最後のカトリック司祭団です」。

一九四八年一月、約四十日の船旅の後、香港に到着。広州から長沙を経て二千キロはなれた赴任地貴陽へ着いたのは五カ月後。貨物列車、車、人力車を乗りつぎ、疲れ果て、荷物は奪われて着の身着のままであった。

苦労はまだ続く。

一年の中国語研修を終えた頃、貴陽周辺を共産党が制圧し、司祭たちは市外への外出を禁止された。バスチ神父は仕方なく教会付近の家庭を訪問し、毎日勉強会を開き、同地での二年間の宣教で約四十人に授洗した。

一九五〇年、中国共産党から聖座との関係を絶つことを求められたが、これを拒否したため逮捕され、六カ月拘置。「その間、おもに夜中に取り調べを受けました。昼間は暇だったので、唯一読むことを許されていた『毛沢東語録』を借りて中国語の勉強をしました」。

追放されて日本へ

翌年一月、簡単な裁判で追放の判決。二人の兵士の監視つきで重慶、漢口を経て広州に向かう。その道中、朝から晩まで食事といえばタケノコだけ。「私はそれでタケノコが嫌いになりました」という。

春になって香港に入り、療養のため三カ月滞在し、新しい任地日本へ向かった。

一九五二年五月一日に横浜到着、東京、静岡、神戸と移動しながら北九州に落ち着き、一年の日本語研修の後、戸畑教会に赴任、四十四年にわたる宣教と司牧の生活が始まった。

戸畑、小倉両教会では幼稚園園長も兼任し、いつもパイプをくわえた堂々たる風格は、かつての園児たちのまぶたに焼き付いていることだろう。

典礼

ミサのこころ⑮『派遣』

「ミサ聖祭を終わります。行きましょう、主の平和のうちに。」―ミサの終わりに司祭が告げる結びのことばです。このあいさつのもとになっているラテン語の式文―《Ite, missa est.》〈行きなさい。解散（の時）です〉―の《Missa》（解散）ということばが、私たちが現在、頻繁に用いているミサということばの由来であると言われています。

ところでミサというこのことばには、単に「解散する」というだけではなく、「派遣される」という積極的な意味が込められていることに注意したいと思います。人類を救う神の御業を成し遂げるために、人となって地上にお下りになり（ヨハネ1・14）、そしてそれを十字架上の死によって全うされたキリスト（ヨハネ19・30）は、死者の中から復活して御父のみもとに昇天される時に、弟子たちに仰せになりました。「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28・19～20）。

キリストによって成し遂げられた救いの御業を代々に告げ知らせ、一人でも多くの人がこの恵みにあずかることができるように、弟子たちは宣教に出かけて行くことになります。ミサは、教会の宣教・司牧活動と不可分な関係にあります。いつの時代のキリスト者も、人類を救う神の御業がキリストによって成就されたことの記念であり、その秘跡的な再現であるミサを、教会活動の中心に位置づけて、宣教そして司牧活動に励んできました。第二バチカン公会議も『典礼憲章』の中で、「典礼は、教会のあらゆる力が流れ出る泉であり、教会の活動が目指す頂点である」（10番参照）と教えています。十字架上でご自分を奉献して、教会のあらゆる〈恵みの泉〉としてのミサを成し遂げようとしていたイエスの最後の祈りに、わたしたちは注意を向けたいと思います。―「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか。」―イエスの祈りがこのことばだけであったとすれば、私たちにはこの祈りが「絶望の叫び」のように聞こえます。しかし、このイエスの祈りにはその続きがあった、と聖書学者たちは指摘しています。それは詩編22です。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という嘆きのことばで始まるこの詩編は、次のような祈りで結ばれています。―「わたしの魂は必ず命を得、子孫は神に仕え、主のことを来るべき代に語り伝え、成し遂げてくださった恵みの御業を民の末に告げ知らせるでしょう」。―なんと驚くべき祈りでしょうか。イエスはこの詩編22をゆっくりと噛みしめながら、神の恵みの御業を成し遂げられたのです。

このすばらしい恵みの御業の記念であり、再現であるミサにあずかるわたしたちが、主が来られるまで力強く、主の死と復活を告げ知らせなければ、イエスのこの祈りは「敗北者の戯言（たわごと）」に終わってしまいます。「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたと共にいる」と弟子たちに約束してくださったイエスご自身が、わたしたちと共にいて、十字架上での最後の祈りを実現させるために働いてくださいます。ミサということばに〈派遣〉という意味が込められていることを思い起こしながら、イエスとともに〈イエスの最後の祈り〉を実現するために、生活の中で、〈ミサ〉を生きるように心がけていきたいと思います。（完）

福岡サン・スルピス大神学院
白浜　満　神父

第46回国際聖体大会巡礼に参加して①

吉田　正司

島本要長崎大司教様をはじめ総勢二十人、パパ様のお国に向かって出発する。全員祈りの旅の出発である。大会は『聖体と自由』をテーマに、約二週間、ポーランドのドイツ国境に近い都市ヴロツワフで開かれた。六月一日、その最後の締めくくりにパパ様のごミサがあった。当日はあいにくと冷たい霧雨が降ったが、約二十五万人もの人々がこのミサに与った。（＝写真）パパ様は説教の中で「ポーランドは共産主義の脅威が去った代わりに、放任主義的民主主義が浸水し、倫理の荒廃の危機にある」と厳しく警告された。

抑圧を堪え忍んできた民族の暗い哀れが互いに応答し合いながら、典礼聖歌で感動を深めゆく。聖体顕示の時の軍楽隊のトランペットの響き。赤、白、黄、金色のきらびやかな式服。ゆっくりと荘厳な司式者たちの立ち居振る舞い。まさに絢爛豪華、しかも荘厳に進行する。

ミサの会場を埋め尽くした人たちは皆、羊のように囲いの中にぎゅうぎゅう詰めに立ち、持参したパンを食べ、おしゃべりしながら雨の中を何時間でも待っている。従順な羊のような不思議な光景である。言葉は分からなくても、二時間でも三時間でも感動に身を任せ、飽きることなく与った。

五月二十九日午前十時、ハララルド会場で、大司教様による聖体行列の開会式に参加する。ごミサに与り、正十二時に御聖体行列に参加、カテドラルまで、約二キロの道程を歩いた。突然、太陽の周りに七色の虹が現れ、一箇所に十字架のしるしが現れた。周りの人たちは皆地に跪き、天を仰いで感涙のうちにお祈りした。初めての経験である。言葉にならない。

私たちのグループだけの、午後三時に教会集会所で、アガペの集いにあずかり、手振り身振りの楽しいひと時を過ごした。

（つづく・浄水通教会）

暑中お見舞い申しあげます。
☆『祈りの日』８月はお休みです。
９月９日より始める予定です、お電話でお確かめください。
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

新田原

信徒会館建築目指し バザーが大盛況

テレジア館

さわやかな風のなか、五月二十五日三位一体の主日に、新田原小教区（主任司祭竹森勇神父）は約一年半ぶりに大バザーを開催した。O－157の脅威も薄らぎ、賑やかさを取り戻した第三回目のバザーは、待ちわびたお客が殺到して売り子たちもてんやわんやの大賑わい。広さを誇る新田原小教区のこの会場も、約二千人を数える人出の中に、老司教会や北九州の各教会からも多数の兄弟が駆けつけ、まさに今回のテーマ「ふれあい・感動・みらい」が一度に実現されたようだ。［小教区をあげてバザーを開催したのは、一九三三年以来新田原小教区のシンボルとして親しまれてきたテレジア館（旧聖堂）も老朽化のために建て替えることになり、その工事で六月からは広場が使用できなくなるため、「キリストとの真の出会い」を求める意味でも、地域の人々とのふれあいをモットーに、活気あふれる「バザーが最適」というもの。］消えゆくテレジア館の想い出として、小教区の歴史や、写真等を展示して静かな一面も。

人・人・人で活気あふれるバザー会場

新しい信徒会館として生まれ変わるテレジア館のために、信徒が一つになり、新鮮な野菜をはじめ、手造りの焼きそばやカレー、餅等の食品、信徒の持ち寄った友愛品等、多彩にわたる商品を我先にと買い求める人々。市民バンドの演奏、小学生の歌や踊り、ビンゴゲーム等イベントが進む。天候にも恵まれ、沸き立つ感動のうちに、新しい信徒会館の未来に夢を託したバザーは大盛況のうちに幕を閉じた。

さようならテレジア館

お別れにラテン語ミサ 信徒会館を宣教の拠点に

さらに一週間後の六月一日、聖体の祭日には、前教区長平田三郎司教を迎えて旧聖堂との別れを惜しむ「ラテン語ミサ」が行われた。

平田司教が司式し、竹森勇主任神父、古木真理一神父（同小教区出身、サレジオ会司祭）、川上惣一神父（行橋教会主任）らが共同司式した。

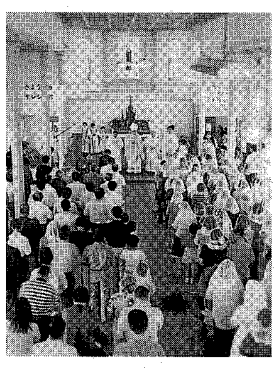
このミサには、糸島教会の信徒をはじめ、かつて旧聖堂で洗礼を受け、お別れに見えた方など、同小教区内外からの高齢者を中心に約三百人が参列し、旧聖堂は信徒で一杯になった。

ミサはできるだけ往時を再現するべく、一カ月前から往年の聖歌隊を中心としてラテン語ミサを準備した。当日は一般信徒も一体となり、なつかしいラテン語のミサ曲は新緑の風とともに流れる歌声が、さらに参加者に感動をあたえた（＝写真）。

平田司教は説教の中で「今、役割を終えて、新しい時代にふさわしい建物として建て替えられる信徒会館を信徒が一丸となって、地域に開かれた宣教の拠点として、また、子供たちの召命のために役立ててほしい。」さらに、「皆さんは、この世のものにとらわれないで、神の国に向かって人生を送るという人生の目的をはっきりと持っており、このすばらしい精神を子供たちに伝えてほしい」と話した。

ミサ後参加者全員で旧聖堂前にて記念写真をとり、広場での茶話会では、なつかしい人々との語らいのうちに旧聖堂に別れを告げた。

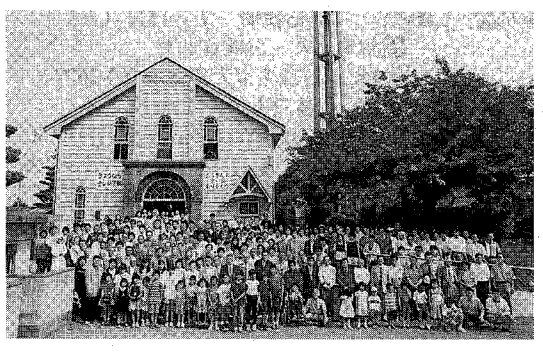
「さようならテレジア館・たくさんの想い出をありがとう」



教会学校リーダー研修会に参加して

井手公平

所属教会で突然教会学校の責任者を任されてしまった私には、初めてづくしの小倉教会と研修会であった。自分としては子供との接し方のノウハウを期待していたが、午前の部では方法論を云々することよりも、われわれ大人自身にも問われているテーマー福音の精神の内面化とでも言えようかーの重要性の再認識が強調されていたと思う。この唯物・快楽主義の世にあって苦難に対する忍耐、見えざるものへの希望、エゴからの解放をわれわれがまず心しなければならないし、実践しなければならない。



午後の部では、講師の岡神父様から実技として椅子に座ったときの姿勢の指導を受けた。禅的、気功的な姿勢とそれに伴う呼吸法は直接的に福音の精神とは関係ないにしても、健康・勉強・事務作業・瞑想等々に有効であろう。単に福音の解説、説教のみに頼るのではなく、身体を通しての指導というものも、信仰教育の助けとなるのであればどんどん取り入れるべきであろうし、子供にとっては特に有効であろう。

私は教会学校に初めて従事することになったが、教育関係の仕事をしているわけではないので、指導・教育については素人であるが、今回の研修は大いに参考になった。（佐賀教会）

実技指導は真剣そのもの

松永司教の講話録発行

福岡地区信徒使徒職協議会はこのほど『紀元二〇〇〇年の大聖年に向かって』という小冊子を発行した（B5判24頁）。これは同協議会が昨年九月に開催した研修会で、松永久次郎司教が行った講話録である。大聖年を迎える準備の指針として、ぜひ一読をお勧めしたい。希望者は各小教区窓口へ。

徹夜聖体礼拝で紀元2000年の準備

カテドラルでは、聖体の祭日（六月一日）の前夜七時のミサに引き続いて翌朝七時のミサまで徹夜で聖体礼拝を行った。

司牧生活三カ月

大神学院を卒業し、四月に「よろしくお願いします」と挨拶して大名町教会に着任させていただきました。やるぞ！という希望もあり、一方で、役に立つどころか障害になってしまうのではないか、主任神父様や信徒の皆さんとうまくやっていけるのだろうか、などという不安もあり、正直に申し上げると、本当に複雑な心境で教会の門をくぐったことを覚えています。それから毎日があわただしく過ぎてゆき、あっという間に三カ月が経とうとしています。少しは慣れもできて、緊張が薄れたようにも感じています。

都会の喧騒の中にあっても、秘跡や要理だけでなく、カテドラルとしての雑用に追われる毎日。でも、初めての経験ばかりで、貴重な勉強をさせていただいています。その中でいつも痛感させられていることがあります。それは、神学校で何度となく言われていたことですが、自分は力のない小さな人間であること、でも、神様はその私をご自分の道具として使ってくださっているということです。本当に、いろいろな問題にぶつかりましたし、それに何ら対処できない自分がいました。ゆるしの秘跡において信徒の方々の悩みに直面し、共に涙したこともありますが、どうしたものかと内心おたおたすることが多々ありました。でも、不思議だなと、そして本当に神様がしっかりとお計らいくださったのだな、と体験することもたびたびありました。そのような中で、神様は本当にいると改めて感じ、そのことを伝えることができればと頑張っています。

でも、同時に、主任神父様をはじめ、皆さんが私を司祭として受け入れてくださり、支え励ましながら、育てようとしてくださっているという温かさに包まれていることも強く感じています。私のような若造に仕事を頼まれる方、説教を聞いてくださる方、ゆるしの秘跡を頼まれる方、祈ってくださる方…。司祭になったから偉くなるのではない、本当に道具として、皆さんと共に支え合いながら旅をしていく者になったのだと感じる毎日です。

司祭叙階の記念に選んだパウロの言葉「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」ということは本当に難しいですが、初心を大切にして、これからも歩んでいけたらと思い、汗を拭きふき、努力している今日この頃です。

大名町教会　田中重治神父

御寄付御礼

アガタ楠本ユク様

聖パウロ会の楠本正良修道士の母堂。五月三十日に佐世保市相浦の病院で帰天。享年83歳。

水田ふじ子様、および教区信徒協・修女連合同25周年記念祭実行委員会様より、司祭養成のためにご寄付をいただきました。ここにご報告し、心より御礼申し上げます。

福岡カトリック神学院
院長　山元　眞神父

「信徒の霊性」10周年合宿

隣人が他人になるとき、他人が隣人になるとき

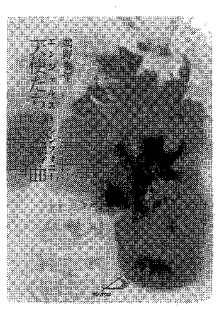
“友だちだと思っていたのに冷たいなあ”
“知らない人なのにとても親切だった”
“可愛がって育てたのに離れていった”
“目覚めたらあの嫁が微笑んで見ていた”

私たちの生活の中では期待されている人からは得られず、思いがけない出会いによって豊かにされるときがあります。この現実を分かち合い、キリストのみことばを通して、ともに学び、祈りたいと思います。

日時： 8月15日（金）15時（受付14時～）～17日（日）12時
会場： 御聖体の宣教クララ会　中軽井沢修道院
会費： 20,000円
定員： 80人（定員になり次第締切）
企画担当： 「信徒の霊性」スタッフ　代表　森一弘
申込方法： 官製はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、所属教会を明記し、下記まで
申込先： 〒107 東京都港区赤坂8-12-42
☎03-3479-3603
聖パウロ女子修道会「信徒の霊性」係（清家・牧山）

BOOK 読みは専科

★天使たちの交響曲　鵜野泰年著



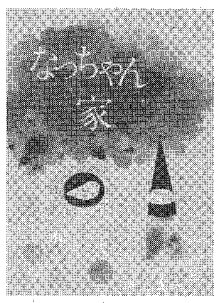
著者は、「聖母マリアの交響曲」奇しくも、六年前の八月十五日聖母の被昇天の大祝日に出版しているので、この書は第二弾ということになる。

「家庭の友」に連載しているものをまとめたもの。タイトルについては、「私の周りにいるたくさんの人びと、ある時は預言者のように、ある時は神の使いのように私を支え、励ましてくれた彼らを神に仕える天使になぞらえ、《天使たちの交響曲》としたのです」と著者は語る。著者の信仰あふれる心の手紙をおすすめしたい！

サンパウロ　税別一二〇〇円

◇　◇　◇

★なっちゃんの家　あんばいこう著



明るい笑い声の絶えなかった雪国の小さな町の家族に、ある日突然の不幸が…。長女の不慮の事故でずたずたに切り裂かれた家族のきずなと希望―。

寝たきりの長女をかかえてどん底の不幸からはい上がろうとするお母さんと家族の奮闘が長女の目をとおして描かれている。弟大輔くんは中学二年の時、秋田県の「感動体験発表会」の時に姉のことを作文に書いて「賞」をとり『なっちゃん』という絵本になった。大きな障害に出会った家族が苦しみを乗りこえてほんとうの幸せを発見していく、家族で読める、感動的な物語。

女子パウロ会　税別一三〇〇円

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家　7・8月

◇4日（金）～13日（日）　修道女のための8日間の黙想
◇14日（月）～16日（水）　小牧者訓練セミナー
◇21日（月）～23日（水）福岡女学院中学修練会
◇25日（金）～27日（日）　日本心身医学協会
◇28日（月）～8月2日（土）コンベンツアル聖フランシスコ修道会黙想
◇8月2日（土）～3日（日）からし種の会の集い
◇6日（水）　ミカエル会
◇7日（木）～16日（土）　幼きイエズス修道会黙想
◇17日（日）～23日（土）　サレジオ会黙想
◇26日（火）～28日（木）　第31回禅とキリスト教懇談会
◇29日（金）～30日（土）　泰星学園職員研修
◇31日（日）～9月5日（金）オブレート会黙想

［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222
FAX 0940・32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■黙想会
①7月25日（金）～30日（水）《クラウディオ神父》講話は30日までですが、その後個人で黙想を続けることが出来る。
②8月3日（日）～11日（月）《フランコ神父》
③8月17日（日）～25日（月）《フランコ神父》
・最初の日17時～最終の日朝のミサ後
・部分参加可能
・参加費：①35,000円
　　：②と③45,000円
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

参加者募集

オブレート会　サマーキャンプ

テーマ　GROWING
期　間　8月7日（木）午後2時集合～10日（日）午後解散
場　所　カトリック古賀教会内　福岡県粕屋郡古賀町花見東2-23-1
対　象　小学生高学年（5、6年）・中学生の男子カトリック信徒（高校生・大学生・社会人の方々もリーダーとして可）
参加費　6,000円　　申込締切　7月15日（火）

■お申込み・お問合わせ
〒468　名古屋市天白区中平2-2627
オブレート会修学院
堀内亜紀夫／Bro.八木信彦　☎052-805-3918
オブレート会召命係

会合と催し

教区年間テーマ：キリストとの真の出会いを求めて

7月

3日（木）聖トマ使徒
　＋フランシスコ・X平田正喜［老司教会1994］
4日（金）聖書講座［カテドラル19時］⑨（～11日）■
11日（金）聖ベネディクト修道院長
15日（火）聖ボナベントゥラ
16日（水）カルメル山の聖母［司教ミサ：13時30分］■
20日（日）海の日
　召命錬成会［聖パウロ会～22日］
　＋ヤコブ平田勇［西新教会1980］
　＋W.シュルツ［吉塚教会1987］
22日（火）マグダラの聖マリア
25日（金）聖ヤコブ使徒
　＋J.ラグレブ［門司天使園園長1982］
　＋J.ブルトン［呼子教会1957］
26日（土）聖ヨアキム・聖アンナ
27日（日）＋L.ルリエ［聖小崎育児園園長1970］
29日（火）聖マルタ
31日（木）聖イグナチオ・ロヨラ
　＋聖ヨハネ平田惣五郎［浄水通教会1989］

■印は本面に詳細説明あり

★今月号は7月・8月の合併号です★

8月

4日（月）聖ヨハネ・マリア・ビアンネ
　＋M.ボヌカズ［田川教会1991］
　召命学校［福岡カトリック神学院～6日］
6日（水）主の変容
　平和旬間（～15日）
　＋E.ベノア［門司港教会1962］
8日（金）聖ドミニコ
　＋P.マルケシーニ［待労病院付1980］
10日（日）平和を祈る集い（カテドラル講演：13時～／**平和祈願ミサ14時30分～**）
12日（火）＋A.ブルトン司教［第2代福岡教区長1954］
　＋J.オサリバン［熊本地区長1983］
13日（水）教区和田墓地開放（～15日）
14日（木）聖マキシミリアノ・マリア・コルベ殉教者
　＋ミカエル平木村義巳［馬渡島教会1967］
15日（金）聖母の被昇天
　平和旬間最終日：**教区和田墓地ミサ（14時）**
　佐賀納骨堂［金立町］ミサ（8時）
　北九州カトリック納骨堂［湯川］
19日（火）＋ステファノ川口康頼［小神学校校長1991］
22日（金）天の元后聖マリア
27日（水）聖モニカ
　福岡地区婦人会感謝ミサ（カテドラル10時）
28日（木）聖アウグスチヌス司教
29日（金）洗礼者ヨハネの殉教

■ロザリオへのおさそい　［日時］毎水曜日11時30分～［場所・問合先］美野島司牧センター☎092・431・1419

■聖書講座・後期―エフェソの信徒への手紙　［日時］毎週金曜日19時～20時45分（12月5日まで）［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［日時・題・講師］①9月19日・エフェソの信徒への手紙の著者、作成年代、場所、構成と教え・松永久次郎司教②26日・キリストによる霊的祝福と祈り・同［受講料］5000円／1回毎800円［申込方法］教区本部事務局に氏名、電話番号、所属教会をお知らせください。当日申し込み可。［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139

■カテキスタの集い　［日時］9月7日（日）13時30分～［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（福岡カトリック神学院院長）［会費］500円［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX524・7373

■佐賀新聞文化セミナー　［日時］第2、4土曜日15時～16時30分［テーマ］聖書流人間関係12カ条［場所］佐賀玉屋教室［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父［受講料］三カ月6回で7200円（プリント料300円）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー玉屋教室☎0952・28・0371［日時・テーマ］⑦7月12日・人を正直に褒める⑧26日・人の立場になってみて、人を理解する⑨8月9日・「天にましますわれらの父よ、われらが人にゆるすごとく、われらの罪をゆるしたまえ」⑩23日・自分が損しても、人に役立とうとする（小さな親切運動、など）⑪9月13日・「人を裁くな」とキリストが言われた。人の悪口を言わず、人の善行を第三者にも紹介する⑫27日・社会を明るくするために活動するすべての人々と協力する

■講話と祈りの集い―幼いイエスの聖テレジア逝去一〇〇年記念、準備―　テレジア帰天一〇〇年を迎えるに当たって、テレジアとともに教会のこと、宣教のことなどを祈り、学ぶ小さな集いを計画しております。皆様のご参加をお待ちしております。［日時］⑩7月16日（水・カルメル山の聖母の祭日）13時30分～ミサ（松永司教）・茶話会⑪8月24日（日・教会博士の称号を受ける）13時～記念講話と祈り［講師］カルメル会司祭⑫10月5日（日）13時30分～聖テレーズ帰天一〇〇年記念ミサ（松永司教）・茶話会［場所］福岡カルメル会修道院、テレサの家［問合先］同右☎FAX092・807・7361

■精神保健夏期講座「こころを開くとき」　［日時］7月25日（金）・26日（土）10時～16時［場所］クローバープラザ（JR…春日駅徒歩2分、西鉄電車…春日原駅下車徒歩10分、バスならば…千歳町1丁目下車）［内容］25日（金）講演①子どもたちの居場所とこころのありか・南博文（九州大学助教授）／②アニマル・セラピーとは何か―人間と動物の新しい関係を考える・横山章光（精神科医）／26日（土）分科会①（講演会）午前・園芸セラピー―植物とのふれあいで得られるもの・嶌紗穂美（大分短大助教授）／午後・「成長曲線からみる子どものからだと心の発達―小児科診察室からこどもの心身の問題を考える・一木貞徳／分科会②グリーフ・ワーク―深い悲しみを癒す作業・水澤都加佐（アスク・ヒューマン・ケア研修相談室長）／分科会③あそび表現　仲間と・内山昇（演出家）／分科会④サイコドラマ・大山和宏（ソーシャルワーカー）［主催］福岡県精神保健協会他［会費］3000円（分科会②参加希望者は4000円）［締切］7月18日（金）先着300名［問合先］福岡県精神保健協会☎FAX092・584・8720

■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］7月27日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［テーマ］講話「死と精神医学」と語り合い／死別体験者との語り合い［講師］三木浩司氏（久留米医大神経精神科助手）［会費］500円［問合先］事務局（大山美穂子）☎FAX092・713・8523／村尾嘉道☎607・6992）＊8月は休会

■中学・高校生の長崎平和巡礼　26聖人の殉教四〇〇年にあたり、聖人をしのびながら、長崎に巡礼します　［日時］8月4日（月）～5日（火）［対象］中学・高校生［定員］20人［宿泊先］カトリック中町教会［参加費］3000円［持ってくる物］4日昼の弁当、ロザリオ、着替え、洗面道具、筆記用具［申込締切］7月27日（日）［問合先］中村彰神父（大楠教会☎FAX092・521・6946）

■北九州カルメル在俗者会黙想会　［日時］8月24日（日）16時～27日（水）13時30分［場所］聖テレジア修道院（大分黙想の家）［テーマ］生命なるイエズス―創造において、現世において、永遠において［指導］カルメロ神父（カルメル会）［参加費］17000円（当日納入）［携帯品］［教会の祈り］（お持ちの方）、着替え、洗面道具、筆記用具［申込締切］8月11日（月）［申込・問合先］中野清江☎FAX0993・931・0190

■第69回福岡結婚準備セミナー　［日時］9月13日（土）～10月9日（木）毎土曜・木曜日19時～21時20分・全8回［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎0922・541・6207 FAX552・5022

■福岡地区研修会（信徒協）　［日時］9月15日（月）10時～［場所］カテドラル大名町教会

■第54回熊本結婚準備セミナー　［日時］9月16日（火）～10月13日（月）毎火曜・月曜日19時～21時20分・全8回［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX（カトリックファミリーセンター）092・552・5022

■第10回短期キリスト教講座熊本―生きがいをさがそう！　［日時］9月19日～10月31日毎週金曜日（全7回）10時～12時・19時～21時［場所］手取教会［題・講師］①災害の中で教会は何が出来るのか・神田裕神父

★午前の部のみ②「生きがい」―兄と弟との違い（ルカ15）・静一志神父③「ザ・人間」（ルカ福音書15章から）・坂本憲治牧師④出会いと別れ、そしてホスピスへ・葉山武志医師⑤いのちになる―私が私であること・シスター入江純子⑥信じる者になりなさい（ヨハネ20、27）―文化と信仰・L・メネガッツォ神父⑦人生は神様が書かれた脚本―病まなければ・井出隆氏／ティーパーティー［受講料］講座全体で1000円［申込・問合先］手取教会カトリック案内所☎096・322・7948

■第6回カトリック障害者連絡協議会広島大会　［期日］9月27日（土）～28日（日）［会場］27日（土）14時～21時広島ガーデンパレス／28日（日）9時30分～14時20分世界平和記念聖堂（幟町教会）［テーマ］障害の重荷をともに担える日をめざして―あなたの声が聞きたい［内容］27日（土）基調講演「障害の重荷をともに担える日をめざして」（本田哲郎神父）／28日（日）ミサ他［主催］広島大会実行委員会［締切］7月18日（金）［申込・問合先］第6回カ障連広島大会事務局（観音町教会）☎082・231・5547 FAX231・3202

■教区信徒使徒職協議会役員会　［日時］9月28日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会

日本カトリック研修センター

◎ヤング海外体験学習―フィリピンへ―「アジア体験」の第一歩として　［日時］8月20日（水）～29日（金）［行先］フィリピン（マニラ＝最古の教会／東洋最古の大学／史跡／戦跡他）［目的］ホームステイを通しての異文化体験。東洋唯一のカトリック国の教会活動の学習。アジア体験の第一歩として、現地の青年たちとの交流［対象］青年信徒／教会やミッションスクール等の紹介による未信徒（高校生以上）／大人若干名［定員］15名［引率］松田清四朗神父他、当センター職員［費用］157500円

◎典礼研修コース・ミサ―具体的奉仕のあり方、究極の分かち合い　分かち合われたキリストの「いのち」こそミサである。ミサにおける種々の奉仕の具体的展開。典礼音楽、およびオルガン奉仕・指揮法などについて学ぶ。典礼の豊かさの表現他。［日時］9月11日（木）～14日（日）［費用］31500円［申込・問合先］日本カトリック研修センター☎052・831・5037 FAX831／5317

編集後記

例年、八月、九月号を合併号とし、実際には九月号を休刊としておりました。今年は七月、八月号を合併号としました。そのため、発刊が遅れ、読者の皆様にはたいへんお待たせいたしました。先月号で編集SOSを出しましたところ、さっそく複数の方が応えてくださいました。夏休みの間に態勢を整えて今後に臨みたいと思います。よろしくご支援をお願いいたします。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

8月10日　平和を祈る集い
正義と平和は赦しから
講演と祈願ミサに六〇〇人
献金はシエラ・レオネの子供たちへ

カテドラル

今年の平和旬間（八月六日～十五日）の催しとして、八月十日にカテドラル大名町教会で「カトリック平和を祈る集い」が開かれた（＝写真）。

第一部は福岡地区正義と平和協議会主催の講演会がカテドラル講堂で約百六十人を集めて行われた。今年は山田圭吾氏（沖縄カトリック文化センター館長・那覇教区正義と平和協議会会員）が「叫び―沖縄から」と題して、午後一時から約一時間にわたって沖縄の状況を「差別」という観点から基地問題などにもふれながら講演した。

その中で山田氏は、「沖縄の人たちは英語が話せるのでしょうね」といまだに聞かれる時があります。基地やその関係者との事故やトラブルはもっと頻繁に起こっているけれど、こちらの紙面には出ていないようです、などと国内でも沖縄についての情報が不足している点も指摘された。

講演には、北九州や佐賀地区からも参加者がいた。

山田氏の講演には多数の聴衆がつめかけた▲

第二部は午後二時三十分から、カテドラル聖堂で平和祈願ミサが福岡市周辺の司祭十六人とともに教区長松永久次郎司教主司式でささげられた。滞日、在日外国人を含め、約六百人が参加。聖書朗読、共同祈願、聖歌は韓国語、タガログ語、英語、スペイン語、日本語で行われた。

ミサ中の説教で松永司教は、教皇メッセージを引用しながら、正義と平和、自由、奉仕、愛の根本は赦すことにある、と強調。正義の難しさに触れながらも、とにかく「先に赦す」ことの大切さと必要性を説いた。

この日のミサ献金は、貧困と紛争の中にあるシエラ・レオネ（西アフリカ）の子供たちへの教育活動のためにささげられた。

シエラ・レオネでは去る五月クーデターが起こり、首都は戦場と化した。現地でその惨状を目のあたりにし、つくづく自分の無力を痛感したというシスター根岸美智子さん（御聖体の宣教クララ会）はミサのあと、参列者たちを前に現地の模様を生々しく語り、感銘を与えた。

「アフリカには武器をつくっている国は一つもありません。武器がアフリカに入ってこなければ、平和で、親しみやすい素朴な人たちばかりなのです。」

シスターの話には、長年アフリカで宣教活動に関わる中で体験しているアフリカの悲哀と共に、未来への明るい希望にもあふれていた。

ミサ後、ロビーで茶話会。ロビーにはシエラ・レオネのパネルが展示されていた。

◀共同祈願は五カ国語で行われた

▶シエラ・レオネへの献金を感謝し現地での体験を語るシスター根岸

今月のみことば

私は異邦人のためにキリスト・イエスに仕える者となり、神の福音のために祭司の役を務めている　（ローマ15・16）

黒崎教会　C・バスチ神父

西日本宣教大会'99を開催
ザビエル・サミットで決定

宣教精神の高揚を図る
広島・九州地区の司祭が対象

聖フランシスコ・ザビエルの渡来四百五十周年を二年後にひかえ、ザビエルにゆかりのある長崎、鹿児島、大分、広島の四教区の教区長が七月二日、長崎大司教館で第九回「ザビエル・サミット」を開き、「西日本宣教大会」を一九九九年八月十五日以降に開催することを決定した。この四教区合同サミットはこのため、福岡、那覇両教区にも協力を呼びかけるとともに、同大会開催に関する趣意書を関連教区の信徒、修道者、司祭あてに発表した。

当日の会議で確認された事項は次の通り

1　「西日本宣教大会」の開催理由とそのねらい

(1)ザビエル渡来四百五十年を記念して、日本の宣教史を学ぶ（回顧）。

宣教開始からのキリシタン時代の宣教方法とその熱意をキリシタン史家によって浮き彫りにしてもらう。それに基づいて、キリシタンたちの信仰の在り方を見つめ、今日までの宣教の歩みを正しく評価して、沈滞気味な現代日本の教会の宣教精神の高揚を図る。

(2)現代の日本社会を分析し、二十一世紀に向けて新しい宣教への手がかりとする（展望）。

現代社会の深層と日本人の精神構造を、専門家によって分析した上で、諸宗派との対話も含む新しい宣教への手がかりを切り開き、展望を打ち出す。

(3)大聖年への準備として、教区を超えた宣教への協力を推進する。

教区レベルでは、それぞれ大聖年のテーマに沿った取り組みを行っているが、いろいろな点で力の限界を感じているのではないだろうか。個別的な力に頼るのではなく、教区、修道会、宣教会の枠を超えたところで、地方レベルでのより効果的な宣教への協力推進を図りたい。これがまた、教皇の呼びかけにこたえる大聖年への準備となるように位置付ける。

2　開催の日程

一九九九年八月十五日以降で、大会の期間は三日間。場所、講師などはいずれも未定。主たる対象は「司祭」（教区、修道会・宣教会）とし、三日目に修道者と信徒の代表がこれに加わる。

一日目が勉強会（講演を聴く）、二日目は講演を基にした参加者の討議、三日目に大会となっている。

「西日本宣教大会」開催に関する趣意書

信徒、修道者、司祭各位

一五九四年八月十五日、聖フランシスコ・ザビエルは日本の地に「キリスト宣教」の第一歩をしるしました。それは、神の御子と人類が初めて出会った「キリストの誕生」の、日本における、いわば再現であります。ザビエル以来、その後継者である幾多の宣教師たちの尽力のもと、厳しく長い迫害のあらしの中でも、蒔（ま）かれた福音の種は確実に根付いていきました。日本二十六聖人殉教者をはじめ、数知れない殉教者たちはその宣教の「尊い実り」として位置付けられます。そして今、信仰の灯（ともしび）は消えることなく私たちに受け継がれています。さらにこの「灯」を大きく、強くして、後世に伝えていかなければならないと考えます。

一九九九年は、「ザビエル渡来四百五十周年」に当たります。日本の社会にとっても、重要な歴史的節目になります。宗教的な面から見ますと、ザビエルの渡来は、キリスト教と日本古来の諸宗教との出合いをもたらし、文化的な面からは、ヨーロッパ文化と日本古来の文化との出合いをもたらした交流の始まりとなりました。

私たちは、今いただいている信仰の恵みに大きな感謝の心を持ちながら、「西日本宣教大会」開催を通して四百五十周年の記念祭を挙行したいと考えております。

「西日本宣教大会」は、来る二〇〇〇年の大聖年を迎える準備の一つとして位置付けております。したがって、大会のテーマは「新・福音宣教」に焦点を当てたものになります。過去の教会の歴史の中で、どのような宣教をしてきたのかを振り返り、紀元二〇〇〇年を前に見直しをし、二十一世紀に向かっての新しい福音宣教の展望を目的とします。それゆえに、教区を超えてこの大会を開催する必要があると考えます。このことは、まさに「インカルチュレーション」（福音の文化的受肉）と関連しています。

「人々の文化に教会が入り込むには長い時間が必要です。それは単なる外面的な適応の問題ではありません。なぜなら、『インカルチュレーション』とは、「人間のいろいろな文化の中にキリスト教を入れることや、キリスト教の中で融合することを通して、その文化の実際の価値を親しみをもって変容させる方法」だからです。ですから、その過程は根本的かつ総括的なもので、キリスト教のメッセージと、教会の考えや実践にも関係しています。」（教皇ヨハネ・パウロ二世回勅『救い主の使命』52番参照）

以上のような趣旨と動機付けをもって、「西日本宣教大会」を開催し、皆様のご理解とご協力を仰ぎながら、実りある記念祭にしたいと願っています。

主において、喜びのうちに。

一九九七年七月六日
「ザビエル渡来四百五十年祭」準備会

黒崎教会出身　浦善孝さん
司祭に叙階

黒崎教会出身のペトロ浦善孝さんが九月二十日午後二時に、麹町教会（聖イグナチオ教会・東京教区）で森一弘司教から司祭に叙階される。一九六三年七月二十五日生まれ。門司港で洗礼。北九州の大学を卒業後、一九八七年にイエズス会広島長東の修練院で二年間の修練。一九八九年初誓願を立てた。その後、上智大学神学部で三年間神学を学ぶ。泰星学園で二年間の中間期を過ごし、東京に戻り、再び神学の勉強を続ける。今年三月に助祭に叙階。

みちくさ

司祭の召命不足が叫ばれている。本紙でもたびたび司祭不足に関する記事が掲載されている。この秋にも司祭、修道者の召命を呼びかける黙想会がたくさん企画されている。今年の福岡地区信徒協の研修会も「召命」がテーマである。すでに呼びかけがなされているが、開催までにあとひと月もないのに、申込者数は二十にも満たない（八月二十六日現在）という。「司祭が不足している！」という声は確かに聞こえるが、いったいだれが、どこで叫んでいるのか、よくわからなくなったみたい▼この辺で整理しておく必要があるだろう。召命は神からの呼びかけである。呼んでいるのは神である。その声を聞くには、その声を聞ける環境が必要である。また、神が呼びかける人は限定されている。独身男女の信徒である。いちおう若者といってよい。とすれば、その点から司祭不足の問題を見直したらよいのではないか▼教会の青年離れ（青年の教会離れ、ではなく）。若者の信仰教育。司祭と青少年の関わり。小教区における青少年の「場」。神の声を聞く「参加したい典礼」の充実…などについて、早急に具体策を実践する必要がある。教皇も「小教区共同体の中から召命が芽生える」と言われている▼神はもう以前のように呼びかけなくなったのだろうか。そうであれば、現状を受け入れるしか仕方がない。しかし、そうは思えない。聞く側である私たちが聞こえなくなったのではないか。そのように考えるのが妥当と思われる。召命が減ったのではなく、神の呼びかけが聞こえなくなっているのだ。（Y）

大聖年準備第一年目・テーマ「キリスト」についての第二のメッセージ

新しいいのちに生きる

―洗礼の意味―

大聖年を迎えるにあたってわたしたちのいただいた洗礼の意味を確かめ、深めることは必要であり、また大切なことです。洗礼について聖パウロは次のように教えています。

「わたしたちは洗礼によって、キリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しいいのちに生きるためなのです。わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう」（ローマ6・4～5参照）。

1　死からいのちへ移される

洗礼を受ける人は主キリストの死と復活にあずかり、死からいのちへと移されます。回心して福音を信じ、信仰を告白して洗礼を受け、主キリストの過越の神秘にあずかる者は、すでにこの世において復活のいのちに入ります。教会は復活のいのちを受けた者の集いです。キリストは昇天に際し弟子たちに言われました。「あなたがたはエルサレムばかりではなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」（使徒1・8参照）。

わたしたちキリスト者はイエス・キリストの復活をあかし、復活の新しいいのちに生きる者です。主キリストは天に昇られるとき、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28・20）と言われました。実際、復活したキリストはキリストの神秘体である教会に留まっておられます。そのことを世界に指し示すのは、わたしたち洗礼を受けたキリスト者です。教会は復活のキリストがおられることを指し示す、美しく輝く復活のキリストのしるしです。しかし、私たちの教会の現実は必ずしも復活のキリストの輝きを現すものではありません。なぜでしょうか？

その原因は、わたしたちが洗礼の意味の深さを十分に理解していないことにあるのではないでしょうか。

「西暦2000年の大聖年に向けて」シリーズ
第2次切手、バチカン　1996年10月12日発行。
・キリストの洗礼　・荒野での誘惑
・病者の治癒　・教えるキリスト
バチカン図書館所蔵の写本より取材。
36×26ミリ　グラビア多色刷り

わたしたち信者の生活は「主の死を思い、復活をたたえよう」の精神で貫かれた日々です。キリストの十字架の死から私たちは、自分に死ぬこと、自分の利益よりも他者の幸せを優先させることを学びます。そうすることによって、はじめてわたしたちはキリストの復活の恵みにあずかるものとなります。

キリスト者であるとはキリストの死と復活にあずかること、復活の新しいいのちに生きることであることを、この機会に確かめ深めたいものです。

2　互いの存在が憩い、力、希望となるように

今、この地球上では日々飢えのためにいのちを落とす人が少なくありません。しかしこの日本では、身体の飢えよりも魂の飢え、心の病や問題のためにみずからのいのちを縮める人が後を絶たず、また非常に多くの人が孤独や不安に苦しんでいます。この現実の中でキリスト者は、すべての人を一つに結ぶ大きなネット・ワークの結び目になる使命を持っています。キリスト者はすべての救いと平和であるキリストを世界に伝えます。キリストは特に病める人、苦しむ人、虐げられた人の友となり、彼らの喜びと苦しみをともにされました。このキリストの生き方はキリストの弟子の生き方です。一九八七年に開催された第一回福音宣教推進全国会議の宣言は次のように言いました。

「ともすれば内向きに閉ざされがちであった私たちの姿勢を真剣に反省し、全ての人の憩い、力、希望となる信仰共同体を育てるよう努めたいと思います。」

一九九三年の第二回福音宣教推進全国会議は、他者の喜びや悲しみに共感し、それを共有することがキリスト者の基本的な生き方であることを強調しました。今あらためてわたしたちは、弱い立場に置かれた人々により開かれた温かい共同体となるよう、決意を新たにいたしましょう。

3　より普遍の教会となるよう

神の前にすべての人は兄弟姉妹であり、等しく人間としての尊厳を備えています。国籍、民族、社会的立場、健康状態、男女の別、年齢の差、社会構造からくる階級の別などを理由に人を差別する姿勢から回心し、互いにゆるし合い、重荷を負い合い、与え合う生き方を目指すことこそ、教会の歩む道です。

公会議は教会を「キリストにおける秘跡、すなわち神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具である」（第二バチカン公会議『教会憲章』1）と言っています。すでに教会は全人類の交わりと協力、一致のために貢献しています。しかしながら、世界の現状は理想の実現からは程遠い状態にあります。特に最近、民族・国家の間の緊張、不和、対立、抗争と紛争はますます深刻の度を加えてきました。大きな国が小さな国を支配したり、圧迫したりしています。他方、一つの民族が他の民族を排斥したり憎しみを募らせたりする事例が報道されています。この厳しい世界の現実の中で、わたしたち教会は、「普遍の教会」の使命を果たしたいと思います。教会にはあらゆる民族が属し、各民族はその固有の価値を発揮し、互いに尊重し助け合いながら、神のつくられた世界をますます豊かで美しいものへと刷新するよう努めます。

今、日本におけるカトリック教会はいろいろな国籍に属する多国籍信者から成り立っています。まさに「普遍のカトリック教会」の特色をより明らかに輝かせる千載一遇の好機です。

国境を越え、民族と文化の違いを越えて、ともに認め合い助け合って生きる信仰共同体の姿を日本の社会にあかししたいものです。

聖霊の助けを祈りましょう。

典礼 あ・ら・か・る・と 1

教会にはいろいろなシンボルがある。特に秘跡、儀式の中に多い。シンボルとは抽象的な事柄を見える形にしたもの、秘跡とは、超自然の恩恵を与える見えるしるしである。この「しるし」がシンボルに相当するもので、それは物、記号、ことば、文字、色、動作などであったりする。シンボルの意味や由来を知ることは、典礼を理解し、積極的にあずかるのに役立つ。以下、カトリック中央協議会の厚意により、『毎日のミサ』より「典礼とシンボル」を毎号転載する。今後の典礼生活に役立てて。もらえれば幸いである。

祭服（一）
―多様な奉仕の務めのしるし―

一般の集会や大会などでは、司会者や会の進行を世話する人々がいるように、典礼においても司式者のほかに、さまざまな奉仕の務めを担う人々がいます。そして、この司式者や奉仕者は定められた祭服を着用します。こうして、それぞれに固有の奉仕の務めが与えられていることが示されます。

初期の教会では、典礼であっても特別な祭服は用いられず、日常生活の服装とあまり変わらなかったようですが、ローマ帝国にキリスト教が広まるにつれて、外出のときに用いられていたマントのような服装や礼服などの伝統が取り入れられていきました。中世のころには、典礼で奉仕する人の位階的な身分を祭服によって区別するようになり、また、それぞれの祭服を祝福したり着用に際しては特別の祈りを唱えたりする習慣も生まれました。さらに、豪華な装飾がほどこされた祭服も作られ、芸術作品としての価値が高まりましたが、その一方で外面的な美しさを追求する傾向が強くなっていったことも事実です。

第二バチカン公会議では祭服をはじめ教会芸術と教会用具全般の見直しをはかり、単なる華美を求めることがないように勧めています（『典礼憲章』一二四条参照）。また、「ローマ・ミサ典礼書の総則」二九七番では次のように述べられています。

「キリストのからだである教会においては、すべての構成員が同じ役割を果たしているのではない。祭儀の執行における奉仕の務めのこの多様性は、祭服の違いによって外面的にも表される。したがって、祭服は各奉仕者に固有の役割のしるしでなければならない。なお、祭服は祭儀そのものの気品に寄与するものでもなければならない」。祭服は、単にそれを着用する人の権威や階級を示すものではありません。典礼における機能性を考慮して、簡素な美しさの中に、典礼で奉仕する一人ひとりがどのような役割を担っているかを示すしるしとなるものなのです。（一九九六年一月号第一頁）

自由席

第46回国際聖体大会巡礼に参加して②

吉田　正司

五月三十一日、小雨降る中、パパ様は飛行機のタラップを降りられ会見場所へ行かれます。少しお疲れのようでした。目がしらが熱くなりました。

ゴミサ後ヴロツワフに別れを告げてクラクフへ行く。ここはパパ様の誕生の地である。翌朝コルベ神父様の殉教地アウシュビッツ収容所を見学した。コルベ神父様の監房は地下にあり、三畳くらい、蝋燭（ろうそく）の灯と生花が絶えないとのこと。私たちはそこでお祈りをしてから、オシフィエンチム（死の壁）にお参りし、博物館を見学。百五十万人～二百万人の死体処理をした、大量殺人工場のすさまじさを実感する。人間は悪魔にもなれることを実証している。あまりの無残さに言葉もない。ご冥福を祈るのみである。

六月三日、ワルシャワに向けて出発。途中チェンストホヴァの有名な『黒い聖母マリア』の聖像画と対面した。案内してくれたシスターの説明によると、この『黒いマドンナ』はポーランドの守護者で、奇跡を行うと信じられ、古くから篤く崇敬されてきた。この愁いを含んだ聖母の頬には切り傷が二本ある。昔、侵入したタタール人の軍隊がこの画を運び出そうとしたところ、鉄のように重くなり、激怒した兵隊が刀で切りつけた傷痕とのこと。それが、外敵の迫害に堪えるポーランド人の共感を得、尊敬を集めているのであろう。

ワルシャワ市内では、聖ヨセフ教会、聖母訪問教会、聖十字架教会に巡礼し、ショパンの生家を見学。また、長崎の聖母の騎士修道院のシスター二人を団長の大司教様と一緒に訪問した。ポーランドに来てもう五、六年にもなり、コルベ神父様の建てた修道院で働いているという。お二人が楽しそうに、にこにこしていた様子が忘れられない。今度の巡礼で心に残るのは愛と感謝、忍耐、お祈りでした。神に感謝。

一九九七年六月一六日
日本カトリック司教協議会
大聖年準備特別委員会

パストラルケア研究会発足

本会は、すでに活動している「福岡・生と老い、死を見つめる会」の分科会で、病人訪問時の病人への対応の仕方等を学ぶことが目的。実際には以下のようなことを学ぶ。病人（入院患者）の心理、病者の塗油やカトリックの葬儀について、カトリック死生観、その他。対象はカトリック信者で、病人訪問や病人の世話に関係、従事する人は誰でも。第一回目は10月19日（日）14時～。福岡サン・スルピス大神学院新館講堂にて。参加費用は無料。問合先は福岡サン・スルピス大神学院、シスター箕浦か大山悟神父。☎092・871・4943

召命祈願ミサ

10月2日（木）19時45分、有志の会である《召命をともに祈る会》主催で、福岡教区に豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われる。どなたでも参加できます。

募集中
●作業ボランティア募集中！お電話ください
9月20日(土) 午前9:30より　2時間程度
●黙想会参加者募集中！（後援会・会員対象）
9月27日(土)16:00受付～28日(日)15:00解散
会費：3,000円（会員外6,000円）
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

典礼研修会 わたしたちのミサ

去る六月二十九日、カテドラル大名町教会において、福岡教区典礼委員会（委員長・青木悟神父）主催の典礼研修会が開かれ、信徒、修道者、司祭百四十人が参加した。

テーマは「わたしたちのミサ」。講師は御受難会司祭、上智大学神学部教授で、司教協議会典礼委員として、ミサ改訂に当たっている国井健宏神父（＝写真）。

第一講話「最後の晩さんからミサへ」

ミサはキリストの死と復活の中に秘められた神の偉大な愛を現そうとしている。そのミサの儀式が現そうとしている意味が、実際にその式に参加している人たちに伝わっているか。もしそうでないなら、ミサの儀式そのもののあり方を考えなければならない。

これを一つの問題提起として、ミサの生い立ちから現在のミサにいたる歴史的な流れをたどり、十世紀以後ミサが共同体から離れ、画一化されていった経緯について話した。

第二講話「わたしたちのミサと共同体」

今世紀に入って始まった典礼運動を土台として、第二バチカン公会議において、典礼とは何かが見直された。

共同体の中で司祭と、朗読者、侍者、聖歌隊等奉仕者、そして基本的な会衆とが、皆それぞれの分担した役割を果たしつつ、共に捧げるよう刷新され、ミサは共同体のものとなった。したがって、開祭においても信者が集まらないと始まらない。自分が参加しないとミサは始まらないのだと、全員が意識してはじめて共同体のミサとなる。このことが分かったら、遅れて来ることはできないはずだ、と私たち一人ひとりがその役割を果たしてゆくことの大切さを強調された。

第三講話「生活からミサへ、ミサから生活へ」

典礼の刷新を考えるとき、意味のある儀式を作っていくことが大切だが、それには私たちの日常の祈りがその土台となる。

朝晩の祈りや食前食後の祈りを、個人の生活の中で、あるいは家族とともにどのように祈っているか。

ミサが共同体の食事であることを、もっと体験的に味わうために、家庭で家族が一緒に食事ができるよう、どう努力しているかが指摘された。

社会の中で、いろいろな風潮の中で、私たちが家族として、あるいはキリスト者として、どう生きてゆくか。その中で日常の祈りのあり方、家庭の食事のあり方を考えていく。その体験を通してミサと日常生活とを結びつけていくことが大切であると強調し、参加者に感銘を与えた。

質疑応答の後、国井神父の司式による「みことばの祭儀」をささげて、十七時三十分に散会した。（取材協力 古賀教会 井上元之）

時が満ちると

新約聖書の中で「時」には二つの言葉が使われています。一つは、クロノスで、時間の長さを表す言葉です。もう一つはカイロスで、定められた時、好機など、単に流れては過ぎ去ってしまう時ではなく、その一点に、過去、現在、未来が掛かっているような意味のある時を指しています。

人間の生活にもリズムがあり、一日、一週間、一カ月、一年、そして、一生の節目などのリズムのようなものがあると思います。その中で、緊張した時、リラックスした時、何かに挑戦する時、などがあると思います。ちょうどコヘレトの書が語っているとおりです。そんな中で、人は自分のリズムを壊してしまったり、また、それを立て直そうとしたりして生きています。そしてそのリズムを永遠の命に向かうために整え、その時を失わずに意味のある人生が送れるようにと望んでいるのではないでしょうか。

紀元二千年の大聖年は、このような意味で一つの「カイロス」としての時になると思います。教皇様は、過去を振り返り、いろいろの宣教の働きがあったが、同時に分裂の痛みを負った期間であったと言っておられます。過去を振り返り、それを未来に生かしていくことで、過去の歩みのよいところをさらに発展させ、悪いところを反面教師として生かしていくことで、どんなことでも未来に生きてくる可能性を持っていると思います。そして、それがこれからの歩みを照らすとき、紀元二千年という時の意味も出てくると思います。

日本のフランシスコ・ザビエル以来の教会の歩み、それは、日本の社会の中で根づくための葛藤の時でもあったと思います。その歩みの中で殉教者たちの証を忘れずに、その証に照らされて歩み続けるとき、日本の教会にとっても意味のある紀元二千年の時を迎えることができるのではないでしょうか。

聖書も旧約と新約の関わりの中で、旧約は新約の中に実現し、その意味を見いだしています。新約は旧約によって準備され、整えられた人々によってこそまず受け入れられました。

これまでの歩みは過ぎ去るだけにしてはいけないものだと思います。日本の教会のルーツを大切にしながら、これからの歩みを見定めるために、今は、大切な意味のある好機《カイロス》としての時に、すでに私たちはいるのではないでしょうか。

教区事務局長 青木悟神父

福岡カトリック神学院 神父のたまご集合 聖パウロ会福岡修道院

聖パウロ会福岡修道院（院長・百村等神父）では七月二十日から三日間、召命練成会が行われた。久留米教会から四人と、参加者は少なかったが、和気あいあいたる雰囲気のうちに、楽しい日々を過ごした。写真はその一コマ（左）。

福岡カトリック神学院（院長・山元眞神父）でも、八月四日から六日まで召命学校が開かれた。これは、子どもたちに司祭召命を考えてもらおう、と例年開かれているもの。対象は小学四年生から六年生。

神学生との触れ合いを目指して、祈りと遊びを中心に神学生自らが企画している。例年は三十人からの参加者がいるが、今年は六日の出校日とも重なり、十五人と少なかった。しかし、それだけに神学生との触れ合いができたらしく、参加者は満足していたようだ。三日目は浄水通教会で松永久次郎司教とともに召命祈願のミサをささげた。プログラムの最後に六年生は院長と面接するが、今年も二、三人の参加者が入学を希望していた。

ゲームに興じる「たまご」たち

召命学校に来て

6年 大水健一郎（新田原）

ぼくは、八月四日に小神学院に来ました。これで、3回目です。今度は、もう中一だから、もし小神にくるなら、神学生だ。まあ、来ようとは思うけれど、ぼくは朝起きるのがにがてで、もし来るとしても起きれなかったら…って思うと「どうしようかなー」なんて、なやんでしまう。もうちょっと召命学校のきかんが長かったらいいなーって思います。

召命祈願ミサのあと、司教様と記念撮影

御寄付御礼

故ヨセフ泉則夫様の御香典返しに代えて泉フジエ様より司祭養成のためにご寄付をいただきました。ここにご報告し、心より御礼申し上げます。

福岡カトリック神学院
院長 山元 眞神父

青年のための 召命黙想会

自然の中で
あなたもともに
召命について
考えてみませんか？

●日時● 10月25日（土）15時 ～26日（日）17時
●場所● 聖心の祈りの家（篠栗）
●対象● 18歳以上の独身男女 青年（受洗者）
●参加費● 2,000円
●申込先● Fr. 青木 悟 〒810 福岡市中央区浄水通39 カトリック福岡司教館 ☎092-522-5139

―召命をともに祈る会―

1997年度／福岡地区信徒協研修会／9月15日

大聖年に向けて召命を考えよう

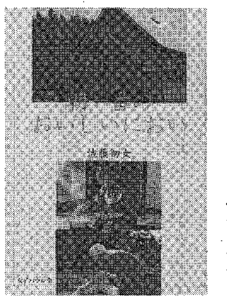
福岡教区では今、司祭の高齢化が進み、新司祭の叙階もそれほど多くは望めなくなって、司祭不足が深刻になってきています。一人の司祭がいくつかの教会をかけ持ちする姿は皆様がすでに身近でごらんになっておられるとおりです。

そこで、福岡地区信徒使徒職協議会では、今年の研修会を上記のテーマで行うことにし、信徒の側からこの状況にどう取り組むかを考えてみることにしました。神に呼ばれ役務としての司祭職に全生涯をささげる若者が輩出するよう祈り、力を尽くすことも私たちの大きな務めです。私の家庭、私たちの小教区、私たちの中から司祭を誕生させましょう。教区の司祭召命の現状、また現在神学生養成プログラムの改革に取り組んでいる大神学院の養成の現状を聴き、共に考えましょう。

●講師●山元眞神父（福岡カトリック神学院長）
大山悟神父（福岡サン・スルピス大神学院長）
●日時●１９９７年9月１５日（月・敬老の日）10時～16時
●会場●カテドラル大名町教会
●参加費●1,０００円（弁当代５００円別）
●申込●小教区、修道院でまとめて下記までお申込みください。
●〒812福岡市東区筥松4-4-2-606 F092･622･0588 門永

BOOK 読みま専科

★朝一番のおいしいにおい 佐藤初女著



「食」はいのちと確信し、自らの重い病気も食べ物で治してしまった著者は、「森のイスキア」を開設。苦しむ人、弱い立場にいる人をはじめ、助けを求めて訪れるすべての人を迎え入れ、おいしい手作りの料理と、生活をともにすることにおいて元気づける。

一人ひとりのいのちを、またどの食材のいのちをも限りなく慈しむ著者の料理の心とわざを優しく語った本。映画「地球交響曲第二番」にも出演。現在、さまざまな団体からの求めに応じ、講演会や料理の講習会など、全国的に活動を続けている。

女子パウロ会 税別一〇〇〇円

◇◇◇

★写真集 テレーズ サンパウロ編

この写真集は、聖テレーズの幼い頃からキリストへの愛の死にいたるまで「小さな道」を歩み続けた、その短い生涯をたどり、さらに今も巡礼者の絶えないテレーズゆかりの地を訪ねながら、聖女のすべてを紹介する。

第一部人間テレーズ、修道者テレーズ、第二部聖テレーズが六七葉の写真で示されているが、その一枚一枚の写真は、私たちに新たなメッセージを伝えてくれる。幼いテレーズの帰天百年記念に、ぜひ一冊蔵書に加えたい本。

B5判 八〇ページ
サンパウロ 税別二四〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家　9月

◇～5日（金）　オブレート会黙想
◇7日（日）　カトリック黒崎教会　教会学校遠足
◇10日（水）　ミカエル会
◇13日（土）～15日（月）　きょうだい会黙想
◇14日（日）～15日（月）　聖母カテキスタ会黙想
◇20日（土）　福岡黙想の家後援会
　作業奉仕の日9：30～
◇27日（土）～28日（日）福岡黙想の家後援会
　会員黙想会
◇28日（日）典礼・聖歌と祈りの集い
［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222
FAX 0940・32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、一日静修（黙想会）を計画いたしました。ご参加ください。
■一日静修
日時：9月11日（木）9時30分～15時30分
指導：クラウディオ神父
参加費：1,500円（昼食代含む）
＊この他に個人、又はグループで、黙想等をなさりたい方はいつでもお申し込みください。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

創作オペラ『二十六人の殉教』
―信仰のまことと人間の尊厳をつらぬいた鮮血の証しびと―

巡礼とオペラ鑑賞の旅

日本26聖人殉教400年の最後の記念行事として11月29・30の両日に、創作オペラ『二十六人の殉教』が初演される。以下の要項で巡礼が計画されている。参加希望者は名古屋の日本カトリック研修センター［☎052・831・5037］に申し込みのこと。
●11月29日15時までに、西坂記念碑前集合。殉教ミサ（15時～）●ミサ後、ホテル清風荘で軽食●長崎市公会堂でオペラ鑑賞（S席：18時30分開演）●同ホテルで懇親会、宿泊●30日：浦上教会で主日のミサ●昼食後解散●参加費：3万円●定員：15人

会合と催し

教区年間テーマ：キリストとの真の出会いを求めて

9月

2日（火）司祭評議会（司教館10時30分）／教区顧問会
3日（水）聖グレゴリオ1世教皇
　＋P.コトレル［熊本地区で宣教1928］
4日（木）聖書を読む会（佐賀～3月）■
8日（月）聖マリアの誕生
10日（水）日本205福者殉教者
11日（木）祈りの集い［生命山］
13日（土）福岡結婚準備セミナー①（～10月9日）■
14日（日）十字架称賛／国際協力の日《献金》
15日（月）悲しみの聖母／敬老の日
　福岡地区信徒協研修会　■
　北九州地区ソフトボール大会
　筑後ソフトボール大会
　＋A.ヒューゼ［福岡司教館1944］
16日（火）聖コルネリオ・聖チプリアノ
　熊本結婚準備セミナー①（～10月13日）■
17日（水）＋P.オジョニ［ロザリオの園1982］
19日（金）福岡聖書講座⑪　［カテドラル19時］
　（～12月5日）■
20日（土）聖アンデレ金と同志殉教者
21日（日）聖マタイ使徒福音記者
23日（火）秋分の日
28日（日）聖トマス西と15殉教者
29日（月）聖ミカエル他大天使
　＋Y.ヴィオン［福岡司教館1969］
30日（火）聖ヒエロニモ教会博士

10月　ロザリオの月

1日（水）幼いイエスの聖テレジア
2日（木）守護の天使
3日（金）福岡聖書講座⑬　［カテドラル19時］
　（～12月5日）■
　＋E.ラゲ［福岡司教館1929］
4日（土）アシジの聖フランシスコ
7日（火）ロザリオの聖母
9日（木）祈りの集い（生命山）
10日（金）体育の日
　むなかたTEN・TENまつり［福岡黙想の家］
13日（月）教区司祭黙想会（～17日まで）
15日（水）聖テレジアおとめ教会博士
17日（金）聖イグナチオ（アンチオケ）
　＋J.グリーン［玉名教会1994］
18日（土）聖ルカ福音記者
19日（日）世界宣教の日《献金》／十字架の聖パウロ
　大名町教会堅信式
23日（木）＋J.B.ドラビ［黒崎教会1967］
27日（月）＋J.ベルトラン［門司港教会1987］
28日（火）聖シモン・聖ユダ使徒
31日（金）＋ヨセフ糸永一［今村教会1992］

■印は本面に詳細説明あり

9月14日（日）7時30分～8時30分にNHK教育テレビ「こころの時代」に粕谷甲一神父（東京教区司祭）が出演する。再放送は9月20日（土）14時～15時。

福岡

■カテキスタの集い　［日時］9月7日（日）13時30分～［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（福岡カトリック神学院院長）［テーマ］ゆるしの秘跡［会費］500円［問合先］福岡カトリック神学院☎0922・531・6821 FAX 524・7373
■ほめたたえよう、主の御名を―若者の賛美、感謝、礼拝と分かち合いの集い　［日時］第2・4日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会・聖アウグスチノ館［対象］若者、司祭、修道者、プロテスタントの方、まだクリスチャンでない方、楽器のひける方、そしてご自分でご自分のことをまだまだ若者と思っていらっしゃる方［指導］パトリック神父（アウグスチノ会）［参加費］自由献金［後援］聖霊による刷新福岡奉仕会［問合先］橋爪章一☎092・714・3477
■第69回福岡結婚準備セミナー　［日時］9月13日（土）～10月9日（木）毎土曜・木曜日19時～21時20分・全8回［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022
■①黙想会「共に祈る」　［日時］9月13日（土）17時～15日（月）11時［場所］大分郡湯布院町川上庄屋の館、福音の光祈りの家［対象］女性信徒（高校生以上）［指導］カトレット神父（イエズス会長東修道院院長）［定員］14人［費用］5000円［申込締切］9月8日②女子召命黙想会　［日時］10月9日（木）18時～12日（日）昼食［場所］①に同じ［対象］未婚の女性信徒［指導］塩谷恵策神父（イエズス会福岡修道院院長）［定員］10人［費用］7000円［申込締切］10月4日［申込・問合先］①②とも、福音の光修道会福岡修道院、シスター・佐藤☎092・581・1663 FAX 581・4609
■福岡地区信徒協研修会［日時］9月15日（月）【3面参照】
■聖書講座・後期―エフェソの信徒への手紙　［日時］毎週金曜日19時～20時45分（12月5日まで）［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［日時・題・講師］⑪9月19日・エフェソの信徒への手紙の著者、作製年代、場所、構成と教え・松永久次郎司教⑫26日・キリストによる霊的祝福と祈り・同⑬10月3日・死から生命へ・同⑭17日・キリストにおいて一つになる・青木悟神父⑮24日・パウロの働き、キリストの愛を知る・同⑯31日・キリストの体は一つ・白浜満神父［受講料］5000円／1回毎800円［申込方法］教区本部事務局に氏名、電話番号、所属教会をお知らせください。当日申し込み可。［申込・問合先］教区本部事務局☎092・522・5139
■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］9月28日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［テーマ］講話「一二五歳を目指す『歩きの人生』」と語り合い／死別体験者との語り合い［講師］木下勇氏（木下株式会社「草苑」社長）［会費］500円［問合先］事務局（大山美穂子☎FAX 092・713・8523／村尾嘉道☎607・6992）
■教区信徒使徒職協議会役員会　［日時］9月28日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会
■典礼・聖歌と祈りの集い　［日時］9月28日（日）14時～17時［場所］福岡黙想の家［聖歌指導］深堀純氏［会費］100円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎0940・32・3222 FAX 32・3385
■SE・CO勉強会　［日時］9月30日（火）10時30分～［場所］聖心のウルスラ宣教女修道会福岡修道院会議室［内容］講話（どなたでもご参加ください）［講師］山元眞神父（福岡カトリック神学院院長）［問合先］平井☎0940・32・3047／山下☎092・574・3787／龍☎581・6838／シスター高取☎512・0033
■講話と祈りの集い―幼いイエスの聖テレジア逝去一〇〇年記念、準備―　テレジア帰天一〇〇年を迎えるに当たって、テレジアとともに教会のこと、宣教のことなどを祈り、学ぶ小さな集いを計画しております。皆様のご参加をお待ちしております。［日時］⑫10月5日（日）13時30分～聖テレーズ帰天一〇〇年記念ミサ（松永司教司式）・茶話会［場所］福岡カルメル会修道院、テレサの家［問合先］同右☎FAX 092・807・7361
■聖歌研修会　［日時］10月12日（日）13時～［場所］大楠教会［聖歌指導］深堀純氏
■一日静修―召命を考える　［日時］10月25日（土）9時～16時［場所］マリアの宣教者フランシスコ修道会・福岡修道院［テーマ］わたしを呼んでくださるイエス［対象］未婚女性［指導］乾盛夫神父（オブレート会・古賀教会）［費用］500円［持参品］聖書、筆記用具［締切］10月20日［申込・問合先］マリアの宣教者フランシスコ修道会福岡修道院、シスター・中村☎092・565・5505
■黙想会〈神のいつくしみにふれて…私は！〉　［日時］11月22日（土）17時～24日（月）昼食［場所］聖母訪問会大濠修道院［対象］女子青年信徒［指導］白浜満神父（福岡サン・スルピス大神学院）［定員］10人（定員になり次第締切）［費用］3500円［申込・問合先］聖母訪問会大濠修道院、シスター・テレーズ大野☎092・741・4250

北九州

■召命をともに祈る会　［日時］9月18日（木）14時～［場所］コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会戸畑修道院［問合先］教区本部、青木悟神父☎092・522・5139
■小倉教会殉教記念ミサ　［日時］10月12日（日）14時～［場所］小倉教会＊詳細は次号にて
■第9回お母さんの集い　［日時］10月20日（月）10時30分～13時［場所］カトリック小倉教会聖堂［講師］松田聡史神父（長崎飽浦教会）［内容］お話とミサ［参加費］500円［問合先］福吉三代子☎093・962・1395

佐賀

■聖書を読む会　［日時］9月4日（木）10時～／19時30分～（午前と午後の内容は同じ）対象は一般の方ですが、信者ももちろん参加してください。友人も誘ってください。［場所］カトリック佐賀教会［講師］アレグリーニ・アレグリーニ・アレグリーニ（ロザリオの園）［問合先］カトリック佐賀教会☎0952・2 3・4754
■佐賀新聞文化セミナー　［日時］第2、4土曜日15時～16時30分［テーマ］聖書流人間関係12カ条［場所］佐賀玉屋教室［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー玉屋教室☎0952・28・0371［日時］⑪9月13日・「人を裁くな」とキリストが言われた。人の悪口を言わず、人の善行を第三者にも紹介する⑫27日・社会を明るくするために活動するすべての人々と協力するすべての人々と協力する

熊本

■第54回熊本結婚準備セミナー　［日時］9月16日（火）～10月13日（月）毎火曜・月曜日19時～21時20分・全8回［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX（カトリックファミリーセンター）092・552・5022
■第10回熊本短期キリスト教講座―生きがいをさがそう！　［日時］9月19日～10月31日毎週金曜日（全7回）10時～12時・19時～21時［場所］手取教会［題・講師］①災害の中で教会は何が出来るのか・神田裕神父★午前の部のみ②「生きがい」―兄と弟との違い（ルカ15・11～32）・静一志神父③「ザ・人間」（ルカ福音書15章から）・坂本憲治牧師④出会いと別れ、そしてホスピスへ・葉山武志医師⑤いのちになる―私が私であること・シスター入江純子⑥信じる者になりなさい（ヨハネ20・27）―文化と信仰・L・メネガッツォ神父⑦人生は神様が書かれた脚本―病まなければ・井出隆氏／ティーパーティー［受講料］講座全体で1000円［申込・問合先］手取教会カトリック案内所☎096・322・7948
■講演会／旧約聖書―救いの歴史、信仰の歴史　イエス・キリストの救いのルーツを学びませんか？どなたでも、ぜひどうぞ！［日時］①9月20日（土）19時～21時・②21日（日）13時～17時（①と②の内容は連続）［場所］カトリック手取教会［講師］国井健宏神父（御受難会・上智大学神学部教授）［参加費］1000円［持参品］聖書、筆記用具★駐車場は保証できません［主催］熊本聖書百週間グループ［問合先］手取教会☎096・352・3030

編集後記

朝晩、ずいぶん過ごしやすくなってきました。夏休みもアッという間に終わった感じです。今回の編集も、アッという間に終わったみたいで、このようなことは初めてのような気がします。この秋も行事がめじろ押し。また、「忙しい、忙しい」の連続でしょう。文字通り「心を亡く」さないように、心して歩んでまいりたいものです。もちろん編集部も！　応援をお願いします。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJKI
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

教皇ヨハネ・パウロ二世「世界宣教の日」メッセージ
宣教は教会の重大な義務

来る十月十九日「世界宣教の日」に当たり、ヨハネ・パウロ二世教皇は全世界のキリスト者にメッセージを発表した。その中で教皇は、洗礼を受けた者はすべて即宣教者であり、最初の宣教者イエス・キリストに協力することは特権であり、重大な義務、そして恵みであると説き、聖パウロと幼きイエスの聖テレジアの模範にならい、一人ひとりが、世の終わりまで共にいると約束されたイエスとマリアに支えられながら、貧しい人に「よい知らせ」をもたらすよう励ましている（＝メッセージ全文は二面に掲載）。

福音を告げ知らせないならわたしは不幸なのです

メッセージ全文は三つのテーマよりなる。

①紀元二〇〇〇年を前にしてわれわれは、「すべての人が使徒となるよう招かれている」ことを理解し、最初の宣教者イエス・キリストの《救いの計画》を従順に受け入れ、個人として根気強く神に協力していくことが必要であると説く。

②すべての人の救いを望んでキリストがもたらしたよい知らせを、われわれは主のみことばに従って全世界にわけても貧しい人、苦しんでいる人たちに告げ知らせなければならない。これは教会にまかされた特権であり、重大な義務である。したがって「福音を告げ知らせないならば、わたしは不幸」なことになる、と聖パウロの言葉をかりて強調する。

③宣教に対する責任のとり方については、幼いイエスの聖テレジアが模範となる。つまり、神のわざである福音宣教を、深い祈りの生活の中で、主との一致のうちに行わなければならない。重要なことは「どこで」ではなく「どのように」である。神の愛にもえてさえいれば、家庭、職場など時間・空間にかかわりなく、われわれは真の使徒となり、多くの実を結ぶことができる。

最後に、使徒たちの母であり女王であるマリアが、かつて使徒たちと歩みを共にされたように、われわれの活動を支え励ましてくださるよう祈っている。

今月のみことば

わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主のみ名はほめたたえられよ。（ヨブ1・21）

司教館　青木　悟

聖年の準備、各小教区でも
―来年は《聖霊》の年―
司祭評議会決定事項

9月2日司教館別館にて、定例司祭評議会が開かれた。教区長を中心に18人の評議員が、来年度の方針、教区内行事などについて検討し、教区長の諮問に答えた。おもな決定事項は以下の通り。

①聖霊の年にちなみ、カテドラルで聖霊降臨祭に「教会の誕生」を盛大に祝う。その際、教区行事として合同堅信式（仮称）をする。やり方など具体的な事柄については今後検討を重ねる。聖霊降臨祭に向けて各小教区で準備を進める。
②各小教区で司祭、信徒がよく話し合って大聖年の具体的な準備を実行していく。
③教区内の巡礼教会を指定する。
④「み言葉の勉強」、「郷土の殉教者の顕彰」を進める。
⑤小神学校制度を含む司祭養成の諸問題について、神学院院長経験者の小委員会をもつ。

1998・99年教区内行事予定

＊小教区や地区で行事を計画する際に下記の予定と重ならないようにご留意ください＊＊＊＊＊

【1998年】　《聖霊の年》
1月　1日（木）新年ミサ10時［カテドラル］
　　6日（火）司祭新年の集い［浄水通教会］11時ミサ
　　11日（日）福岡地区「成人ミサ」
　　18日（日）～25日（日）キリスト教一致祈祷週間
2月　3日（火）司祭評議会10時30分［司教館別館］
　　25日（水）灰の水曜日
3月　6日（土）宣教奉仕者・教会奉仕者選任式 10時30分［大神学院］
　　10日（火）松永司教霊名お祝い［浄水通教会］11時ミサ
　　19日（木）聖ヨセフ　松永司教霊名祝日
4月　5日（日）花岡山殉教祭　ミサ［花岡山］
　　9日（木）聖香油ミサ11時［カテドラル］
　　12日（日）【復活祭】［カテドラル］10時ミサ
　　13日（月）司教座聖堂献堂記念日
　　19日（日）司教座聖堂献堂記念（ミサ特別献金）
《5月》・福岡地区キリスト教講座・聖書講座［7月中旬まで：カテドラル］
5月　3日（日）召命祈願日
　　17日（日）広報の日／広報の集い 13時30分［司教館別館］
　　31日（日）聖霊降臨祭／合同堅信式［カテドラル］
6月　3日（水）司祭候補者認可式［大神学院］
　　9日（火）～11日（木）司祭研修会
8月　6日（木）～15日（土）平和旬間
　　9日（日）平和祈願ミサ［カテドラル／各小教区］
　　15日（土）教区墓地ミサ14時［和田墓地］
　　27日（木）福岡地区婦人会感謝ミサ 10時［カテドラル］
《9月》・福岡地区聖書講座［カテドラル］
9月　8日（火）司祭評議会10時30分［司教館別館］
　　15日（火）福岡地区信徒協研修会
10月10日（土）むなかたTEN・TENまつり［黙想の家］
　　12日（月）～16日（金）教区司祭黙想会［黙想の家］
《11月》・聖書週間15日～22日［聖書特別講演会］
11月　1日（日）諸聖人 教区墓地ミサ14時［和田墓地］
　　2日（月）死者の日
　　3日（火）召命の集い［大神学院］
　　19日（木）神学院祭［大神学院］
　　23日（月）北九州地区信徒協研修会
12月　6日（日）宣教地司祭育成の日

【1999年】　《御父の年》
1月12日（火）司祭新年の集い 11時ミサ［浄水通教会］
　　18日（月）～25日（月）キリスト教一致祈祷週間
2月　2日（火）司祭評議会10時30分［司教館別館］
　　17日（水）灰の水曜日
3月　2日（火）松永司教霊名お祝い 11時ミサ［浄水通教会］
　　19日（金）聖ヨセフ　松永司教霊名祝日
《4月》・花岡山殉教祭
4月　1日（木）聖香油ミサ11時ミサ［カテドラル］
　　4日（日）【復活祭】
　　11日（日）司教座聖堂献堂記念（特別献金）
　　13日（火）司教座聖堂献堂記念日
＊＊＊97年9月現在の予定です。今後変更されることがあります。毎月の教区報を参照してください。

大聖年に向けて召命を考えよう
福岡地区信徒協研修会

去る九月十五日（月）、午前十時から、カテドラル大名町教会講堂で、福岡地区信徒使徒職協議会（会長杉本一俊氏、担当司祭平田敬神父）の主催で、「大聖年に向けて召命を考えよう」と題して地区研修会が開催され、信徒、修道者、司祭百五十名が参加した。

第一講話は福岡カトリック神学院院長の山元眞神父が「教区司祭の現状と召命―神学生は今」と題して講演された。山元神父はまず、召命の問題は大聖年の流れの中で捉えていくことが必要であり、召命や司祭の養成は、信者である私たちすべての人の問題に深く関わっていることをはっきりと認識して、そこから始めるべきであることを強調された。神の呼びかけは減ってはいない。ただ私たちの耳が聴こえなくなった。そこに問題があると指摘された。

次いで、福岡教区の司祭召命の現状を資料をもって紹介され、召命は家庭を含めた、小教区共同体の中から生まれてくるものであり、若者たちが神の声を聴くことのできる、すばらしい典礼づくり、共同体づくり。家庭の中で神の声を聴く場としての祈りの時間、時のしるしを見て捧げる祈り、現代人に最も欠けている沈黙の時と場を作ることが必要であることを指摘された。

そして私が救われていることの意識、私が信者であることの喜び、それが召命の原点であり、これを見つめ直し、それを現実の中に体験していくことによって、現代に合った解決策が見いだせると結ばれた。

途中、とび入りで聖パウロ小神学校長の百村等神父が「召命について考えるとき、家庭の中で、まず親が子供に教会のため、神様のために働く心を育ててほしい」と、自らの体験を交えて呼びかけられた。

第二講話は「大神学院の現状と展望―機構改革も含めて」と題して、福岡サン・スルピス大神学院院長大山悟神父が講演された。

分かち合いの一コマ

最初に、大神学院の神学生数の推移について紹介があり、現代における信仰の意識の変化、召命に対する積極性の減少について具体的に触れられ、現代が平穏無事であることによって、十字架が見えなくなってきていることの必要性を強調された。

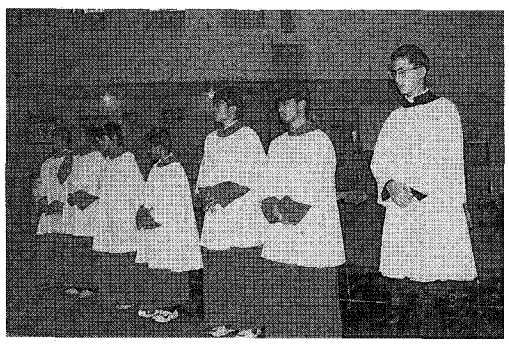
司祭養成において、司祭はキリストの似姿になることが根本理念であり、霊的生活、知的生活、人間関係を三本柱として、神との、「関わり」の持てる自分との、隣人との、物との、人の養成を具体的指導方針としていることを示された。また、今後、大神学院は、来年度から、現在の高卒後八年制を廃して、六年制とし、二十二歳以上の人を受け入れるようになった改革の内容についても紹介された。

司祭養成は、養成者だけがするものではなく、教会共同体のメンバー全員がしていかねばならぬ問題である。それには、私とは何か、人間とは何か、人間の価値とは何かを、教会が声を大にして叫び、私たち一人ひとりがそのことに気づき、家庭の中に召命を生み出す土壌を作っていかねばならない。そして、司祭が自分たちの親であり、兄弟であるという感覚で、司祭を見守り、支え、祈ってほしいと結ばれた。

その後参加者は、十三のグループに分かれて、自分の小教区において、家庭においてどう取り組んで行くかを分かち合った。

最後に、松永司教と参加司祭の共同司式で「召命を求めて」の意向をもって共にミサを捧げ、十六時散会した。

（取材協力　古賀教会　井上元之）



《刈り入れは多いが…》召命祈願ミサの後、福岡教区出身の神学生が参加者たちに紹介された。大神学生一人、小神学生六人（高校生二人、中学生四人）。

青年のための召命黙想会

自然の中で
あなたもともに
召命について
考えてみませんか？

●日時●
10月25日（土）15時～26日（日）17時
●場所●
聖心の祈りの家（篠栗）
●対象●
18歳以上の独身男女青年（受洗者）
●参加費●
2,000円
●申込先●　Fr. 青木　悟
〒810　福岡市中央区浄水通39
カトリック福岡司教館
☎092-522-5139

―召命をともに祈る会―

みちくさ

世界的なニュースに事欠かない今日ではあるが、マザー・テレサの逝去は特別のことだった。彼女が平凡な、いい心の持ち主だったからであろう▼マザーがノーベル平和賞を受けて間もない頃、わたしは失礼にも次の様な質問をした。「現在お宅の修道会は非常に盛んですが、これは有名なマザーのお陰でしょう。マザーが亡くなられたら、後はどうなるのでしょうか？」マザーは穏やかに答えてくれた。「わたしは数千の味方を天国に送りました。あの方々がわたしたちを守ってくれるでしょう」マザーは「死を待つ人々の家」のことを話しておられたのである▼あの修道会では会員は、毎日一時間の聖体礼拝が義務づけられているとのこと。「シスターたちは忙しくはないのですか？」「とても忙しいので聖体礼拝の時間が必要なのです」というのが、マザーの答えであった▼「魚を与えるよりも魚を捕ることを教えるべきなのだ」と、マザーのやり方をある人が批判した。「あなたが網を打つことを教えてください。わたしは、この困っている人にきょう魚をあげておきますから」という返事だったそうである▼「このマリア様は奇跡を行いますよ」と言って、平凡なアルミのメダイを五つ差し出してくれた。「わたしの役には立ちませんよ、マザーのような信心はないのですから」と言ってしまった。するとマザーは「あなたの信仰ではなく、マリア様がすべてをしてくれるのですよ」「それでは、せめて十枚ください」と欲張りをしたことがある。マザー・テレサの思い出は懐かしく温かい。（M）

教皇ヨハネ・パウロ二世

「世界宣教の日」メッセージ

1997年10月19日

すべての人は真の使徒となるよう招かれています

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである」（ルカ4・18）。「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならない。わたしはそのために遣わされたのだ」（ルカ4・43）。

1．愛する兄弟姉妹の皆さん、世界宣教の日を祝うことは、教会生活において重要なことで、実際、紀元二〇〇〇年が近づくにつれ、その重要さは一層増していると言えるでしょう。教会が自ら自覚しているように、教会はキリストを離れては「わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられて」（使徒言行録4・12）おらず、現代の教会は、「福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸なのです」（一コリント9・16）という使徒のことばを、かつてないほど自分のものとしているのです。したがって、こうした視点から見ると、福音の中に含まれる根本的ないくつかの要点に注意を喚起するためには、この世界宣教の日は絶好の機会です。この福音こそ、教会が新しい千年期を生きる諸民族に届け、告げ知らせるよう、招かれているものなのです。

2．御父から遣わされた最初の宣教者であるイエス・キリストは、この世の唯一の救い主です。イエスは道、真理、いのちなのです。きのうも今日も永遠に、世の終わりまで変わることのない方です。終わりのとき、すべてのものはイエスに結ばれます。イエスによってもたらされる救いは、人間の内面の奥深くまで浸透し、わたしたちを悪魔、罪、永遠の死から解放します。救いとは、キリストにおける「新たないのち」の到来です。それは神の無償のたまものです。神はわたしたちが自由な心で神に結び付くことを求めておられます。事実この神の望みは、「自己放棄と十字架」（『福音宣教』10参照）を通して、日々勝ち取られなければならないものです。このためには、わたしたちが神の計画を従順に受け入れるという意思をもって、個人として根気強く神に協力していくことが必要なのです。このようにしてこそ、キリストが十字架を通して勝ち得た、安全で最終的な安息の地に到達することができるのです。これ以外に、真の平和と喜びを獲得し得る解放はありません。ただ真理である神に出会うことによってのみ、これが可能になるのです。「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」（ヨハネ8・32）。

福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸なのです

簡単に言ってこれこそが、遣わされたキリストがもたらした「よい知らせ」なのです。キリストはこの「よい知らせ」を、「貧しい人」、この世においてあらゆる形の奴隷状態に拘束されている人、あらゆる時代と地域において「苦しんでいる人」、すべての人にもたらされたのです。というのも、この救いとはすべての人のものであり、地上のあらゆる男女はこの福音を受け取る権利があるからです。これはわたしたちの永遠のいのちにかかわることです。「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」（ローマ10・13）ということをパウロはわたしたちに思い起こさせます。

3．しかしながら、イエスのことを知らず、イエスの名を聞かなければ、だれもイエスを呼び求め、イエスを信じることはできません（ローマ10・14-15参照）。だからこそ、主が御父のもとへ帰る前に、弟子たちに命じた「あなたがたは行って、…教えなさい」（マタイ28・19-20）、「宣べ伝えなさい。信じて洗礼を受ける者は救われる」（マルコ16・15-16）という命令は、最高の命令なのです。これこそ、教会に託された務めなのです。教会は、救いの「普遍的秘跡」（『教会憲章』48）として、また「恩恵を与える手段」（『福音宣教』14）として、主がご自分の使命を実行するため、時を超え、すべての人類のために、遣わされたのです。

だからこそ、まさに受けた信仰によって教会のすべての人々にまかせられているものは、「特権」であり、「重大な義務」でもあるのです（一九九六年度『世界宣教の日』メッセージ」参照）。すなわち、福音宣教を世界的に行う取り組みに参与するための「特権」「恵み」そして「義務」なのです。

御父から愛されているにもかかわらず（『救い主の使命』3参照）、いまだに救いの福音が届いていない多くの人々を目にすると、キリスト者は使徒パウロがつき動かされた同じ切迫感を心に刻まないわけにはいきません。使徒パウロはその切迫感によって、「福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸なのです」（一コリント9・16）と叫んだのです。事実わたしたち一人ひとりは、神の前でこのように「信仰を持たない」数百万の人々に対して、多少なりとも責任があるのです。

4．仕事の大きさと、自分の力不足を認識することで、時には幻滅させられることもあるかもしれません。しかし恐れる必要はないのです。わたしたちは一人ではありません。主ご自身がわたしたちを支え、次のように言っておられます。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28・20）。「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない」（ヨハネ14・18）。「わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ない・・・わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところに送る」（ヨハネ16・7）。

したがって、特に疑惑や困難のある時には、人間の努力がどれほど称賛に値し、欠くことのできないものであったとしても、宣教とはまず第一に神の業であるということを常に思い出して、元気を出してください。宣教とは弁護者である聖霊の業です。聖霊は明らかに、宣教のための「主要な働き手」（『救い主の使命』21参照）です。宣教は聖霊のうちに始まる「霊による派遣」（同22）なのです。事実、福音が「人間の精神と心の中にかたちをとり、歴史をとおして広がって行」（『救い主の使命』21、『聖霊―生命の与え主』64参照）くのは、聖霊の働きによります。

わたしたちは生きる教会であることによって宣教者なのです

5．すべてのキリスト者が宣教活動に対して責任をとるようにという普遍的な呼びかけに対し、過去において幼いイエスの聖テレジアが模範的に答えています。今年わたしたちは聖テレジアの帰天一〇〇周年を祝っています。聖テレジアの生き様と教えは、わたしたちに「宣教と観想の密接な結びつき」を浮き彫りにしてくれます。事実、深い祈りの生活がなく、また主との一致、主の十字架上での奉献との一致を伴わない宣教というものはあり得ません。

主の足もとに座ることは（ルカ10・39参照）、疑いもなく、真に使徒的なあらゆる活動の始まりです。しかし、もしこれが出発点とするなら、避けられない「奉献」と「十字架」という段階が、その後の長い旅路の中に続いていくのです。「生きている」キリストと出会うということはまた、「渇いている」キリストと出会うことをも意味します。つまり十字架につけられ、その後何世紀にもわたって、たましいを救うための切実な「渇き」を叫んでおられるキリストと出会うことなのです（ヨハネ19・28参照）。

愛である神の渇きをいやし、さらにわたしたち自身の渇きをもいやすためには、愛し、また愛を受け入れるほかないのです。「愛する」ことは「すべての人々が救われ」（一テモテ2・4）るようにというキリストの切実な願いに深く同化することであり、「愛を受け入れる」ことは、わたしたちの道とは異なるキリストの道（イザヤ55・8参照）にしたがって、キリストがわたしたちを用いられるのにまかせることです。こうすることで、地上のすべての男女はキリストを知り、救われるようになるでしょう。

6．確かにすべての人が宣教に出かけるように呼ばれているわけではありません。「わたしたちは言葉や行いによって宣教者となる以前に、…生きる教会であることによって宣教者なのです」（『救い主の使命』23）。重要なことは「どこで」ではなく「どのように」です。家庭においても、職場でも、病院のベッドの上でも、修道院の囲いの中でも、真の使徒となり、多くの実を結ぶことができます。重要なのは神の愛に心が燃えていることです。これさえあれば、肉体的、道徳的な苦しみだけでなく、わたしたちの日常生活における疲労も、神秘体全体のために、そして世の終わりまで、光、炎、そして新たないのちへと変わり得るのです。

7．愛する兄弟姉妹の皆さん、新たな千年期を前にしてわたしは、教会全体が宣教に自分たちを賭けていくために新たな刺激を受けることを心から望んでいます。どうかすべての洗礼を受けた人々がこの責任を自分のものとし、また「わたしの母である教会の心臓の中で、わたしは愛となりましょう。こうして、わたしはすべてとなるでしょう」と言った宣教の保護の聖人、幼いイエスの聖テレジアの生き方を、自分の状況の中で可能な限り生きることができますように。

使徒たちの母であり女王である聖マリアは、高間にいて弟子たちとともに祈りながら聖霊が降るのを待ち、また宣教者たちの勇敢な旅路をその最初から共に歩んでくださいました。こんにち信者たちが聖マリアのもつ連帯、宣教活動の広い領域における愛のこもった配慮に倣うことができるよう、どうか聖マリアが励ましてくださいますように。

こうした心を込めて、世界中で宣教のために協力しているすべての率先した活動を励ましながら、皆さんに祝福を送ります。

一九九七年五月十八日
聖霊降臨の主日に、バチカンにて

ヨハネ・パウロ二世

※聖書の引用は、日本聖書協会『聖書　新共同訳』（一九九一年版）を使用しました。ただし、漢字・仮名の表記は本文に合わせたことをお断りいたします。他の引用文も同様です。
訳：日本カトリック宣教研究所

典礼 あ・ら・か・る・と 2

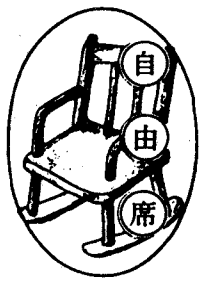
先月に引き続き、祭服について考えてみたいと思います。前回も書きましたように、祭服は典礼における奉仕の多様性を表していますが、同時にすべての祭服に共通なことがらもあります。これについては「ローマミサ典礼書の総則」二九八番が次のように述べています。「あらゆる段階の、すべての奉仕者に共通の祭服はアルバである」。「アルバ」とはラテン語で「白い」という意味です。キリスト教で白は、神の栄光、キリストにおけるいのち、復活の象徴です。変容に際してキリストの服が白く輝いたこと（マタイ17・2）、神の国の礼拝に集う人々が身に着けている白い衣（黙示録7・9）や殉教者の白い衣（同7・14）など、聖書においても白は神の栄光や復活のいのちのしるしとして描かれています。

このような白い衣を奉仕者が着用している姿は多くのモザイク画にも見られ、初代教会のころからの伝統として受け継がれてきました。

ところで、この白い衣は、典礼で奉仕する人だけに与えられているものなのでしょうか。わたしたちは皆洗礼を授けられたとき、キリストを着る者のしるしとして「白い衣」を受けています。したがって、司式者や奉仕者はもちろん、典礼に参加するすべてのキリスト者は皆、同じように白い衣を身にまとっていることになります。確かに、目に見える白い衣を着けているのは司式者と奉仕者だけかもしれません。しかし、典礼に集う一人ひとりが白い衣を身に着け、キリストのいのちを受けているという意識をもって参加するとき、皆が生き生きとそれぞれの奉仕の務めを果たして参加する典礼になるのだと思います。なお、祭服の形、色、生地の素材などは、それぞれ国や地方の文化的な伝統を考慮して独自のものを作ることができます。それによって、各地域の伝統や文化に深く根ざした典礼が生み出されることが求められているのです。（カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九六年二月号第一頁）

祭服（二）
― アルバは共通の祭服 ―

マザー・テレサへ



●ぼくはマザー・テレサをそんけいしている。神様のために死ぬのはできないけど、そのぶん人のためになにかしたい。こまっている人、または、人をゆたかにしたりできる人がいい。

ちかごろの社会、ゆうかい、さつ人など、いろいろなことがある。わけをきくとお金よりも「むしゃくしゃしたから」、など自分かってなものばかり。

こういう世の中だからマザー・テレサがいると思う。そして死んだことでみんながマザー・テレサをみならったらいいと思う。これをきっかけに世の中がよくなったらいい。（小五）

●天国にいらっしゃるマザー・テレサ、私はあなたのようにまずしい人にやさしくできると思いますか？　私は、まだ、まずしい人を見た事はありません。でも、私はまずしい人をたくさんたすけたいです。マザー・テレサ、できれば、私に声をかけてください。（小四）

●マザー・テレサさん、インドでまずしい人のために働いているというのを、幼稚園の時に、知りました。そして、十二才の時に、まずしい人のために働くと、決めたこと、十八才の時に修道院にはいり、三十才の時ぐらいに、カルカッタのまずしい人のもっともいるところに行ったと、三年生のころ、知りました。マザーはまずしい人のために生涯をささげたということは、とてもすごいと思います。私もそういう人になりたいです。マザーみたいにはなれないかもしれないけど、人にやさしくなれたらいいなと思います。（小五）

＝浄水通教会学校

'97 心をひらいて　むなかたTENTENまつり
特別公演〔手話通訳付〕
自分で決める自分の医療
― LET ME DECIDE ―
講師：二の坂 保喜（やすよし）氏・医師
10月10日（金）10：00～15：00
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

教区内各種委員会・各会からのお知らせ

教区内には、東京にあるカトリック中央協議会と関連した各種の委員会がある。委員会とはいえ、実質的には担当司祭と二、三人の委員によって構成されているのが現状である。各種委員会や各会からの連絡、お願い等のお知らせを掲載する。

＝青少年委員会＝

青年会は教区を福岡・北九州・筑後・佐賀・熊本の五つのブロックに分けて活動をしている。担当司祭は中村彰神父（大楠教会）。教区内の青年を対象として練成会が計画されている。司祭、信徒からの青年への呼びかけが期待される。十一月二十三日（日）から二十四日（月）に熊本県鹿北町の幸の国ロッジにて。テーマは「マザー・テレサに学ぶ」。参加費三〇〇〇円。

＝広報委員会＝

広報委員会は通常はおもに教区報の編集にあたっている。担当司祭は山元眞神父（福岡カトリック神学院）。各小教区に広報委員がいるが、教会の出来事や様子を知らせていただければ幸いである。映画「アジアの瞳」の案内は本面に掲載しているが、遠藤周作原作の映画「愛する」も福岡市博多区AMCキャナルシティ13で十月四日から公開される。「この作品は、ひとりの少女を通して今なお残るハンセン病患者への差別、偏見、そして強制隔離された人びとの耐えられぬほどの苦しみ、孤独感、その現状を普遍的なテーマとして捉え、見事に表現しています…」（カトリック中央協議会広報部推薦のことばより）。

大分県教育委員会では、同県の代用的な先哲の業績及び人間像を明らかにすることを目的として『大分県先哲叢書』を刊行している。その中には「大友宗麟」と「ペトロ岐部カスイ」の資料集・評伝も含まれている。ペトロ岐部カスイは、日本人として初めて聖地エルサレムを訪れ、遥かローマの地で司祭に叙階された後、多くの艱難を克服してキリスト教禁制下の日本に帰国して殉教するに至った。今回刊行された「評伝ペトロ岐部カスイ」は、その波乱に満ちた生涯と思考の軌跡を、詳細な背景とともに論述している。イエズス会司祭H・チースリク神父の監修、東京大学史料編纂所教授五野井隆史氏の編集・執筆による。問合先は大分県立先哲史料館内☎0975・46・9380まで。

＝聖書委員会＝

担当は牧山勝美神父（小郡教会）。現在、聖書講座を開催中。詳しくは四面参照。毎年、聖書週間が定められているが、今年は十一月十六日（日）から二十三日。十一月二十八日（金）には19時からカテドラルで聖書週間特別講演がある。テーマは「過越の奥義を生きる」で講師は牧山勝美神父。受講料八〇〇円。

また、一九九九年八月中旬に、エキュメニズム（諸宗教一致運動）的協力の中で、「福岡聖書展」の開催が計画されている。十月二十一日（火）午後一時半から三時半まで福岡中部教会で説明会が開かれる。今後、信徒の皆さんにも具体的協力が呼びかけられる。聖書展の担当は青木悟神父（教区事務局長）。

＝信仰教育委員会＝

担当は牧山勝美神父（小郡教会）。研修を兼ねた全国担当者会議が毎年開かれているが、今年は十一月一日から三日までカテドラル大名町教会で開催される。テーマは「子供と典礼」で、現在ローマに申請している「子供とともにささげるミサ」の典礼文についての研修が行われる。十一月二日のカテドラルでのミサは、全国担当の押川壽夫司教（那覇教区長）司式で子供のための典礼で捧げられる。福岡近郊の教会学校リーダーと子供たち、一般信徒に参加が呼びかけられる。

また、それに先だって、十月五日には福岡教区、おもに福岡地区の教会学校担当者と一般信徒を対象に「リーダー研修会」がカテドラル大名町教会で開かれる。詳細は四面。この研修会は先のカテドラルでのミサの準備も兼ねており、新しい「子供とともにささげるミサ」の典礼が紹介される。

＝召命を共に祈る会＝

信徒、修道者、司祭からなる召命を祈る有志の会。代表は青木悟神父（教区事務局長・神学生養成担当）。福岡地区レベルと教区レベルの二通りの会合をもつ。会合では、召命を求めてロザリオの祈りが唱えられ、召命に関する行事が企画される。十月二日午後七時四十五分から福岡サン・スルピス大神学院で「召命を祈るミサ」を神学生とともに行う。ミサ後、神学生と分かち合う茶話会がある。大神学院院長の大山悟神父は「大神学院では、神学生の宣教意識を高めるために、神学院外からの人たちを受け入れて、ミサを共にしたいと願っていました。それで、月の第一木曜日の夕方のミサに、神父様方はじめ一般の方々の参加を呼びかけたいと思っています。そして、参加される方々と共に召命の恵みを求めて祈り、また、神学生が自分の召命を見つめ、神学生の召命のためにも祈りたいという意向を持っています。また、『召命を共に祈る会』も、その意向に賛同し、協力することになりました」とのべている。福岡カトリック神学院、聖パウロ修道会の神学生、また、修道志願生も参加する。一般信徒の参加も自由。

また、十月二十五日から二十六日に、司祭、修道者の召命について考え、分かち合い、祈る集いが計画されている。場所は篠栗町の「聖心の祈りの家」。十八歳以上の独身男女青年の受洗者が対象で参加費は二〇〇〇円。同会は「司祭、修道者の召命を考えている方、またこれから考えてみようかと思っておられる方、そして、ちょっとだけ興味のある方も、どうぞご参加ください」と呼びかけている。有志の司祭、修道者も多数参加する。申し込み、問い合わせはカトリック福岡司教館の青木悟神父まで。詳細は各小教区に掲示している案内やポスターを参照してください。

98年度から6年制へ

福岡サン・スルピス大神学院

教区司祭の養成機関である大神学院は日本に二箇所ある。東京と福岡。福岡にある福岡サン・スルピス大神学院（院長・大山悟神父）では今、機構改革が進んでいるが、これまで八年間の養成期間が来年度から六年間に変更される。今まで、小神学校や一般高校を卒業した司祭志願者を受け入れていたが、来年度から入学条件が変わる。先日発表された同神学院の入学選考要項によれば、以下の資格が要求される。

①原則として二十二歳以上のカトリック男子信徒
②受洗後三年以上を経過していること
③カトリック司祭になりたいという明確な意志をもっていること
④司祭召命について、少なくとも半年前から、当該教区長、出身小教区主任司祭、教区召命担当司祭に話し、指導を仰いでいること
⑤大学、短期大学、あるいはそれと同程度の学歴を有すること

これまで、一般教養課程として受講していた慶応大学の通信教育は廃止されることになる。

この機構改革を受けて、大神学院のいわば下部組織である小神学校（福岡カトリック神学院）の養成のあり方も根本的に見直されることになる。現在在学中の五名の小神学生は大学入試の準備をしなければならない。

御寄付御礼

ドレンシオ片岡由四郎様の香典返しとして金一封をいただきました。ここにご報告し、心より御礼申し上げます。

カトリック福岡司教区

おわび

九月号1面の「『西日本宣教大会』開催に関する趣意書」の冒頭にある「一五九四年」は「一五四九年」の誤りでした。おわびして訂正致します。

司祭生活十余年。福岡での生活は今回で三度目。来るごとに福岡の変わりようは激しい。変わっていないのは、福岡修道院の建物ぐらい。それでも、建てられてから四十年以上たっているので、古びて少々ガタがきている場所もあるし、修道院の玄関までの植木も成長しすぎている感じがする。一番の修道院の変化は、なんといっても志願者の人数である。激減した。わが修道会に限らず、召命の減少は、教会全体の緊急の課題でもある。

魅力ある生き方を

原因はいろいろ考えることができよう。一番の原因に考えられることは、魅力の不足である。魅力のある生き方と思われなくなった、見えなくなった点である。先日亡くなられたマザー・テレサの生き方を振り返ってみてもわかるだろう。教会内ばかりでなく、教会以外の人々からも魅力ある生き方をした人と慕われたからこそ、インドにおいて国葬で送られもした。そして、彼女の生き方に惹かれて、多くの人たちが後に続いている。

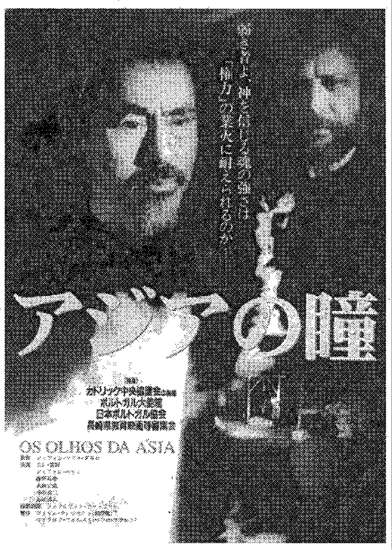
私たちはどんな人に魅力を感じるか。一人ひとりの味方、考え方、価値観は違うので、一概にはいえないが、マザー・テレサの生きた姿は本当に魅力ある、すばらしい生き方だった。それはキリストに従った生き方だった。教会の歴史をみるときに、キリストに従って魅力ある生き方をした、たくさんの人々がいる。私の短い歴史においても、魅力ある人との出会いがたくさんあって、今の私のものの見方、考え方に多くの影響を与えてくれているし、まがりなりにも司祭として生きてこれたと思う。中には、私に躓いたり、傷ついたりした人もあったと思うことも多いが。

私が生きてきた半生（そんな大層なものでもないが）を振り返るとき、時と場所を考えてしまう。少し時代がずれて生まれていても、司祭になれなかっただろうし、パウロ会以外のところでは、同じように司祭にはなれなかったと実感している。たまたま私にとって、魅力ある生き方をしていた司祭に出会ったことが、今の私をここに生かさせてくれていると感じる。私もそんな司祭になれたらと思う。その人のどこに惹かれたかは、紙面の都合上、今回は見送ることにするが、そんな魅力ある人間になりたいと望んで生きている。

（聖パウロ修道会　戸村修神父）

日本・ポルトガルの合作映画「アジアの瞳」は、ドラマとドキュメンタリーが作品のなかに混在するという、ユニークな構成になっている。

ドラマは戦国武将大友宗麟がローマへ派遣したという四人の少年たち（伊東マンショ、原マルチノ、千々石ミゲル、中浦ジュリアン）の帰国後の運命を描く。ドキュメンタリーは、被爆五十年後の長崎を訪れた外国人女性ジェーン（ジェラルディン・チャップリンが特別出演）の眼を通して現在を見、人生の真の価値を模索する。



現代という歴史を誠実に生きる人々に永遠の問題をつきつけている。26聖人殉教四百年のこの年、ぜひお勧めしたい映画。

福岡では十一月十六、十七日、都久志会館にて特別公開の予定。

BOOK 読みま専科

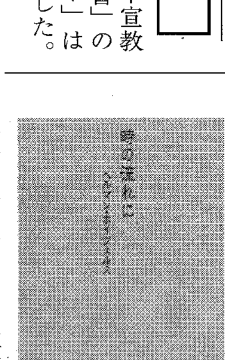
★信頼への旅
—内なる平和を生きる三六五日の黙想—
ブラザー・ロゼ著

著者の精神とその姿に共感し、世界各地から集う兄弟たちに福音の真意と生き方を示す。サンパウロ刊　税込一一六五円

〈テゼについて知るために〉
＊「テゼ―信頼に生きる」ビデオVHS30分　日本語版
＊「祈り―信頼の源へ―」マザー・テレサ／ブラザー・ロゼ著
（いずれもサンパウロ刊）

◇　◇　◇

★時の流れに
ヘルマン・ホイヴェルス著



著者は聖イグナチオ教会の初代主任司祭で帰天されてから二十周年を迎える。五十余年にわたっての宣教生活で多くの人々をキリストに導き大きな影響を与えられた。本の内容は、生き物―子ども―人間―神―をテーマとしたエッセイ集。『シンメトリー』ものの調和的な釣り合いを意味することば。わたしたち人間としての使命は結局、そのものの釣り合いを見つけ、自分の心もこの幸福なシンメトリーにする。日本文化に対する深い理解と愛からあふれ出たことばは「時の流れ」を越えてその輝きを放ちつづけている。女子パウロ会　税別一五〇〇円

聖パウロ書院は都合により、11月3日（月）は休業いたします。

ジャパンスマイルか株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092−761−8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092−711−0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石　御影石　その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096−352−2417

福岡黙想の家　10月

◇7日（火）～9日（木）イエズス会／4校合同職員研修会
◇10日（金）　むなかたTENTENまつり★
◇13日（月）～17日（金）福岡教区司祭黙想会
◇19日（日）～25日（土）サレジオ会黙想
◇25日（土）～26日（日）泰星聖書研究グループ黙想会
◇28日（火）～30日（木）カリタスジャパン担当者会議
◇30日（木）～11／3日（月）サダナⅡ

［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222　FAX 0940・32・3385

★平和のミサのために「典礼聖歌と祈りの集い」のメンバー中心に、聖歌隊を編成します。練習は当日13時から。

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、一日静修（黙想会）を計画いたしました。ご参加ください。

■一日静修
日時：10月9日（木）9時30分～15時30分
指導：フランコ神父
参加費：1,500円（昼食代含む）
申込締切：10月4日（土）
＊この他に個人、又はグループで、黙想等をなさりたい方はいつでもお申し込みください。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

―教会学校リーダーの集い―

新しい「子供のミサ」

全国信仰教育担当者会議が11月1日（土）～3日（月）にカテドラル大名町教会で開催されます。テーマは「子供とともにささげるミサ」。11月2日9時から実際にミサが捧げられます。そのための準備も兼ねて教区で研修の機会をもちます。

●日時：10月5日（日）13時30分～16時
●場所：カテドラル大名町教会3階会議室
●参加費：500円
●申込・問合先：カトリック福岡司教区本部（司教館）深堀邦枝［平日10時～16時］資料準備のため事前に申し込みのこと

会合と催し

教区年間テーマ：キリストとの真の出会いを求めて

10月　ロザリオの月

1日（水）幼いイエスの聖テレジア
2日（木）守護の天使
3日（金）福岡聖書講座⑬［カテドラル19時］（～12月5日）■
　＋E.ラゲ［福岡司教館1929］
4日（土）アシジの聖フランシスコ
5日（日）教会学校リーダーの集い［カテドラル13時30分］■
7日（火）ロザリオの聖母
9日（木）祈りの集い（生命山）
10日（金）体育の日
　むなかたTEN・TENまつり［福岡黙想の家］
13日（月）教区司祭黙想会（～17日まで）
15日（水）聖テレジアおとめ教会博士
17日（金）聖イグナチオ（アンチオケ）
　＋J.グリーン［玉名教会1994］
18日（土）聖ルカ福音記者
19日（日）世界宣教の日《献金》／十字架の聖パウロ
　大名町堅信式
23日（木）＋J.B.ドラビ［黒崎教会1967］
27日（月）＋J.ベルトラン［門司港教会1987］
28日（火）聖シモン・聖ユダ使徒
31日（金）＋ヨセフ糸永一［今村教会1992］

■印は本面に詳細説明あり

11月　死者の月

1日（土）諸聖人
2日（日）死者の日／**教区和田墓地ミサ（14時～）**
　＋S.アクワビバ［1984］
　子供とともにささげるミサ［カテドラル9時］
3日（月）文化の日
　召命の集い（大神学院）■
　＋F.ボア［援助修道会黒崎修道院1977］
4日（火）聖カロロ・ボロメオ司教
　教皇ヨハネ・パウロ2世霊名祝日
7日（金）福岡聖書講座⑰［カテドラル19時］■
9日（日）ラテラン教会の献堂
16日（日）聖書週間（23日まで）
　笹丘教会堅信式
19日（水）大神学院祭
21日（金）聖マリアの奉献
　福岡サン・スルピス大神学院創立記念日
22日（土）聖セシリアおとめ殉教者
　＋P.ポール［黙想の家1996］
23日（日）王であるキリスト（年間最後の主日）
　勤労感謝の日
　＋B.シュルツ［吉塚教会1996］
27日（木）＋S.ズワノニ［唐津教会1962］
28日（金）聖書特別講座［カテドラル19時］■
30日（日）待降節第1主日
　聖アンデレ使徒

福岡

■**カテキスタの集い**　［日時］10月5日（日）13時30分～［場所］カテドラル大名町教会［講師］山元眞神父（福岡カトリック神学院院長）［テーマ］子供のミサ［会費］500円［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX 524・7373

■**ほめたたえよう、主の御名を―若者の賛美、感謝、礼拝と分かち合いの集い**　［日時］第2・4日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会・聖アウグスチノ館［対象］若者、司祭、修道者、プロテスタントの方、まだクリスチャンでない方、楽器のひける方、そしてご自分でご自分のことをまだまだ若者と思っていらっしゃる方［指導］パトリック神父（アウグスチノ会）［参加費］自由献金［後援］聖霊による刷新福岡奉仕会［問合先］橋爪章一☎092・714・3477

■**聖書講座・後期―エフェソの信徒への手紙**　［日時］毎週金曜日19時～20時45分（12月5日まで）［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［日時・題・講師］⑬10月3日・死から生命へ・松永久次郎司教⑭17日・キリストにおいて一つになる・青木悟神父⑮24日・パウロの働き、キリストの愛を知る・同⑯31日・キリストの体は一つ・白浜満神父⑰11月7日・古い生き方と新しい生き方・櫻井尚明神父⑱14日・光の子として清く生きる・平田寛神父⑲21日・夫、妻、子への勧告・同⑳12月5日・悪との戦い、結び・牧山勝美神父［受講料］1回800円［申込方法］当日受付にて［問合先］教区本部事務局☎092・522・5139

■**講話と祈りの集い―幼いイエスの聖テレジア逝去一〇〇年記念、準備―**　テレジア帰天一〇〇年を迎えるに当たって、テレジアとともに教会のこと、宣教のことなどを祈り、学ぶ小さな集いを計画しております。皆様のご参加をお待ちしております。［日時］⑫10月5日（日）13時30分～聖テレーズ帰天一〇〇年記念ミサ（**松永司教**司式）・茶話会［場所］福岡カルメル会修道院・テレサの家［問合先］同右☎FAX092・807・7361

■**ヤングママの黙想会**　［日時］10月7日（火）10時～15時［場所］司教館別館5階［テーマ］①わたしは婦（つま）②わたしは母③家族の一致・お祈り［指導］T・ドワイヤ神父（アウグスチノ会・笹丘教会）［参加費］1000円（昼食代含む、ただし、子供の分は含みません）［主催］福岡地区婦人会［問合先］白石英子☎092・581・8197

■**女子召命黙想会**　［日時］10月9日（木）18時～12日（日）昼食［場所］大分郡湯布院町川上庄屋の館、福音の光祈りの家［対象］未婚の女性信徒［指導］塩谷恵策神父（イエズス会福岡修道院院長）［定員］10人［費用］7000円［申込締切］10月4日［申込・問合先］福音の光修道会福岡修道院、シスター・佐藤☎092・581・1663 FAX581・4609

■**福岡カトリック・パストラルケア研究会**　［日時］10月19日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院1階講話室［内容］病人訪問時の病者へのカトリック的対応の仕方を学ぶ［参加費］無料［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）

■**第70回福岡結婚準備セミナー**　［日時］11月15日（土）～12月13日（土）毎土曜・木曜日19時～21時20分・全8回＊**11月22日（土）は休会**［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022

■**聖歌研修会**　［日時］11月16日（日）13時～［場所］大楠教会［聖歌指導］深堀純氏

■**黙想会〈神のいつくしみにふれて…私は！〉**　［日時］11月22日（土）17時～24日（月）昼食［場所］聖母訪問会大濠修道院［対象］女子青年信徒［指導］白浜満神父（福岡サン・スルピス大神学院）［定員］10人（定員になり次第締切）［費用］3500円［申込・問合先］聖母訪問会大濠修道院、シスター・テレーズ大野☎092・741・4250

北九州

■**小倉教会殉教記念ミサ**　［日時］10月12日（日）14時～［司式］松永久次郎司教［場所］小倉教会

■**第9回お母さんの集い**　［日時］10月20日（月）10時30分～13時［場所］カトリック小倉教会聖堂［講師］松田聡史神父（長崎鮑浦教会）［テーマ］ほほえみ―それは愛の始まり／「多くの人は愛に、小さなほほえみに飢えているのです」（マザー・テレサ）［参加費］500円［問合先］福吉三代子☎093・962・1395

■**死者のために祈る日**　［日時］11月2日（日）14時～16時［場所］黒崎教会［司式司祭］ガイヤール神父（水巻教会主任）［内容］ミサ［主催］援助修道会黒崎修道院［問合先］同右・シスター長谷川光恵☎093・621・5670

佐賀

■**第5回聖書を読む会**　［日時］10月2日（木）10時～11時30分／19時30分～21時（午前と午後の内容は同じ）対象は一般の方ですが、信者ももちろん参加してください。友人も誘ってください。［場所］カトリック佐賀教会［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父（ロザリオの園）［参加費］無料［問合先］カトリック佐賀教会☎0952・23・4754

■**聖書に学ぶ心の教育―佐賀新聞文化セミナー**　「いじめ」や「いじめを苦にした自殺」が目立っている。いじめのない、子供たちに希望を持たせる教育、思いやりの教育の在り方をアレグリーニ神父とともに考える。［日時・テーマ］15時30分～17時①10月11日（土）マザー・テレサが受けた心の教育②18日（土）生きる力を育む希望教育③11月8日（土）道徳教育の基礎④22日（土）思いやり教育⑤12月13日（土）クリスマスと心の教育⑥27日（土）死への準備教育［場所］玉屋教室［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父（ロザリオの園）［受講料］7200円（プリント料300円）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー事務局☎0952・28・0371

熊本

■**第10回熊本短期キリスト教講座―生きがいをさがそう！**　［日時］毎週金曜日10時～12時・19時～21時（10月31日まで）［場所］手取教会［題・講師］③10月3日「ザ・人間」（ルカ福音書15章から）・坂本憲治牧師④10日・出会いと別れ、そしてホスピスへ・葉山武志医師⑤17日・いのちになる―私が私であること・シスター入江純子⑥24日・信じる者になりなさい（ヨハネ20・27）―文化と信仰・L・メネガッツォ神父⑦31日・人生は神様が書かれた脚本―病まなければ・井出隆氏／ティーパーティー［受講料］講座全体で1000円［申込・問合先］手取教会カトリック案内所☎096・322・7948

編集後記

あの暑い夏の日々も、もう忘れてしまいました。過ごしやすい秋が来ました。今回の紙面は文字がびっしり埋まりました。教皇メッセージもゆっくり読んでみてください。文字がつまってしまって「つまらん」という声が聞こえそうです。行事いっぱいの十月。皆様からの原稿、報告の記事をお待ちしています。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJKI
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人 カトリック福岡司教区
編集人 山元 眞
TEL 092-522-5139
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部60円

今月のみことば

あなたのうちにある神の賜物を
ないがしろにしてはなりません。
（一テモテ4・14）

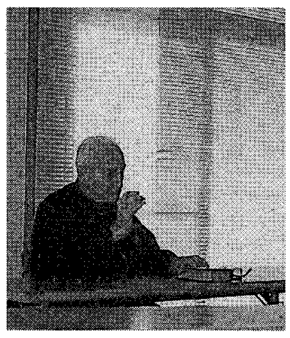
聖パウロ会 百村 等

10／13～17

教区司祭黙想会

「心と体の点検」

十月十三日から十七日まで、福岡黙想の家で教区司祭を対象とした黙想会が開かれた。今年も病気療養中の司祭を除く全教区司祭二十九人と助祭一人が参加した。黙想は一日二回行われる説教を基に、過ぎ去った一年を振り返るとともに、向こう一年間の司牧宣教への熱意を養うもの。説教師は御受難修道会のマテオ・ヴェッター神父。また、司祭の健康診断もあり、文字どおり心と体の点検が行われた。



黙想会はロザリオの祈りで始まった。受け付けを済ませた司祭は三々五々聖堂に集まり、ロザリオの月にあたり、聖母マリアに黙想会での豊かな実りの恵みの取り次ぎを祈った。オリエンテーションの後、研修室で第一回目の説教が始まった（＝写真）。《聖霊来てください》の祈りが静かに、ゆっくりと唱えられた。

マテオ神父は、八回にわたる説教の中で、司祭の基本的生活、つまり、父と子と聖霊の神との親しい交わりについて語った。福音、パウロの手紙、詩編など聖書のみ言葉を多分に引用し、宣教師として、霊的指導者としての豊かな体験をもとに静かに語るマテオ神父の説教は、さながら祈りそのものであった。神との交わりを深めるためのミサ、『教会の祈り』、個人的な祈りの見直しを求めた。また、内的生活についてだけではなく、結婚式や葬式における福音宣教や人との関わりの大切さについても語った。

食事は沈黙の中に行われた。聖書の朗読を聞きながら食事をしていた神学生時代を思い出した司祭も多かったにちがいない。

説教の合間には、聖堂で静かに祈る人、個室で黙想する人、さわやかな自然の中を歩きながら黙想する人、十字架の道行きをする人など、それぞれ、自由なかたちで神との関わり、交わりを見直していた。

感謝の祭儀（ミサ）は毎日昼食前に行われ、四日目のミサは教区で司牧宣教にあたって亡くなられた司祭のために死者ミサが捧げられた。今回は特に今年帰天した青木保神父の安息を祈った。午後にはティータイムも設けられ、互いに談笑する姿も見受けられた。

黙想会の合間に談笑する司祭たち

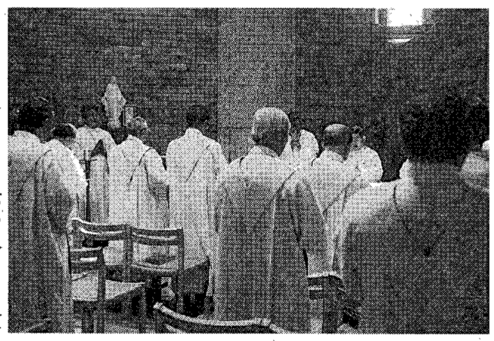
健康診断行われる

二日目の朝、久留米市の聖マリア病院から検診車と医療スタッフが到着。応接室と研修室が改造され、さながら簡易診療所。問診、血圧、心電図など各身体機能の測定、血液検査などが行われた。中庭に駐車した検診車では胸部と胃のレントゲン撮影が行われた。

健康診断の前日は午後九時以降の飲食が禁止され、初日の夜は例年になく静かな黙想会の始まりとなった。

かねてから司祭の健康問題が取りざたされ、ほとんどの教区司祭が集まる黙想会の時に健康診断をしてはどうかという話が持ち上がっていた。二三年前から検討されていたが、今回やっと実現。幼稚園等ですでに検診を済ませている幾人かの司祭を除いて、黙想会参加者のほとんどが受診した。修道会司祭の希望者も受診した。

検診の結果は後日、本人宛に送付される。すでに病気に罹っている司祭もいるが、今回の検診によって、成人病などの予防、早期発見が期待される。



最後の夕食では沈黙も解除され、司祭同士の交流、親睦がなごやかな雰囲気のうちに深められた。最終日、感謝のミサが捧げられ、昼食の後、参加司祭はまた新たな気持ちでそれぞれの司牧宣教の場に散っていった。

聖書週間（11/16～23）特別講演

日　時：１１月２８日（金）１９時～２１時
テーマ：過越の奥義を生きる
場　所：カテドラル大名町教会１階講堂
講　師：牧山勝美神父（カトリック小郡教会主任）
受講料：８００円

聖フランシスコ・ザビエルの聖腕来る

西日本宣教会議

聖フランシスコ・ザビエルの渡来四百五十周年を二年後にひかえ、ザビエルにゆかりのある長崎、鹿児島、大分、広島の四教区の教区長が「西日本宣教大会」を開催することを決定したが（**本紙九月号既報**）、その開催日などが決まった。

福岡教区も、協賛としてこの宣教会議に参加することになり、去る九月二十四日から二十五日に福岡サン・スルピス大神学院で開かれた準備委員会に参加した。「西日本宣教会議」準備会で以下のことが決定した。実行委員会を作ること。開催日は一応一九九九年十一月十六日（火）～十八日。対象は主に司祭。また、開催月の前月十月中に聖フランシスコ・ザビエルの聖腕が関係教区を回ることになる。

一九九八年聖霊の年
—大聖年準備のための祈り—

カトリック中央協議会の大聖年準備特別委員会から「大聖年準備の第二年目《聖霊の年》のための教皇ヨハネ・パウロ二世の祈り」の邦訳が出された。今回は「イエス・キリストの年」の祈りのようなカードは発行されない。ちなみに、典礼暦の新年は待降節第一主日（十一月三十日）から始まる。

《一九九八年聖霊の年
—大聖年準備のための祈り—》

◇聖霊来てください。
わたしたちに大聖年の深い意味を悟らせてください。失われることのない希望、報いを求めない愛、ゆるぎない信仰をもって、大聖年を祝うことができるよう、わたしたちの心を整えてください。／教会を通して、神の深い愛を明らかにされる聖霊、あなたによって人類が、ナザレのイエスこそ栄光の主、世の救い主、歴史の完成者であると認めることができますように。▲愛と平和の霊、来てください。

◇神の国の建設者である聖霊、教会が新しい千年期のとびらを勇気をもって開き、救いをもたらすキリストの光を、新しい世代に伝えることができるよう導いてください。／神の息吹として宇宙をつかさどられる聖霊、あなたの訪れによって、地の面（おもて）を新たにしてください。すべてのキリスト者がキリスト教一致への望みに目覚め、神との親密な交わり、全人類一致のしるし、道具となることができますように。▲愛と平和の霊、来てください。

◇教会の魂、交わりである聖霊、奉仕のさまざまな務めと豊かな賜物を、一つに結ばれたキリストの体のために役立たせてください。唯一の神の国を築くために、信徒、修道者、助祭、司祭、司教が、心を合わせてともに働くようにしてください。／喜びと平和の尽きることのない泉、慰め主である聖霊、貧しい人々とわたしたちとの連帯を強めてください。病気の人々に必要な力を与え、試練を受けている人々に信頼と希望を注いでください。すべての人が、よりよい未来の実現に取り組んでいくことができますように。▲愛と平和の霊、来てください。

◇心と知性を導いてくださる聖霊、科学と技術を、いのち、正義、平和のために役立つものとしてください。他の宗教を信じる人々との対話を実らせ、すべての人が福音のもつ価値を大切にするように導いてください。／いのちそのものである聖霊、あなたによってみことばは人となり、おとめマリアのうちに宿られました。わたしたちも、歴史の歩みの中に示される時のしるしを喜んで受け入れ、あなたの愛の促しに素直に従うことができますように。▲愛と平和の霊、来てください。

◇賛美と誉れと栄光が、愛の霊であるあなたと、全能の御父と御ひとり子に、今もいつも世々に。アーメン。

（日本カトリック宣教研究所訳）

ディエゴ加賀山隼人顕彰会発足
小倉教会で殉教記念ミサ

北九州地区の小倉教会（主任、平田寛神父）で九月二十一日、「ディエゴ加賀山隼人顕彰会」が発足した。加賀山隼人は徳川幕府禁教令の元、細川忠興藩主の家臣であったが、小倉の地で一六一九年十月十五日に殉教している。現在列福調査の対象になっている殉教者の一人である。熊本花岡山に墓がある小笠原マリアみやの父親にあたる。

小倉教会では数年来、主日のミサ後に加賀山隼人の列福を求めて祈りを続けてきたが、紀元二〇〇〇年を迎えるにあたって、顕彰に力を入れることを決意、今回の顕彰会発足に至った。

十月十二日には教区長松永久次郎司教を迎え、午後二時から加賀山隼人殉教の記念ミサを行った。記念ミサには戸畑、若松、門司など、小倉近郊の小教区からの参加もあり、個人の熱い信仰を思いながら、列福を祈った。

キリスト生誕２０００年の大聖年を控えて、イエス様と、さらに親しくなるための地区信徒大会が開催されます。また、当日は、お子様同伴で参加される方のために幼児や小学低学年を対象とした「子供のふれあい教室」開催予定です。

【プログラム】

- ●１０時：受付開始
- ●１０時３０分～１２時：松永久次郎司教講演
- ●１２時～１３時：昼食
- ●１３時～１５時：信徒の証し（キリストとの出会い）／小グループによる分かち合い
- ●１５時～１６時：司教司式によるミサ
- ●１６時１５分：閉会

みちくさ

二十九年ぶり、次回は百余年後という中秋の名月の皆既月食は、台風十九号のため、残念ながら福岡では見られなかった。人類が月に到着して月のロマンも多少薄れたようだが、人々の月への思いはまだ残る▼詩編はうたう「あなたの手で造られた大空を仰ぎ、月と星を眺めて思う」（詩8）そして「人とは何者か」とつづくが、みちくさ子はウサギはどこ？と目をこらした。月にウサギがいるという俗信は、インドの神話に由来する▼山で迷った旅人（実は帝釈天）をもてなしたウサギとサルとキツネ。旅人のために食べ物を持って来れなかったウサギは、「焼けたらわたしを食べて…」と、たき火の中に身を投じた。自らを犠牲にしたウサギを帝釈天が月に上げたという。なんとなく救い主イエスを思わせる話である▼ところがこの俗信、東洋のほか南アフリカや西洋など、広い地域に残っているという。また、水を運ぶ人間、という俗信もある。西洋では月全体を顔に見たてて、月男とか月女とか呼ぶ。ほかに、片方のはさみが大きいカニ、耳の長いロバ、ほえるライオン、ヒキガエルなど、地域によりさまざま▼おもしろいのはドイツの「たきぎを背負った男」だ。これを「モーセのたきぎ拾い」と見る地域もあるそうだが、これは安息日にたきぎを集めて罰せられ、月に追放された男だという。民数記（15・32～36）にそんな男が石殺しになった話があるが、それが源泉か？いずれにせよ、月に上げられたり追放されたりと、えらい違いだ。（H）

世界宣教の日

聖テレーズ 教会博士に

聖テレーズ（幼いイエスの聖テレジア＝写真）の帰天百周年を祝う教会に、さらに喜ばしいニュースがもたらされた。聖女はローマにおいて、去る十月十九日に女性で三人目の教会博士に宣言された。

福岡女子カルメル修道院は、帰天百周年を祝う準備として、一年間、主にカルメル会の司祭を中心に月一回、講話と祈りのひとときを信徒とともにもっていた。そのしめくくりとして、十月五日（日）修道院聖堂で松永久次郎司教司式のもと、帰天百周年の記念ミサが多数の司祭、信徒とともに感謝と喜びのうちにささげられた。

「小さき者が聖人になり、教会博士になれる。この一見大それた希望は世間に生きる信徒の皆さんに、テレーズの生き方、メッセージを通して確実であると証明されました。」松永司教は説教壇から力強い励ましを送った。

ところでテレーズのメッセージを読み、少なからず困惑をおぼえる方がいるかも知れない。確かに聖女は系統的な論文を書いておらず、また講話をしたのでもない。私たちに残されているものは従順に従って書かれた幼き日の思い出などの三つの原稿―自叙伝―、手紙、詩、戯曲、病床での聞きとりなどである。さらにその多くは日常の打ち解けた調子で、また時代の影響を受けた言い回しで書かれている。そのためにうっかり読むと聖女のメッセージの本質を読み誤ってしまう。

ヒントを聖女から直接聞いてみよう。

「イエス様が要求なさるのはこれだけです。主は、私たちの業を必要とはなさいません。ただ私たちの愛だけを求められるのです。」聖女は単純なまなざしで神をながめ、神と出会う近道を日々の生活の中で発見した。それを単純な言葉で言い表し、謙遜に徹底的に生き抜いた。先に自叙伝から引用した聖女の結論的な言葉は、真理を望む聖女が識別した神の横顔と言えるだろうか。聖女が語る神の横顔とは、神は愛そのものの方である。裁く方ではない。常にわれわれとともにいてくださる方である、と。

聖女は修道院内で目立たない修道女である。しかし、神の愛にとらえられ、信頼のうちに巨人の足取りでキリストの背丈にまで成長する。教会は私たちにそのメッセージの確実さを「教会博士」の宣言という型をとり、示してくださったと言えよう。

帰天百周年は大きな節目である。しかし単に記念行事として終了させてしまうのではなく、混迷しながらも真理を求める善意の現代人に聖女のメッセージを伝えられたらと思う。

（取材協力　浄水通教会　城島暁）

典礼 あ・ら・か・る・と 3

人が色に対していだくイメージや感覚は民族や宗教によって違いがあり、また一人ひとりによっても異なりますが、色をシンボルとして用いる習慣は広く浸透していると考えられます。

典礼で用いられるさまざまなシンボルのなかでも、色は重要な位置をしめています。祭服の色の変化によって、わたしたちは祝われる典礼の性格や典礼季節を知ることができます。

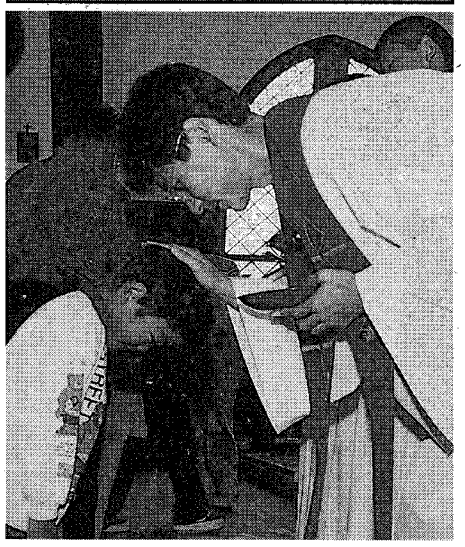
初代教会のころは、とくに決まった色が定められていたわけではありませんが、やがて、一般には神の栄光を表す白が用いられるようになりました。そして、五、六世紀以降には、白だけではなく赤や緑や紫などさまざまな色も用いられました。このことは、当時に建てられた教会堂に残されているモザイクやフレスコ画などからも推測することができます。そして、中世の時代には、金（あるいは黄）、白、赤、青、緑、茶、紫、黒の八色が用いられたこともあり、豪華な装飾を祭服に施すようにもなりました。やがて、教皇インノチェンチオ三世の時代（十三世紀の初め）には、その後の基本となる五色、すなわち白、赤、緑、紫、黒が定められました。

祭服（三）
― 祭服の色 ―

祭服の色に関する現在の規定は、「ローマ・ミサ典礼書の総則」三〇七～三一〇にみられます。また、同じ総則の二九八に、「あらゆる段階のすべての奉仕者に共通の祭服はアルバである」と述べられているように典礼で奉仕する人の祭服は白が基本であることがわかります。具体的な色としては、右に述べた伝統的な五色のほかに、ばら色を用いることができるようになっています（三〇八参照）。同時に、各司教協議会は、それぞれの民族の必要や性質に適した色を定めてローマの使徒座に提案することができることも述べられており（三〇八参照）、色にさまざまな意味を与えている各民族の伝統や習慣をいかす工夫の可能性が示されています。

（カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九五年五月号第一頁）

「ハイ、誰でもなれます」
イエズス会　浦善孝神父
黒崎教会で初ミサ



九月二十日、イグナチオ教会で、黒崎教会出身の浦善孝さんの司祭叙階式が行われ、九月二十八日、黒崎教会で初ミサが行われた。バスチ神父、ベリオン神父が、わが子をいたわるように、介添えの手を添えながらミサが始まった。

説教の前に教会学校の生徒の質問があった。

「神父さんになってどんな気持ですか。心配やなやみはありませんか。」

「どういうきっかけで神父さんになったんですか。ぼくたちも神父さんになれますか。」

これらの質問を受けて、説教が始まった。

「そうですね、今の気持、心配、なやみと言われましても、神父になったばかりのホヤホヤですから、何と言ってよいか…。小さいときから神父になりたいと思いつづけていました。誰でも神父になれます。でもなりたいと思い、その思いを持ちつづけることです。神学校に入るために、良い友人と別れなければならない。家族とも離ればなれになる。よりよいものを求めるために良いものを捨てなければならないときがあります。」

頼もしい新司祭の初説教。聖堂から天へ届けと、聖歌の賛美のうちに初ミサが終わる。ミサ後、御家族の紹介、花束、ストラの贈呈、教会の庭で祝賀会が開かれた。

浦神父が、「商業高校から普通高校に変わり、大学を出て神学校に入りました」と自己紹介があったが、いわゆるエリートコースではない。普通の人。望みつづけ、努力しつづければ、誰でも司祭への道を進むことが出来る、ということで、教会学校の子供たちにも大きな希望を与えたと思う。

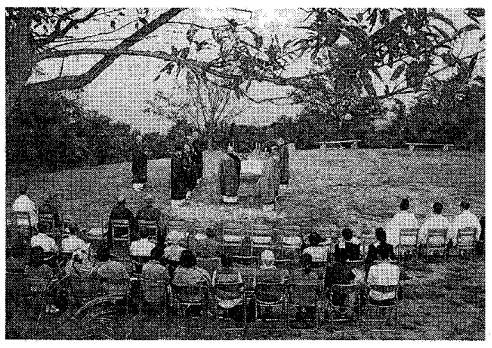
早朝から大きなカミナリとともに降り出した雨もピタリと止み、晴れ上がった秋空の下で、新司祭の前途をお祝いした。

（黒崎教会・広報委員・神塚一治）

ベリオン（右）、バスチ（左）両神父と初ミサ

第三回「宗教者による平和の祈りの会」
超教派で平和を祈る
創立10周年を迎えた生命山

十月五日、生命山カトリック別院を会場として、「宗教者による平和の祈りの会」がもたれた（＝写真）。十月の青く澄んだ空、美しい阿蘇の山並み、静かな笛の音にみちびかれて、七十人の参列者（仏教、各宗派、大本、立正佼成会、プロテスタント、カトリック）の代表によって、平和を願う祈りが捧げられた。



《シュバイツァー寺》の古川泰龍師は次の様な言葉でこの会を結んだ。

「今年は南京虐殺から六十年になります。日本人はこの悲しい出来事をわが身の罪として反省しているでしょうか。私たちは、十月末に訪中して、慰霊の旅を計画しています。今日の世相は終末、闇の夜といわれているその中で、一つの灯、それはインドのマザー・テレサであります。マザーはカトリックのわくを越えて、神が新しい救いの時代になる様にさしむけられた人ということができます。仏教の言葉でいえば、菩薩です。私たち仏教者は、もっとマザー・テレサに注目してほしい。」

創立10周年を感謝

今年は、生命山（F・ソットコルーラ院長）が創立されて十年になる。十周年にあたり、生命山は次のように述べている。

この間、福岡教区長、松永久次郎司教様、初めて私共を迎えて下さった平田三郎司教様、教区のみな様方に対し、深い感謝を申し上げます。おかげ様でこの十年間に、二十六カ国から二万人の方々が生命山を訪ねてくださいました。そして何よりもうれしいのは、見知らぬ私共を最初から温かく受け入れ、支えてくれた蜻浦村の方々のやさしさです。おかげで山紫水明、よかとこ蜻浦の地に、根を下ろすことができました。今後も、多くの方がこの地を訪れ、真の神との出会いを深めていただければ幸いです。

福岡市特別ロードショー
11月16日（日）・17日（月）
都久志会館（中央区天神5）
上映時間13・15・17・19時
【問合先】九州シネマ・アルチ ☎092・712・5297
アジアの瞳

ヤングママの黙想会に参加して

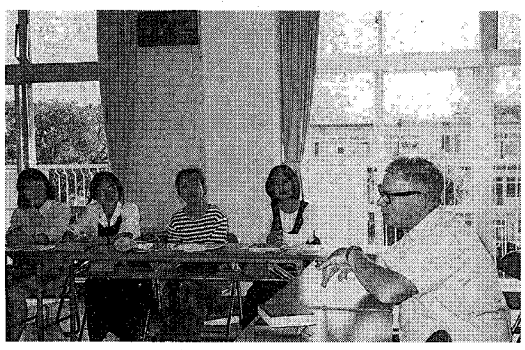
永山　美穂

初めての参加でしたが、温かい雰囲気の中で、楽しく学ばせていただきました。

わが家は、十歳の長女を頭に、七歳、三歳、八ヵ月の三人のわんぱく坊主と格闘の毎日です。この黙想会で私が一番うれしかったことは、最後のミサをだれにもじゃまされずに、一番前の席で参加することができたことです。

ドワイヤ神父様のお話の中、相手を「赦す」寛大さ、それはマリア様の心そのものであり、私たち女性は家庭において静かな港、そんな存在でありたいと学ばせていただきました。はたして私は家族にとってどれほど心やすらげる存在であっただろうかと思いましたとき、穴があったら入りたい気持ちでいっぱいになりました。四人の子育て、真っ最中とはいえ、反省することばかりです。この浄水通教会と司教館で結婚講座を受け、夫婦としての一歩を踏み出した原点ともいうべきこの場所に、十数年ぶりに立ってみて、忘れてしまっていた大切なことをたくさん思い出させていただき、有意義な時間が持てたことにあらためて感謝の思いいっぱいになりました。

この黙想会を陰で支えてくださった多くの方々に心から感謝申し上げ、やすらぎのある温かい家庭ができますようにと、心掛けながら日々生活していきたいと思います。（南粕屋教会）



ごあんない　'97 待降節の黙想会　申込受付中
① 12/ 5日(金) 16:00受付 ～ 7日(日) 15:00 ＜来住神父＞
② 12/12日(金) 16:00受付 ～ 13日(土) 15:00 ＜ガブリエル神父＞
③ 12/13日(土) 16:00受付 ～ 14日(日) 15:00 ＜畠神父＞
④ 12/19日(金) 16:00受付 ～ 24日(水) 15:00 ＜マテオ神父＞
お問合せ・お申込　☎0940－32－3222（受付9:30～17:00）
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

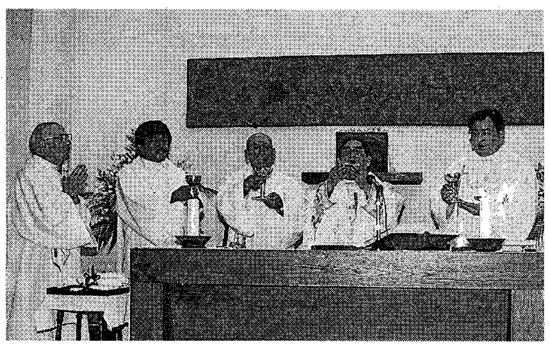
有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

天神町教会創立70周年記念式典

聖ミカエルに奉献されている天神町教会（主任M・ラバルタ神父）は、九月二十八日、聖ミカエルの祝日の前日に、教会創立七十周年の記念式を開催した。この日は七十周年の祝いのほかに、もう一つの目的があった。それは長年福岡教区の司祭として重責を果たされ、今は新田原の聖母訪問会第二修道院で引退の日々を過ごしておられる、天神町教会出身の伊東誠二神父様をお招きして、共に七十周年のお祝いをするということであった。しかし残念な事に当日、神父様は風邪をひかれて記念式においでになることはできませんでしたが、松永司教はじめコングレガシオン・ド・ノートルダム修道院のシスター方、山元神父と小神学生の皆さんの参加を得て、盛大な記念式を祝う事ができた。

記念ミサの説教で司教は、小教区共同体を一個の焼きモチに例えられ、焼きモチが熱せられるとその一部がはじけてふくらむように、小教区の熱い信仰がはじけて司祭や修道者が誕生するという、司教独自の焼きモチ召命論を披露された。この話しは説得力があって判りやすく、大変印象に残った。記念ミサ後は、保育園児、山元神父指導による小神学生の歌と自己紹介、コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院のシスター方による美しい聖歌のコーラスに心洗われるひとときを過ごした。また今回の記念式のイベントとして、七十周年記念誌の発行と写真展を開催した。記念誌はワープロ版で四十六ページのささやかなものだが、巻頭に松永司教のお祝いのメッセージをいただき、立派な記念誌となった。



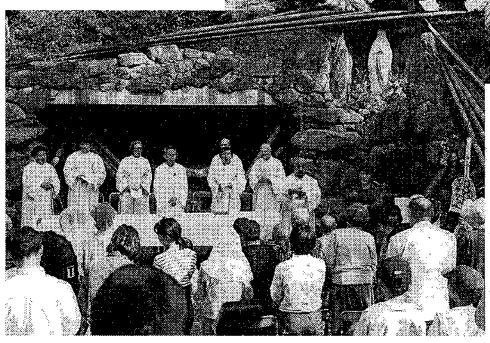
いみじくもローマ法王は来日の折「過去を振り返ることは将来にたいする責任を担うことです」といわれたが、また松永司教様も記念ミサの説教の中で「小教区の熱い信仰を育み第二、第三の伊東神父様を誕生させて下さい」との主旨の要請をされた。七十年の教会の歴史を振り返り、さまざまな感慨にひたると同時に、これからの責任の重さを痛感した一日でもあった。

（取材協力　横山忠）

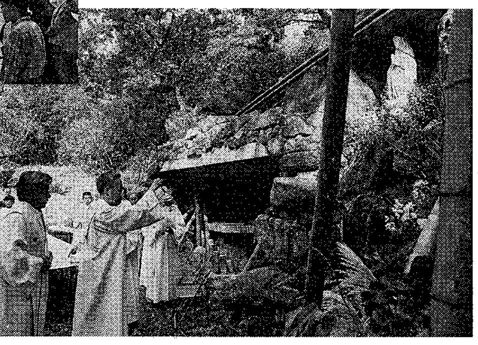
心をひらいて10月10日
むなかたてんてんまつり

第七回を迎えた「むなかたてんてんまつり」が十月十日、秋晴れのもと、「点と点を結ぶ人の輪すべてを越えて天の天まで広がる大きな心」をスローガンに、宗像市の御受難修道会福岡黙想の家（院長・畠基幸神父）で開催された。

ことしも黙想の家の全敷地、全施設（修院を除く）をフルに開放し、地元町内会とボランティア活動グループ十一団体などによる「ふれあいバザール」を中心にお客さんを呼び、「まんぷくたらふく通り」には、てんてん名物となった特製カレー・うどん・むしいも・やきとりなどにまじり、福岡地区小教区合同の青年たち（からし種の会）による手づくりコロッケが初登場し人気を集めた。また、「ちびっこ広場」には恒例の移動動物園の動物との楽しいふれあいとともに手づくりの遊び道具（竹馬、魚釣りなど）は、子どもたちに大人気であった。



▶ルルドの水を祝別する
▲ミサには約300人が参加
コロッケは早々売り切れ▼
◀ミサは手話付きで行われた



今年はじめから準備を始め、五月から毎月一回実行委員会を開いてきたが、特に近隣小教区をはじめ各修道院の力強い協力を受け、当日二千人近い来場者を迎えることができたことが、このまつりの成功の基となったと感謝している。

ことしの特徴は、青年たちの積極的な参加により《まつり》を明るく盛り上げたこと、そして地元町内の親子グループによるフリーマーケットが参加したことであろう。地域とのより深い交流を特に望んでいたこの《まつり》に深い理解を得られたと関係者一同大喜びであった。

地域の子どもたちも元気に参加

《まつり》の最後にはルルド広場で八人の司祭団とともに三百数十人の参加により平和祈願ミサを特に故マザー・テレサと世界中の平和のために働いている方々のために捧げた。

フィリピン支援のボランティアグループ

このミサのはじめに、このたび黙想の家敷地内で新しく井戸が掘られ、厳しい水質検査に合格したいつでも飲めるおいしい水が、このルルドの生みの親、鵜野泰年神父（熊本健軍教会主任）によって祝別された。ルルドの広場は宗京子さん（長崎教区）を中心に黙想の家スタッフらが一週間かけて裏山の竹林から切り出した三十数本の巨大な竹を組み合わせて飾り付けし、参加者に深い感銘を与えた。

《てんてんまつり》も確実に定着し、地域の皆さんとともにこれからも続けていきたいと念願している。

（てんてんまつり実行委員会）

今村教会
信徒会館と司祭館が完成

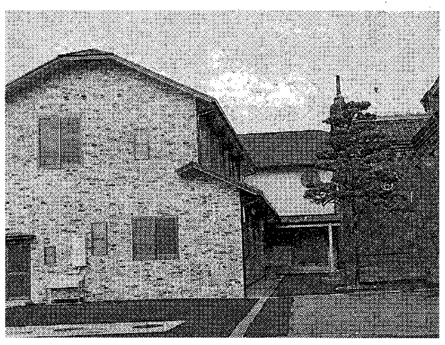
私たちはつくづく恵みに満ちていると思う。五年前の今村信徒発見一二五周年記念は、小教区信徒一人ひとりの心に祖先の信仰の力強さとそれを守り通した勇気を伝え、悟らせてくれた。そして今、新たな恵みを頂いた。信徒会館と司祭館の落成である。

落成式の当日である九月二十一日は、午前十一時の松永久次郎司教様の司式による主日のミサに始まった。この日は今村小教区出身の平田三郎司教様も早くからお祝いに駆けつけてくださった。ミサ終了後、完成したばかりの信徒会館へ場所を移し、聖職者十八人をはじめ工事関係者や筑後地区教会の信徒代表者、小教区信徒を合わせ百三十五人の出席のもとに祝福式と落成式が挙行された。落成式の後の祝賀会では、平田司教様による「バンザイ！」との乾杯の音頭に会場が一気に和やかな雰囲気に包まれ、この落成の喜びを共に分かち合うことができた。この日の一連の行事を通して司教様方は、施設の有効活用はもとより今村小教区からたくさんの司祭、修道者が誕生することを強く望まれた。

信徒会館ならびに司祭館は、共に二階建てで淡いクリーム色にまとめられている。信徒会館は延べ床面積が六一〇㎡で、一階にホールと調理場、和室とトイレが、二階に二つの要理教室と図書室、トイレが設けてある。太陽の光がたくさん入るよう工夫されている（＝写真）。

私たちは新たなタラントンを神様から託された。五タラントンか二タラントンか知るすべはないが、『忠実な良い僕だ。よくやった。』と言われるよう有効に活用していきたい。

（取材協力　久次桂二）



BOOK 読みま専科

★C・D　聖母マリアの子守歌
アンサンブル・エクレジア／つのだたかし・波多野睦美他

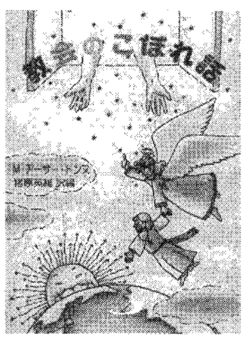
歌と古楽器で奏でるイタリアのクリスマス音楽。十三世紀から十八世紀までの多様なもの。中世・ルネサンス・バロック時代の音楽にとどまらず、民謡風なものから芸術性の高い宗教歌曲、名人芸を聴かせる器楽曲、美しい舞曲がある。

ゲストに現在人気のあるカウンターテナー米良美一や児童のイタリア人姉妹が歌い、古風な木管楽器コルネット、ポジティヴ・オルガンの演奏など一枚のディスクで盛りだくさんのイタリアのいろいろな音楽を楽しんで聴くことができる。

女子パウロ会　税別三〇〇〇円

◇◇◇

★教会のこぼれ話
M・アーサー・トンヌ
猪原英雄　訳編



この書はアメリカの神父様が、数多くのユーモアの中でもカトリックの小話を選出して紹介している。

イラストがさらにそのユーモアを想像豊かにさせてくれる。《しめしめこれは使えるな》とほほえむのは、この本を手にしたあなただけのもの。

文庫版　六八ページ
サンパウロ　税別六〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

会合と催し

教区年間テーマ：キリストとの真の出会いを求めて

11月　死者の月

1日（土）諸聖人
2日（日）死者の日／**教区和田墓地ミサ（14時～）**
不動山慰霊祭（14時～）■
＋S.アクワビバ［1984］
子供とともにささげるミサ［カテドラル9時］
3日（月）文化の日
召命の集い（大神学院）
＋F.ボア［援助修道会黒崎修道院1977］
4日（火）聖カロロ・ボロメオ司教
教皇ヨハネ・パウロ2世霊名祝日
7日（金）福岡聖書講座⑰［カテドラル19時］■
9日（日）ラテラン教会の献堂
16日（日）聖書週間（23日まで）
笹丘教会堅信式
21日（金）聖マリアの奉献
福岡サン・スルピス大神学院創立記念日
大神学院祭
22日（土）＋P.ポール［黙想の家1996］
23日（日）王であるキリスト（年間最後の主日）
鳥栖教会堅信式
＋B.シュルツ［吉塚教会1996］
映画と講演の集い■
24日（月）**佐賀地区信徒大会**■
27日（木）＋S.ズワノニ［唐津教会1962］
28日（金）聖書特別講座［カテドラル19時］（一面）
30日（日）待降節第1主日

12月

3日（水）聖フランシスコ・ザビエル
5日（金）聖書講座（最終回）■
7日（日）待降節第2主日
宣教地司祭育成の日《献金》
8日（月）無原罪の聖マリア
福岡カトリック神学院創立記念日
26聖人殉教400年祭閉会
13日（土）聖ルチアおとめ殉教者
14日（日）待降節第3主日
十字架の聖ヨハネ
17日（水）＋M.コニリー［島崎修道院1990］
18日（木）＋J.マグラ［荒尾教会1976］
19日（金）＋パウロ青木功［行橋教会1973］
20日（土）＋M.ソーレ［久留米教会1917］
21日（日）待降節第4主日
23日（火）天皇誕生日
＋A.ベニエ［飯塚教会1983］
24日（水）**降誕祭徹夜ミサ**（カテドラル20時30分）
25日（木）主の降誕（クリスマス）
26日（金）聖ステファノ殉教者
27日（土）聖ヨハネ使徒福音記者
28日（日）聖家族
31日（水）大晦日

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■福岡カトリック・パストラルケア研究会　［日時］11月2日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院1階講話室［内容］病人訪問時の病者へのカトリック的対応の仕方を学ぶ［参加費］無料［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）

■ほめたたえよう、主の御名を―若者の賛美、感謝、礼拝と分かち合いの集い　［日時］第2・4日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会・聖アウグスチノ館［対象］若者、司祭、修道者、プロテスタントの方、まだクリスチャンでない方、楽器のひける方、そしてご自分でご自分のことをまだまだ若者と思っていらっしゃる方［指導］パトリック神父（アウグスチノ会）［参加費］自由献金［後援］聖霊による刷新福岡奉仕会［問合先］橋爪章一☎092・714・3477

■聖書講座・後期―エフェソの信徒への手紙　［日時］毎週金曜日19時～20時45分（12月5日まで）［場所］カテドラル大名町教会1階ホール［日時・題・講師］⑰11月7日・古い生き方と新しい生き方・櫻井尚明神父　⑱14日・光の子として清く生きる・平田寛神父⑲21日・夫、妻、子への勧告・同⑳12月5日・悪との戦い、結び・牧山勝美神父［受講料］1回800円［申込方法］当日受付にて［問合先］教区本部事務局☎092・522・5139

■福岡地区信徒使徒職協議会代表者会議　［日時］11月9日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会3階会議室

■第70回福岡結婚準備セミナー　［日時］11月15日（土）～12月13日（土）毎土曜・木曜日19時～21時20分；全8回＊**11月22日（土）は休会**［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207FAX552・5022

■聖歌研修会　［日時］11月16日（日）13時～［場所］大楠教会［聖歌指導］深堀純氏

■黙想会〈神のいつくしみにふれて…私は！〉　［日時］11月22日（土）17時～24日（月）昼食［場所］聖母訪問会大濠修道院［対象］女子青年信徒［指導］白浜満神父（福岡サン・スルピス大神学院）［定員］10人（定員になり次第締切）［費用］3500円［申込・問合先］聖母訪問会大濠修道院、シスター・テレーズ大野☎092・741・4250

■福岡教区青年練成会〈マザー・テレサに学ぶ〉　愛と献身の生涯を送り、インド・カルカッタを拠点に困窮者の救済活動を続け、イエスの愛の模範を私たちに示し、9月5日帰天されたマザー・テレサから学ぶ練成会を企画しました。イエスが教えた愛の実践を言葉よりも行いをもって示したマザー・テレサの心と姿を、青年同士で分かち合う練成会です。この機会に教区内の青年の交流と自らの信仰を深めるきっかけとして参加してみませんか。［日時］11月23日（日）13時受付～24日（月）11時［場所］岳間渓谷キャンプ場内ロッジ（熊本県鹿北町）［持参品］（持っている人は）寝袋、座布団［参加費］3000円［主催］福岡教区青年委員会［申込締切］11月9日氏名、年齢、住所、所属教会を明記の上、郵送またはFAXにて［申込・問合先］中村彰神父（大楠教会）〒815福岡市南区大楠2・7・10☎FAX092・521・6946

■青年の集い　［日時］11月30日（日）13時30分～16時30分［場所］福岡サン・スルピス大神学院［主催］召命をともに祈る会［問合先］青木悟神父（司教館）☎092・522・5139

■典礼・聖歌と祈りの集い　［日時］11月30日（日）14時～17時［場所］福岡黙想の家［聖歌指導］深堀純氏［会費］100円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎092・340・322・3222FAX322・3385

■第3回アディクション・フォーラム―回復へのメッセージ　アディクション（嗜癖行動）とは、習慣の病のことです。習慣は人の行動にあって根本的なことですが、その習慣のコントロールができなくなった時に、人は病んでゆきます。アルコール依存や薬物依存、摂食障害、ギャンブル依存、ショッピング依存、仕事依存、共依存を総称してアディクションと呼ぶようになりました。［日時］11月30日（日）10時～16時［内容］①体験談②各自助グループの紹介とモデルミーティング［場所］クローバープラザ体育館（福岡県春日市）［参加費］1000円［主催］第3回九州アディクション・フォーラム実行委員会［問合先］同上☎030・7308105

北九州

■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］11月30日（日）14時～［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［テーマ］講話「老いに学ぶ」と語り合い／死別体験者の語り合い［講師］坂田昭子氏（特別養護老人ホーム矢部大矢荘施設長）［会費］500円［問合先］事務局（大山美穂子☎FAX092・713・8523／村尾嘉道☎607・6992）

■福岡カトリック・パストラルケア研究会　［日時］12月7日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院1階講話室［内容］病人訪問時の病者へのカトリック的対応の仕方を学ぶ［参加費］無料［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）

■福岡市民クリスマス　［日時］12月8日（月）18時30分～［場所］福岡市民会館大ホール［内容］クリスマス・メッセージ／原田攝生（日本バプテスト連盟鳥飼教会牧師）、クリスマス・ゴスペルコンサート／岩渕まこと&バンド［参加費］無料［主催］福岡市民クリスマス実行委員会［問合先］事務局☎092・731・1805

■死者のために祈る日　［日時］11月2日（日）14時～16時［場所］黒崎教会［司式司祭］ガイヤール神父（水巻教会主任）［内容］ミサ［主催］援助修道会黒崎修道院［問合先］同上・シスター長谷川光恵☎093・621・5670

■映画と講演の集い　［日時］11月23日（日）14時～16時［場所］明治学園講堂［内容］①講演「現代の殉教者―聖コルベ神父・身代わりの愛」小崎登明修道士（聖母の騎士修道院）②映画「日本26聖人『われ世に勝てり』（一九三一製作、無声映画）弁士、同上。［参加費］無料（会場でカンパ）★駐車場は少しかありません。公共交通機関をご利用ください。［主催］北九州信徒使徒職協議会

■あつまりませんか【女子青年黙想会】　静かな環境に恵まれた祈りの家で、神の呼びかけに耳を澄ましてみましょう［日時］12月6日（土）18時30分～7日（日）16時［場所］福岡黙想の家［テーマ］主は近づいた！ひとときを神とともに［指導］マテオ神父（御受難会）［対象］未婚の女子青年（高校生以上）［会費］3000円［主催］北九州地区女子修道会［申込締切］11月10日［申込・問合先］シスター塩路（北九州地区女子青年黙想会連絡係）☎093・621・5670

佐賀

■不動山慰霊祭　［日時］11月2日（日）14時～［場所］大舟地区、異宗徒塚史跡［内容］死者の日のミサ

■第5回聖書を読む会　［日時］11月6日（木）10時～11時30分／19時30分～21時（午前と午後の内容は同じ）対象は一般の方ですが、信者ももちろん参加してください。友人も誘ってください。［場所］カトリック佐賀教会［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父（ロザリオの園）［参加費］無料［問合先］カトリック佐賀教会☎0952・23・4754

■聖書に学ぶ心の教育―佐賀新聞文化セミナー　「いじめ」や「いじめを苦にした自殺」が目立っている。いじめのない、子供たちに希望を持たせる教育、思いやりの教育の在り方をアレグリーニ神父とともに考える。［日時・テーマ］15時30分～17時③11月8日（土）道徳教育の基礎④22日（土）思いやり教育⑤12月13日（土）クリスマスと心の教育⑥27日（土）死への準備教育［場所］玉屋教室［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父（ロザリオの園）［受講料］7200円（プリント料300円）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー事務局☎0952・28・0371

■佐賀地区信徒大会　キリストとの真の出会い―大聖年を迎えるために　［日時］11月24日（月）10時受付～16時30分【1面参照】

熊本

■個展―聖母に捧げて　［日時］11月2日（日）～30日（日）9時～17時（毎水曜日休館）［場所］島田美術館ギャラリー（熊本市島崎4・5・28☎096・352・4597）［内容］聖書をテーマとした聖画と野の花［作者］三牧和子（島崎教会所属・カトリック美術協会会員）［問合先］同美術館または三牧☎096・356・0277

編集後記

時の流れの早さに今さらのように驚きます。編集は二ヵ月先まで見ながら進めますので…。ああ、もうすぐクリスマス！

福岡黙想の家　11月

◇1日（土）～2日（日）北九州レジオ・マリエ
◇8日（土）～9日（日）在世フランシスコ会／東九州ミカエル会
◇12日（水）　◇14日（金）～15日（土）幟町教会黙想会
◇16日（日）～22日（土）サレジオ会黙想
◇23日（日）～24日（月）幼きイエズス修道会召命黙想会／聖母カテキスタ会黙想
◇26日（水）　老司教会日帰り黙想会
◇28日（金）～30日（日）ユースフルライフ・カウンセリングワークショップ
◇30日（日）　典礼・聖歌と祈りの集い
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX0940・32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■一日静修
日時：11月13日（木）9時45分～15時30分
テーマ：感謝の祭儀
指導：フランコ神父
参加費：1,500円（昼食代含む）

■黙想会
日時：11月24日（月）17時～12月2日（火）朝ミサ終了後
＊この他に個人、又はグループで、黙想等をなさりたい方はいつでもお申し込みください。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

召命祈願ミサ

12月4日（木）19時45分、有志の会である《召命をともに祈る会》主催で、福岡教区に豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われる。どなたでも参加できます。

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJKi
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

第二千年期は聖霊のとき

佐賀地区信徒大会
キリストとの真の出会い
大聖年を迎えるために

佐賀地区信徒使徒職協議会（会長　佐賀教会・田丸鋭）では、黙想会と研修会を隔年毎に開催しているが、今年は、大聖年を迎えるために「キリストとの真の出会い」をテーマに「ともに」集う信徒大会とすることとし、十一月二十四日、佐賀地区信徒大会を佐賀教会で催した。

ぽかぽかとした小春日和の中、佐賀県内の小教区から司祭八人と十五人の修道女、約百四十人の信徒が参加、会場となった幼稚園の講堂を埋めつくした。

幼児連れの家族も気楽に参加できるようにと別室に子どもたちを預かる「ふれあい教室」を設け、シスターたちの協力を仰いだ。

午前中の部で、松永久次郎司教は、真の働きのためには、聖霊の御助けが必要であると冒頭に述べ、来年は「聖霊の年」であることから、聖霊を題として大要次のように話した（＝写真）。

聖霊は、私たちの救いに大きな役割を果たすことを認識し、世界・人間への神のすべての働きに聖霊は特別に介入する。実際、キリストの出来事は聖霊によって始まった。第三千年期、紀元二千年は聖霊の働きで始まる。教会も聖霊降臨の出来事から始まった。聖霊は人を聖とし、救いの業を全うする。聖霊は、私たちと神との間柄と私たちどうしの間柄を造り、その一致を固める。このような聖霊の導きに、私たちは素直に従い信じ、「信仰のない私たちをお助けください」と願い、聖霊の勧めを実践するように務めなければならない。

講話の終わりに司教は、今年十月十九日に新しい教会博士となった聖テレジアを本当の祈りの人として紹介し、聖霊に親しみ、聖霊に導かれることが必要であり、神と人との結びである聖霊を信じ、本当の祈り、キリストに向かう本当の活動には聖霊の御恵みをいただくことが肝要である、と付け加え、キリストに向かう新しい道しるべとして「あなたも博士になれます。」と呼びかけ、女性、若者の召し出しを祈った。

午後は、熊本地区の二人の信徒、久野薫さん（島崎教会）と、高木寛さん（鳥崎教会）の「信仰の証し」を聞いた。高木さんは話の中で「浦上四番崩れ」と呼ばれた四回にわたる長崎・浦上での迫害について触れた。いかなる拷問にも挫けず、信望愛の徳を果たされた信仰の人で、徹頭徹尾信仰に生きて、信仰を守り通した高木さんの曾祖父、高木仙右衛門翁についての話は聴衆に感動を呼び、感涙にむせぶ場面も多々あった。

続いて、午前中に行われた松永司教と熊本の二人の話を中心にして、自らの信仰の「分かち合い」を、七、八人の小グループに分かれて行い、信仰の糧となる時間をもった。

最後に、感謝のミサが、教区長松永司教および佐賀地区の主任司祭たちを合わせての共同司式で捧げられ、七つの教会から大聖年に向かっての意向を共同祈願し、閉会した。

（取材協力　佐賀教会・田丸鋭）

▶会場では熱心な分かち合いが

「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」ルカ2：10-11

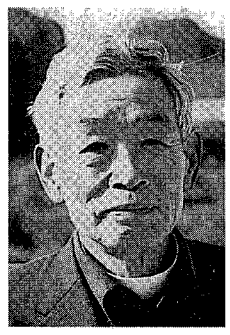
ベトレヘム聖誕教会ー現存する唯一の通用門（写真中央）は高さ120cm

今月のみことば

重荷を負っている人は
私のもとにきなさい
休ませてあげよう
（マタイ11・28）

大楠教会　中村　彰　神父

フランシスコ・アシジ伊東誠二神父帰天



一九九三年に引退し、新田原（行橋市）の聖母訪問会新田原修道院で静養していた伊東師は、十二月一日未明新田原聖母病院で帰天した。享年八十一歳。一九四〇年にカナダ、モントリオールで叙階。教区顧問、司教総代理などを歴任。

信仰教育・全国担当者会議
新しい典礼で子どもミサ

十一月一日から三日まで、全国各教区の信仰教育担当者の集まりが、福岡カテドラル大名町教会（主任　浦口　均神父）で開かれた。カトリック中央協議会の信仰教育委員会（担当司教　押川壽夫那覇教区長）が毎年、各地で開いているもので、近々、発効される新しい「子どもとともにささげるミサ」のセッションがもたれ、十一月二日の主日のミサは新しい典礼に基づく子どものミサがささげられた。

会議には、全国の信仰教育担当者十五人とカトリック中央協議会の委員七人、それに担当司教、押川壽夫那覇教区長の他、地元福岡から教会学校スタッフが数名参加、主日の子どもとともにささげるミサの後には、福岡カトリック神学院の小神学生も参加した。

会議は三日間にわたって開かれ、新しく作成され、バチカンの認定を待っている新しい「子どもとともにささげるミサ」の典礼文についての意見を求めるのが主な目的であった。

二日目に行われた「子どもとともにささげるミサ」は大名町教会の教会学校スタッフと典礼担当者、福岡教区教会学校担当の山元眞神父を中心に準備されたもので、新しい典礼文に基づくものであった。準備に十分な時間がなかったこともあり、通常大名町教会で行われている「子どもとともにささげるミサ」を基本に行われた。

会議の参加者は、福岡サン・スルピス大神学院で開かれた「召命の集い」のミサに参加し、解散した。

新しい典礼は、来年末には発行される予定。

召命の集いに参加した全国の担当者

青年のための召命黙想会
ー召命をともに祈る会ー

十月二十五日と二十六日、篠栗町の「聖心の祈りの家」（聖心ウルスラ宣教女修道会）で十八歳以上の男女青年を対象とした召命黙想会が開かれた（＝写真）。主催は有志の会である「召命を共に祈る会」（代表　青木悟神父）。司祭、修道者の召命を考えている青年、またこれから考えてみようかと思っている青年、ちょっとだけ興味のある青年に呼びかけ、十二人の青年がその呼びかけに応えて集まった。分かち合いがそのプログラムの中心であったが、三人の講師を呼んで分かち合いのきっかけを作った。

講師として呼ばれたのは、福岡サン・スルピス大神学院から二人、長崎教区所属の葛島輝義神学生と福岡教区所属の藤渕邦大神学生、それに聖心のウルスラ宣教女修道会福岡修道院所属のシスター真子（まなご）。三人の講師は皆、いわゆる成人になって召命を感じた人たちであり、その心の遍歴は参加者に感銘と同時に、一種の安心感を与えたにちがいない。

二日目の主日のミサは召命祈願が行われ、参加者は各自の召命と教会への豊かな召命の実りのために祈りをささげた。このような集いがまた催されることを望む声が強かった。

みちくさ

ちょうど百年前の一八九七年九月二十一日、アメリカの新聞「サン」紙に「サンタクロースはいるか」と題する、ちょっと変わった社説が載った。これは、ヴァージニア・オハンロンという八歳の少女が新聞社に出した手紙に答えたものである▼「……わたしの友だちの中には、サンタクロースなんかいない、と言う人がいます……どうか本当のことを教えてください。サンタクロースはいるのでしょうか」社説はこの手紙を紹介してから「ヴァージニア、あなたの友だちは間違っています」と、少女にだけ答えるように語りかけた▼「この頃、何でも疑い、目に見えるものしか信じない、自分が理解できないものは存在しないと決めてしまう人が、なんと多いことか……そうです、ヴァージニア、サンタクロースはいます。これは世の中に愛や思いやり、真心があるのと同じく確かなことです……サンタクロースを見たことがないからといって、そんなものはいないと言えるでしょうか。この世でいちばん確かで本当のものとか大切なものは、おとなでも子どもでも、だれの目にも見えないものなのです」▼この社説はその後、いろいろな新聞や雑誌に引用されるほど有名になったという。みちくさ子も何十年か前に何かでこれを読んで感動し、以後O・ヘンリーの「賢者の贈りもの」とともに、しばしば説教に使ったものだ▼では、サンタはどこにいるの？　気障を承知で言うなら、あなたのそばにいる。いや、あなたの中にいる。だから、あなたもサンタクロースになれる。（H）

21世紀へ向けて 大神学院を改革

八年制から六年制へ 22歳から入学受け入れ

福岡サン・スルピス大神学院（院長・大山悟神父＝写真）では、長年の課題であった司祭養成の改革について、昨年秋より本格的に取り組んできた。この度、その具体的な改革案が提示され、九州地区の司教団の承認のもと、来年度から実施されることになる。今後は、養成期間が今まで八年であったものが六年に変更される。

長崎、福岡、大分、鹿児島、那覇の五教区から成る九州地区での司祭・神学生の養成は、おもに福岡サン・スルピス大神学院（福岡市城南区）で行われている。養成スタッフは教区司祭からなる聖スルピス会の会員。同神学院への入学者のほとんどは、九州内にある小神学校を卒業した学生である。現在、三つの小神学校があり、司祭職を希望する中・高生がそこで養成を受けている。小神学校は、長崎カトリック神学院（生徒数61人）、福岡カトリック神学院（生徒数5人）、南九州小神学院（生徒数8人）で、南九州小神学院は大分、鹿児島、広島、高松の神学生も受け入れている。小神学生はそれぞれ、地元の公、私立の中学、高校に通っている。

この度の改革でもっとも大きなものは、大神学院での養成期間が従来の八年制から六年制に来年度から移行することである。それに伴って、入学資格が原則として二十二歳以上になる。大学、短期大学、あるいはそれと同程度の学歴を有することが入学の条件になる。これにより、従来のように高校卒業時点での大神学院への入学はできなくなった。今後、小神学校（高校）を卒業した司祭志願者は四年制大学、短期大学、各種専門学校などを卒業した後、または社会生活を体験した後、大神学院で司祭志願者としての養成を受けることになる。

福岡サン・スルピス大神学院全景（福岡市城南区）

現在、哲学科の四年の間に、教養課程を身に付けるために、慶応義塾大学や、玉川大学の通信教育を履修していたが、今後、このコースはなくなる。したがって、従来八年間に渡ってなされていた養成が六年間に短縮される。

福岡サン・スルピス大神学院では、毎年、九州地区司教団と小神学院長、大神学院養成担当者の合同会議が二度開催されており、そこで、司祭養成における種々の問題が検討されている。十一月二十日に今年度の第二回目の合同会議が開かれ、大神学院と各小神学院の現状が報告された。

福岡教区では、現在高校三年生が一人いるが、公立大学の受験の準備をしている。来年度の高校生は一年生が一人の予定で、今後の養成方法についてはさらに検討されていくことになる。なお、今年小神学校を卒業した学生は現在、上智大学の神学部に在籍して司祭職へ向けての準備をしている。

南九州小神学院では、卒業後はそれぞれの教区の方針に沿って養成がなされるが、現在のところ、四年制大学進学が求められている。

新志願院を設立

長崎教区では、小神学校卒業生のために新たな養成機関として司祭志願院の設立が計画されていることが発表された。名称は「長崎コレジオ」の予定。これによれば、司祭志願者は長崎カトリック神学院を卒業した後、長崎市内の大学等を受験し、入学後は司祭志願院から通学することになる。そこで大神学院入学の準備をする。現在、新志願院のプログラム、養成スタッフ等が検討されている。この志願院は要請があれば、長崎以外の他教区の志願者も受け入れる予定である。今年度の卒業生は四年制大学を受験し、新年度一学期は長崎カトリック神学院から通学し、本格的な養成は来年秋から大浦の新志願院で始められることになる。

また、同教区では、信徒、修道者、司祭から成る召命委員会（仮称）の設立も計画しており、今後、司祭召命、司祭養成を多方面にわたって検討していくことになる。

その他の改革

現在、一年間が三学期に分けられているが、来年度からは一般大学と同じように、前、後期の二学期に分けられる。また、最終学年の神学科四年生は後期課程を指定小教区で宣教、司牧の実習をしながら養成されることになる。

福岡サン・スルピス大神学院では、以上の改革の他に、すでに今年度から従来の養成方法が若干変更されている。

大学卒業者や社会経験を経て入学して来る志願者のために、神学科と哲学科の他に、新たに「壮年課程」が設けられた。現在、長崎、大分、鹿児島の神学生が履修している。

また、日課も大幅に変更され、個人の自由と責任に基づくプログラムに従って養成されている。このプログラムは神学生の司祭召命と宣教に対する意識の高揚、また、知的養成と自己養成を目指すものに変えられている。その目的を達成するために、養成スタッフは神学生の霊的指導を行うほか、生活面の指導を行うために、新たに生活助言者（アニマトール）の役割を導入した。

種々の問題点

来年度から、小神学校の卒業者を受け入れないため、大神学生の数が減少することは必至である。九十八年度の神学生は三十六人の予定。その後四年間で順調にいって十四人が卒業する。十四人の休学生が帰院するか、もしくは社会人の志願者が入学しないかぎり、総数は二十二人にまで減ることになる。

そこから、各教区の神学院への負担金、一人当たりの養成費が大幅に増えることが予想される。経済的な面も無視することはできない。

養成者の養成も課題として残っている。現在、養成者は院長の大山悟神父（大分教区）をはじめ、七人。カナダ、長崎、福岡、大分教区の司祭がスルピス会員として養成にあたっているが、養成者自身もまた養成されなければならず、海外研修などのため、一人は欠けることになろう。

また、従来の養成方法などの見直しも要求されている。青少年のもつ現代特有の性格に応じた教育、養成が試みられねばならない。全体的な養成から、より一人ひとりに合った個人的関わりの中での養成が求められているのではなかろうか。

入学出願資格

以上のような改革に基づいて来年度の出願資格が明らかにされた。それによると、

(1) 原則として二十二歳以上のカトリック男子信徒
(2) 受洗後三年以上を経過していること
(3) カトリック司祭になりたいという明確な意志をもっていること
(4) 司祭召命について、少なくとも半年前から、当該教区長、出身小教区主任司祭、教区召命担当司祭に話し、指導を仰いでいること
(5) 大学、短期大学、あるいはそれと同程度の学歴を有すること

と

司祭を志願し、福岡サン・スルピス大神学院入学を希望する者は、所属小教区の主任司祭と教区召命担当司祭（青木悟神父＝教区本部か山元眞神父＝福岡カトリック神学院）に相談してほしい

典礼 あ・ら・か・る・と 4

「ローマ・ミサ典礼書の総則」二五九番は、祭壇について次のように述べています。「祭壇は、十字架のいけにえが秘跡的なしるしのもとに現在のものとなる場所であるとともに、またミサにおいて、それにあずかるよう神の民がともに招かれている主の食卓でもあり、感謝の祭儀によって実現される感謝の行為の中心である」。ここで述べられているように、キリスト者にとっての祭壇は、実際に動物を殺していけにえをささげるためのものではなく、キリスト者が一つに集まってキリストの過越を記念する主の食卓なのです。

祭壇は、初めは石造りの固定されたものではなく、ミサが行われる場所に移動できる木製のテーブルのようなものでした。やがてキリスト教の迫害が終わると殉教者の墓の上に祭壇が造られるようになり、さらに4世紀以降には、岩であるキリスト（Ⅰコリント10・4参照）、生きた石であり隅の親石であるキリスト（Ⅰペトロ2・4、7参照）という聖書の考えに基づいて、石造りの固定された祭壇が次第に増えていきました。しかし、このような固定された祭壇が聖堂正面の奥の壁に接して造られたため、司式者は人々に背を向けてミサをささげるようになり、また、私的にミサをささげるために聖堂内に複数の祭壇が造られたために、主の食卓のシンボルである祭壇の特徴が不明確になってしまいました。

祭　壇
―主の食卓―

このようなことを見直して、「ローマ・ミサ典礼書の総則」二五九～二六七番では、祭壇は周りを回ることができ、司式者が会衆に対面して祭儀を行うことができるよう、壁から離して造られること、全会衆の注意が自然に集まる中心となる場所に置かれること、他の祭壇の数を少なくすることなどが定められています。こうして、祭壇は、キリスト者が一つに集まり、ただひとりの救い主キリストとともに感謝の祭儀をささげる食卓として、わたしたちの中心に置かれるのです。（カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九五年七月号第一頁）

神さまと人々のために

聖パウロ修道会
志願者募集

聖パウロ修道会は、社会的コミュニケーションを通して福音宣教を行う修道会です。現在、サンパウロ（旧：中央出版社）を中心に活動しています。将来の修道者（司祭、修道士）を希望するカトリック信者の男子志願者（新中学生以上）を募集しています。手続きなど詳しくはお問い合わせください。

〒810福岡市中央区小笹4-11-11
聖パウロ修道会福岡修道院
☎ 092-531-0924
FAX 092-524-6169
院長　Fr. 百村　等
担当　Fr. 戸村　修

福岡カトリック神学院
生徒募集

神学院入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭と相談の上、福岡カトリック神学院までご連絡ください。

【入学条件】
①司祭を希望するカトリック信者の男子（来年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）
②主任司祭の推薦
＊途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。

〒810福岡市中央区浄水通38
福岡カトリック神学院
☎ 092-531-6821
FAX 092-524-7373
院長　Fr. 山元　眞

イエスの仮説
V・メッソーリ著
飯塚成彦訳
●監修／石川康輔

神を信じることと理性とは相容れないのか？　世界の歴史に計り知れない影響を与えた人物、イエス・キリスト。キリスト教信者であるか否かを問わず、私たちは歴史上のイエスについて、どれほど知っていると言えるのか。これまでにないアプローチで、歴史上のイエスとイエスへの信仰に迫る！　教皇ヨハネ・パウロ二世による話題作「希望の扉を開く」の立役者となった気鋭のジャーナリスト、V・メッソーリのベストセラーが、ついに邦訳完成。　ドン・ボスコ社　四六判　上製　520頁　本体2000円

イエス・キリスト
―人となられたみことば
沢田和夫　訳・編
二〇〇〇年大聖年
神学歴史委員会

大聖年に向けてイエス・キリストを学ぶためのテキスト。ドン・ボスコ社　四六判　168頁本体　本体2000円

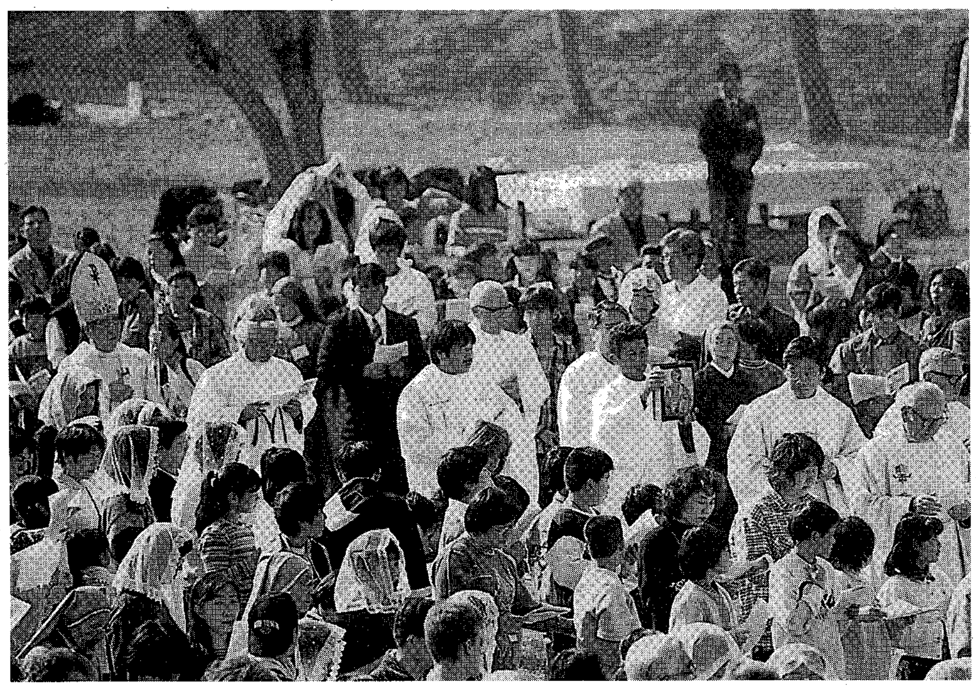
ごあんない　'97 待降節の黙想会　申込受付中
① 12/5日(金) 16:00受付 ～ 7日(日) 15:00 ＜来住神父＞
② 12/12日(金) 16:00受付 ～ 13日(土) 15:00 ＜ガブリエル神父＞
③ 12/13日(土) 16:00受付 ～ 14日(日) 15:00 ＜畠神父＞
④ 12/19日(金) 16:00受付 ～ 24日(水) 15:00 ＜マテオ神父＞
お問合せ・お申込　☎0940－32－3222（受付9:30～17:00）
福岡黙想の家　〒811-41 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810 福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

召命の扉を開いて…答えよう神さまの呼びかけに

召命の集い'97　参加者1200人の盛況


参加者たちの見守る中、祭壇に向かう三司教と司祭団

十一月三日文化の日、福岡サン・スルピス大神学院（院長大山悟神父）において、一九九七年度「召命の集い」が開催された。今年のテーマは「召命の扉を開いて…答えよう神様の呼びかけに」―さわやかな好天に恵まれ、福岡教区はじめ他教区からの参加もあり、その数千二百人を超えるほどであった。松永久次郎司教による召命祈願ミサによる聖劇や講演、各種リクリエーションなど、すべてのイベントに参加できないほど盛り沢山で、楽しく充実した一日であった。

毎年文化の日に行われる召命の集いは、サン・スルピス大神学院内召命の集い実行委員会（委員長竹内英次＝神学科二年）のもと、神学生たちが一致団結し、ほぼ一年の準備を経て実施されたものである。例年のことながら修女連の協力も忘れてはならない。

回を重ねる毎に参加者も増加傾向にあったが、この集いを単なるイベントに終わらせないためにも、今年は対象を「司祭・修道者を目指す子ども」に限定したにもかかわらず、規模としては変わりはなかった。

八時半の受付開始。開会式の後十時十五分、グランドで召命祈願ミサが行われた。主司式は福岡教区長松永司教。ほかに平田司教と、折りから信仰教育委員会全国担当者会議（大名町教会にて）に出席していた那覇教区の押川壽夫司教の姿もあった。約五十人の司祭団がこれに和した。

ミサ中の説教で、岡秋美助祭（長崎・神学科四年）の声は朗々とひびき、子どもたちに、親たちに「司祭になってください、シスターになってください」と熱っぽく訴えた。聞くほうも熱くなったのは、時間とともに強くなった日差しのためばかりではなかった。

ミサの終わりに「この中から多くの司祭、シスターになる子どもたちがでますように。お父さんお母さんは子どもを引き止めないように」と締めくくった松永司教のマイクをすばやく手にした押川司教が「沖縄の那覇教区の召命のためにも祈って…」と願う、ほほえましい一幕もあった。

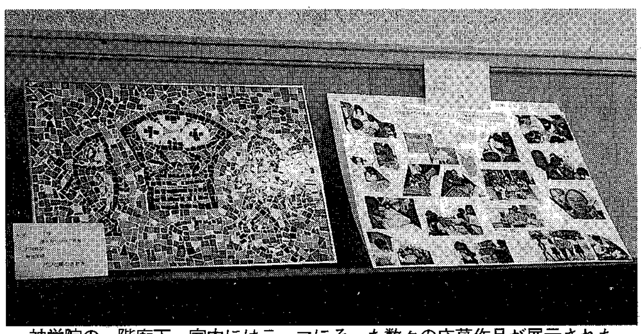
名物となった草スキーに興じる子どもたち

昼食の後、同じグランドの斜面を舞台にして、神学生の創作聖劇が演じられた。脚本、俳優、演出、音楽設備など、すべてが神学生による共同作業でsる。屋内屋外リクリエーションでは、ミニ運動会、工作、ビデオ鑑賞があった。ホールでは葛島輝義神学生（長崎教区・壮年課程）が「召命を見つめて」と題して講演会を行い、教える立場から教えられる立場への転換における心境を披露して、聴衆に感銘を与えた。

室内には、今年のテーマにそった教会学校の子どもたちによる絵画、作文、習字などの展示のほか、修女連のシスターによる喫茶コーナー、ケーキコーナー、屋外にはサンパウロ、女子パウロ会の書籍と神学生によるドリンクコーナーが設けられ、閉会式まで、どこも活気を呈していた。

召命の集い―今後の問題点

開会式のあいさつで実行委員長の竹内神学生は「一人でも多くの子どもたちが神の呼びかけにこたえること、神の呼びかけが自分に向けられていることに気づくこと」が召命の集いの目的であると語った。しかし、この集いへの参加人数は過去と比べて倍近くも増えているのに、神学生はいっこうに増えない、という現実がある。現在、神学生は四十三人。この度の神学校制度の改革により、今後数年間は、増えるどころか減少することになろう。来年度までは今年と同様の集いが行われるはずだが、神学生の減少に伴い、今後はさらなる対象限定、規模縮小はやむをえない、と実行委はみており、すべての信徒に訴えている「神の恵みをこの世にもたらし、人々を救いへと導く偉大な務めを果たす司祭が必要です。信者の皆さん、子どもたちが召命の道を歩めるように導いてください」と。これは委員長のというより、神の呼びかけをして聞くべきであろう。（取材協力　神学科二年・竹内英次）


神学院の一階廊下、室内にはテーマにそった数々の応募作品が展示された

超教派で殉教者に祈る

天草殉教祭　…本渡…

天草キリシタン館

十月二十六日、天草の本渡で殉教祭が開かれた。毎年十月の第四日曜日に行われているもので、カトリック教会にとっては殉教者の遺徳を偲び、その信仰に倣うことができるように祈る機会となっている。午前中は殉教者の慰霊として、仏教式の祈りが捧げられる。カトリック教会は午後五時から殉教記念ミサを殉教公園で行ない、ミサの後、ロウソクをともして殉教者に祈りながら聖母行列を行う。ミサの説教は今年、長崎から赴任した川添猛神父（崎津・大江教会主任）が担当、このような諸宗教、教派を超えて殉教者に思いを馳せることができることを感謝した。

ロウソクを灯しての聖母行列（手前右は川添神父）

この殉教祭は本渡、崎津、大江の各教会が本渡市と共催の形で開催しているが、熊本地区信徒協も協力しており、天草以外の熊本地区からも毎年参加者がいる。この殉教祭に毎年、修学旅行として参加している高校もあり、行列にも加わって祈りを捧げている。

殉教祭の前日には、第九回「全国かくれキリシタン研究会」が本渡市で開かれ、参加者も殉教祭に加わった。カトリック信者の参加者は年々減っているが、信仰の証しとしてより多くの信者の参加が望まれる。殉教祭に参加した信者は、「感動した。殉教者の精神は今も生きている」と語っていた。（取材協力　手取教会　安部由子）

ネパールのチトラさん

光の園保育園で学ぶ

福音の光修道会では昨年四月より、ネパールポカラに二人の修道女を派遣していたが、ようやく今年の二月、託児所ジョティー（光）ケンドラを開設した。現在、多くの希望者の中から、二十五人の極貧家庭の幼児の世話を始めている。

「あなた方は、ヒンズー教徒をキリスト教徒に改宗させるためにこの国に来たのではありません。キリストの愛を伝えるためです。初めから仕事を計画しないでください。手始めに何かをやってゆけば、必要なことが次々に見えてきます」というシャルマ教区長様の最初のお言葉を大切にしてきた。

後進国の援助は、お金や物よりも、彼らが自立することが重要である。そのためには現地人の保育者を育てることが大切と考え、幼児教育について学ばせるため今年十月より現地スタッフの一人、チトラさんを福岡に招いた（＝**写真**）。彼女は現在、シスターたちと共に生活しながら幼児教育を視察中である。

語学の点で困難はあるが、時にはゼスチャー入りで楽しく交わり、国際交流の小さな輪を広げたいと願っている。

（福音の光修道会　佐藤倭文子）

ラファエル川口清師

十一月十一日午後八時三十分、老衰のため帰天した。八十五歳。

川口神父は一九一二年大江に生まれ、一九四三年に叙階後、福岡教区司祭として、水俣、大牟田、八代教会の主任を歴任。戦時中は司祭不足となった宮崎県内のほとんどの教会を巡回した。汽車で移動中、機銃掃射で足にけがが、杖に頼る身となった。

一九六二年に大分教区に移籍。不自由な体にムチうちながら求道者の要理教育に力を注いだ。一九九三年に叙階金祝を祝い、明野司祭の家（大分市）で祈りのうちに静養中であった。竹森勇神父（新田原教会）の叔父にあたる。

BOOK 読みま専科

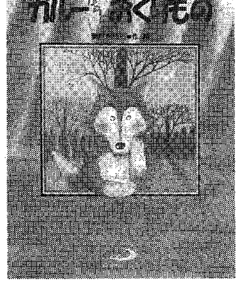
★大きな夢　―さばくを緑に―
文・黒田　清
絵・依　光隆

砂漠は「死の世界」ではなくおいしい果物や野菜を作ることができる《未開発地》　だから何もせずに、ただほったらかしにしていたら、砂漠はどんどん広がっていく。砂漠緑化というはるかな夢は遠山正瑛博士にとって戦争をなくす運動でもある。砂漠を緑地に変えることによって人々を貧困から救い、自然環境を守る遠山博士の苦闘の道。90歳を越えてなおその夢に情熱をかたむける感動の姿を描いたもの。

小学3・4年生向。
女子パウロ会　税別一六〇〇円

◇◇◇

★ガルーからのおくりもの
葉月きらら　作・絵



ロットさんのお友だちのガルーは、ちょっとどじで、気のいいおおかみ。ある日、ロットさんのためにクリスマスのおくりものをしようと思いつきます。しかし、それが思うようにいかず、しょんぼりしてしまったガルー。そんなとき、びっくりするようなことが起こったのです。……人間と動物のほのぼのとしたふれ合いをとおして、やさしい心を呼び起こさせてくれるお話。クリスマスに最適の、心あたたまる絵本である。

文庫版　六八ページ
サンパウロ　税別九〇〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材　大理石　御影石　その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

福岡黙想の家　12月

◇1日(月)～3日(水) 御受難会共同体の日
◇5日(金)～7日(日) 待降節の黙想会①／Fr. 来住
◇10日(水)　ミカエル会
◇12日(金)～13日(土) 待降節の黙想会②／Fr.ガブリエル
◇13日(土)～14日(日) 待降節の黙想会③／Fr. 畠
福岡レジオ黙想
◇19日(金)～24日(水) 待降節の黙想会④／Fr. マテオ
◇27日(土)～1／5日(月) シスターのための黙想会
／Fr. 来住［個人指導：Fr. 畠］
◇98年1月6日(火)～12日(月) 休館
13日(火) 98年度始業ミサ（祈りの日）
［問合先］黙想の家　☎ 0940・32・3222
FAX 0940・32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■一日静修
日時：12月11日(木) 9時45分～15時30分
テーマ：ミサにおける終末論
指導：フランコ神父
参加費：1,500円(昼食代含む)

■祈りの集い
日時：1月8日(木) 10時～15時
テーマ：詩編を祈る
指導：フランコ神父
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

1997年12月24日／主の降誕・夜半のミサ

教会	時間	教会	時間	教会	時間
福岡地区		本郷	18：30 21：00	鹿島	18：00
糸島	20：00			唐津	20：00
今村	20：00	吉塚	19：30	佐賀	20：00
大楠	20：00	南粕屋	19：30	多久	20：00
大牟田	18：00 20：00	老司	19：30	武雄	20：00
		北九州地区		鳥栖	21：00
小郡	19：30	飯塚	19：30	馬渡島	19：00
久留米	19：00 22：00	黒崎	19：00 22：00	呼子	19：00
				熊本地区	
古賀	19：00 23：00	小倉	18：00 20：30 23：00	荒尾	19：00
				大江	19：00
笹丘	19：30			帯山	19：30
浄水通	20：00	新田原	20：00	菊地	20：00
大名町	18：00 20：30 24：00	田川	18：30	健軍	20：00
		天神町	20：00	崎津	21：00
		戸畑	20：00	島崎	20：00
高宮	20：30	直方	19：00	玉名	19：00
茶山	20：00	水巻	20：00	手取	19：30 23：00
西新	19：00	門司	19：30		
箱崎	20：00	湯川	19：00	人吉	19：00
光丘	20：00	行橋	19：00	水俣	20：00
二日市	20：00	若松	19：30	本渡	19：30
美野島	20：00 スペイン語	佐賀地区		武蔵ヶ丘	19：30
		伊万里	20：00	千代	19：30

会合と催し　教区年間テーマ：キリストとの真の出会いを求めて

12月

3日（水）聖フランシスコ・ザビエル
5日（金）聖書講座（最終回）■
7日（日）待降節第2主日
宣教地司祭育成の日《献金》
8日（月）無原罪の聖マリア
福岡カトリック神学院創立記念日
26聖人殉教400年祭閉会
13日（土）聖ルチアおとめ殉教者
14日（日）待降節第3主日
十字架の聖ヨハネ
17日（水）＋M.コニリー［島崎修道院1990］
18日（木）＋J.マグラ［荒尾教会1976］
＋ミカエル村岡久義［1992］
19日（金）＋パウロ青木功［行橋教会1973］
20日（土）＋M.ソーレ［久留米教会1917］
21日（日）待降節第4主日
23日（火）天皇誕生日
＋A.ベニエ［飯塚教会1983］
24日（水）**降誕祭徹夜ミサ**（カテドラル20時30分）
25日（木）主の降誕（クリスマス）
26日（金）聖ステファノ殉教者
27日（土）聖ヨハネ使徒福音記者
28日（日）聖家族
31日（水）大晦日

1月

1日（木）元旦／神の母聖マリア《守るべき祝日》
世界平和の日ミサ（カテドラル10時）
＋G.ロー［人吉教会1950］
2日（金）＋J.ドノフ［菊池教会1985］
＋ヨセフ牧山藤房［福岡司教館1993］
4日（日）主の公現
6日（火）**司祭新年の集い**（浄水通11時）
11日（日）主の洗礼
福岡地区「成人ミサ」
14日（水）＋A.ハルブ［崎津教会1945］
15日（木）成人の日
17日（土）聖アントニオ
18日（日）年間第2主日
キリスト教一致祈祷週間（～25日）
＋J.M.マルタン［大牟田教会1975］
19日（日）＋L.ガルニエ［大江教会1941］
21日（水）聖アグネスおとめ
25日（日）年間第3主日
今村教会堅信式
カトリック児童福祉の日《指定献金》
26日（月）聖テモテ・聖テトス
28日（水）聖トマス・アクイナス
31日（土）聖ヨハネ・ボスコ

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■福岡カトリック・パストラルケア研究会　［日時］12月7日(日) 14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院1階講話室［内容］病人訪問時の病者へのカトリック的対応の仕方を学ぶ［参加費］無料［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）

■ほめたたえよう、主の御名を―若者の賛美、感謝、礼拝と分かち合いの集い　［日時］第2・4日曜日18時30分～20時［場所］笹丘教会・聖アウグスチノ館［対象］若者、司祭、修道者、プロテスタントの方、まだクリスチャンでない方、楽器のひける方、そしてご自分でご自分のことをまだまだ若者と思っていらっしゃる方［指導］パトリック神父（アウグスチノ会）［参加費］自由献金［後援］聖霊による刷新福岡奉仕会［問合先］橋爪章一☎092・714・3477

■第70回福岡結婚準備セミナー　［日時］12月4日(木)～12月13日(土) 毎土曜・木曜日19時～21時20分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 552・5022

■福岡市民クリスマス　［日時］12月8日(月) 18時30分～［場所］福岡市民会館大ホール［内容］クリスマス・メッセージ／原田攝生（日本バプテスト連盟鳥飼教会牧師）、クリスマス・ゴスペルコンサート／岩渕まこと&バンド［参加費］無料［主催］福岡市民クリスマス実行委員会［問合先］事務局☎092・731・1805

■九州ダルク・クリスマスパーティー　［日時］12月13日(土) 13時～16時［場所］美野島司牧センター二階講堂（九州ダルク二階）［内容］食事を取りながらの楽しいひととき。ミニライブやトークショーやカラオケやプレゼント交換。キャンドル・サービスとマルセル神父の話［参加費］大人1000円（高校生以下無料）［主催］九州ダルク［問合先］九州ダルク事務局☎092・471・5140（中川）

■SE・CO新年の集い　［日時］1月16日(土) 11時～［場所］聖心のウルスラ宣教女修道会福岡修道院会議室［内容］講話［講師］カトレット神父（イエズス会広島修練院院長）［会費］1000円（昼食費共）［問合先］龍☎092・581・6838／山下☎574・3787／武田☎552・4250／シスター高取☎512・0033

■福岡生と老い・死をみつめる会　12月は休会／［日時］1月25日(日) 14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［テーマ］講話「生と老い」と語り合い、死別体験者の語り合い［講師］井口潔氏（井口病院理事長、九州大学名誉教授）［会費］500円。［問合先］事務局（大山美穂子☎FAX092・713・8523／村尾嘉道☎607・6992）

■典礼聖歌研修会―ミサを歌おう　［日時］2月11日(水)［場所］カテドラル大名町教会［講師］新垣壬敏氏（白百合女子大学教授）［参加費］大人1000円、中・高生500円［申込締切］1月28日［申込先］教区本部事務局FAX092・523・2152

北九州

■あつまりませんか【女子青年黙想会】　静かな環境に恵まれた祈りの家で、神の呼びかけに耳を澄ましてみましょう［日時］12月6日(土) 18時30分～7日(日) 16時［場所］福岡黙想の家［テーマ］主は近づいた！ひとときを神とともに［指導］マテオ神父（御受難会）［対象］未婚の女子青年（高校生以上）［会費］3000円［主催］北九州地区女子修道会［申込締切］11月10日［申込・問合先］シスター塩路（北九州地区女子青年黙想会連絡係）☎093・621・5670

■北九州薬物問題研究会　市民が市民として気軽かつ自由に薬物問題と向き合える会を目指しています［日時］12月15日(月) 18時30分～［場所］北九州市立精神保健福祉センター（小倉北区浅野2・16・18）☎093・551・1985［対象］薬物問題に興味、関心があることが唯一の参加条件です［問合先］北九州ダルク☎093・521・1388

佐賀

■第5回聖書を読む会　［日時］12月4日(木) 10時～11時30分／19時30分～21時（午前と午後の内容は同じ）対象は一般の方ですが、信者ももちろん参加してください。友人も誘ってください。3月まで毎初木曜日に開かれます。［場所］カトリック佐賀教会［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父（ロザリオの園）［参加費］無料［問合先］カトリック佐賀教会☎0952・23・4754

■聖書に学ぶ心の教育―佐賀新聞文化セミナー　「いじめ」や「いじめを苦にした自殺」が目立っている。いじめのない、子供たちに希望を持たせる教育、思いやりの教育の在り方をアレグリーニ神父とともに考える。［日時・テーマ］15時30分～17時⑤12月13日(土) クリスマスと心の教育⑥27日(土) 死への準備教育（最終回）［場所］玉屋教室［講師］アレグリーニ・アレグリーノ神父（ロザリオの園）［受講料］7200円（プリント料300円）［申込・問合先］佐賀新聞文化セミナー事務局☎0952・28・0371

第7回　全国カトリック家庭セミナー

家庭のきずな―親子・夫婦

日時：1998年2月22日（日）～23日（月）
場所：日本カトリック会館
プログラム：（予定）22日講演①森一弘司教／テーマ：夫婦のきずな／／23日講演②アグネス・チャン／テーマ：親子のきずな
参加費：一日／1000円／対象：信者に限りません
申込・問合先：カトリック中央協議会・家庭委員会
日本カトリック会館内　☎03-5632-4445／FAX5632-4465

研修センター出張コース

⑯生活のなかで読む聖書　［日時］1月16日(金) 16時～18日(日) 13時30分［場所］カトリック福岡黙想の家［テーマ］教話を学ぶより深い聖書の読み方［内容］グループでみ言葉を読み、そのメッセージを把握する。聖書を生活の中で読むことの深い意味を学び、教話作成を試みつつ、自らの信仰を振り返る。楽しい聖書の読み方発見。［指導］日本カトリック研修センタースタッフ［対象］信徒・修道者・司祭［費用］3150円［問合先］日本カトリック研修センター研究企画部〒466名古屋市昭和区広路町隼人30☎052・831・5037 FAX831・5317

映画

★アニメ『どんぐりの家』＝埼玉県内に実在するろう重複障害者の共同作業所をモデルに、現代の教育や福祉の在り方を問いかける　①1月24日・古賀市中央公民館②2月21日・福岡市福祉プラザ［問合先］九州シネマ・アルチ☎092・712・5297

編集後記

やっと、とうとう…、年末が来た。「早い！」というのが実感。毎年、毎年、同じことを考える。そうしながらも、少しは進歩していることを信じたい！

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－23
TEL　093－771－3657

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
FUJKI
藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博